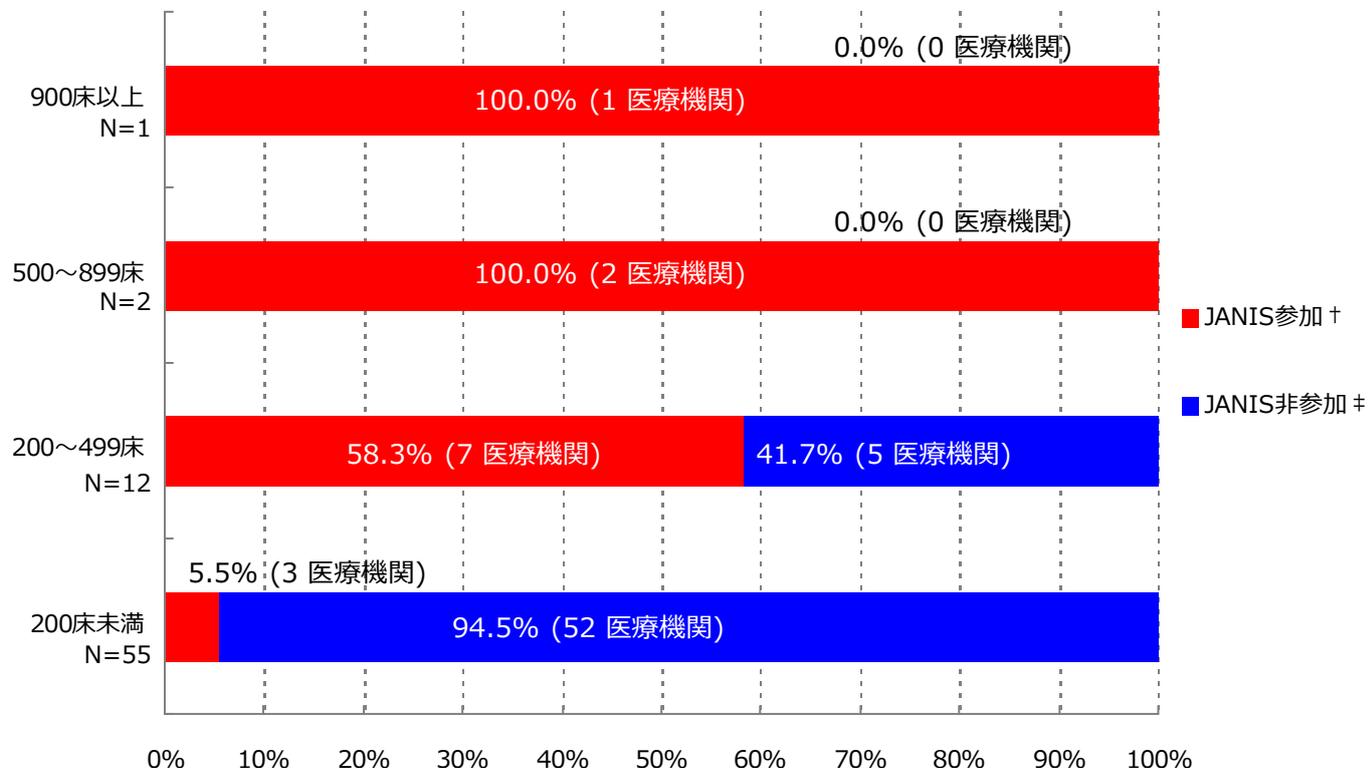




### 1. データ提出医療機関\*数(13医療機関)



\*ここではデータ提出医療機関は集計対象医療機関を表す

† JANIS参加 = 2015年1～12月 集計対象医療機関数

‡ JANIS非参加 = (2014年 都道府県別医療機関数¶) - (2015年1～12月 集計対象医療機関数)

病床数	2014年 都道府県別医療機関数¶	2015年1月～12月 集計対象医療機関数 (都道府県別医療機関数に占める割合)
900床以上	1	1 (100.0%)
500～899床	2	2 (100.0%)
200～499床	12	7 (58.3%)
200床未満	55	3 (5.5%)
病床数不明	-	0 (-)
合計	70	13 (18.6%)

¶平成26年医療施設（動態）調査を参照した

## 2. データ提出医療機関数、検体数、分離菌数

検査材料分類	集計対象医療機関数	検体数	陽性検体数 (分離菌数)
呼吸器系検体	13	13,463	10,560 (20,675)
尿検体	13	6,664	4,043 (5,696)
便検体	13	4,068	1,738 (3,096)
血液検体	13	16,674	2,339 (2,568)
髄液検体	11	673	25 (29)
その他	13	8,194	4,232 (7,254)
合計	13	49,736	22,937 (39,318)

入院として報告された検体を集計

集計対象菌：コメントのみ(菌名コード9999)の報告以外の全ての菌

検査材料分類は以下に該当する検査材料コードを集計

呼吸器系検体：

101(喀出痰)、102(気管内採痰)、103(気管支洗浄液)、104(咽頭粘液)、105(鼻腔内)、106(口腔内)、  
107(生検材料(肺))、109(その他(呼吸器))、404(胸水)

尿検体：

201(自然排尿)、202(採尿カテーテル)、203(留置カテーテル)、206(カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能))

便検体：

301(糞便)

血液検体：

401(静脈血)、402(動脈血)

髄液検体：

403(髄液)

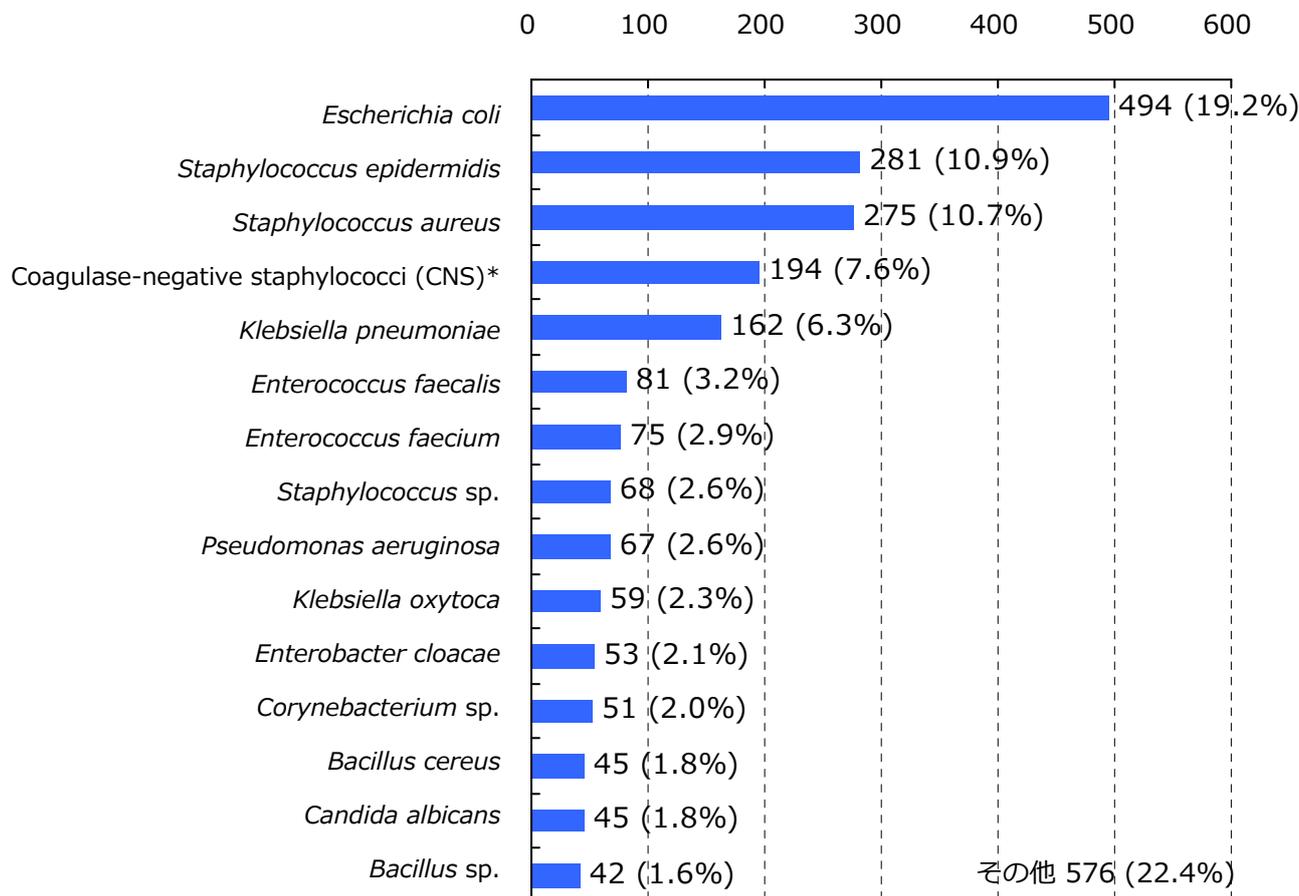
その他：上記以外の検査材料コード

検査材料コード：JANISホームページ>各部門について>検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>



### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 血液検体分離菌 (N=2,568)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌 (1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外)

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：静脈血(検査材料コード401)と動脈血(同402)

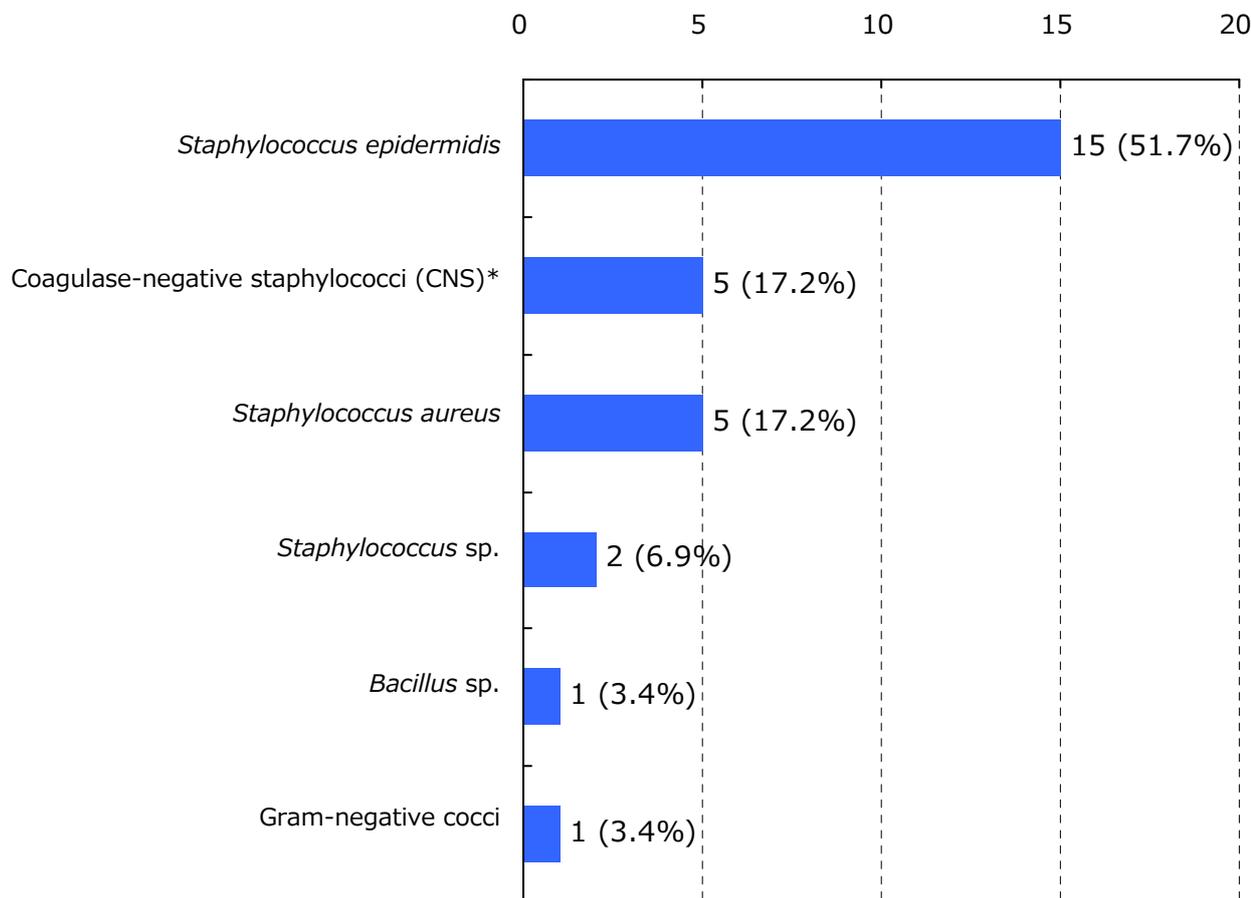
血液検体分離菌数割合 = (対象菌の血液検体分離菌数) ÷ (血液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 髄液検体分離菌 (N=29)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌 (1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外)

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：髄液(検査材料コード403)

髄液検体分離菌数割合 = (対象菌の髄液検体分離菌数) ÷ (髄液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

## 4. 主要菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

	2011年 患者数 (分離率‡)	2012年 患者数 (分離率‡)	2013年 患者数 (分離率‡)	2014年 患者数 (分離率‡)	2015年 患者数 (分離率‡)	集計対象医療機関の分離率¶ (%)の分布
検体提出患者数	-	-	-	-	19,380人	
<i>S. aureus</i>	-	-	-	-	2,253人 (11.63%)	5.96 12.41 27.39  -----
<i>S. epidermidis</i>	-	-	-	-	844人 (4.36%)	0.00 2.22 13.87  -----
<i>S. pneumoniae</i>	-	-	-	-	311人 (1.60%)	0.00 1.24 3.46  -----
<i>E. faecalis</i>	-	-	-	-	848人 (4.38%)	1.43 3.71 5.67  -----
<i>E. faecium</i>	-	-	-	-	450人 (2.32%)	0.21 1.74 4.35  -----
<i>E. coli</i>	-	-	-	-	2,340人 (12.07%)	6.70 12.94 20.43  -----
<i>K. pneumoniae</i>	-	-	-	-	1,041人 (5.37%)	1.96 5.88 9.45  -----
<i>Enterobacter spp.</i>	-	-	-	-	603人 (3.11%)	0.00 2.50 5.79  -----
<i>S. marcescens</i>	-	-	-	-	198人 (1.02%)	0.51 0.83 3.91  -----
<i>P. aeruginosa</i>	-	-	-	-	990人 (5.11%)	2.15 4.62 15.22  -----
<i>Acinetobacter spp.</i>	-	-	-	-	138人 (0.71%)	0.00 0.62 1.38  -----

入院として報告された検体を集計

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

全体の分離率

= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

## 5. 特定の耐性菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

	2011年 患者数 (分離率 †)	2012年 患者数 (分離率 †)	2013年 患者数 (分離率 †)	2014年 患者数 (分離率 †)	2015年 患者数 (分離率 †)	集計対象医療機関の分離率‡ (%)の分布
検体提出患者数	-	-	-	-	19,380人	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)	-	-	-	-	1,075人 (5.55%)	2.15 5.63 19.13 
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA)	-	-	-	-	0人 (0.00%)	0.00 
バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)	-	-	-	-	1人 (0.01%)	0.00 0.00 0.08 
ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)	-	-	-	-	117人 (0.60%)	0.00 0.21 2.38 
多剤耐性緑膿菌(MDRP)	-	-	-	-	7人 (0.04%)	0.00 0.00 0.30 
多剤耐性アシネトバクター属(MDRA)	-	-	-	-	0人 (0.00%)	0.00 
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)	-	-	-	-	55人 (0.28%)	0.00 0.03 0.91 
カルバペネム耐性緑膿菌	-	-	-	-	112人 (0.58%)	0.00 0.41 2.61 
第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌	-	-	-	-	16人 (0.08%)	0.00 0.00 0.23 
第三世代セファロスポリン耐性大腸菌	-	-	-	-	280人 (1.44%)	0.46 1.43 3.91 
フルオロキノロン耐性大腸菌	-	-	-	-	737人 (3.80%)	1.84 3.86 14.78 

入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計  
MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

全体の分離率

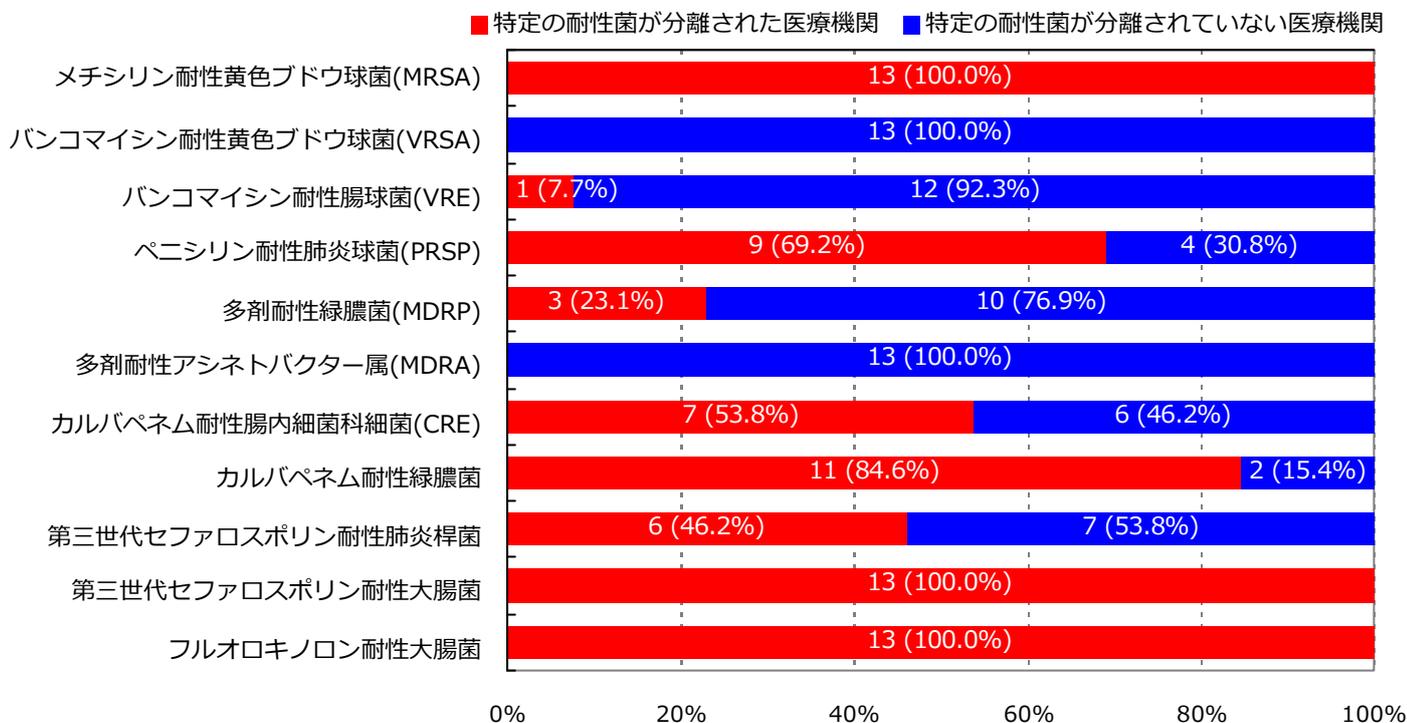
$$= (\text{集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計}) \div (\text{集計対象医療機関の検体提出患者数合計}) \times 100$$

$$\text{‡分離率} = (\text{対象菌の分離患者数}) \div (\text{検体提出患者数}) \times 100$$



### 6. 特定の耐性菌が分離された医療機関の割合

2015年 特定の耐性菌が分離された医療機関の割合 (N=13)



### 特定の耐性菌が分離された医療機関の割合 (過去5年間)

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
集計対象医療機関数	-	-	-	-	13
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)	-	-	-	-	100.0%
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA)	-	-	-	-	0.0%
バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)	-	-	-	-	7.7%
ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)	-	-	-	-	69.2%
多剤耐性緑膿菌(MDRP)	-	-	-	-	23.1%
多剤耐性アシネトバクター属(MDRA)	-	-	-	-	0.0%
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)	-	-	-	-	53.8%
カルバペネム耐性緑膿菌	-	-	-	-	84.6%
第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌	-	-	-	-	46.2%
第三世代セファロスポリン耐性大腸菌	-	-	-	-	100.0%
フルオロキノロン耐性大腸菌	-	-	-	-	100.0%

耐性菌判定薬剤(巻末資料参照)が未検査の場合、分離されていない医療機関として集計

入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計

MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む

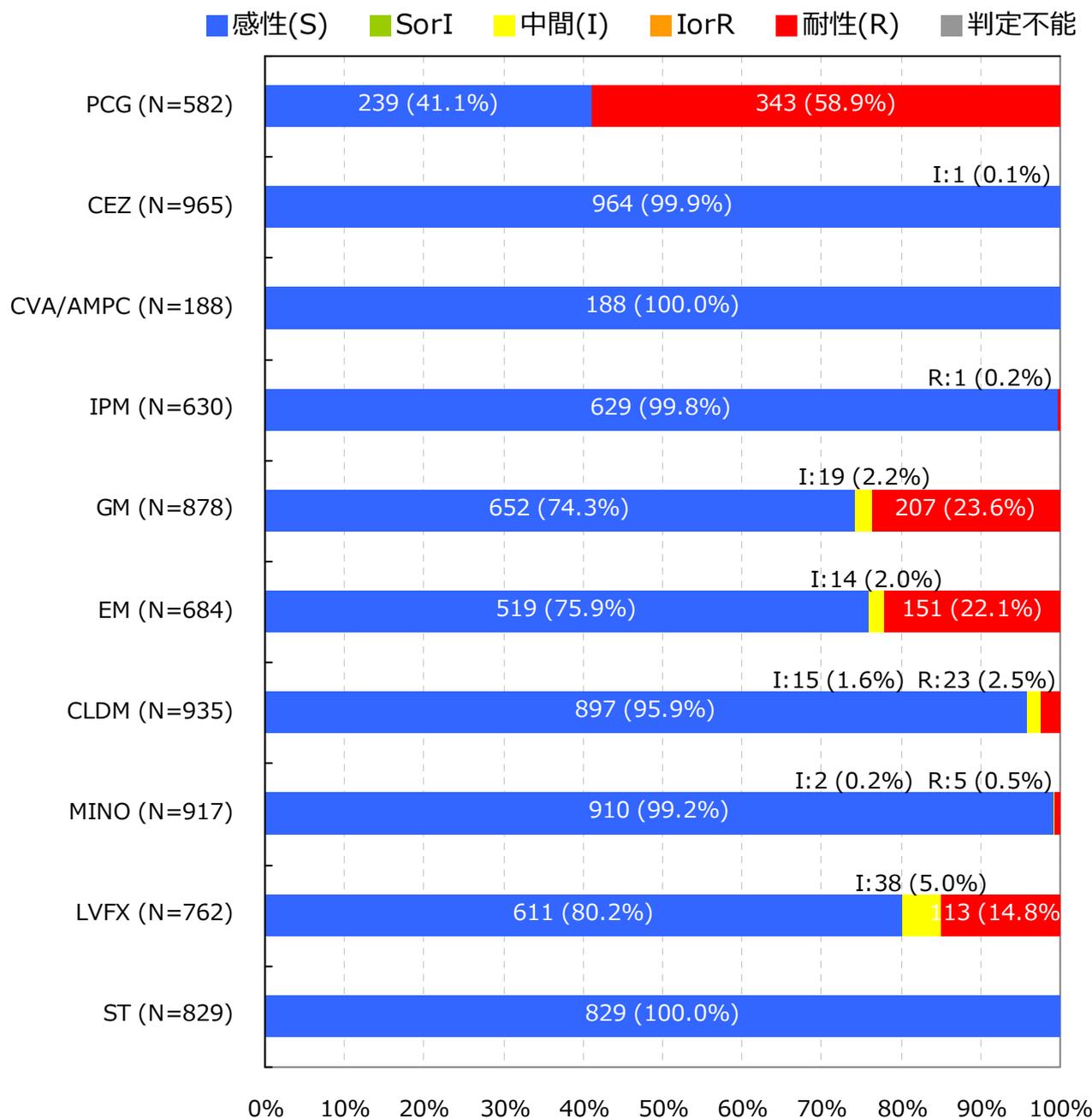
特定の耐性菌が検出された集計対象医療機関の割合

$$= \frac{\text{特定の耐性菌が1株でも報告された医療機関数}}{\text{集計対象医療機関数}}$$

7

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MSSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

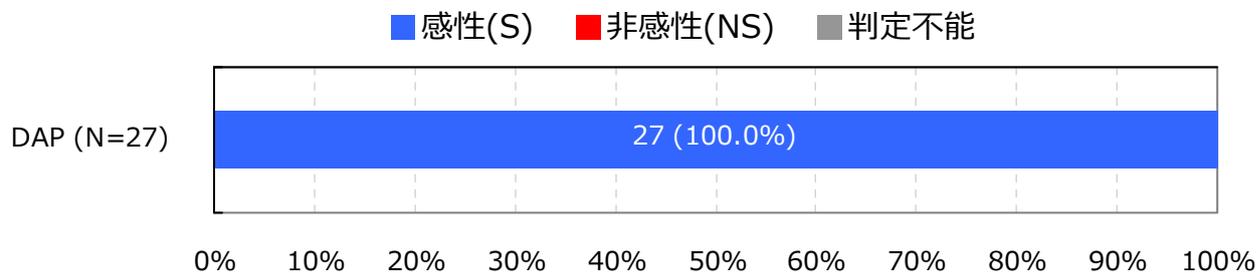
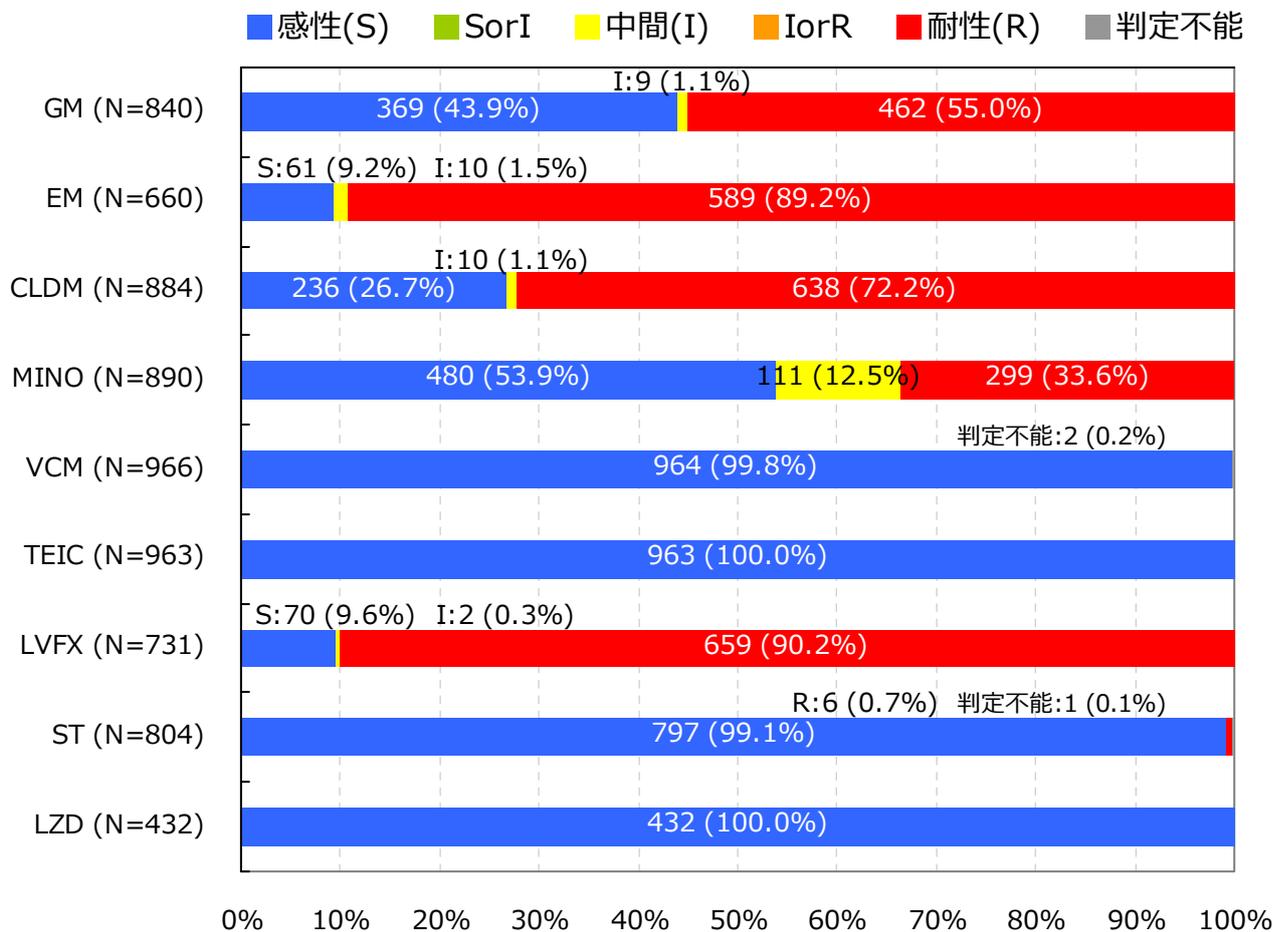
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1304, 1305, 1306と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「S」の菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MRSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

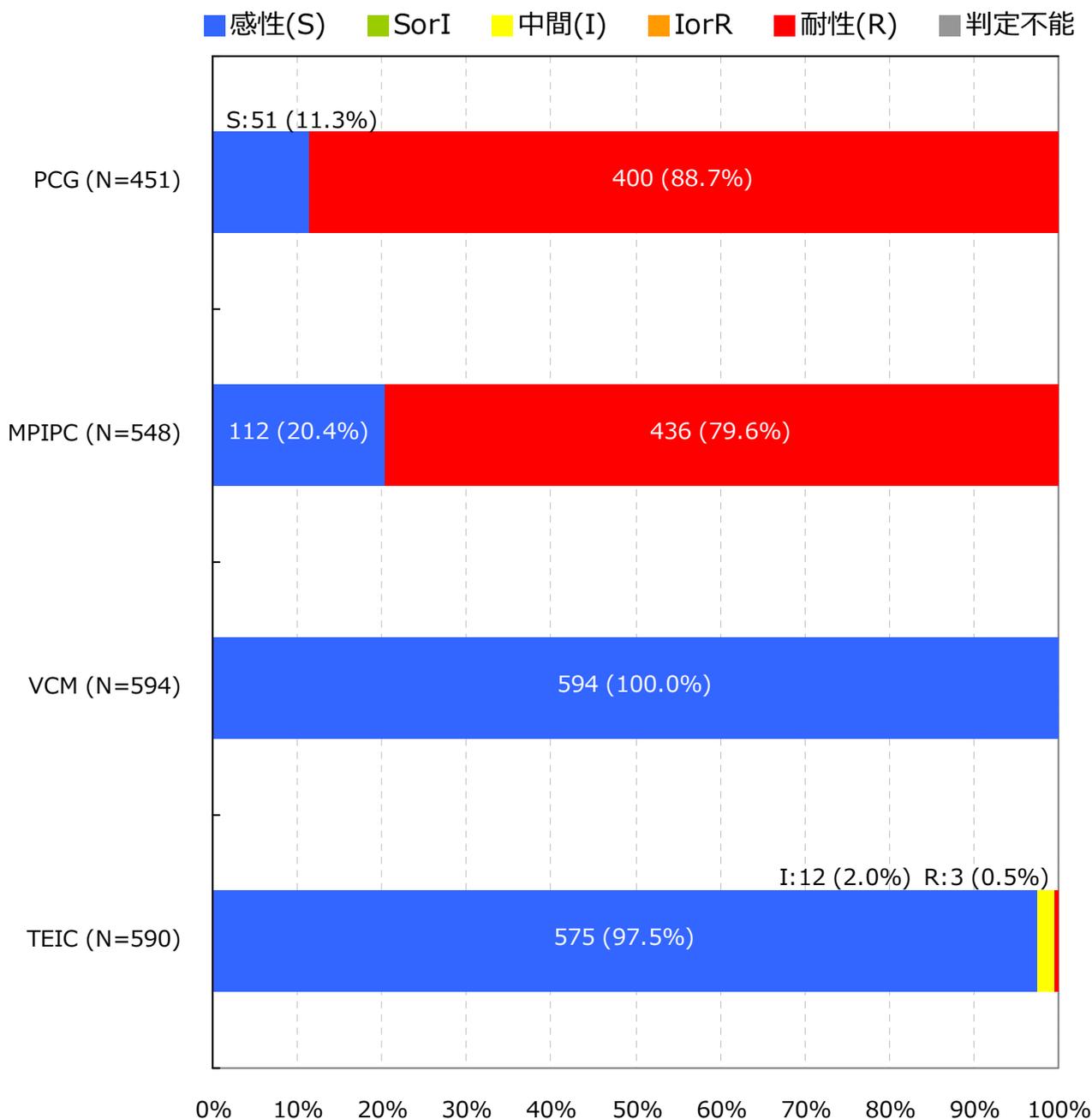
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1303と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「R」の菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus epidermidis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

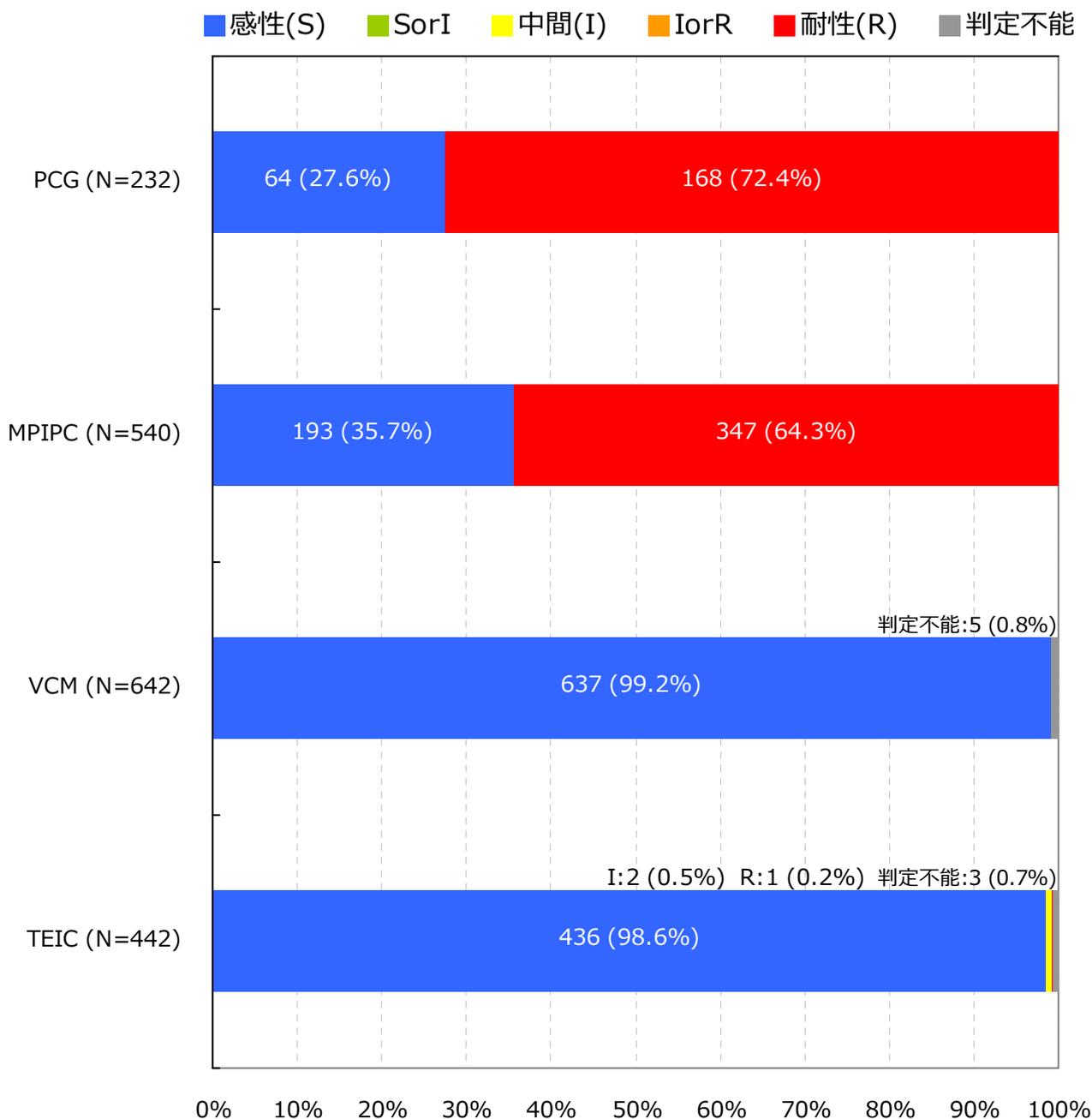
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1312と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### Coagulase-negative staphylococci (CNS) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

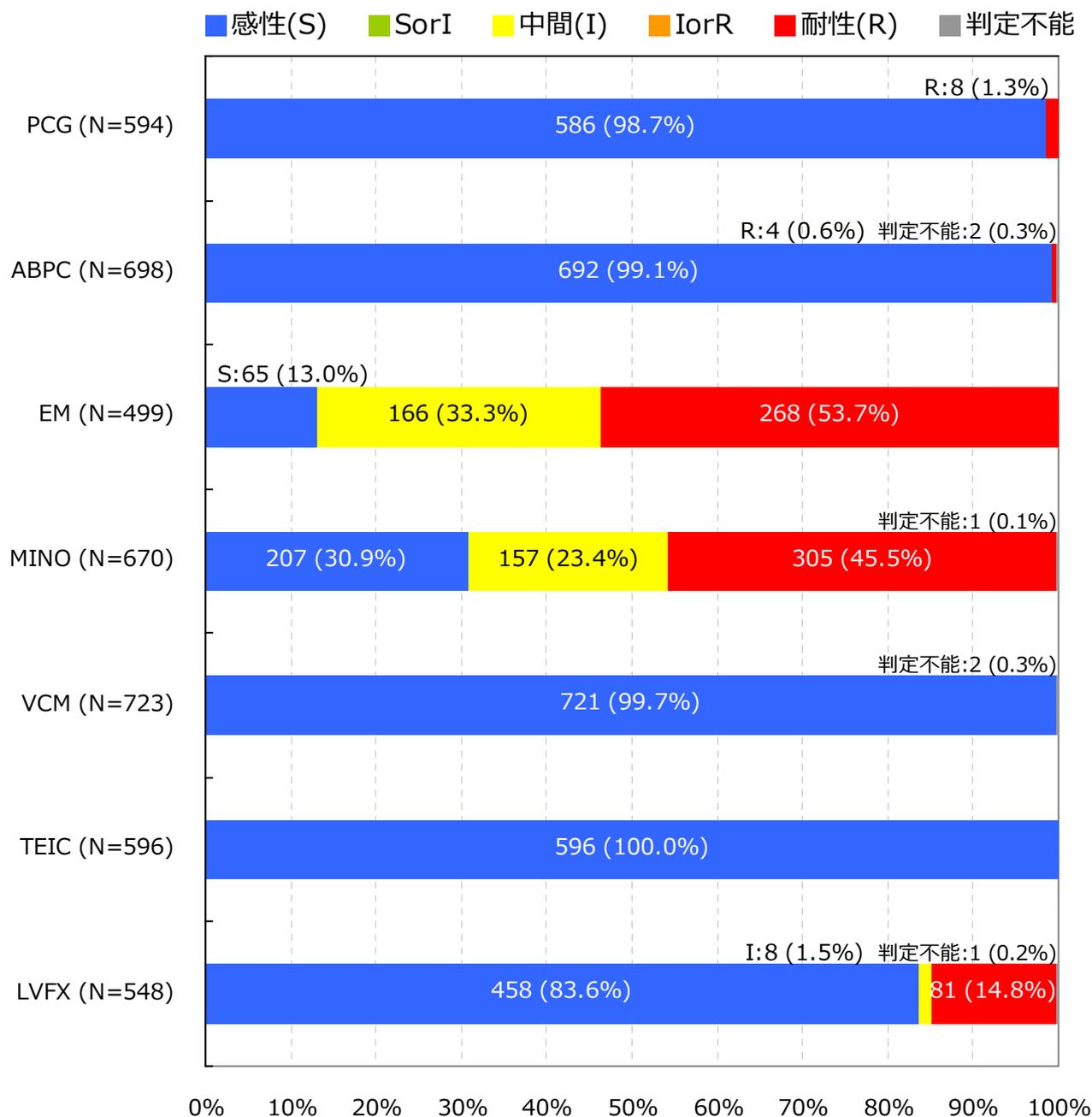
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1311, 1313~1325と報告された菌 (1312 : *Staphylococcus epidermidis*は対象外)



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecalis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

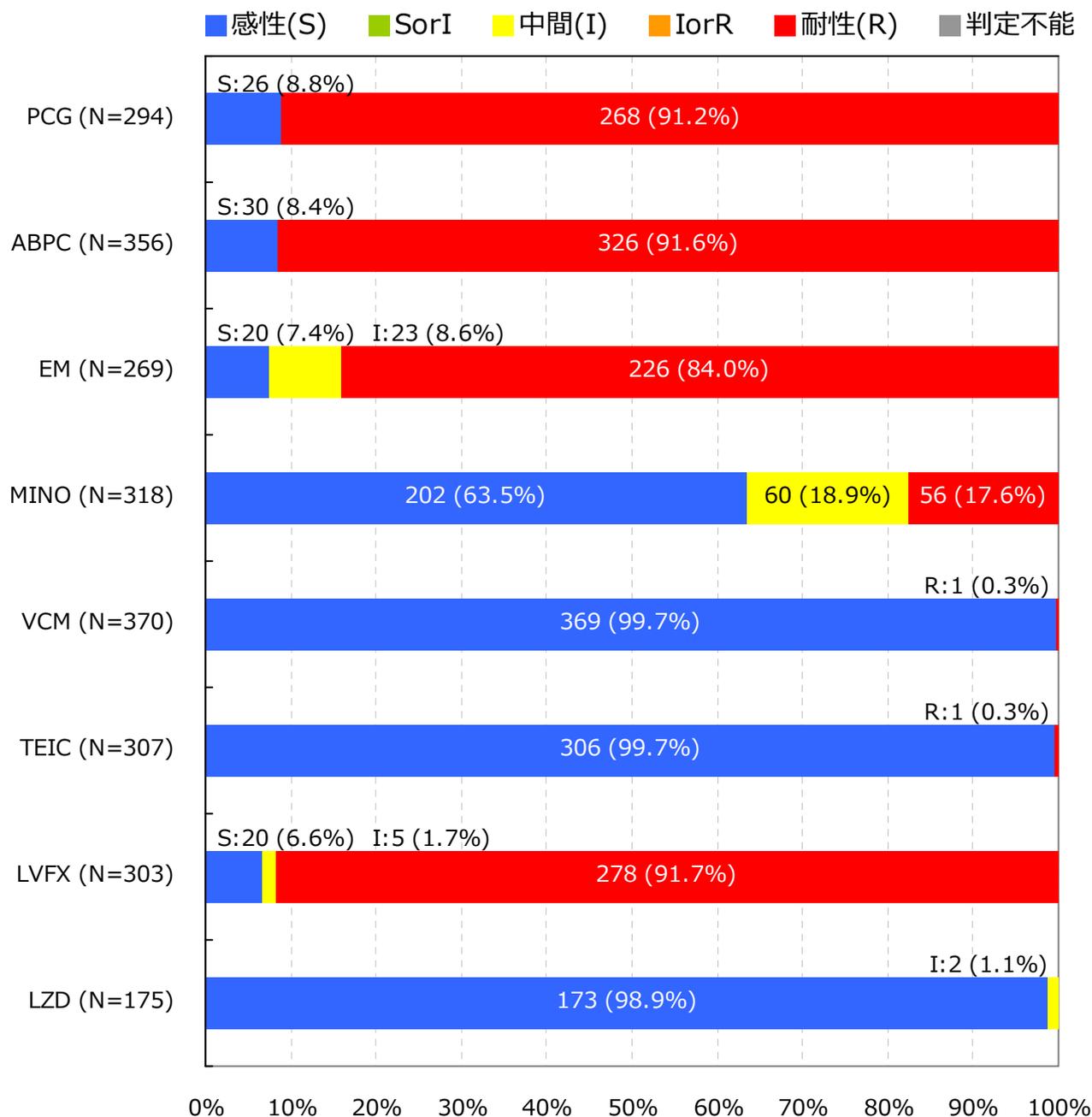
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1201, 1202と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecium* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1205, 1206と報告された菌

(福井県)

公開情報 2015年1月～12月 年報(全集計対象医療機関)

院内感染対策サーベイランス 検査部門 【CLSI 2012 版】

## 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pneumoniae*(髄液検体) †

報告はありませんでした

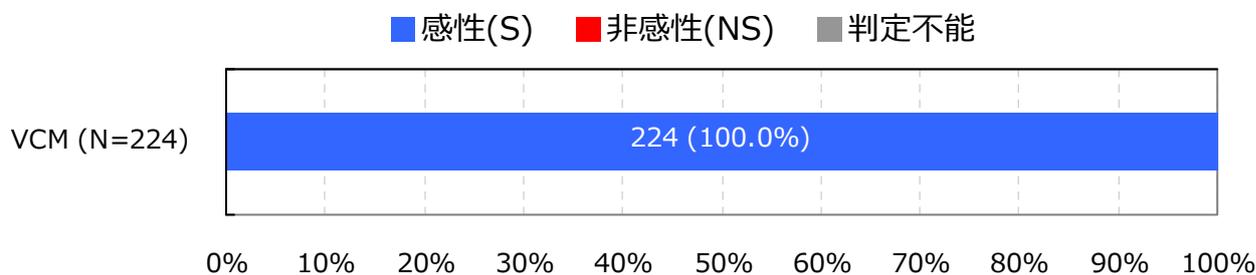
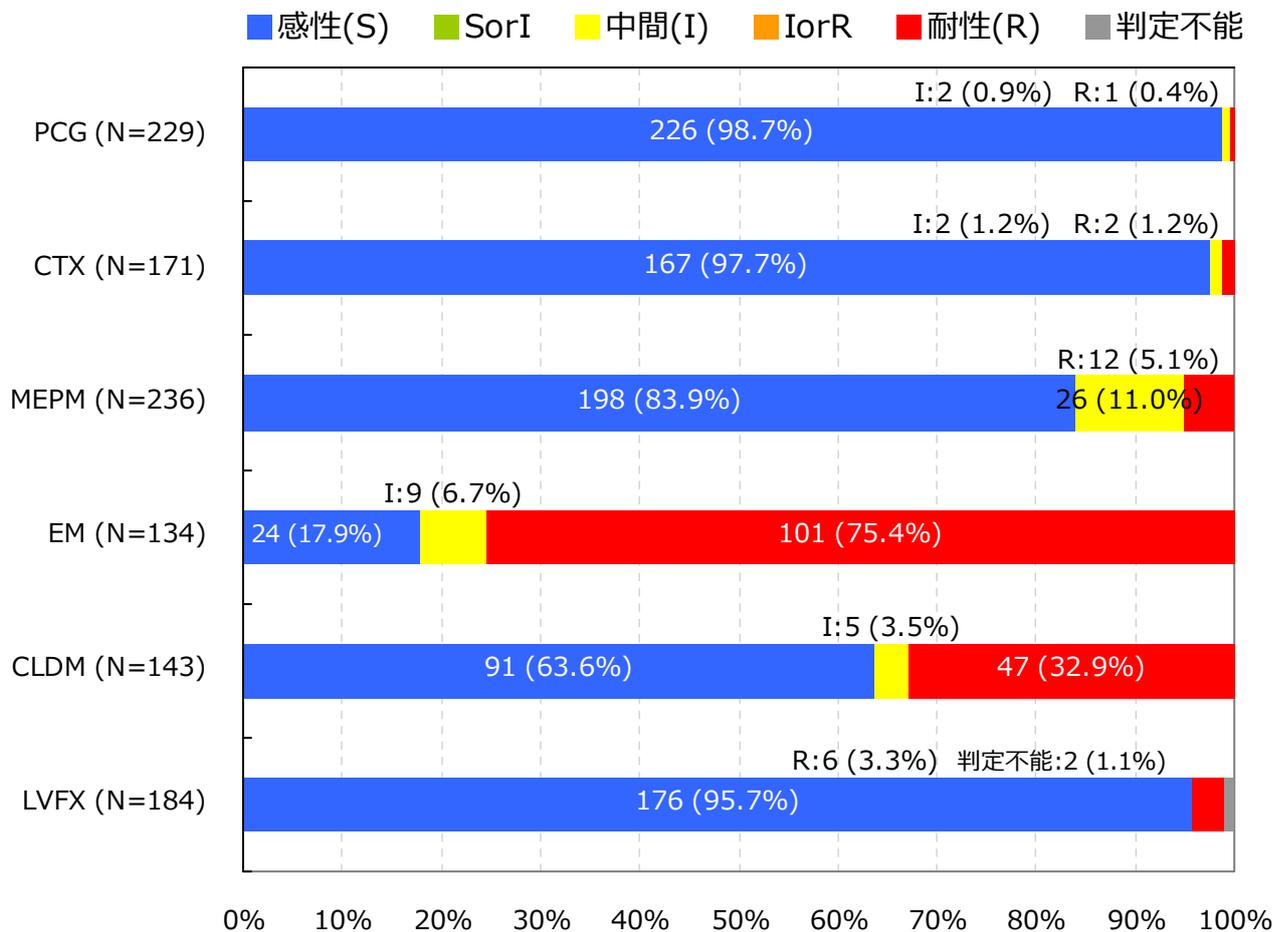
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1131と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pneumoniae*(髄液検体以外) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

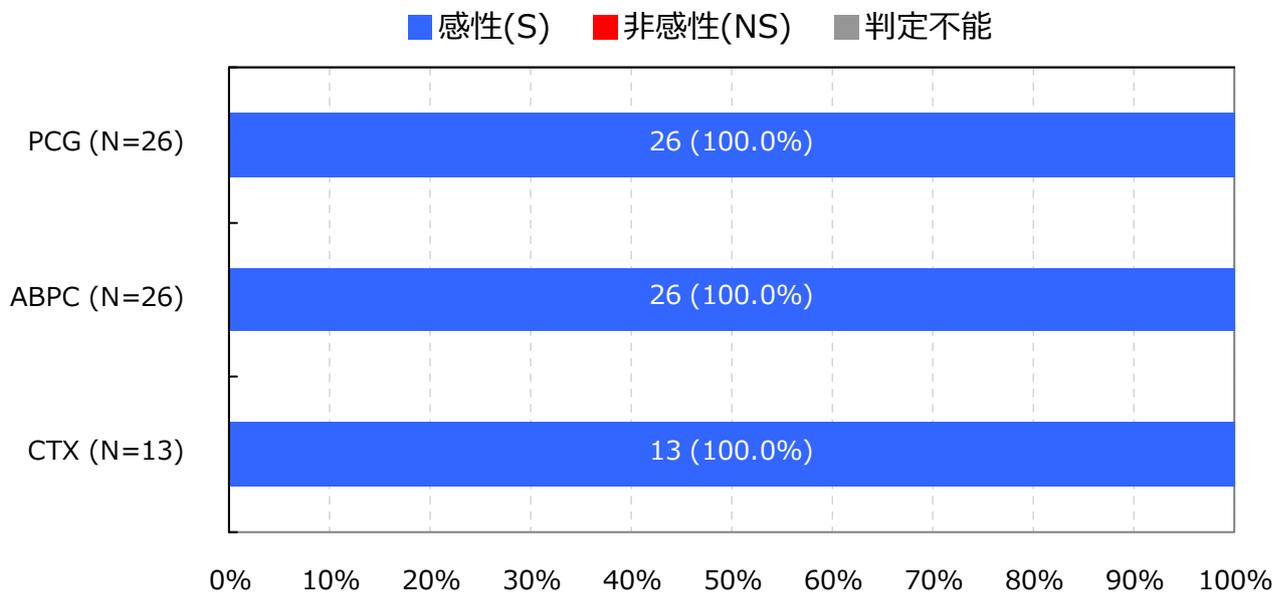
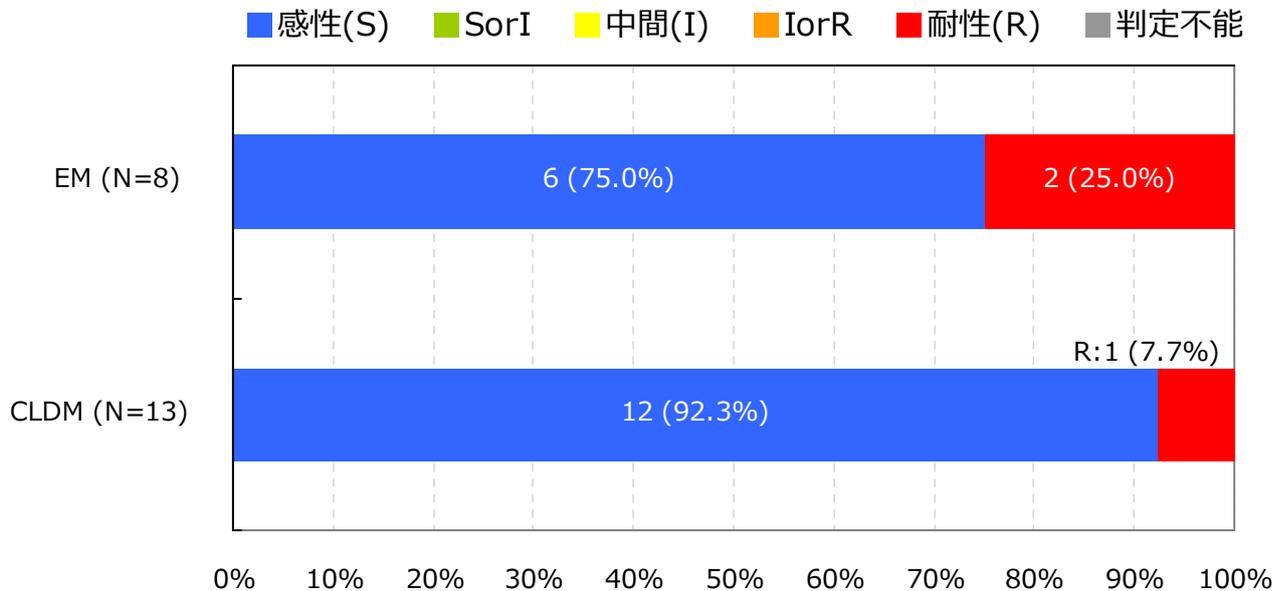
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1131と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pyogenes* †



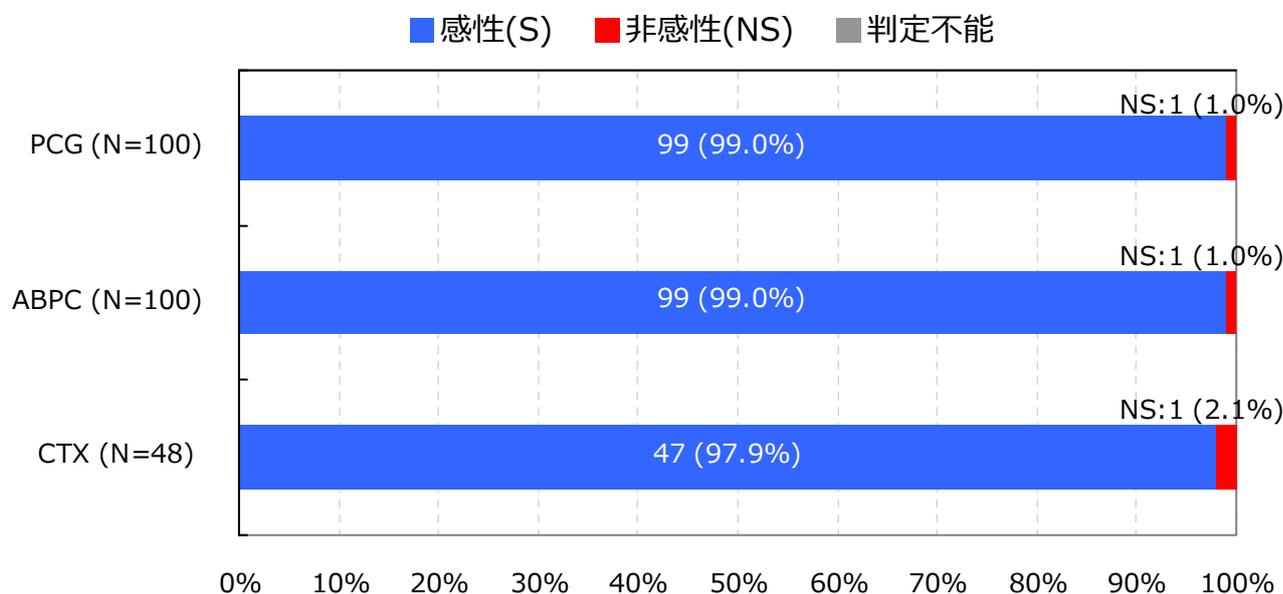
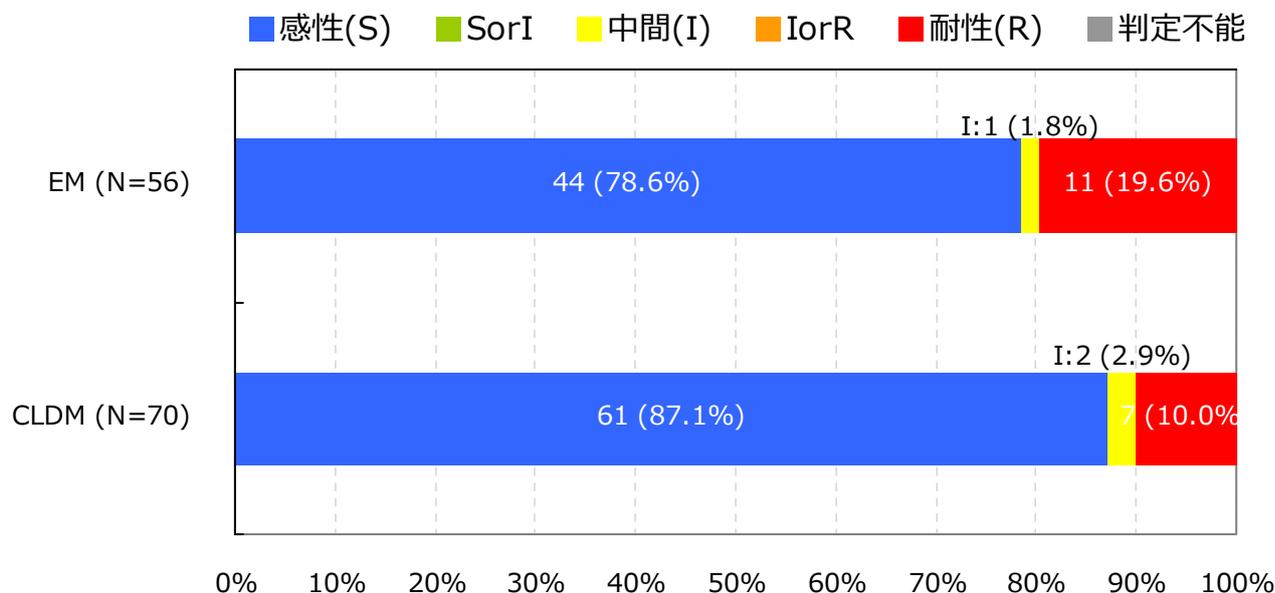
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1111と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus agalactiae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

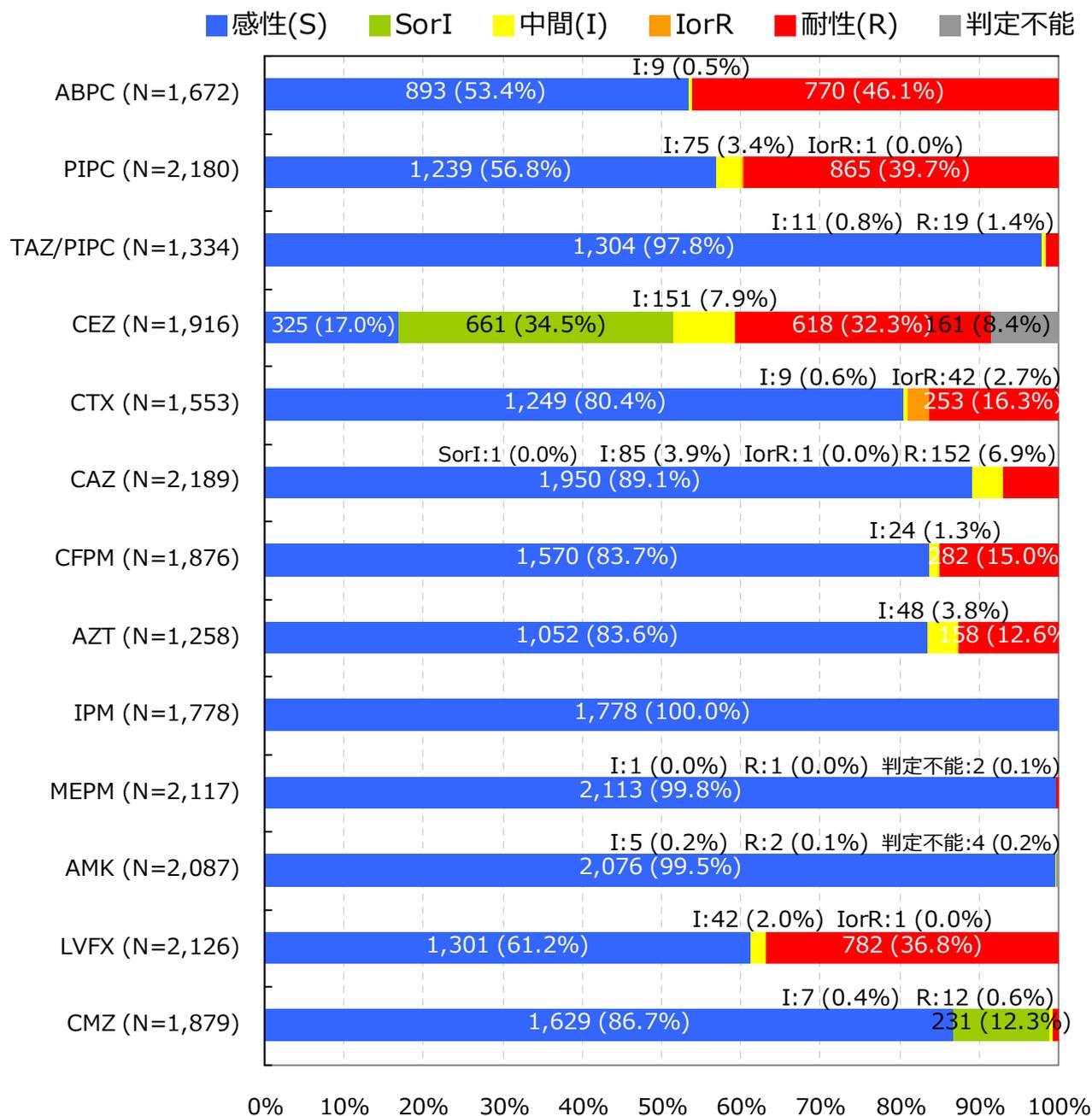
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1114と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Escherichia coli* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

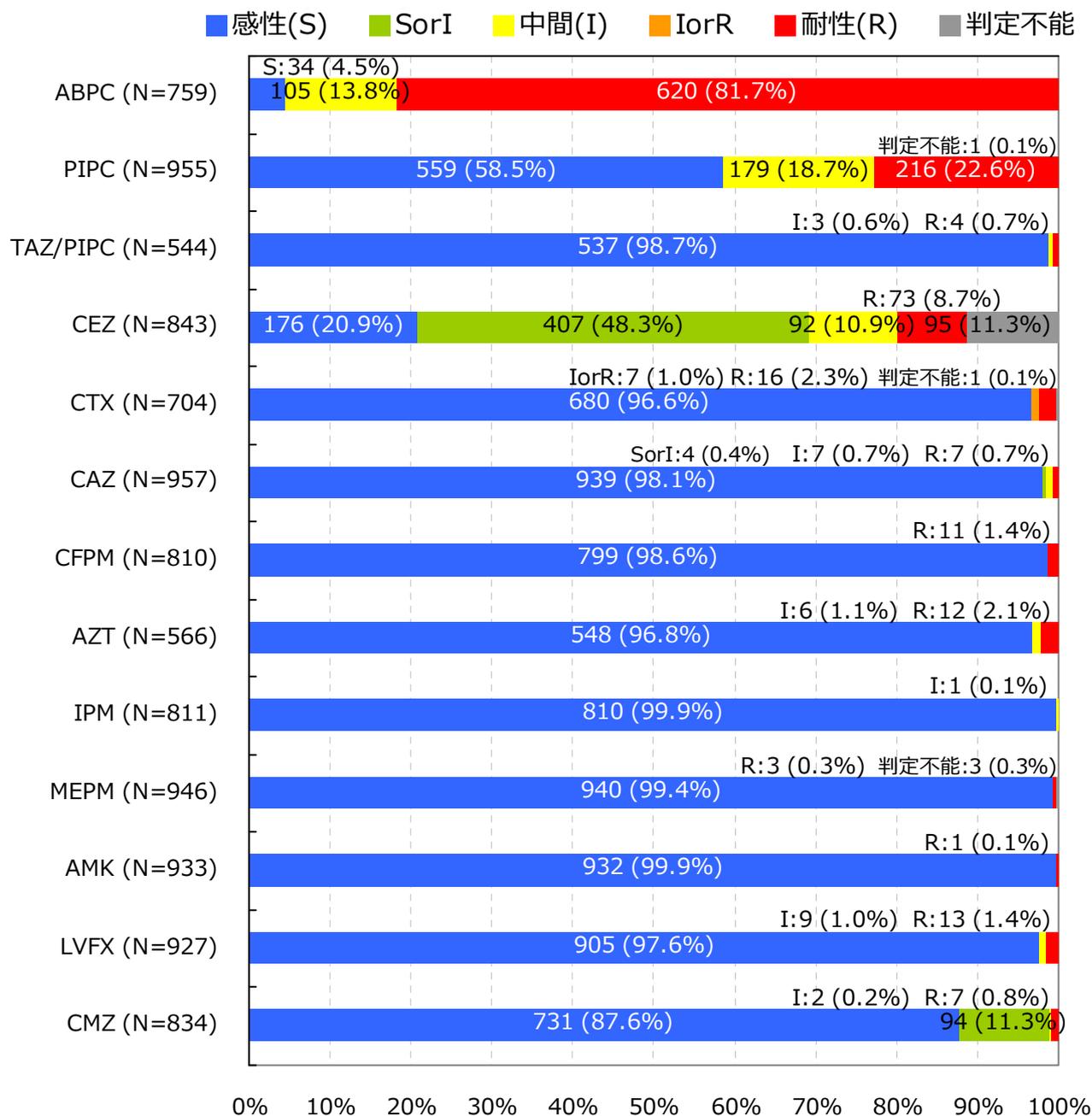
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2001～2007と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Klebsiella pneumoniae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

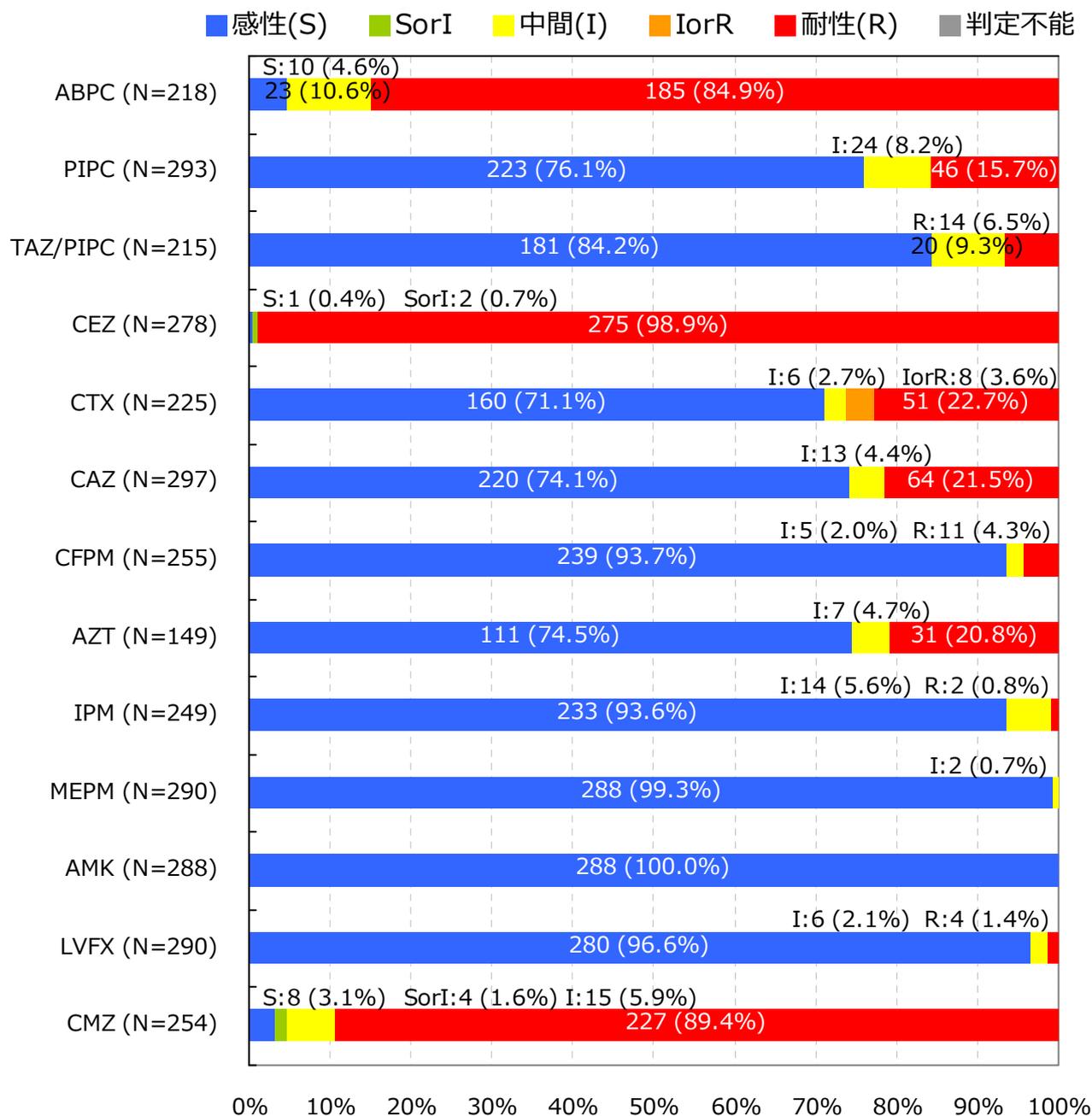
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2351と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterobacter cloacae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

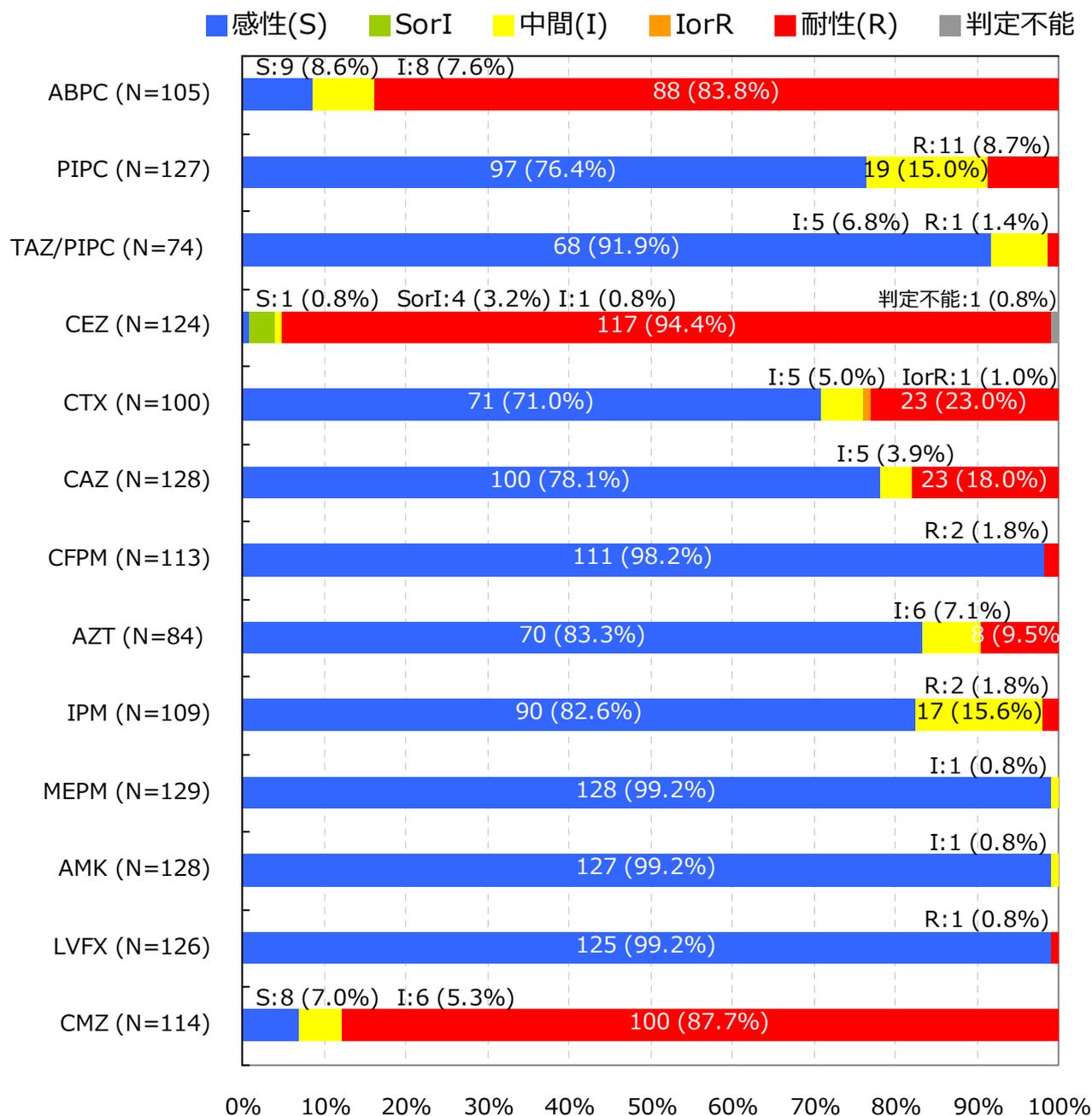
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2151と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterobacter aerogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

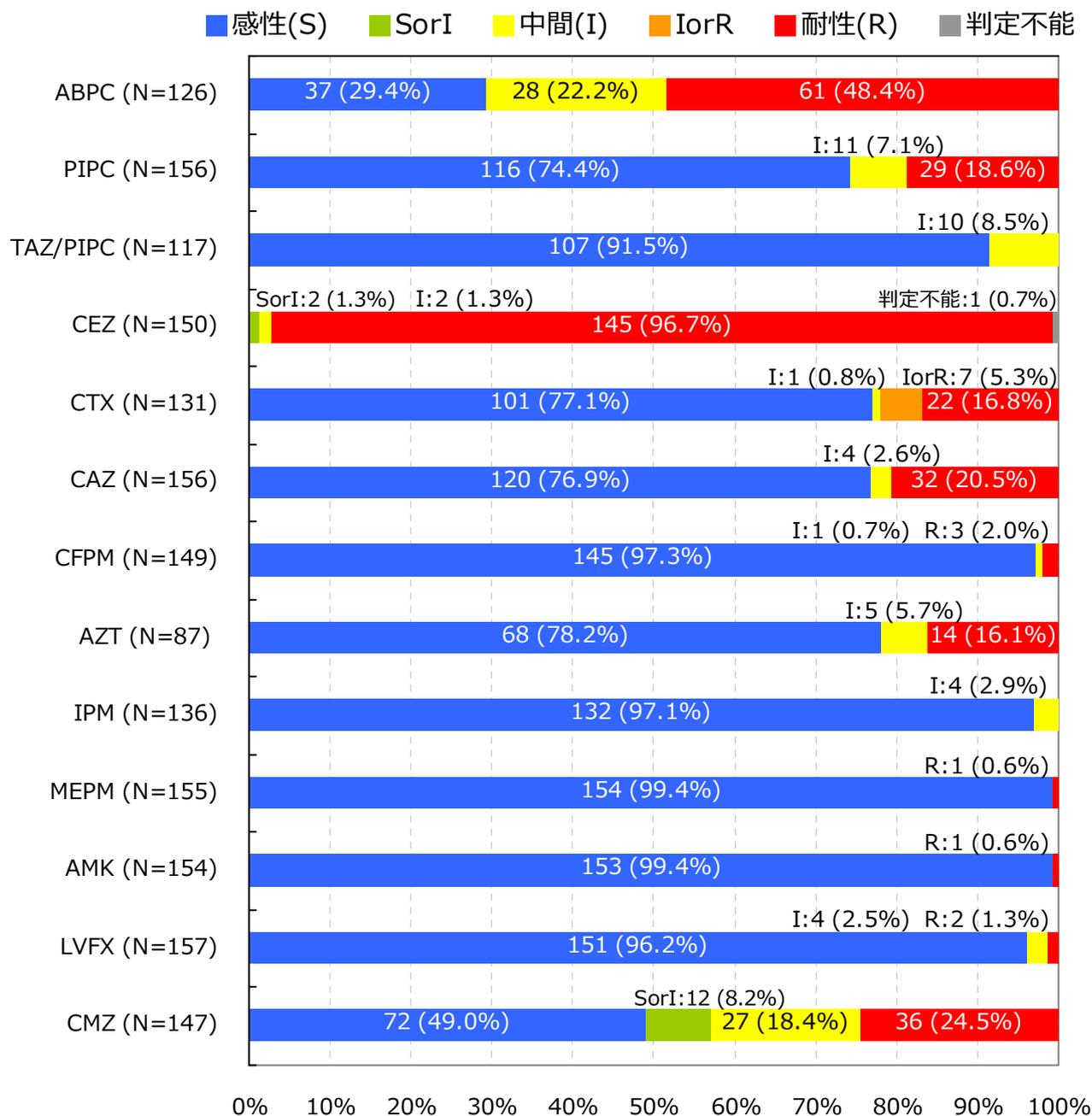
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2152と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter freundii* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

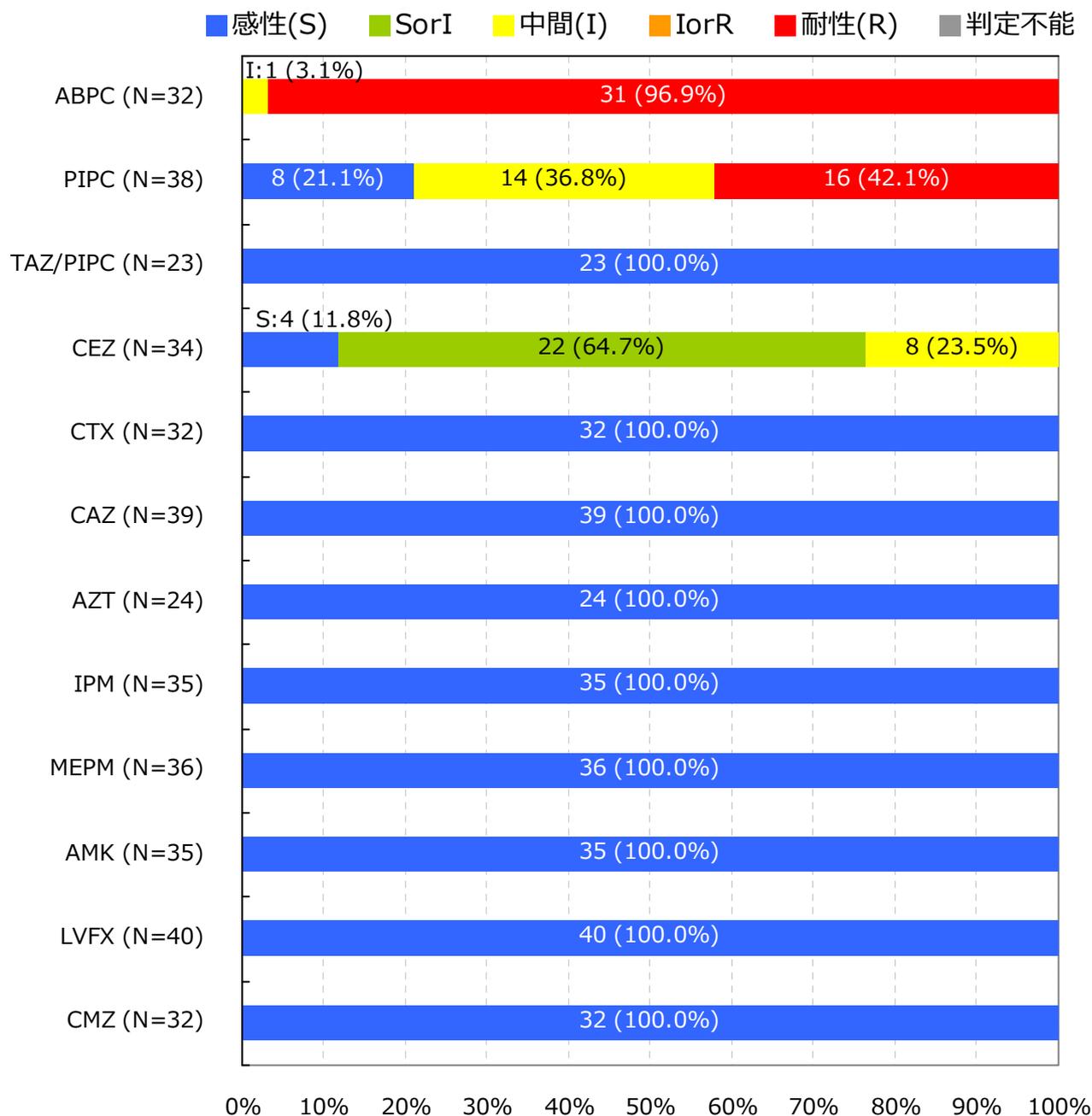
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2051と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter koseri* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

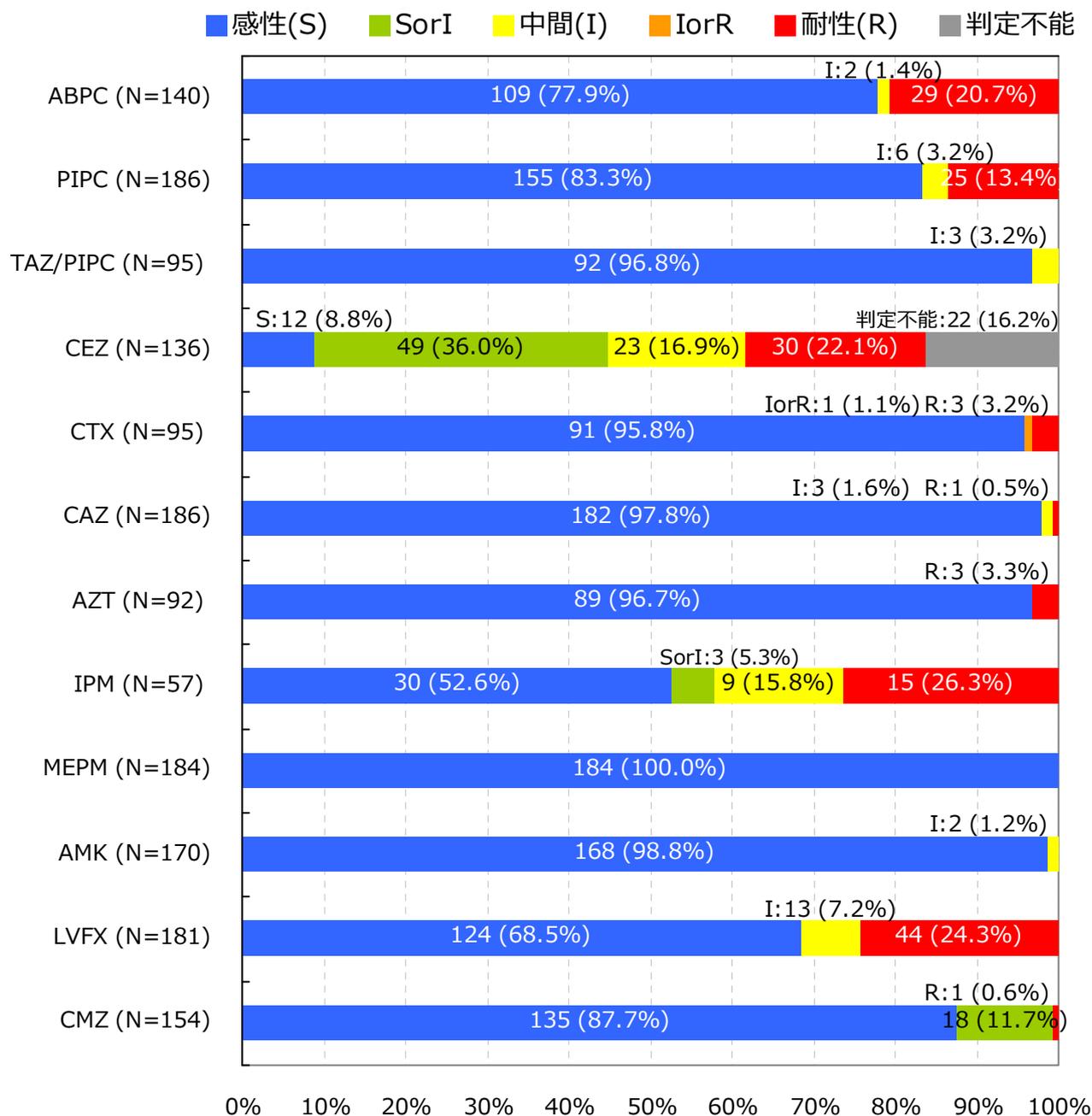
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2052と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus mirabilis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

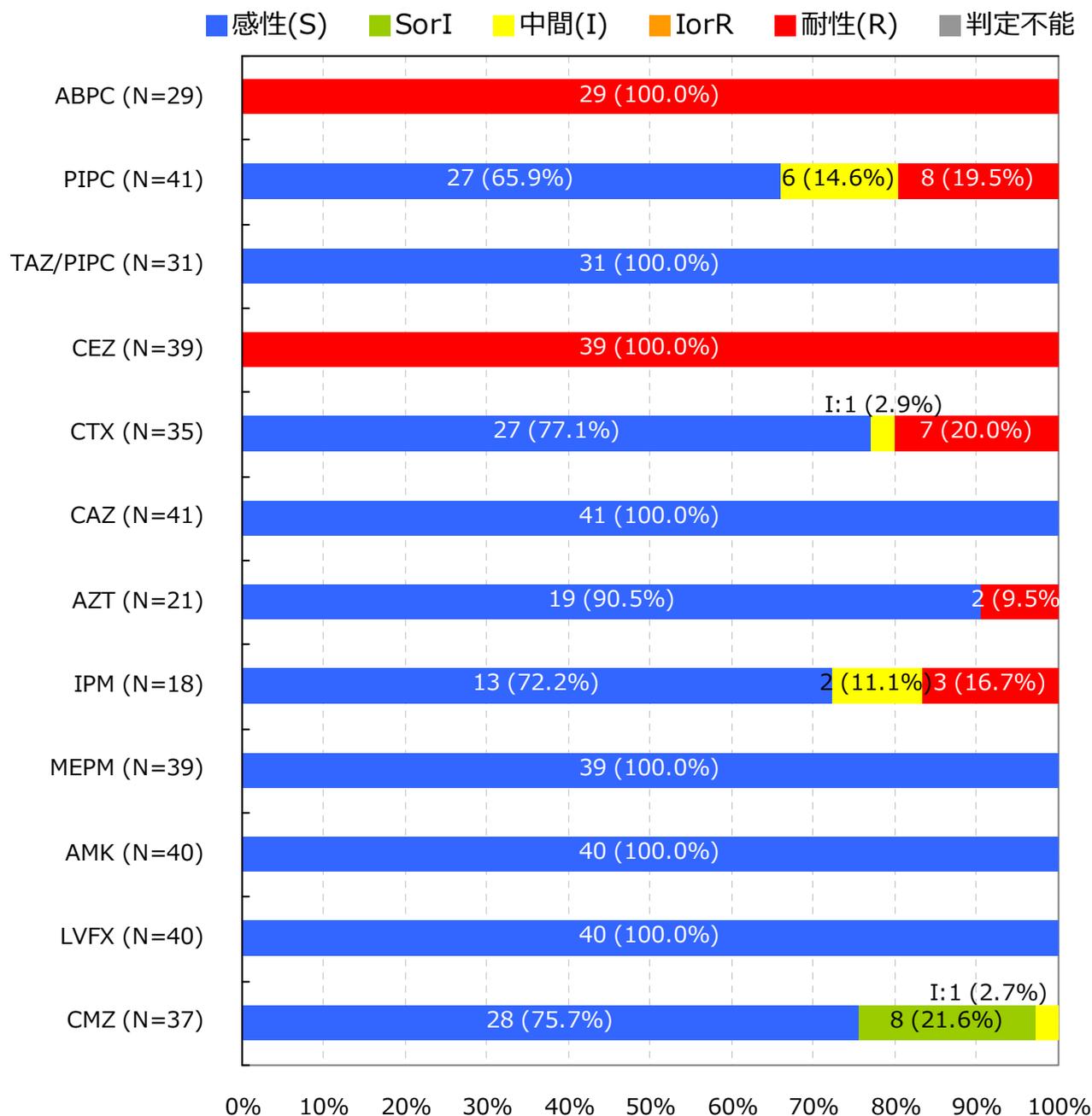
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2201と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus vulgaris* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

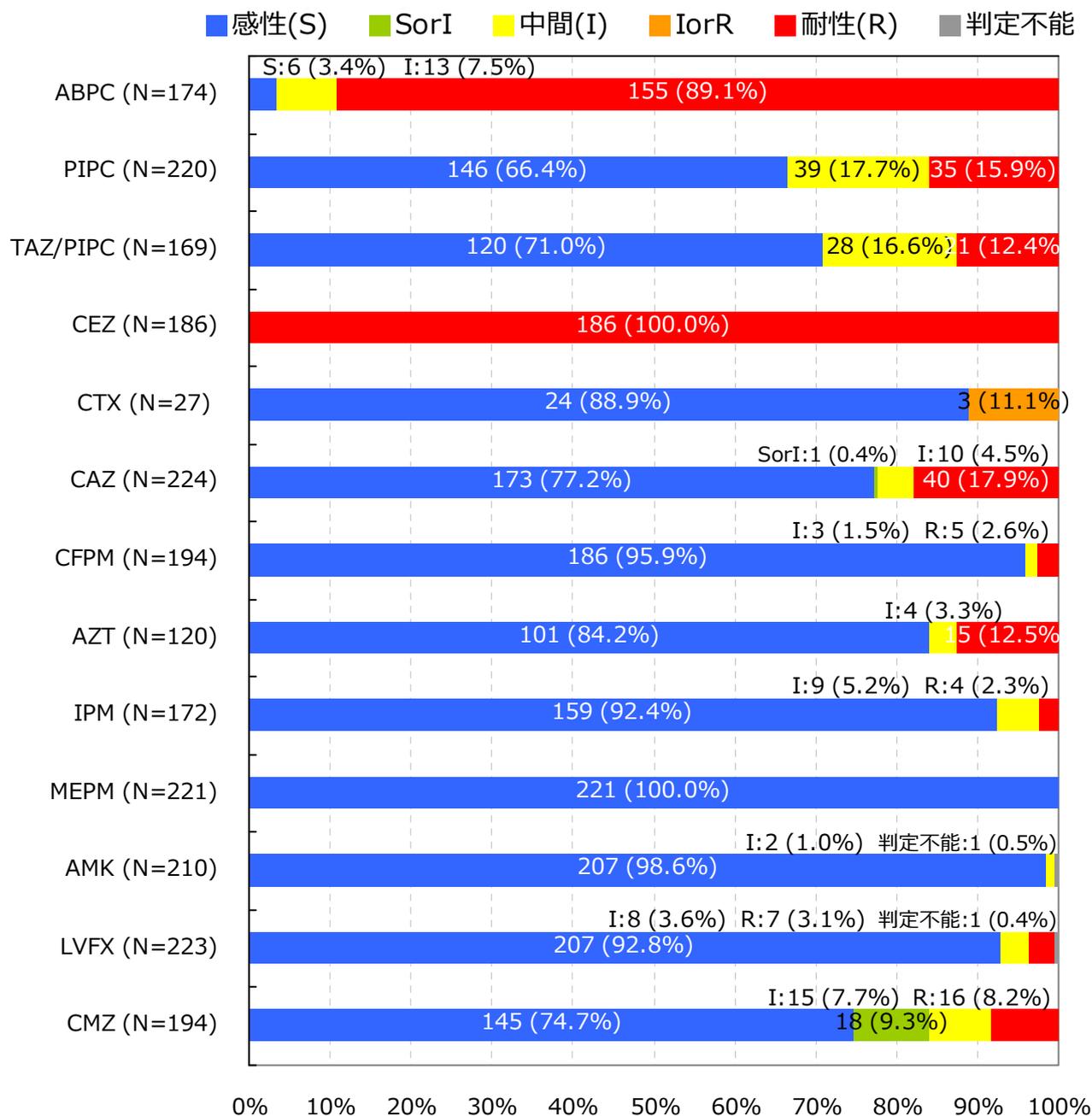
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2202と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Serratia marcescens* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

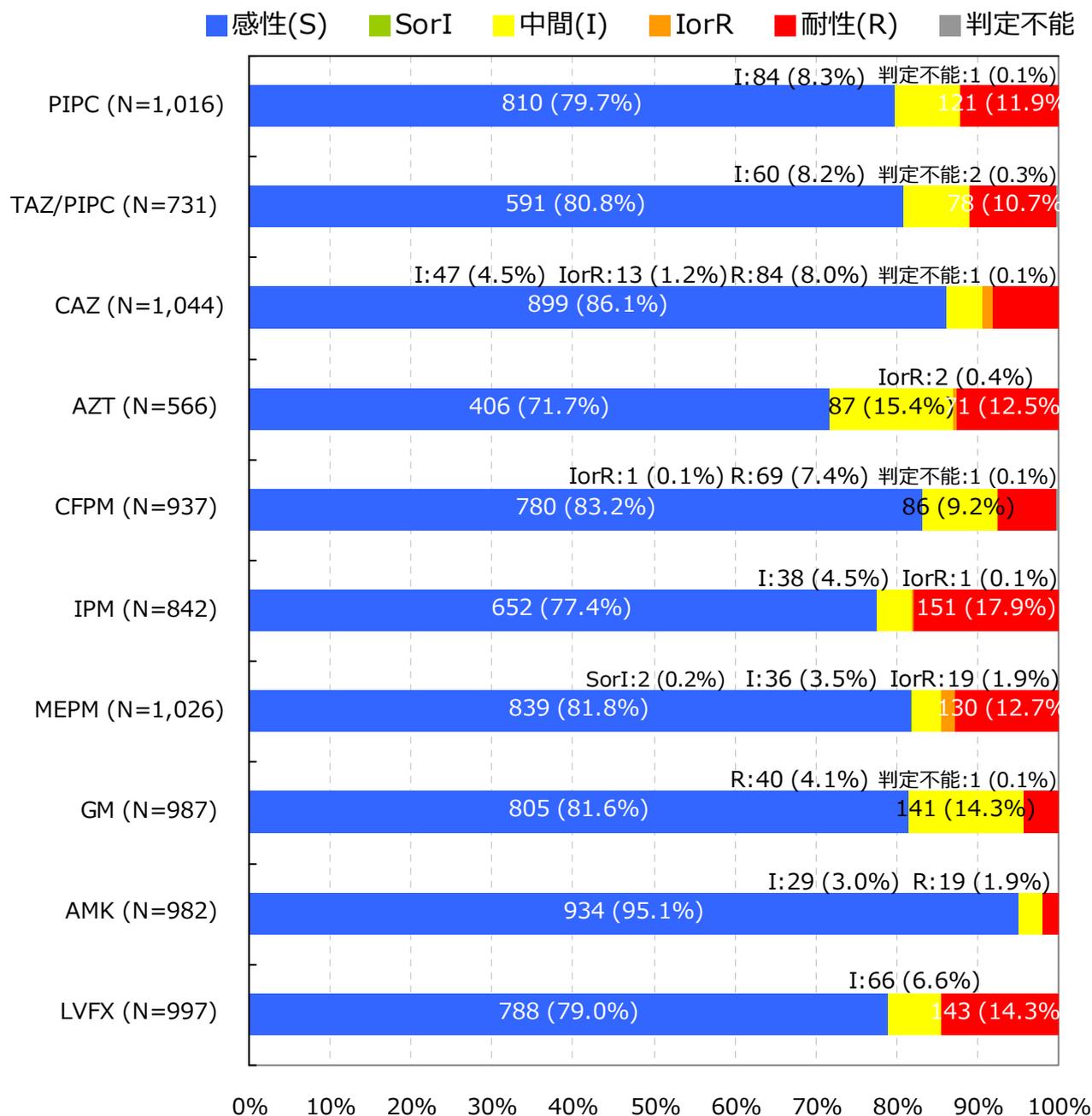
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2101と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Pseudomonas aeruginosa* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

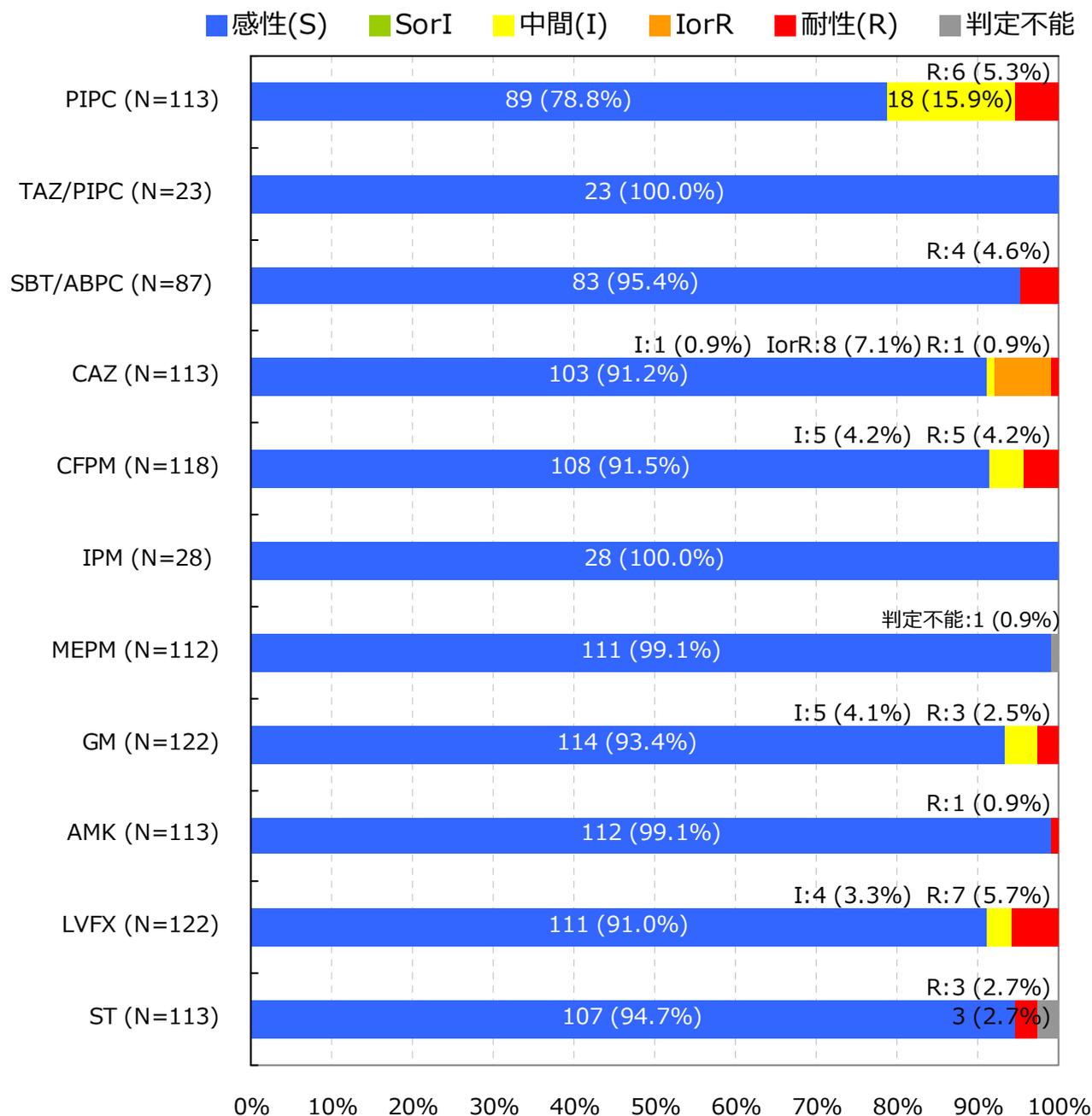
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 4001と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Acinetobacter* spp. †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

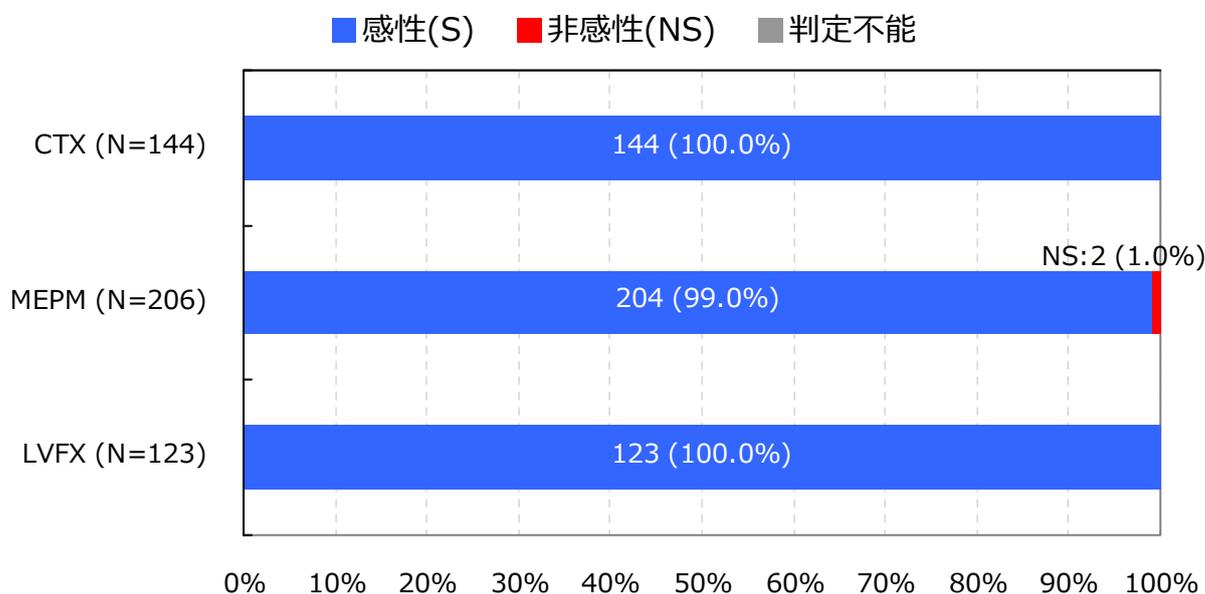
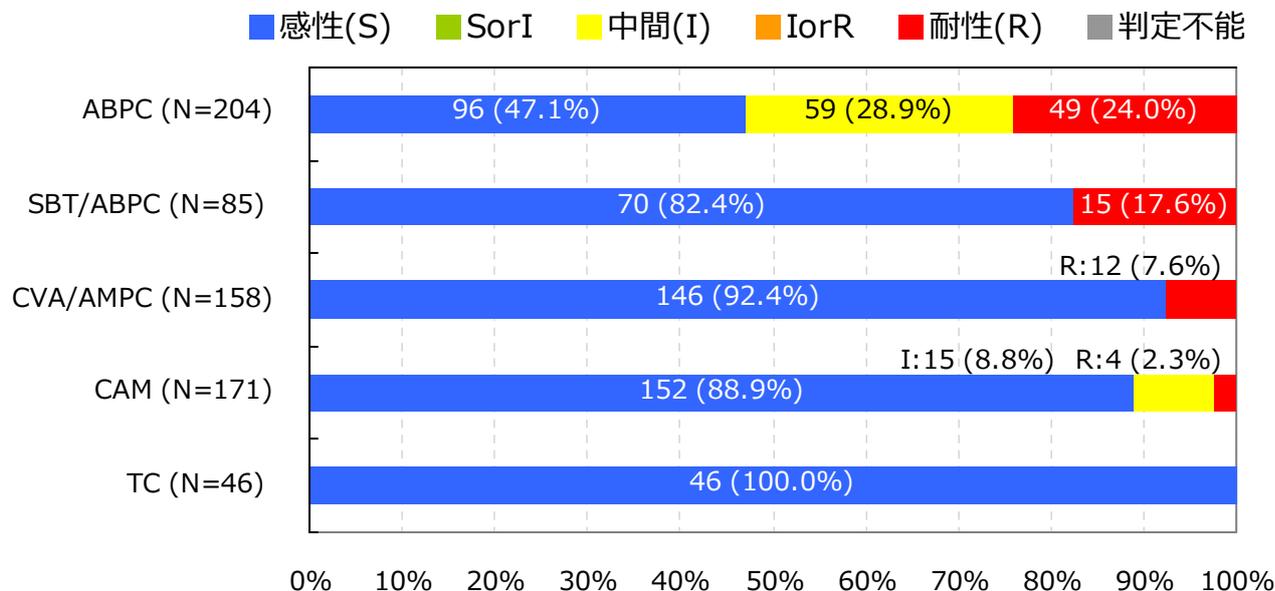
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：4400～4403と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Haemophilus influenzae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

【巻末資料1 微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準】

菌名※	概要*	微量液体希釈法 MIC 値	菌名コード Ver.4.0
MRSA	MPIPC が “R” の <i>Staphylococcus aureus</i> または選択培地で MRSA と確認された菌	MPIPC $\geq 4\mu\text{g/ml}$	1301,1303
VRSA	VCM が微量液体希釈法で “R” の <i>Staphylococcus aureus</i>	VCM $\geq 16\mu\text{g/ml}$	1301,1303-1306
VRE	下記のいずれかの条件を満たす <i>Enterococcus</i> spp. ・VCM が微量液体希釈法で耐性+ ・選択培地で VRE と確認された菌 (注) 種の同定が行われていない <i>Enterococcus</i> sp. は除く	VCM $\geq 16\mu\text{g/ml}+$	1201,1202,1205, 1206,1209,1210, 1213-1217
PRSP	PCG が微量液体希釈法で耐性+ の <i>Streptococcus pneumoniae</i>	PCG $\geq 0.125\mu\text{g/ml}+$	1131
MDRP	下記全てに該当する <i>Pseudomonas aeruginosa</i> 1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が微量液体希釈法で耐性+ 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性+ 3. フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, CFX, LFLX, GFLX の何れか) が “R”	1. IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}+$ 、 MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}+$ 2. AMK $\geq 32\mu\text{g/ml}+$ 3. NFLX $\geq 16\mu\text{g/ml}$ 、 OFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 LFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 CFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$	4001
MDRA	下記全てに該当する <i>Acinetobacter</i> spp. 1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が “R” 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性+ 3. フルオロキノロン系 (LVFX, CFX, GFLX の何れか) が “R”	1. IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}+$ 、 MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}+$ 2. AMK $\geq 32\mu\text{g/ml}+$ 3. LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 CFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$	4400-4403
CRE	下記の何れかの条件を満たす腸内細菌科 1. MEPM が耐性+ 2. IPM が耐性+、かつ CMZ が “R”	1. MEPM $\geq 2\mu\text{g/ml}+$ 2. IPM $\geq 2\mu\text{g/ml}+$ かつ CMZ $\geq 64\mu\text{g/ml}$	2000-2691, 3150-3151
カルバペネム 耐性緑膿菌	IPM または MEPM が耐性+ の <i>Pseudomonas aeruginosa</i>	IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}+$ MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}+$	4001
第三世代セファロ スポリン耐性 肺炎桿菌	CTX または CAZ が “R” の <i>Klebsiella pneumoniae</i>	CTX $\geq 4\mu\text{g/ml}$ CAZ $\geq 16\mu\text{g/ml}$	2351

菌名※	概要*	微量液体希釈法 MIC 値	菌名コード Ver.4.0
第三世代セファロ スポリン耐性 大腸菌	CTX または CAZ が “R” の <i>Escherichia coli</i>	CTX $\geq 4\mu\text{g/ml}$ CAZ $\geq 16\mu\text{g/ml}$	2001-2007
フルオロキノロン 耐性大腸菌	フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, LFLX, GFLX, CFX の何れか) が “R” の <i>E. coli</i>	NFLX $\geq 16\mu\text{g/ml}$ 、 OFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 LFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 CFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$	2001-2007

\*原則 S,I,R の判定は CLSI2012 (M100-S22) に準拠

+ 感染症発生动向調査の基準に準拠

※ 菌名は以下の通り

- MRSA : Methicillin-resistant *S. aureus* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌
- VRSA : Vancomycin-resistant *S. aureus* バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌
- VRE : Vancomycin-resistant *Enterococcus* spp. バンコマイシン耐性腸球菌
- PRSP : Penicillin-resistant *S. pneumoniae* ペニシリン耐性肺炎球菌
- MDRP : Multidrug-resistant *P. aeruginosa* 多剤耐性緑膿菌
- MDRA : Multidrug-resistant *Acinetobacter* spp. 多剤耐性アシネトバクター属
- CRE : Carbapenem-Resistant Enterobacteriaceae カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 (2015年1月より集計開始)

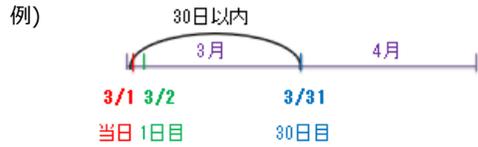
2014年12月分データまでは CLSI2007 (M100-S17)、2015年1月分データより CLSI2012 (M100-S22) に準拠する。

薬剤耐性菌判定基準 (Ver.3.1) と 検査部門特定の耐性菌判定基準 (Ver.4.1) を基に作成した。

【巻末資料 2 公開情報の集計方法について】

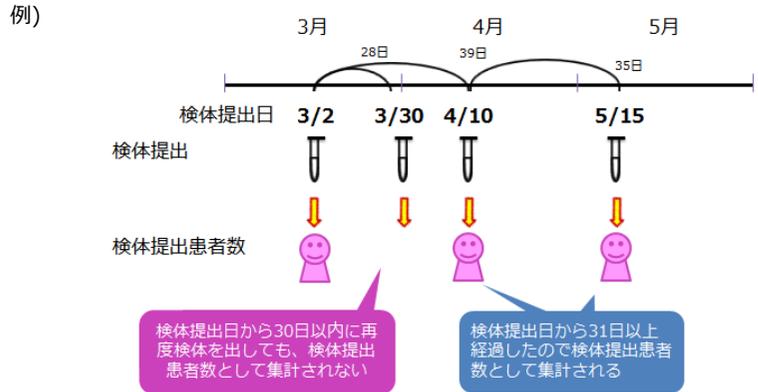
1. 日数の数え方

検体提出日の翌日を 1 日目とする。検体提出日が 3 月 1 日とすると、1 日目が 3 月 2 日、30 日目が 3 月 31 日となる。



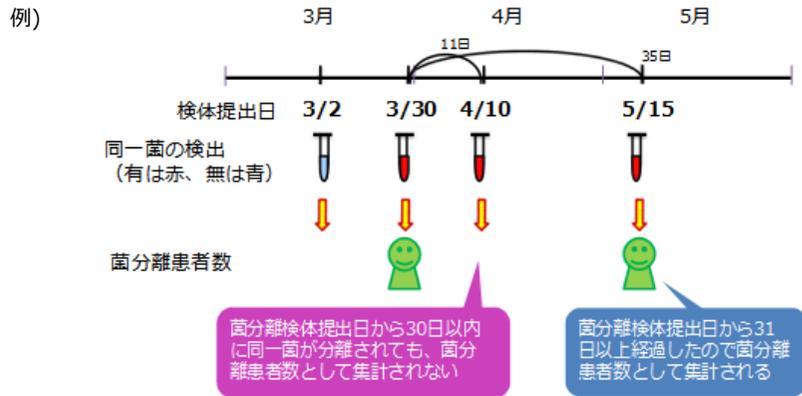
2. 検体提出患者数

検体提出患者数は、検体の種類や菌分離の有無に関わらず検体(入院検体)が提出された患者の数である。検体提出患者数は重複処理を行っており、30 日以内の同一患者からの複数の検体提出は 1 件とする。



3. 菌分離患者数

菌分離患者数も検体提出患者と同様の重複処理を行い、30 日以内に同一患者から同一菌が複数回検出された場合、菌分離患者数は 1 件とする。耐性菌分離患者数は、耐性菌の基準に合致する菌をまず抽出し、その中で上記重複処理を行っている。



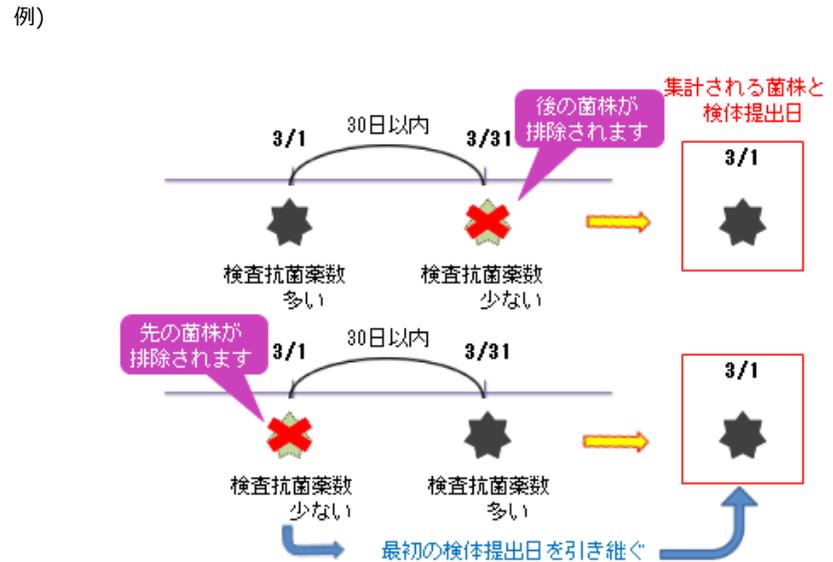
4. 抗菌薬感受性検査結果をもとにした同一菌と異なる菌との区別

30 日以内に同一患者から同一菌が検出された場合であっても、検査抗菌薬感受性結果に 1 つ以上不一致(下記①～④のいずれかに該当)がある場合は異なる菌株として集計される。

- ① MIC 値に 4 倍以上の違いがある  
ただし、MIC > 2 は MIC ≥ 4 と考え、判定時は MIC = 4 として扱う  
また、MIC < 16 は MIC ≤ 16 と考え、判定時は MIC = 16 として扱う
- ② SIR 判定では「S と R」の組み合わせ
- ③ +/- 判定では「-と++」または「+と+++」または「-と+++」の組み合わせ
- ④ 共通する検査抗菌薬数が 5 未満

5. 抗菌薬感受性結果の重複処理

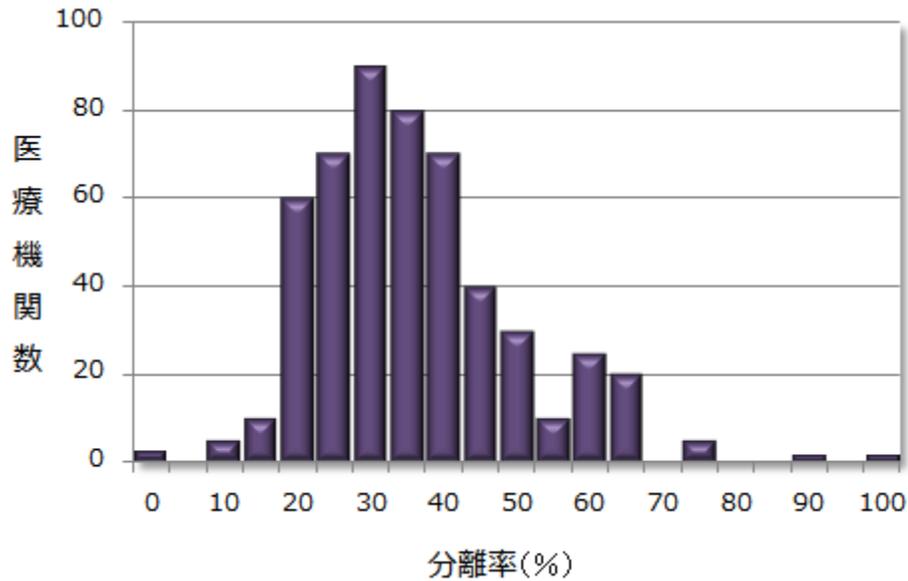
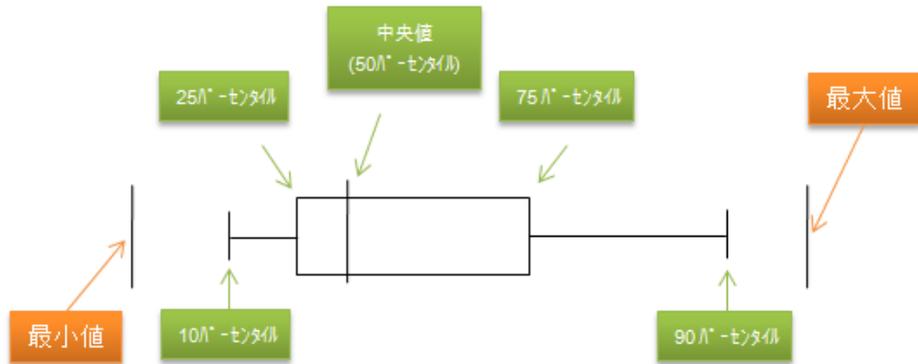
検体提出日が先の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内)の後の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、後の菌株の抗菌薬感受性検査結果は排除する。また、検体提出日が後の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内)の先の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、先の菌株の抗菌薬感受性検査結果を排除するが、先の検査の検体提出日を引き継ぐ。



【巻末資料 3 箱ひげ図について】

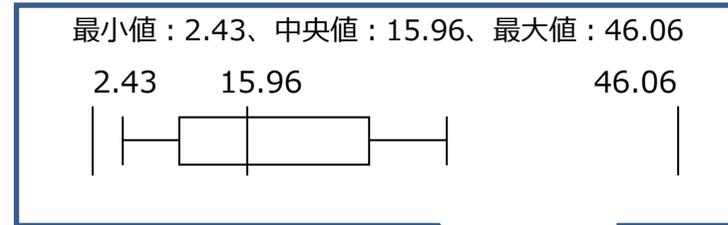
1. 箱ひげ図について

集計対象医療機関のデータのばらつきを示し、集計対象医療機関における自施設の位置を確認することができる。



※ パーセンタイル：値を小さいものから大きいものへと順番に並べ、全体を 100 として何番目であるかを表したもの。  
 例えば、10パーセンタイルは、全体を 100 として小さいほうから数えて 10 番目の計測値を示している。

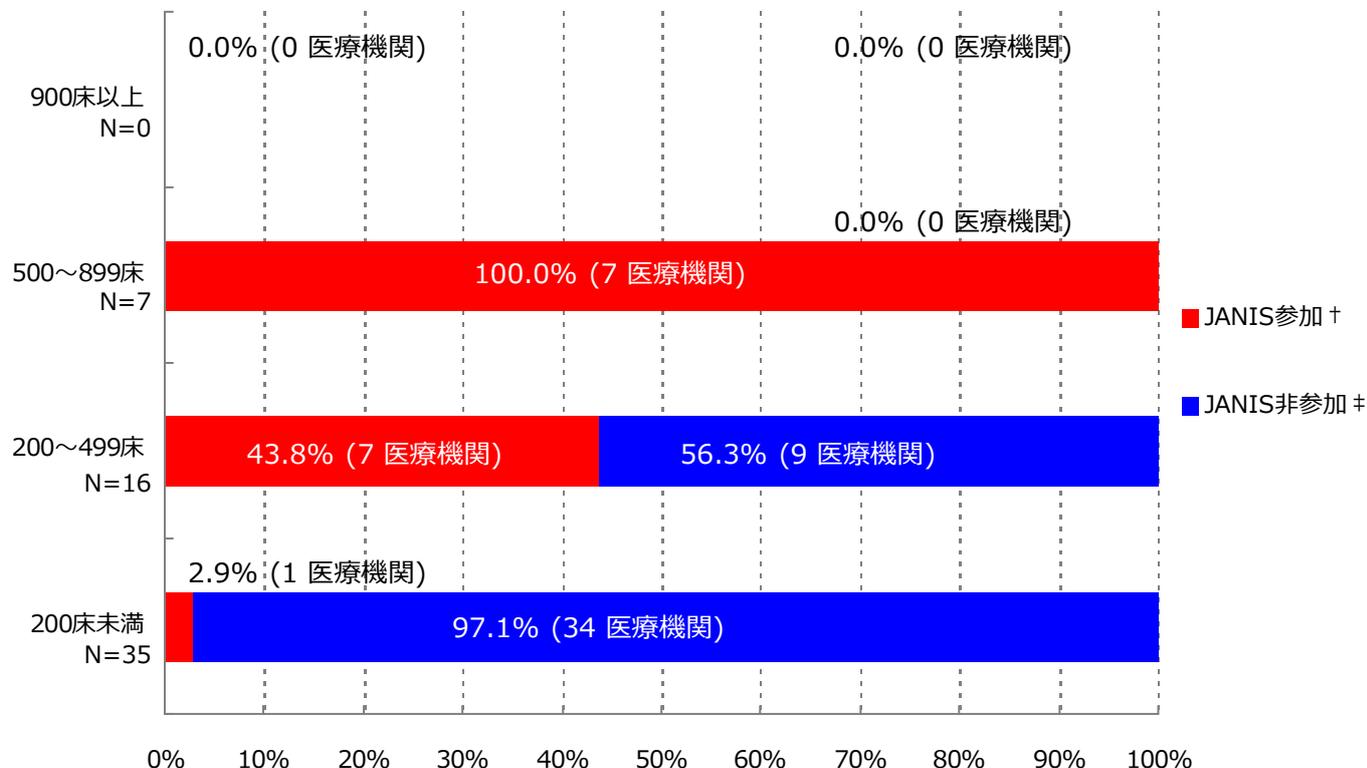
2. 公開情報の箱ひげ図



		集計対象医療機関の分離率 (%)の分布	
2010年 *	2011		
1,069,216人	1,309,993人		
175,145人 (16.38%)	210,382人 (16.06%)	2.43	15.96 46.06
47,523人 (4.44%)	64,588人 (4.93%)	0.00	3.21 37.54



### 1. データ提出医療機関\*数(15医療機関)



\*ここではデータ提出医療機関は集計対象医療機関を表す

† JANIS参加 = 2015年1～12月 集計対象医療機関数

‡ JANIS非参加 = (2014年 都道府県別医療機関数¶) - (2015年1～12月 集計対象医療機関数)

病床数	2014年 都道府県別医療機関数¶	2015年1月～12月 集計対象医療機関数 (都道府県別医療機関数に占める割合)
900床以上	0	0 ( 0.0% )
500～899床	7	7 (100.0% )
200～499床	16	7 ( 43.8% )
200床未満	35	1 ( 2.9% )
病床数不明	-	0 ( - )
合計	58	15 ( 25.9% )

¶平成26年医療施設（動態）調査を参照した

## 2. データ提出医療機関数、検体数、分離菌数

検査材料分類	集計対象医療機関数	検体数	陽性検体数 (分離菌数)
呼吸器系検体	15	17,656	10,782 (22,501)
尿検体	15	8,421	4,796 (7,349)
便検体	15	6,375	2,283 (4,087)
血液検体	15	27,509	3,562 (3,900)
髄液検体	13	1,088	36 (37)
その他	15	13,157	6,334 (10,603)
合計	15	74,206	27,793 (48,477)

入院として報告された検体を集計

集計対象菌：コメントのみ(菌名コード9999)の報告以外の全ての菌

検査材料分類は以下に該当する検査材料コードを集計

呼吸器系検体：

101(喀出痰)、102(気管内採痰)、103(気管支洗浄液)、104(咽頭粘液)、105(鼻腔内)、106(口腔内)、  
107(生検材料(肺))、109(その他(呼吸器))、404(胸水)

尿検体：

201(自然排尿)、202(採尿カテーテル)、203(留置カテーテル)、206(カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能))

便検体：

301(糞便)

血液検体：

401(静脈血)、402(動脈血)

髄液検体：

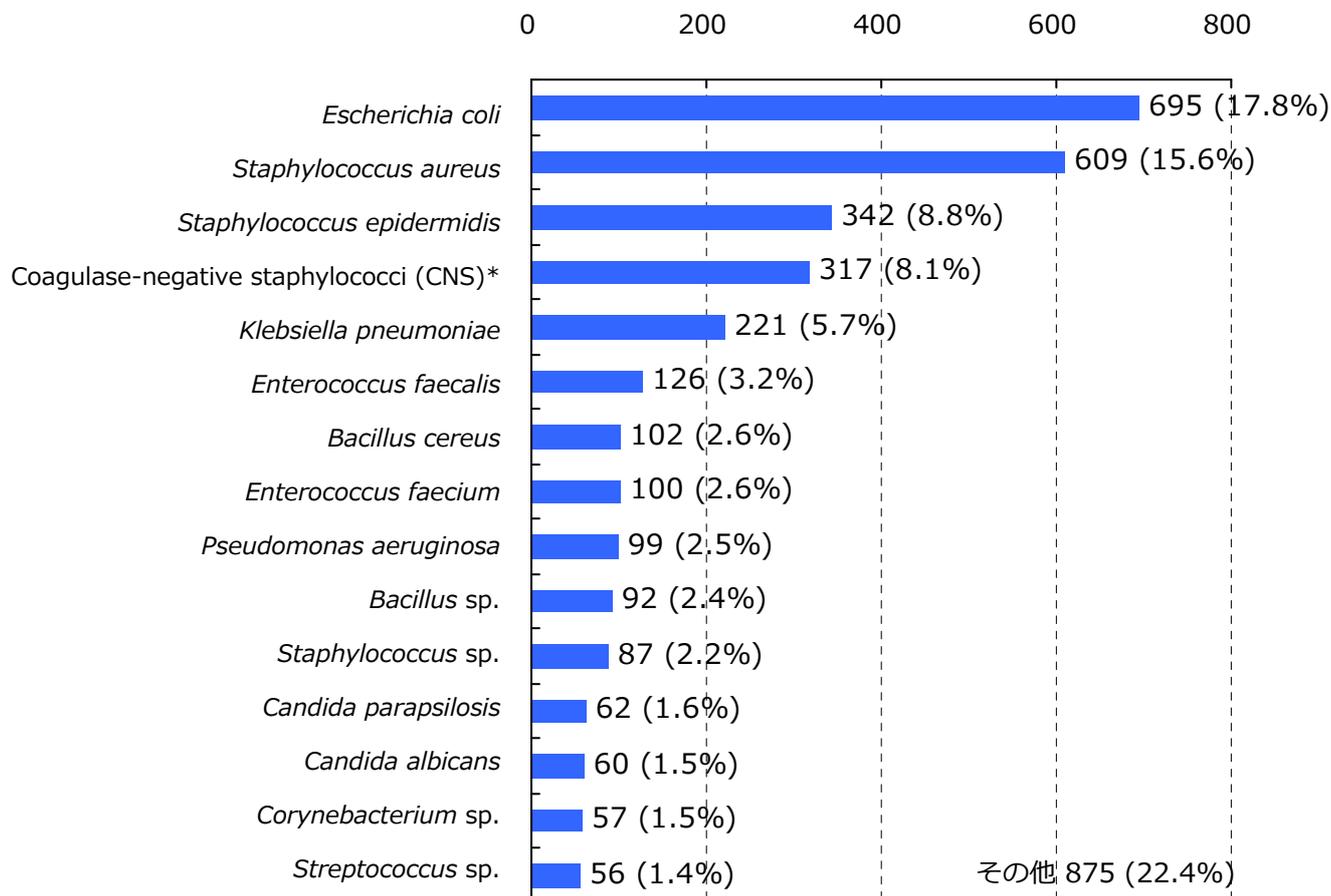
403(髄液)

その他：上記以外の検査材料コード

検査材料コード：JANISホームページ>各部門について>検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 血液検体分離菌 (N=3,900)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌 (1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外)

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：静脈血(検査材料コード401)と動脈血(同402)

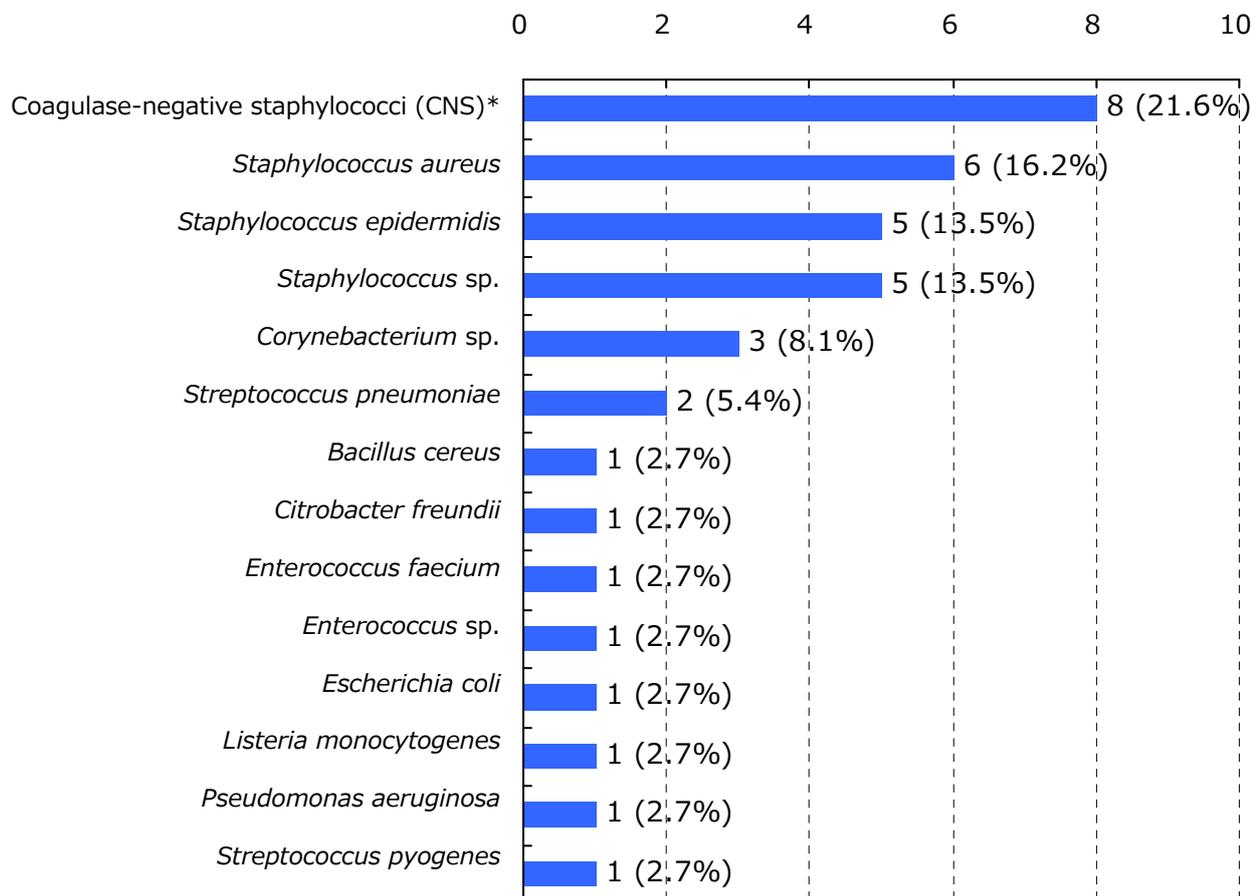
血液検体分離菌数割合 = (対象菌の血液検体分離菌数) ÷ (血液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 髄液検体分離菌 (N=37)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌 (1312 : *Staphylococcus epidermidis*は対象外)

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

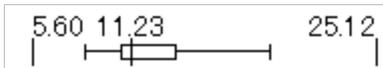
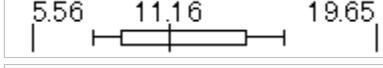
集計対象検査材料：髄液(検査材料コード403)

髄液検体分離菌数割合 = (対象菌の髄液検体分離菌数) ÷ (髄液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

## 4. 主要菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

	2011年 患者数 (分離率‡)	2012年 患者数 (分離率‡)	2013年 患者数 (分離率‡)	2014年 患者数 (分離率‡)	2015年 患者数 (分離率‡)	集計対象医療機関の分離率¶ (%)の分布
検体提出患者数	-	-	-	-	26,337人	
<i>S. aureus</i>	-	-	-	-	3,077人 (11.68%)	5.60 11.23 25.12 
<i>S. epidermidis</i>	-	-	-	-	713人 (2.71%)	0.00 2.78 10.70 
<i>S. pneumoniae</i>	-	-	-	-	443人 (1.68%)	0.43 0.93 4.42 
<i>E. faecalis</i>	-	-	-	-	947人 (3.60%)	0.00 4.34 6.51 
<i>E. faecium</i>	-	-	-	-	448人 (1.70%)	0.00 1.71 3.51 
<i>E. coli</i>	-	-	-	-	2,867人 (10.89%)	5.56 11.16 19.65 
<i>K. pneumoniae</i>	-	-	-	-	1,348人 (5.12%)	3.50 4.82 15.37 
<i>Enterobacter spp.</i>	-	-	-	-	843人 (3.20%)	2.48 2.84 7.20 
<i>S. marcescens</i>	-	-	-	-	294人 (1.12%)	0.17 1.28 2.16 
<i>P. aeruginosa</i>	-	-	-	-	1,359人 (5.16%)	3.22 4.55 12.09 
<i>Acinetobacter spp.</i>	-	-	-	-	301人 (1.14%)	0.00 0.96 4.60 

入院として報告された検体を集計

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

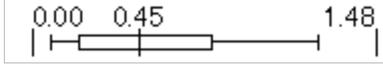
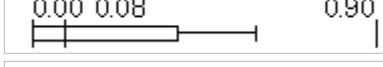
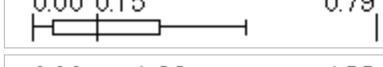
‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

全体の分離率

= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

## 5. 特定の耐性菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

	2011年 患者数 (分離率 †)	2012年 患者数 (分離率 †)	2013年 患者数 (分離率 †)	2014年 患者数 (分離率 †)	2015年 患者数 (分離率 †)	集計対象医療機関の分離率‡ (%)の分布
検体提出患者数	-	-	-	-	26,337人	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)	-	-	-	-	1,636人 (6.21%)	4.31 6.36 15.35 
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA)	-	-	-	-	0人 (0.00%)	0.00 
バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)	-	-	-	-	1人 (0.00%)	0.00 0.00 0.02 
ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)	-	-	-	-	134人 (0.51%)	0.00 0.45 1.48 
多剤耐性緑膿菌(MDRP)	-	-	-	-	10人 (0.04%)	0.00 0.00 0.45 
多剤耐性アシネトバクター属(MDRA)	-	-	-	-	0人 (0.00%)	0.00 
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)	-	-	-	-	68人 (0.26%)	0.00 0.08 0.90 
カルバペネム耐性緑膿菌	-	-	-	-	154人 (0.58%)	0.00 0.39 2.17 
第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌	-	-	-	-	57人 (0.22%)	0.00 0.15 0.79 
第三世代セファロスポリン耐性大腸菌	-	-	-	-	516人 (1.96%)	0.00 1.62 4.33 
フルオロキノロン耐性大腸菌	-	-	-	-	851人 (3.23%)	1.78 2.89 6.81 

入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計

MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

全体の分離率

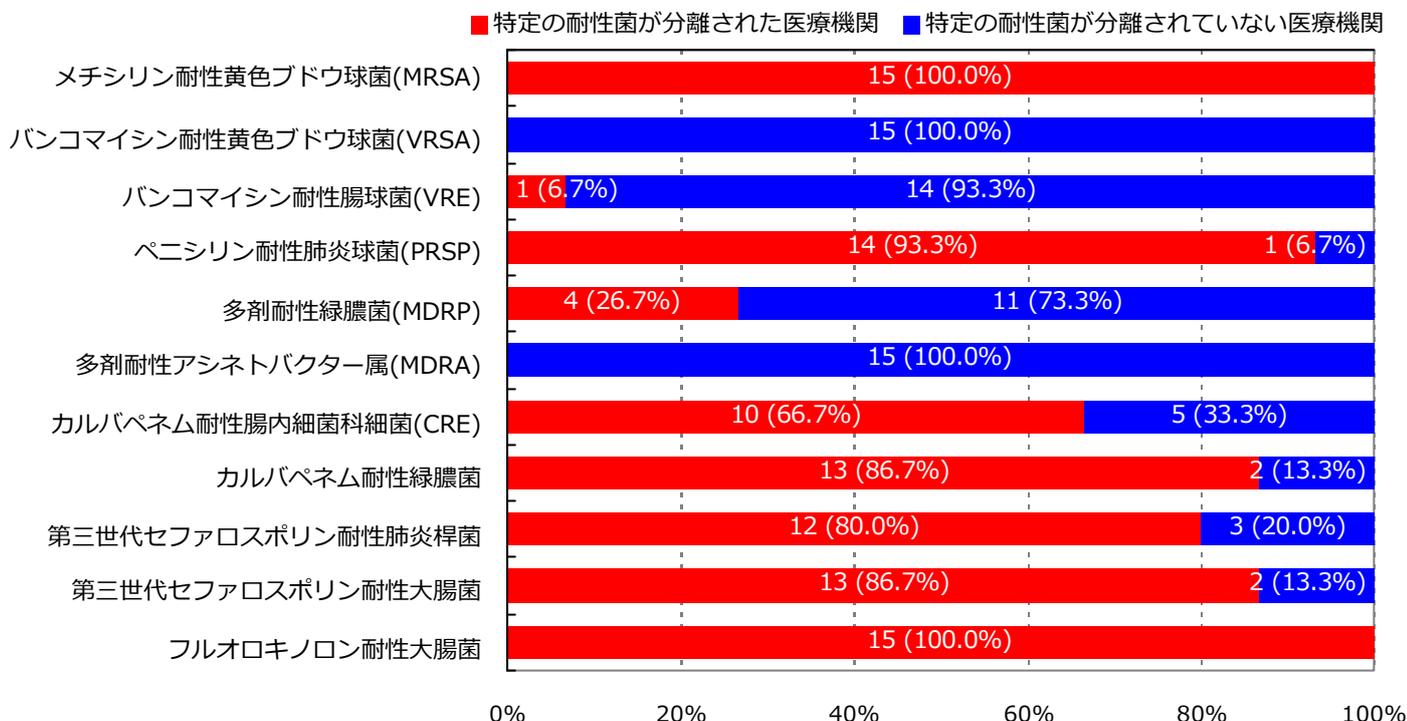
$$= (\text{集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計}) \div (\text{集計対象医療機関の検体提出患者数合計}) \times 100$$

$$\text{¶分離率} = (\text{対象菌の分離患者数}) \div (\text{検体提出患者数}) \times 100$$



### 6. 特定の耐性菌が分離された医療機関の割合

2015年 特定の耐性菌が分離された医療機関の割合 (N=15)



特定の耐性菌が分離された医療機関の割合 (過去5年間)

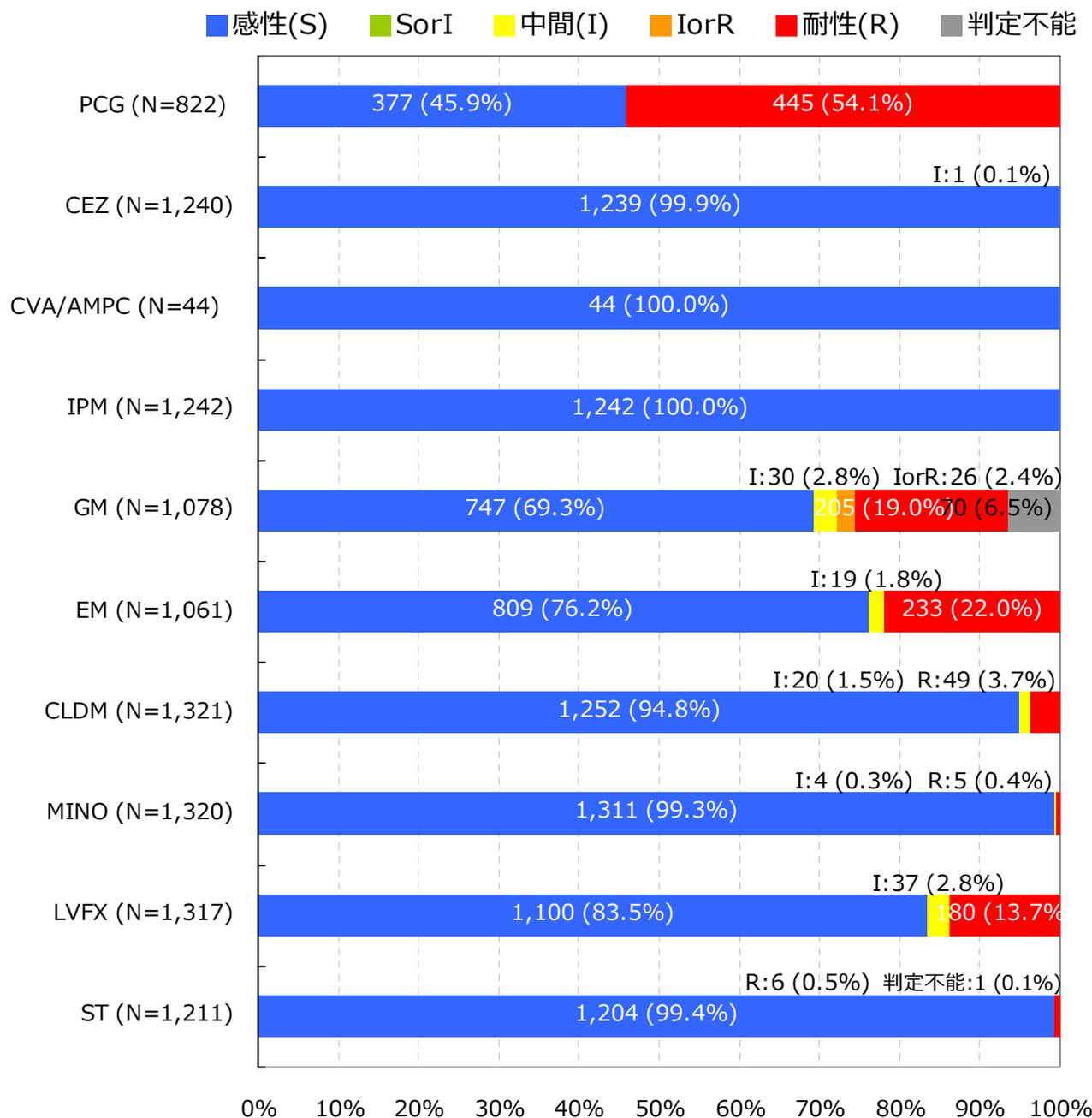
	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
集計対象医療機関数	-	-	-	-	15
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)	-	-	-	-	100.0%
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA)	-	-	-	-	0.0%
バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)	-	-	-	-	6.7%
ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)	-	-	-	-	93.3%
多剤耐性緑膿菌(MDRP)	-	-	-	-	26.7%
多剤耐性アシネトバクター属(MDRA)	-	-	-	-	0.0%
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)	-	-	-	-	66.7%
カルバペネム耐性緑膿菌	-	-	-	-	86.7%
第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌	-	-	-	-	80.0%
第三世代セファロスポリン耐性大腸菌	-	-	-	-	86.7%
フルオロキノロン耐性大腸菌	-	-	-	-	100.0%

耐性菌判定薬剤(巻末資料参照)が未検査の場合、分離されていない医療機関として集計  
 入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計  
 MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む  
 特定の耐性菌が検出された集計対象医療機関の割合

$$= \frac{\text{特定の耐性菌が1株でも報告された医療機関数}}{\text{集計対象医療機関数}}$$

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MSSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

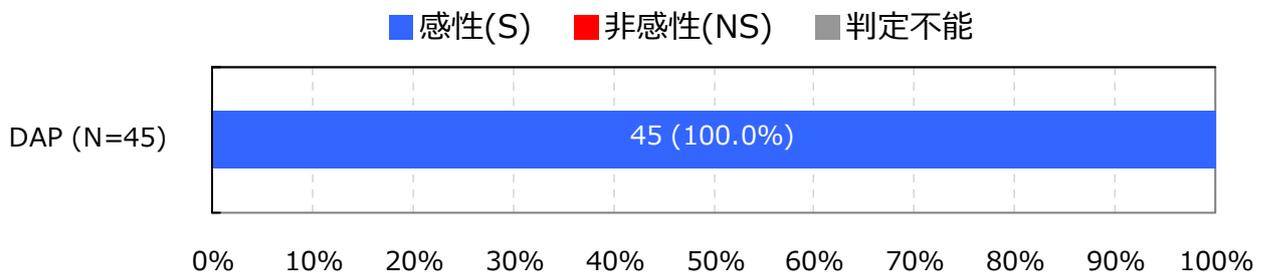
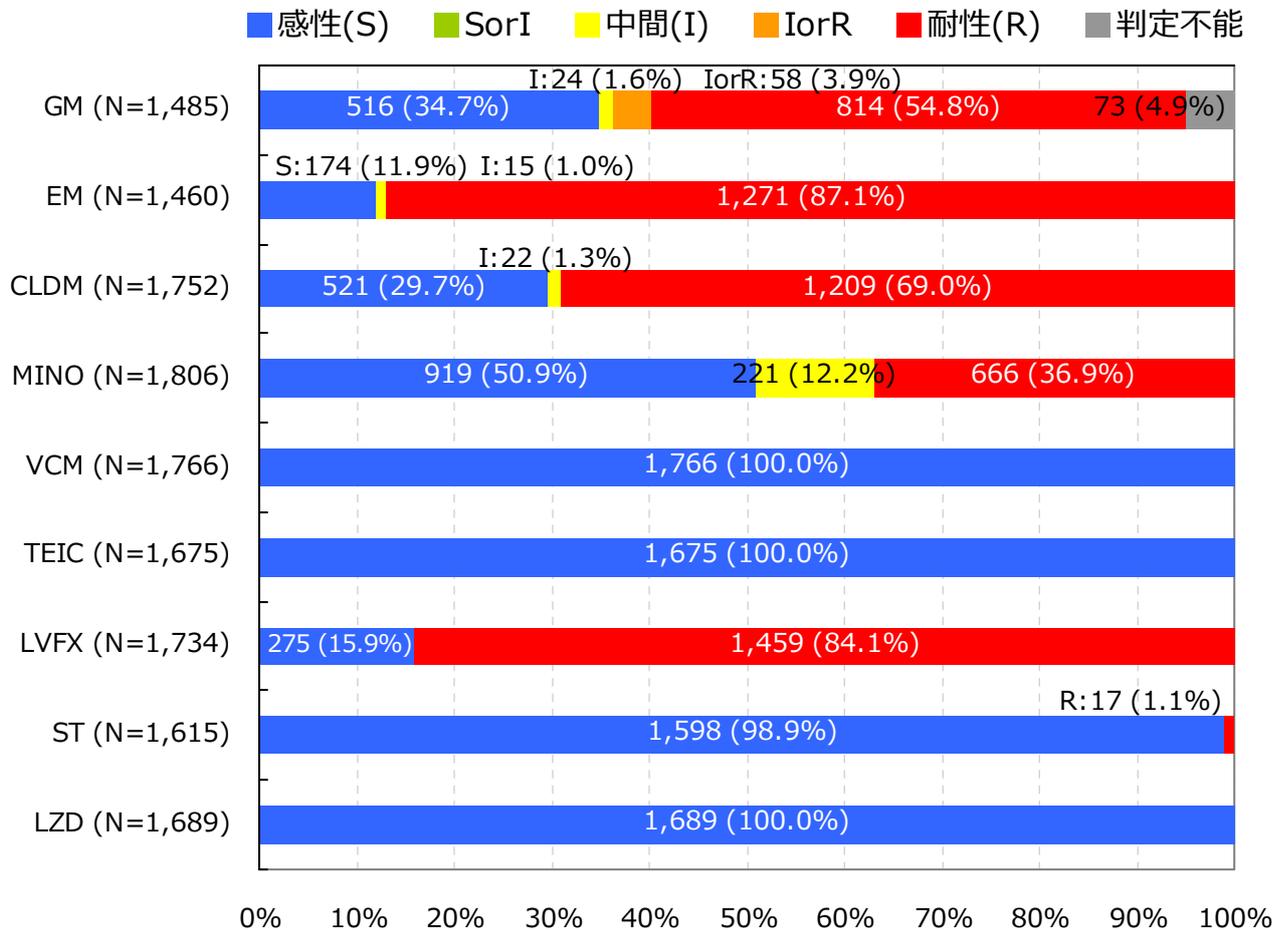
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1304, 1305, 1306と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「S」の菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MRSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

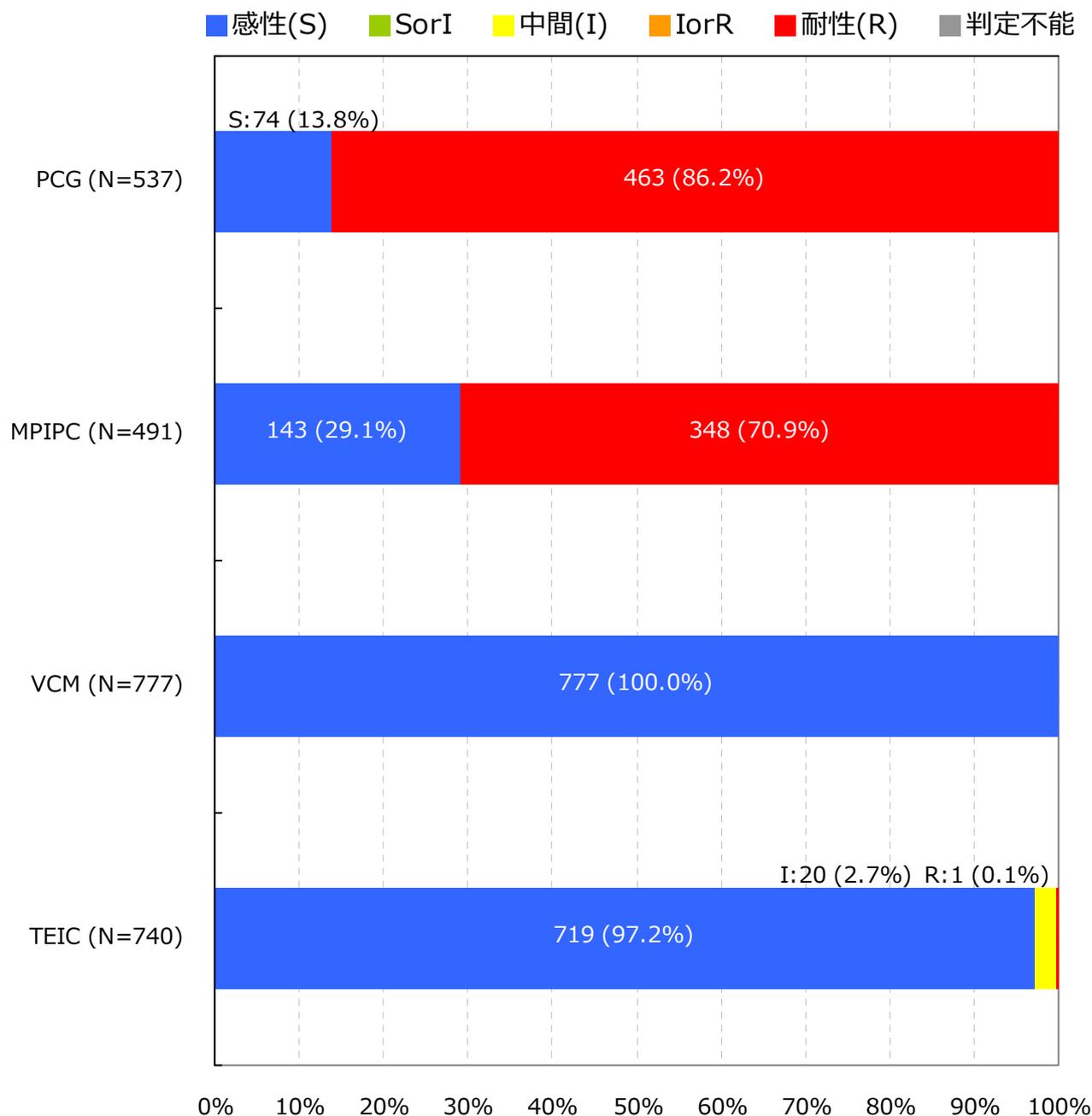
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1303と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「R」の菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus epidermidis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

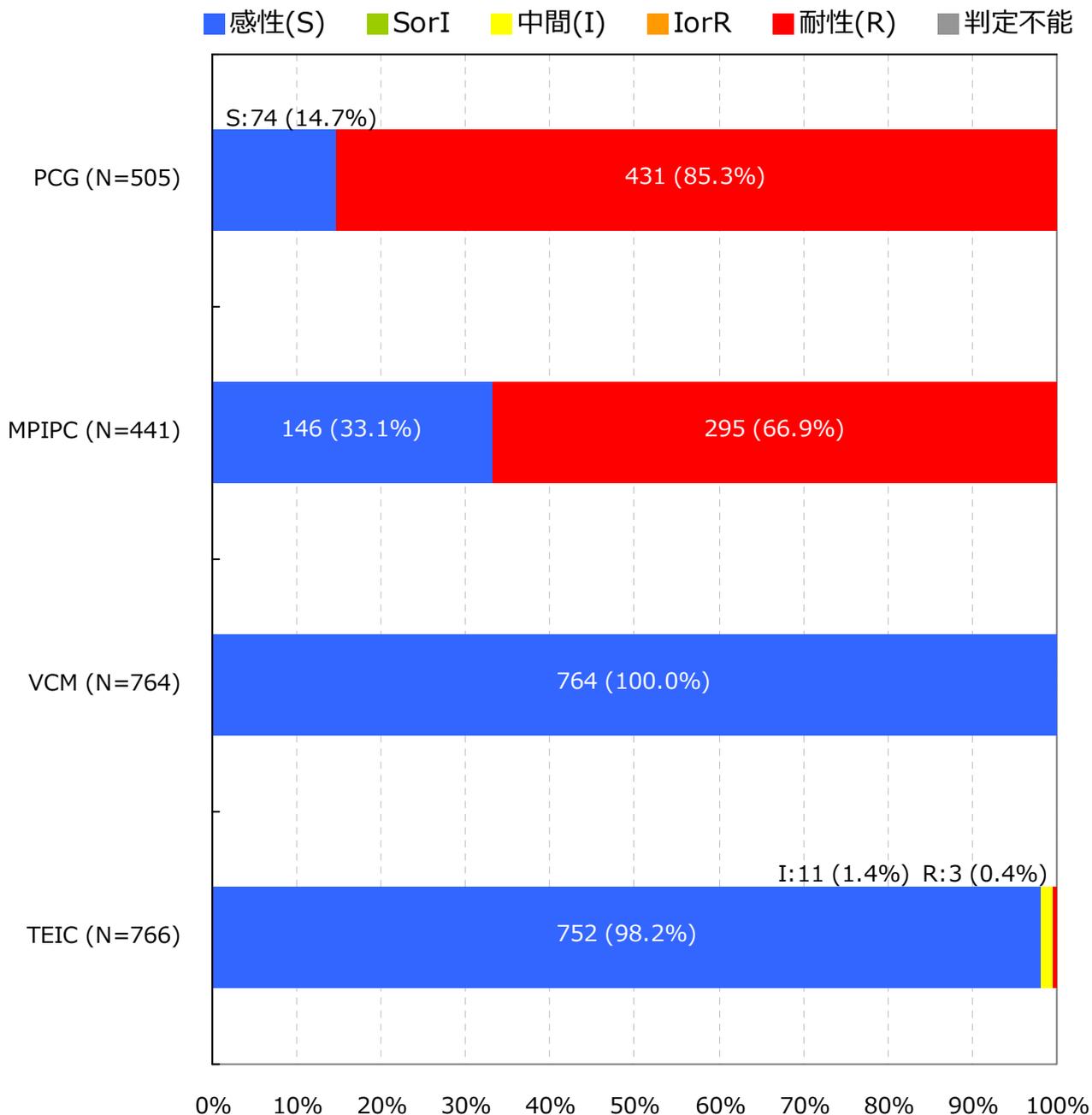
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1312と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### Coagulase-negative staphylococci (CNS) †



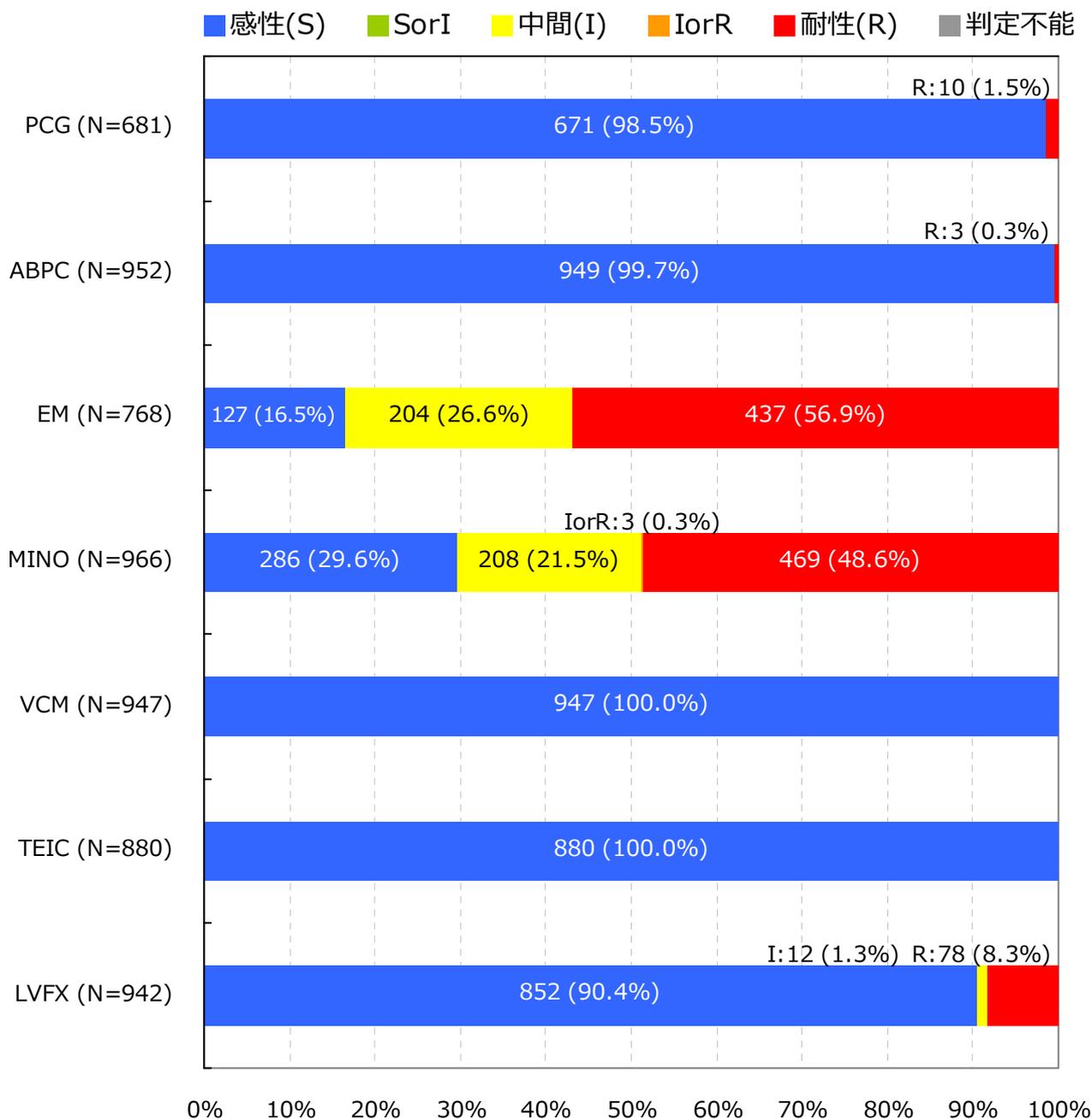
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1311, 1313～1325と報告された菌 (1312 : *Staphylococcus epidermidis*は対象外)

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecalis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

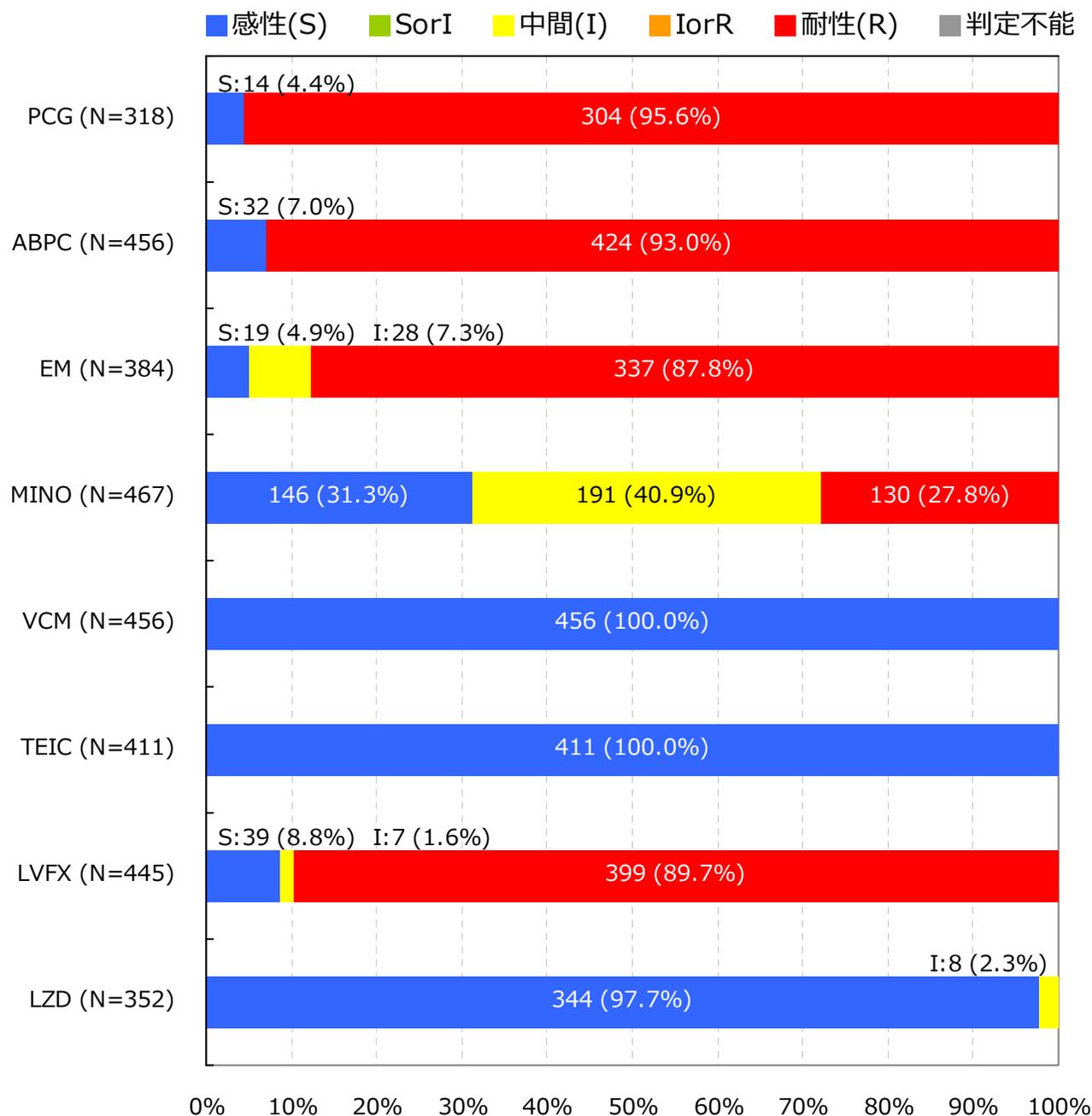
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1201, 1202と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecium* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

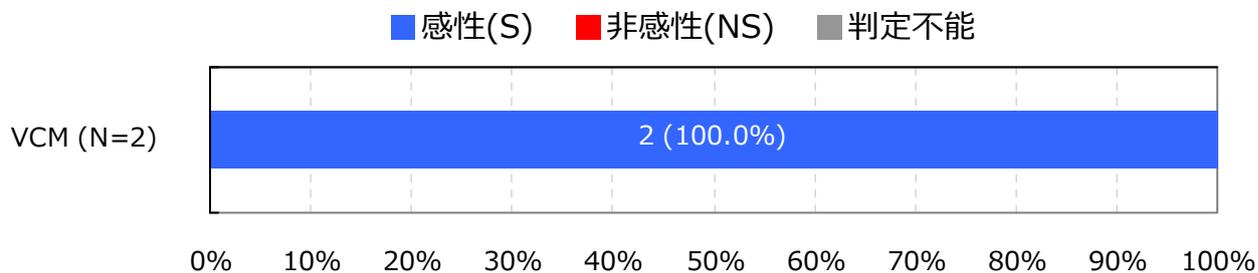
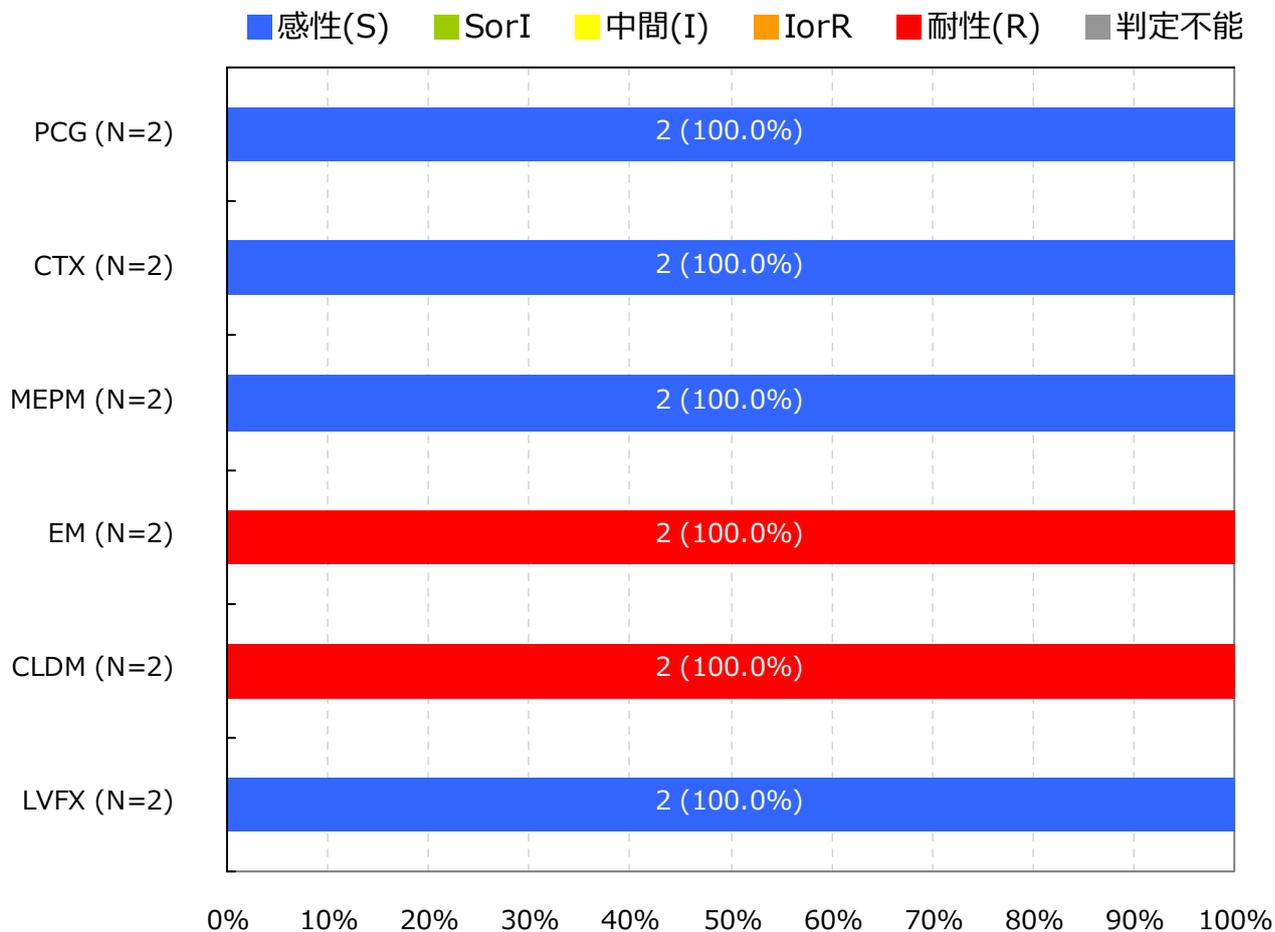
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1205, 1206と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pneumoniae*(髄液検体) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

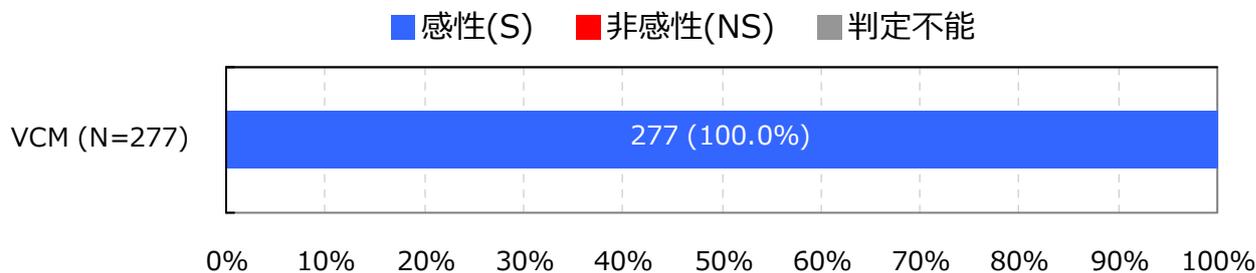
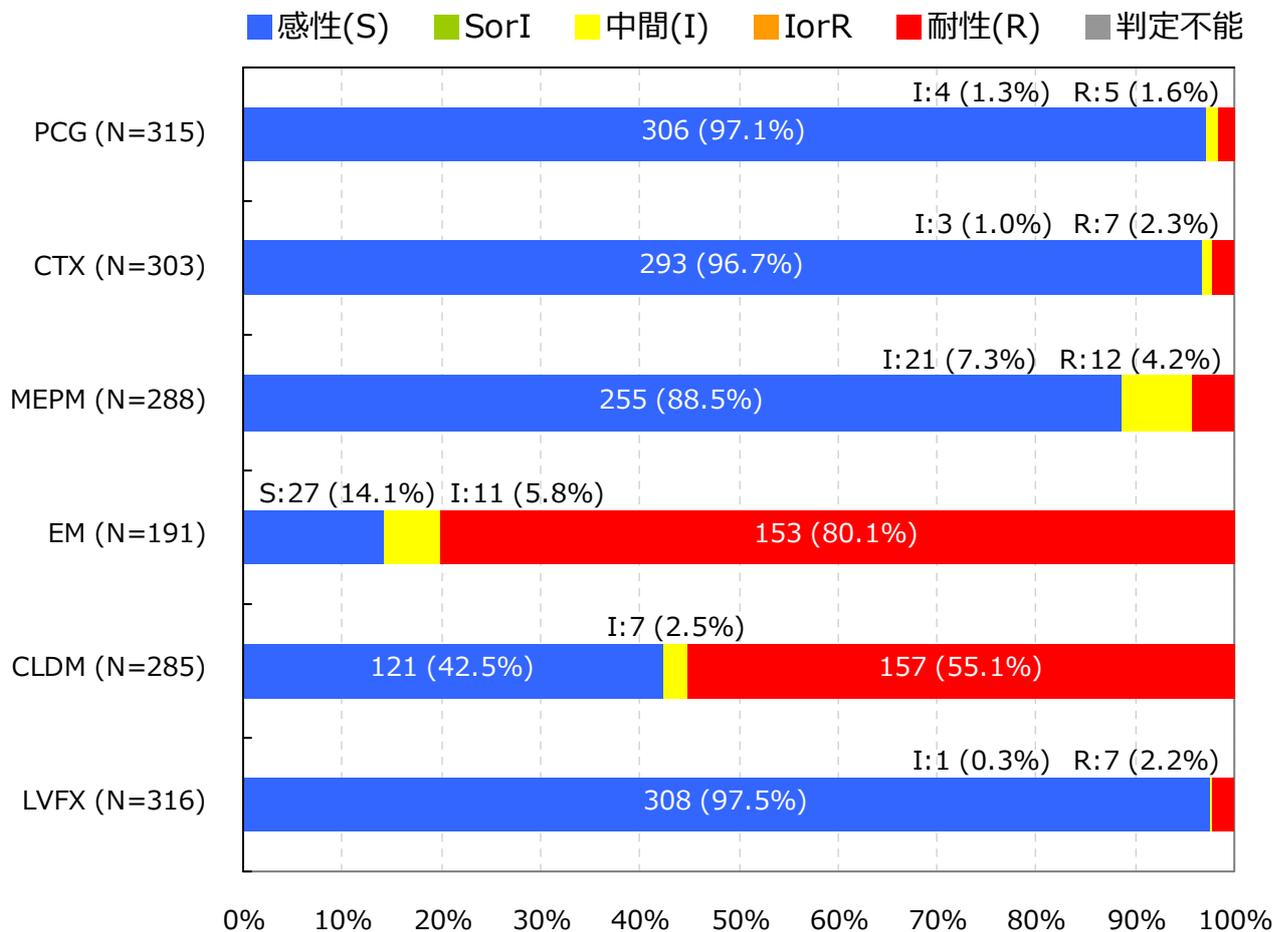
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1131と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pneumoniae*(髄液検体以外) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

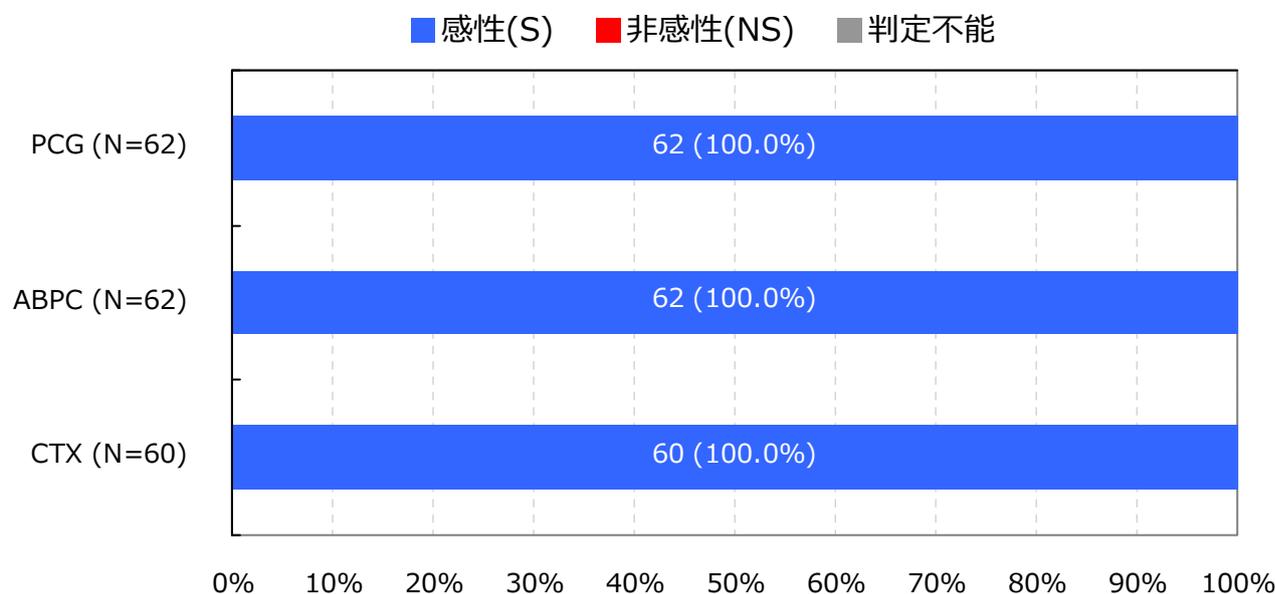
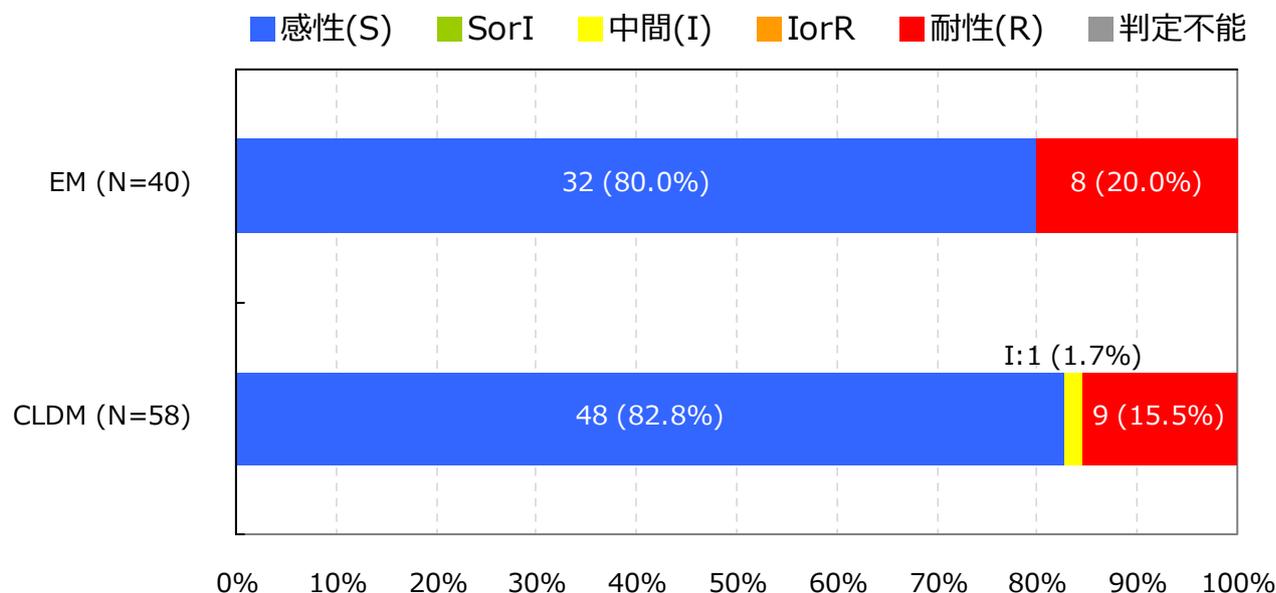
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1131と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pyogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

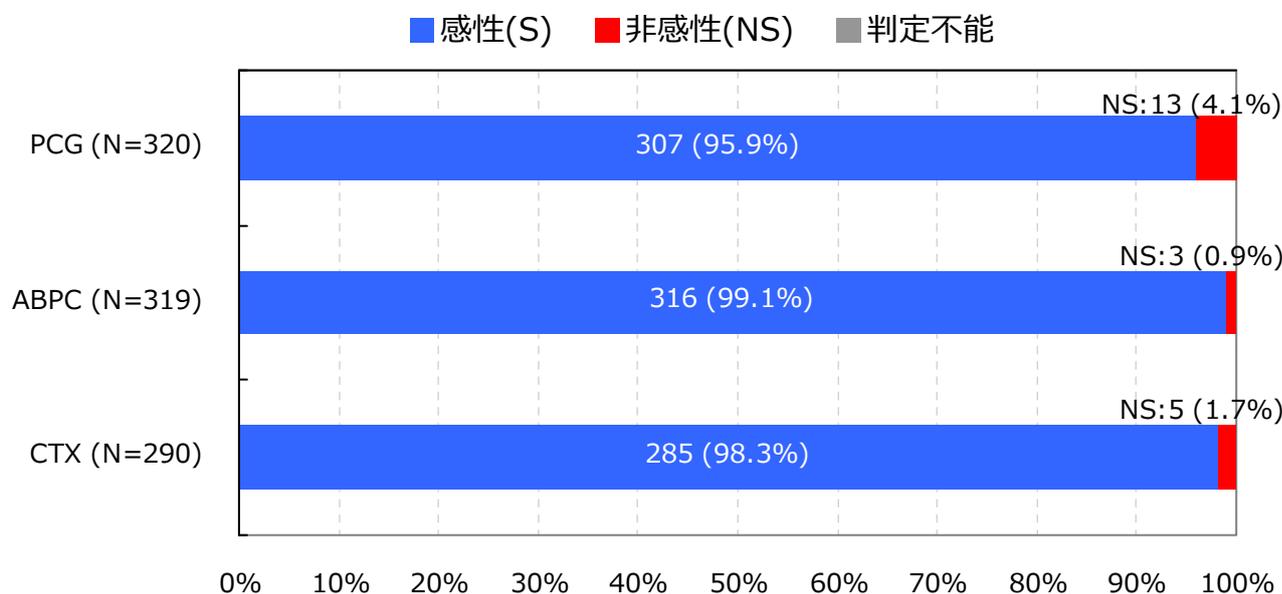
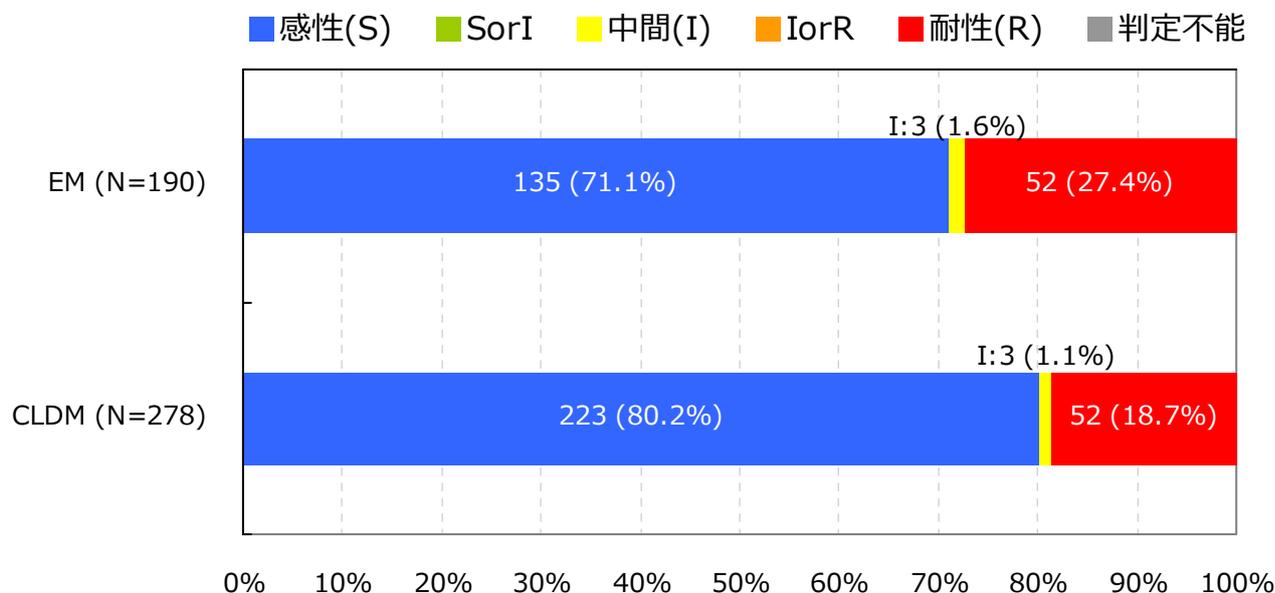
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1111と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus agalactiae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

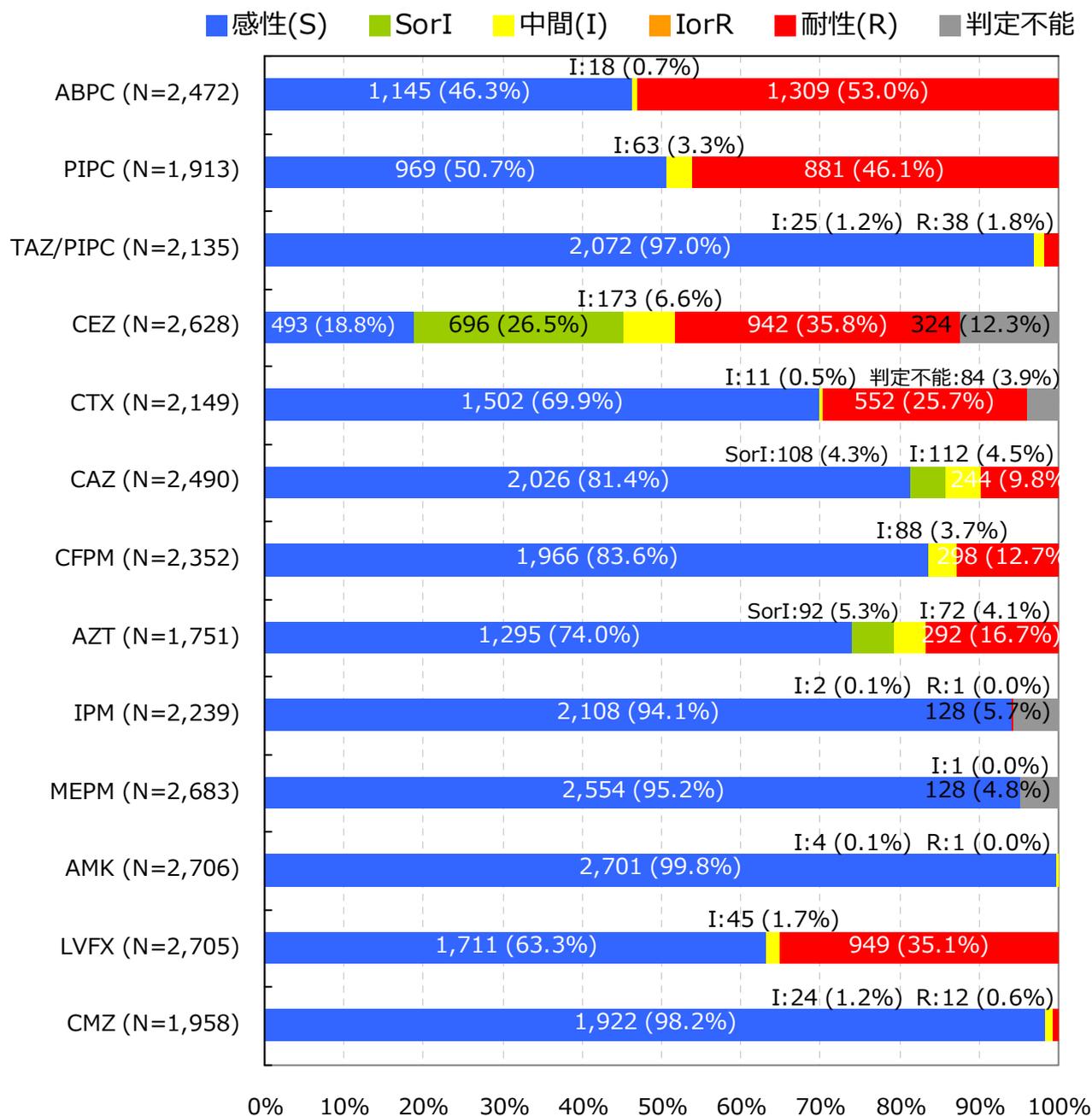
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1114と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Escherichia coli* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

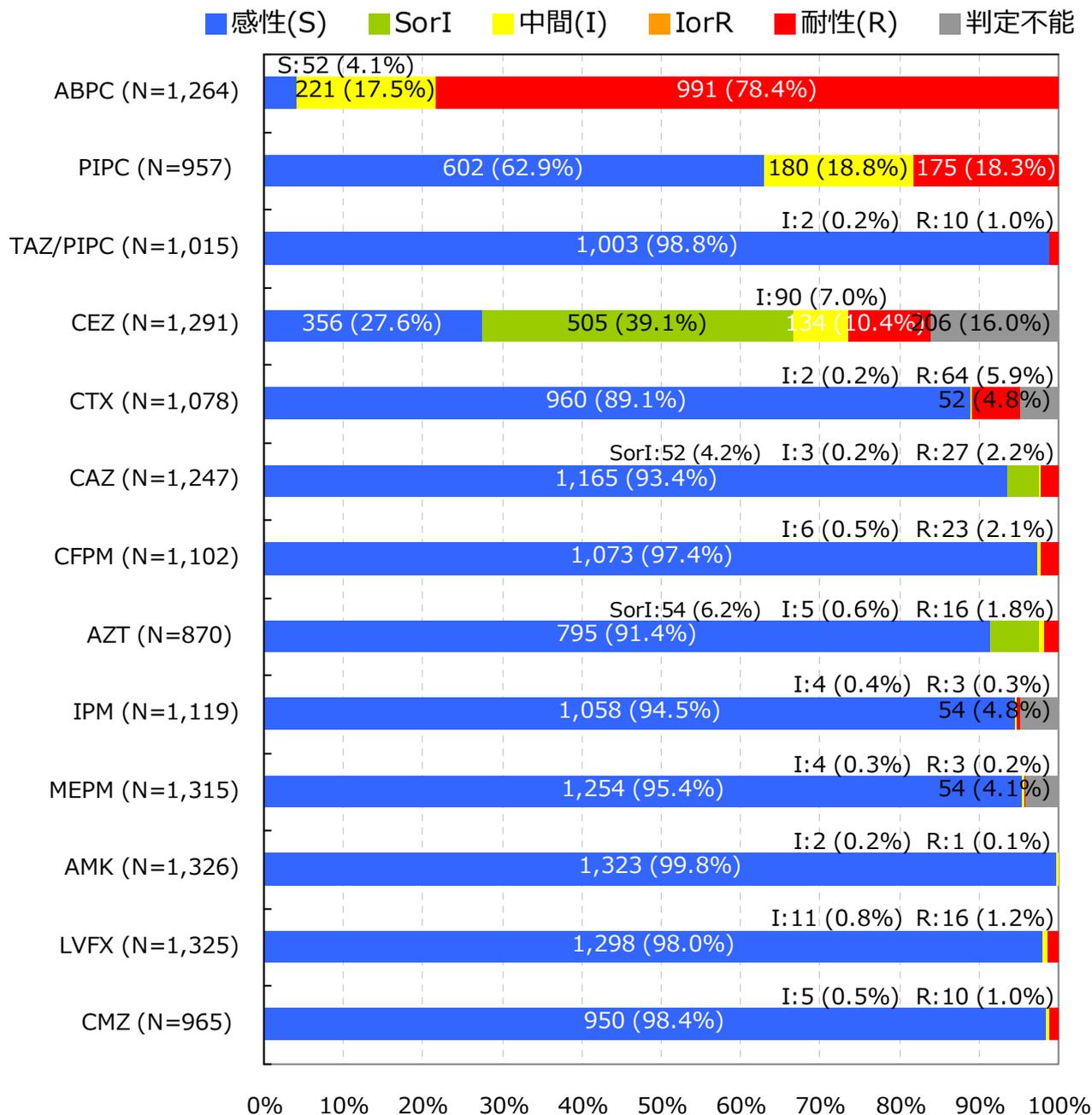
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2001～2007と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Klebsiella pneumoniae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

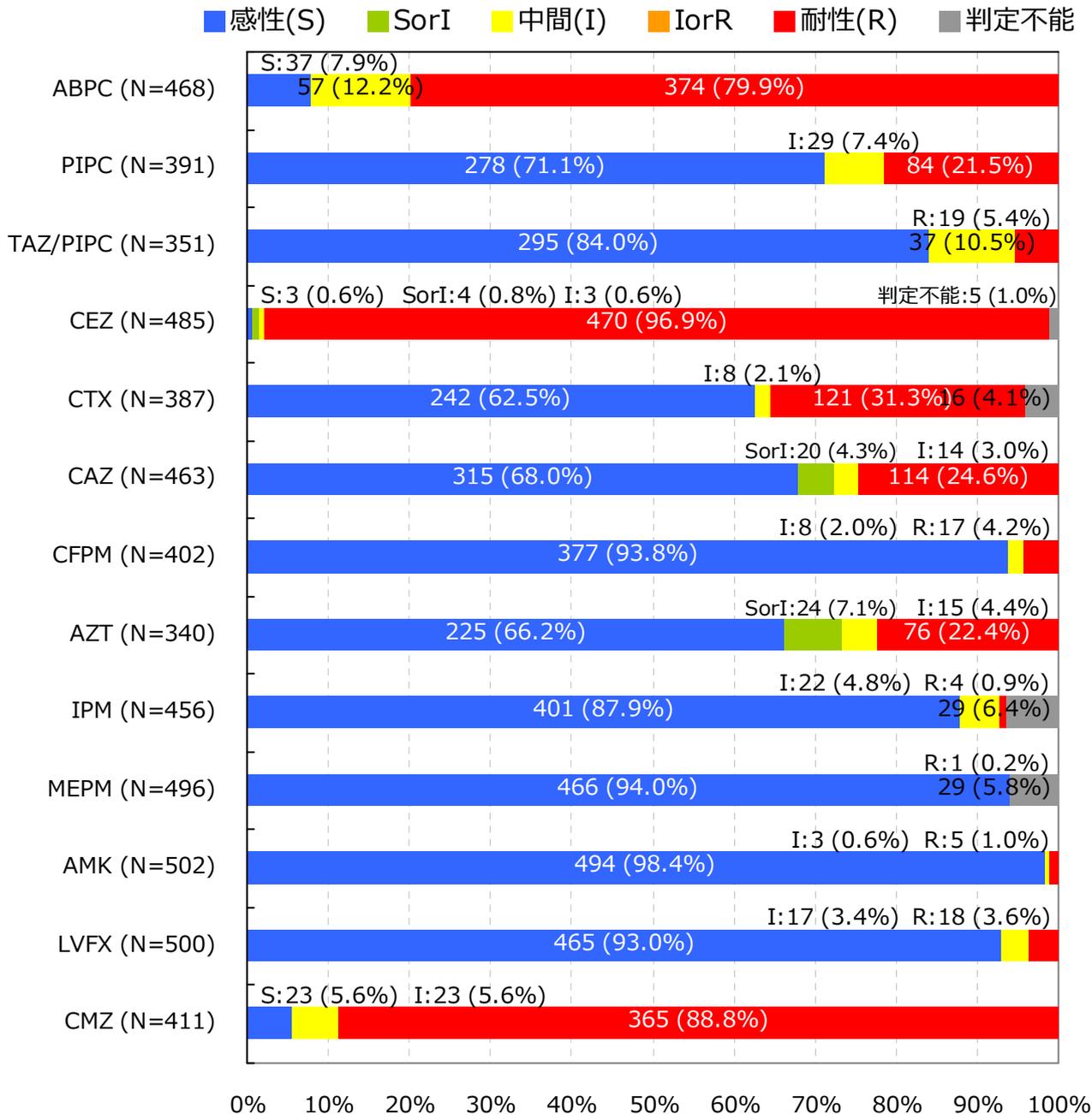
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2351と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterobacter cloacae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

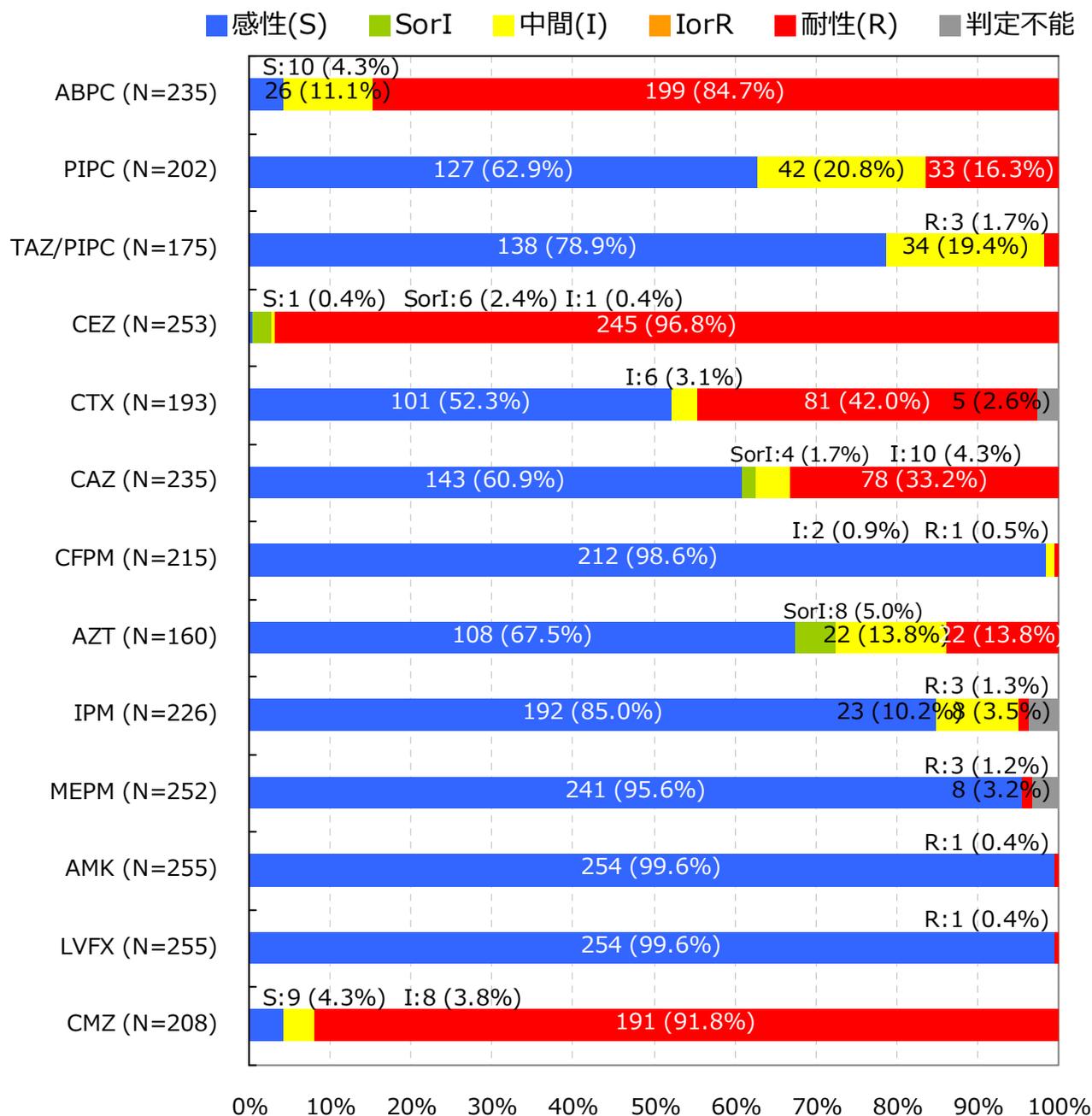
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2151と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterobacter aerogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

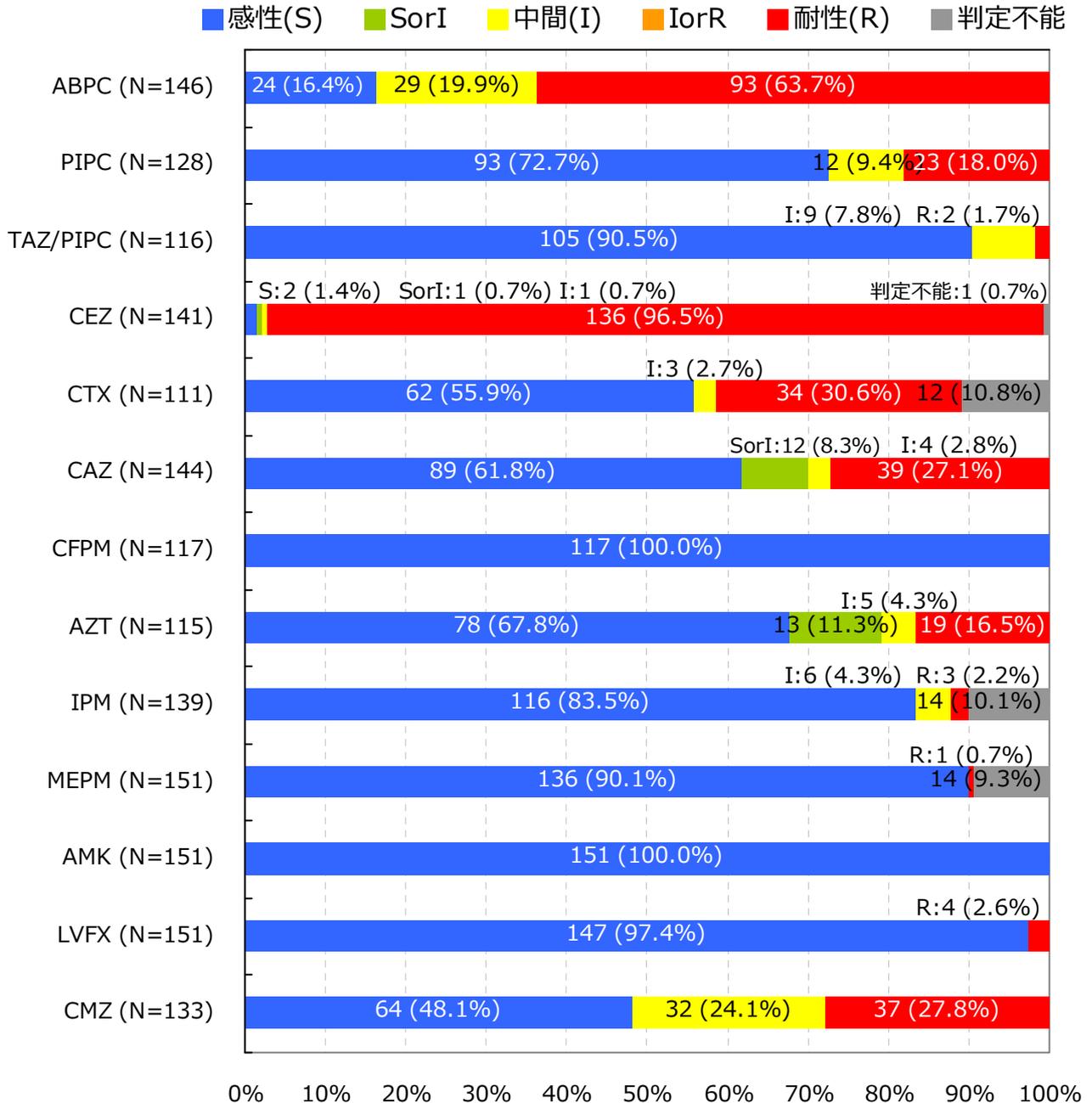
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2152と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter freundii* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

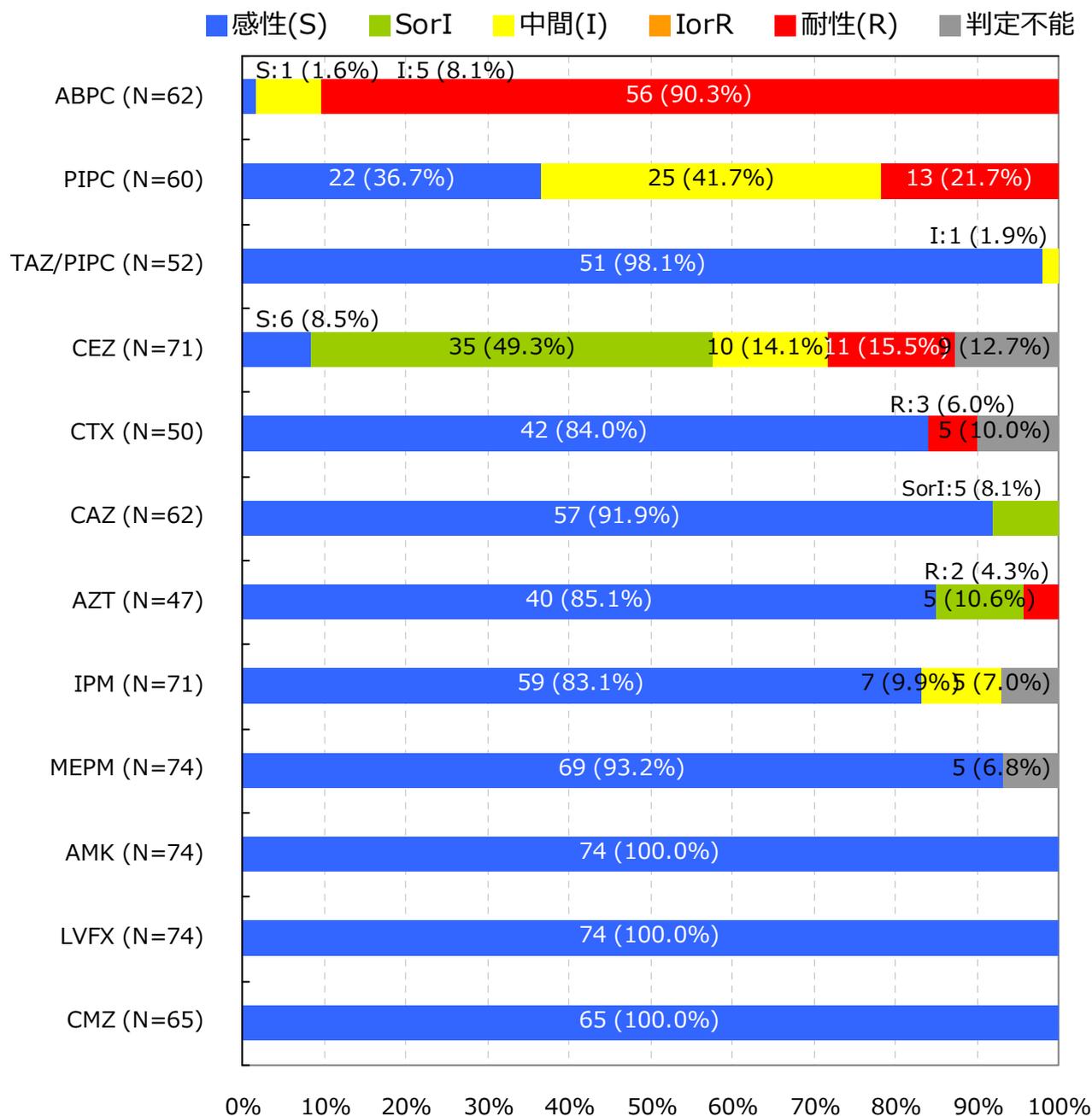
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2051と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter koseri* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

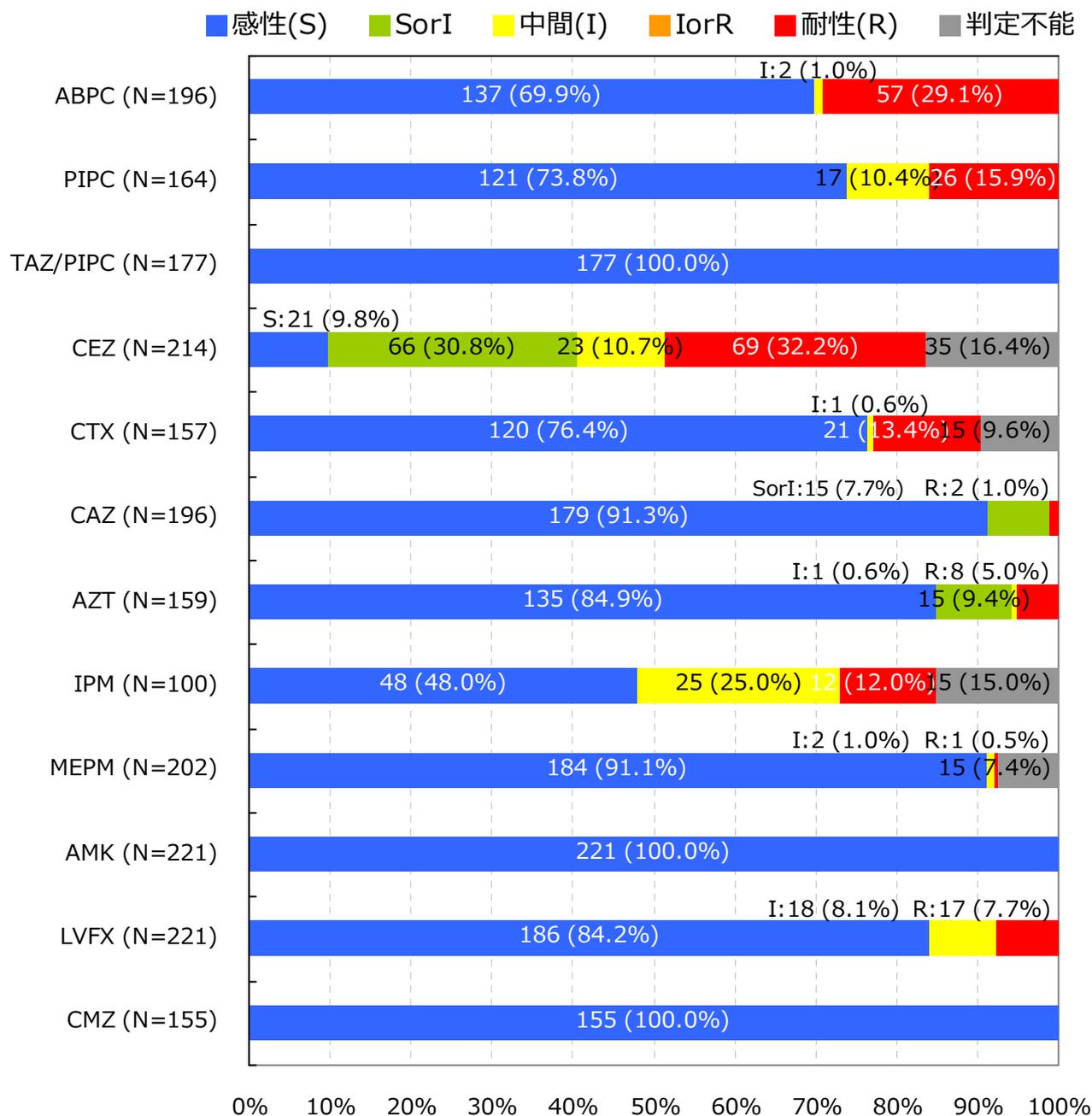
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2052と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus mirabilis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

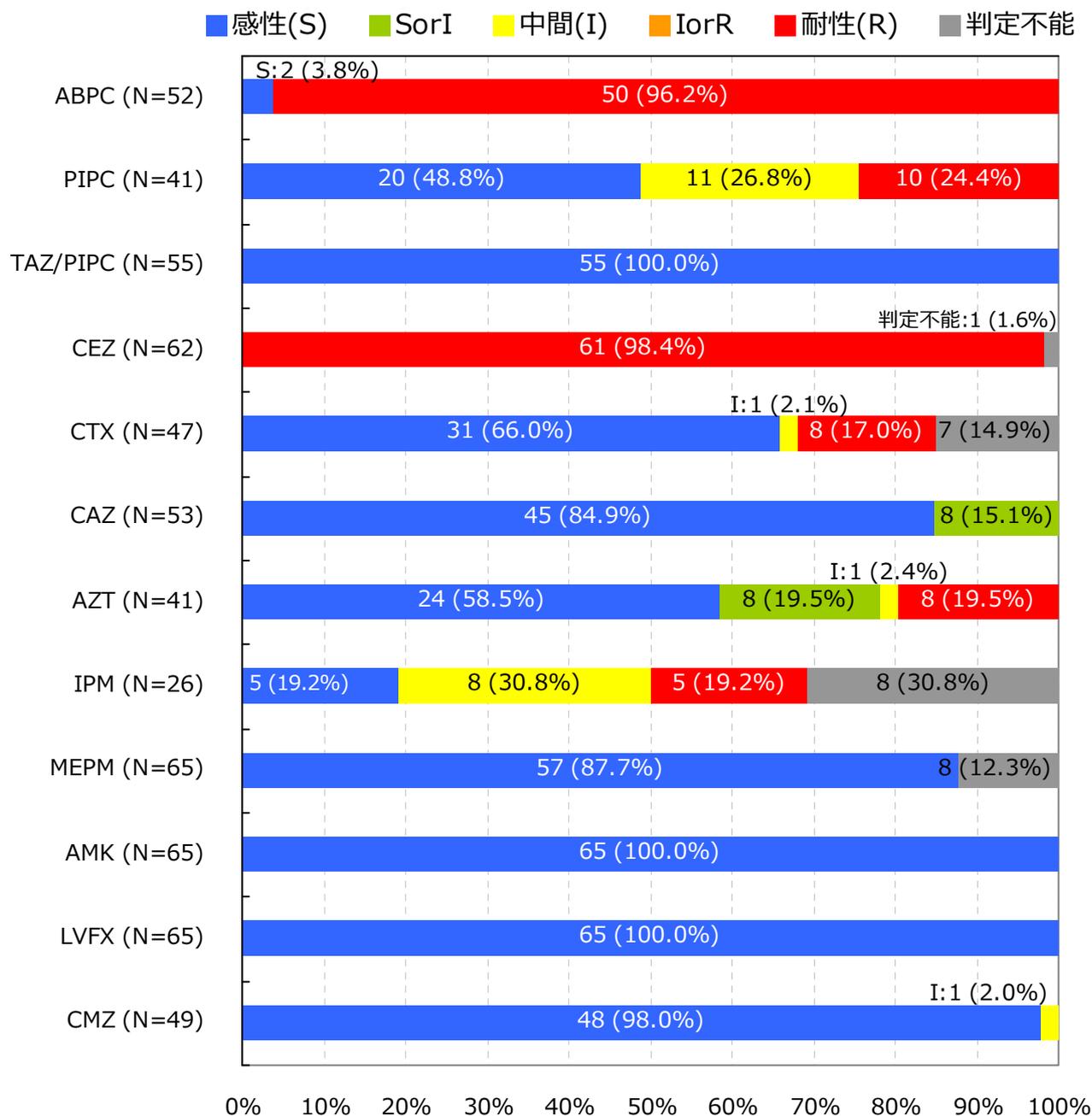
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2201と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus vulgaris* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

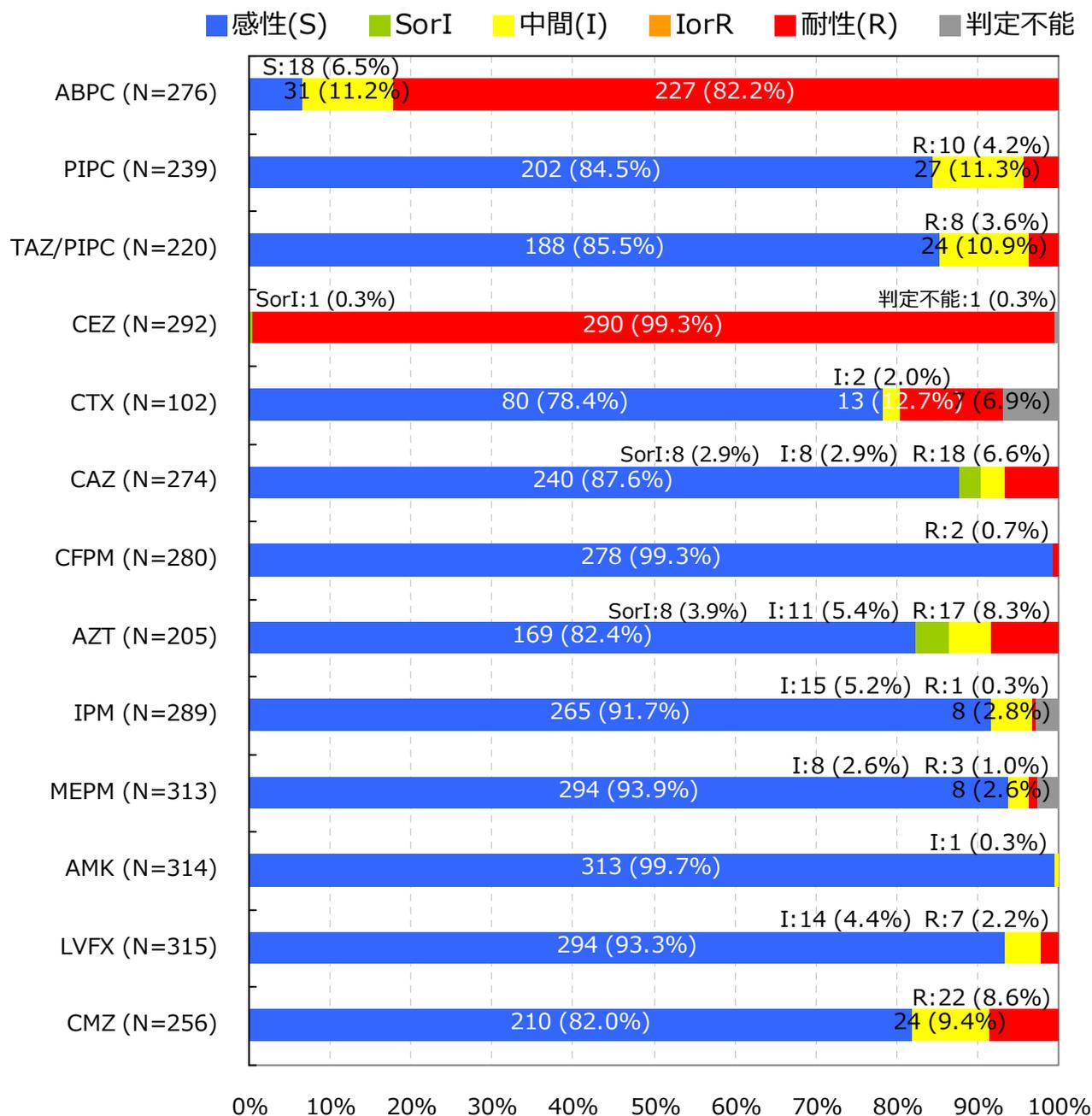
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2202と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Serratia marcescens* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

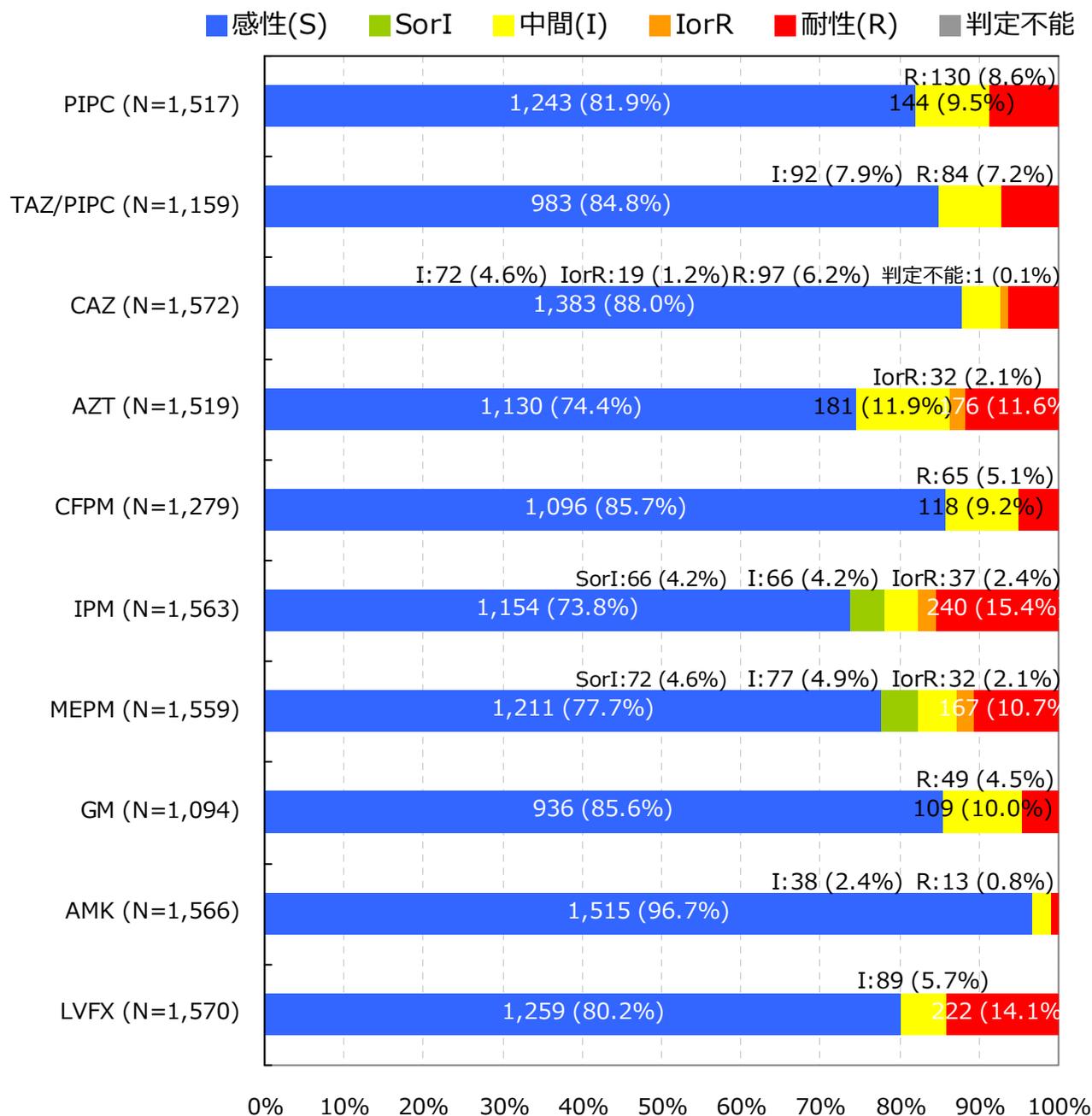
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2101と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Pseudomonas aeruginosa* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

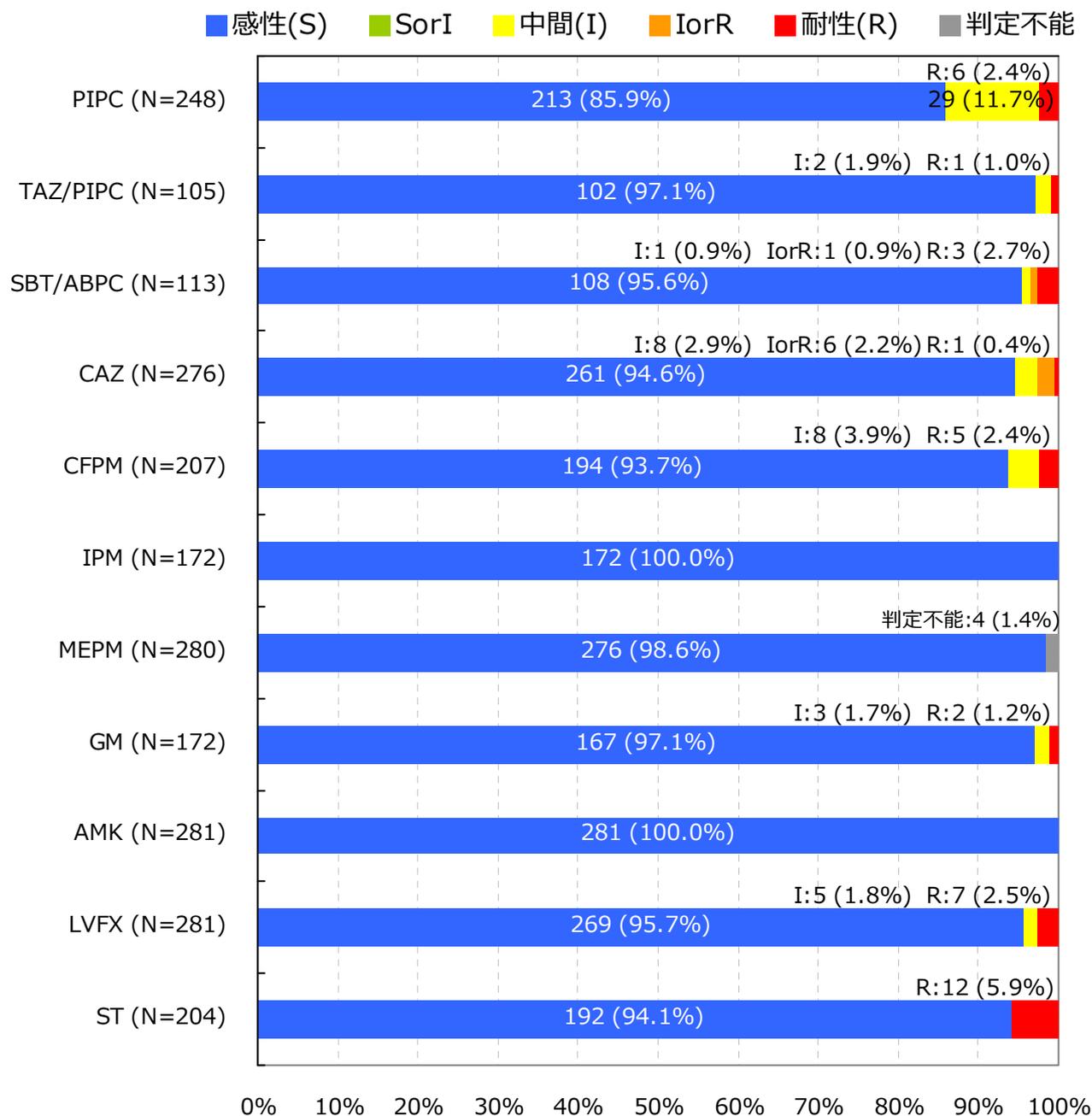
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：4001と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Acinetobacter* spp. †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

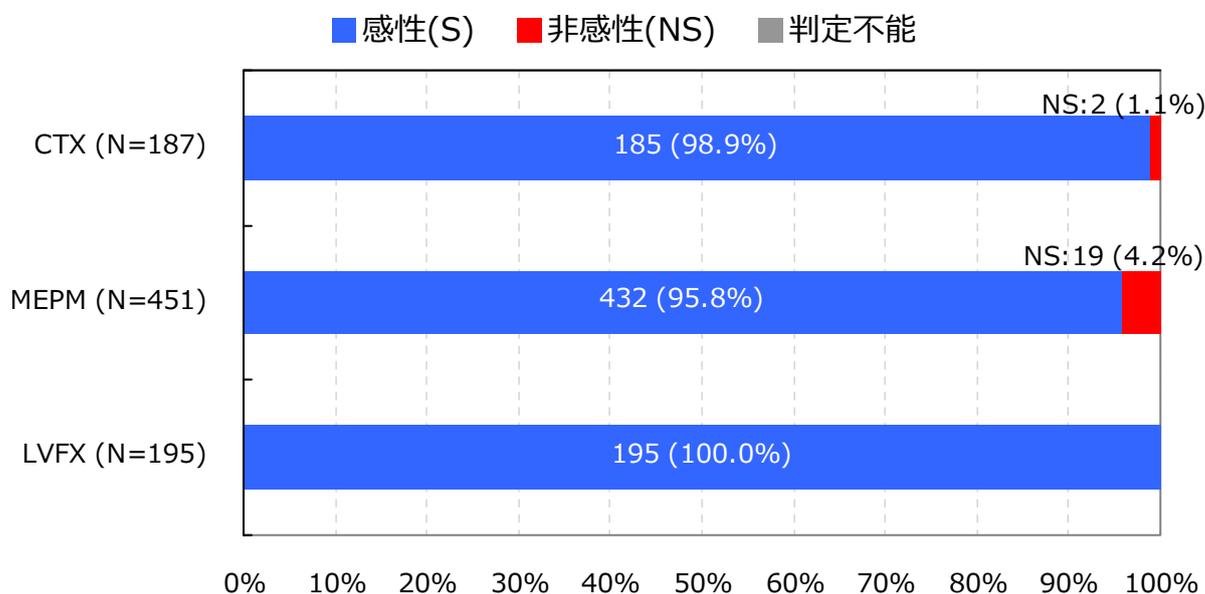
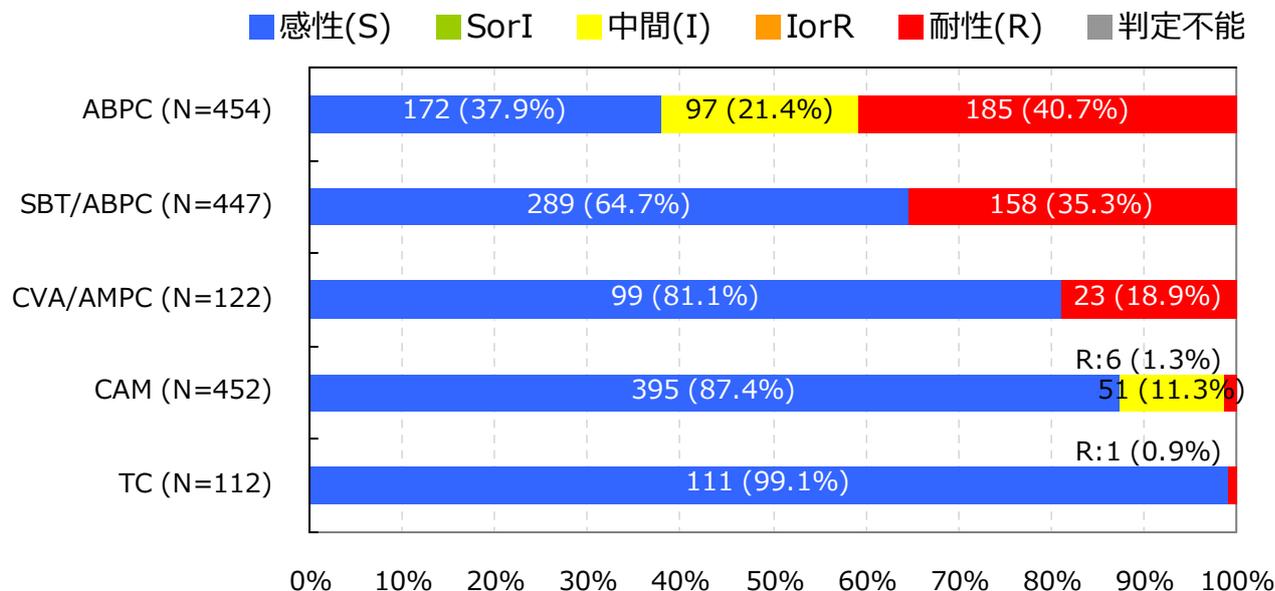
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 4400~4403と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Haemophilus influenzae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

【巻末資料1 微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準】

菌名 †	概要*	微量液体希釈法 MIC 値	菌名コード Ver.4.0
MRSA	MPIPC が “R” の <i>Staphylococcus aureus</i> または選択培地で MRSA と確認された菌	MPIPC $\geq 4\mu\text{g/ml}$	1301,1303
VRSA	VCM が微量液体希釈法で “R” の <i>Staphylococcus aureus</i>	VCM $\geq 16\mu\text{g/ml}$	1301,1303-1306
VRE	下記のいずれかの条件を満たす <i>Enterococcus</i> spp. ・VCM が微量液体希釈法で耐性 † ・選択培地で VRE と確認された菌 (注) 種の同定が行われていない <i>Enterococcus</i> sp. は除く	VCM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †	1201,1202,1205, 1206,1209,1210, 1213-1217
PRSP	PCG が微量液体希釈法で耐性 † の <i>Streptococcus pneumoniae</i>	PCG $\geq 0.125\mu\text{g/ml}$ †	1131
MDRP	下記全てに該当する <i>Pseudomonas aeruginosa</i> 1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が微量液体希釈法で耐性 † 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 † 3. フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, CFX, LFLX, GFLX の何れか) が “R”	1. IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †、 MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ † 2. AMK $\geq 32\mu\text{g/ml}$ † 3. NFLX $\geq 16\mu\text{g/ml}$ 、 OFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 LFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 CFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$	4001
MDRA	下記全てに該当する <i>Acinetobacter</i> spp. 1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が “R” 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 † 3. フルオロキノロン系 (LVFX, CFX, GFLX の何れか) が “R”	1. IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †、 MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ † 2. AMK $\geq 32\mu\text{g/ml}$ † 3. LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 CFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$	4400-4403
CRE	下記の何れかの条件を満たす腸内細菌科 1. MEPM が耐性 † 2. IPM が耐性 †、かつ CMZ が “R”	1. MEPM $\geq 2\mu\text{g/ml}$ † 2. IPM $\geq 2\mu\text{g/ml}$ † かつ CMZ $\geq 64\mu\text{g/ml}$	2000-2691, 3150-3151
カルバペネム 耐性緑膿菌	IPM または MEPM が耐性 † の <i>Pseudomonas aeruginosa</i>	IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ † MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †	4001
第三世代セファロ スポリン耐性 肺炎桿菌	CTX または CAZ が “R” の <i>Klebsiella pneumoniae</i>	CTX $\geq 4\mu\text{g/ml}$ CAZ $\geq 16\mu\text{g/ml}$	2351

菌名 †	概要*	微量液体希釈法 MIC 値	菌名コード Ver.4.0
第三世代セファロ スポリン耐性 大腸菌	CTX または CAZ が “R” の <i>Escherichia coli</i>	CTX $\geq 4\mu\text{g/ml}$ CAZ $\geq 16\mu\text{g/ml}$	2001-2007
フルオロキノロン 耐性大腸菌	フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, LFLX, GFLX, CFX の何れか) が “R” の <i>E. coli</i>	NFLX $\geq 16\mu\text{g/ml}$ 、 OFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 LFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 CFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$	2001-2007

\*原則 S,I,R の判定は CLSI2012 (M100-S22) に準拠

† 感染症発生动向調査の基準に準拠

‡ 菌名は以下の通り

- MRSA : Methicillin-resistant *S. aureus* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌
- VRSA : Vancomycin-resistant *S. aureus* バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌
- VRE : Vancomycin-resistant *Enterococcus* spp. バンコマイシン耐性腸球菌
- PRSP : Penicillin-resistant *S. pneumoniae* ペニシリン耐性肺炎球菌
- MDRP : Multidrug-resistant *P. aeruginosa* 多剤耐性緑膿菌
- MDRA : Multidrug-resistant *Acinetobacter* spp. 多剤耐性アシネトバクター属
- CRE : Carbapenem-Resistant Enterobacteriaceae カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 (2015年1月より集計開始)

2014年12月分データまでは CLSI2007 (M100-S17)、2015年1月分データより CLSI2012 (M100-S22) に準拠する。

薬剤耐性菌判定基準 (Ver.3.1) と 検査部門特定の耐性菌判定基準 (Ver.4.1) を基に作成した。

【巻末資料 2 公開情報の集計方法について】

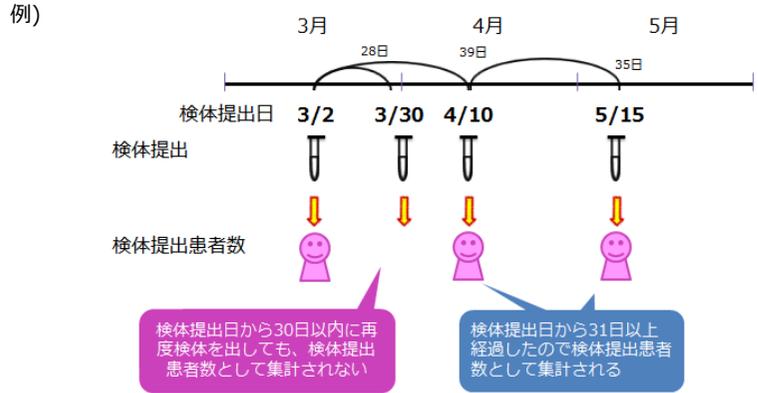
1. 日数の数え方

検体提出日の翌日を 1 日目とする。検体提出日が 3 月 1 日とすると、1 日目が 3 月 2 日、30 日目が 3 月 31 日となる。



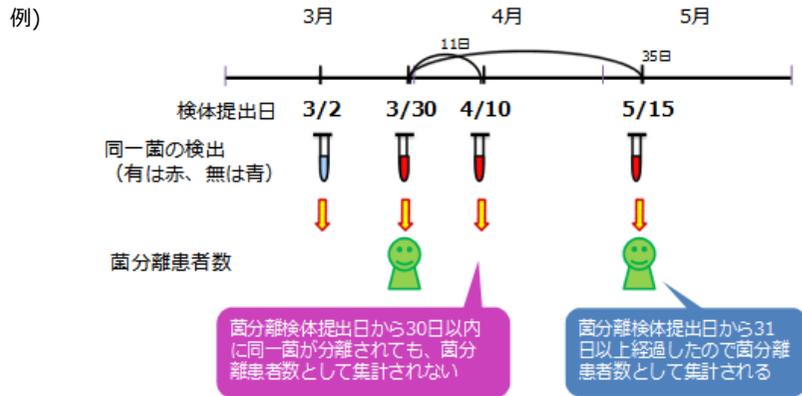
2. 検体提出患者数

検体提出患者数は、検体の種類や菌分離の有無に関わらず検体(入院検体)が提出された患者の数である。検体提出患者数は重複処理を行っており、30 日以内の同一患者からの複数の検体提出は 1 件とする。



3. 菌分離患者数

菌分離患者数も検体提出患者と同様の重複処理を行い、30 日以内に同一患者から同一菌が複数回検出された場合、菌分離患者数は 1 件とする。耐性菌分離患者数は、耐性菌の基準に合致する菌をまず抽出し、その中で上記重複処理を行っている。



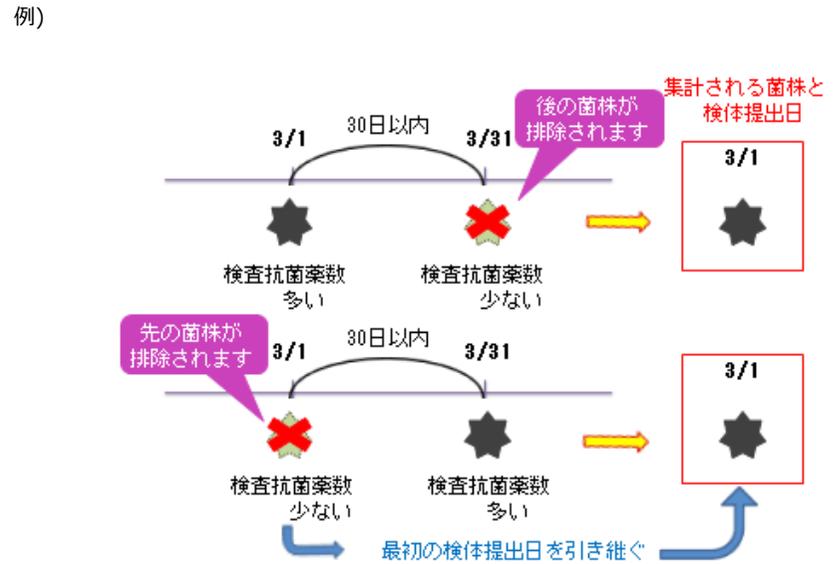
4. 抗菌薬感受性検査結果をもとにした同一菌と異なる菌との区別

30 日以内に同一患者から同一菌が検出された場合であっても、検査抗菌薬感受性結果に 1 つ以上不一致(下記①~④のいずれかに該当)がある場合は異なる菌株として集計される。

- ① MIC 値に 4 倍以上の違いがある  
ただし、MIC > 2 は MIC ≥ 4 と考え、判定時は MIC = 4 として扱う  
また、MIC < 16 は MIC ≤ 16 と考え、判定時は MIC = 16 として扱う
- ② SIR 判定では「S と R」の組み合わせ
- ③ +/- 判定では「-と++」または「+と+++」または「-と+++」の組み合わせ
- ④ 共通する検査抗菌薬数が 5 未満

5. 抗菌薬感受性結果の重複処理

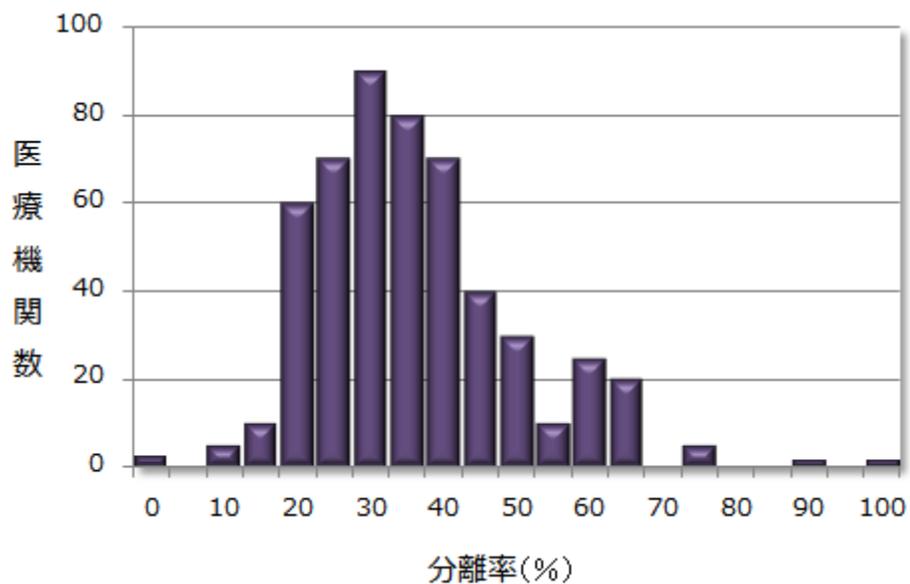
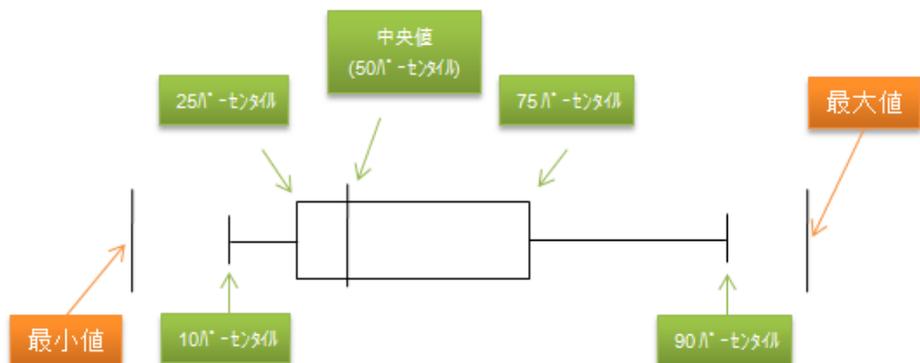
検体提出日が先の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内)の後の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、後の菌株の抗菌薬感受性検査結果は排除する。また、検体提出日が後の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内)の先の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、先の菌株の抗菌薬感受性検査結果を排除するが、先の検査の検体提出日を引き継ぐ。



【巻末資料3 箱ひげ図について】

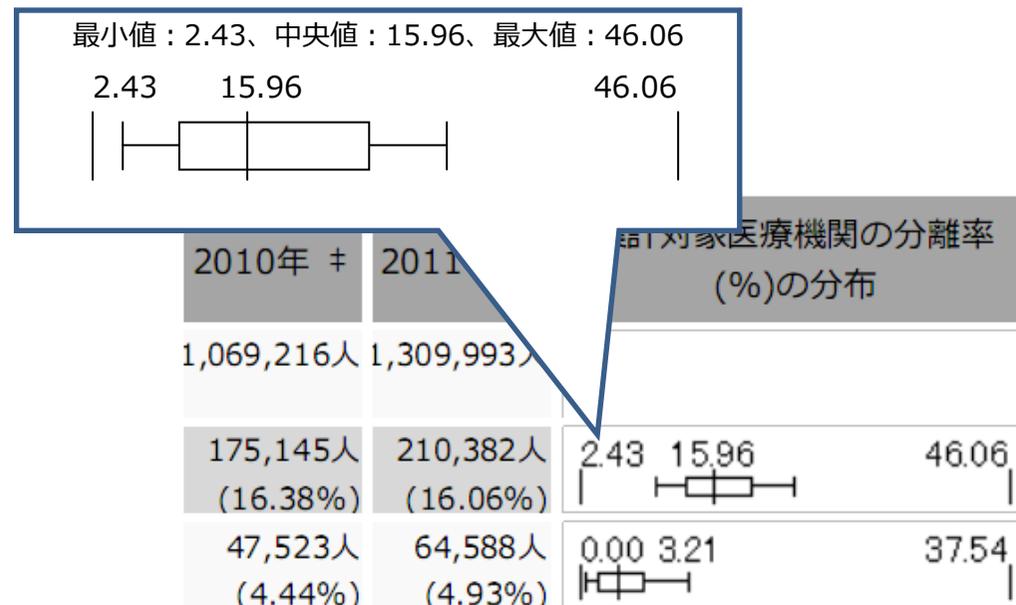
1. 箱ひげ図について

集計対象医療機関のデータのばらつきを示し、集計対象医療機関における自施設の位置を確認することができる。



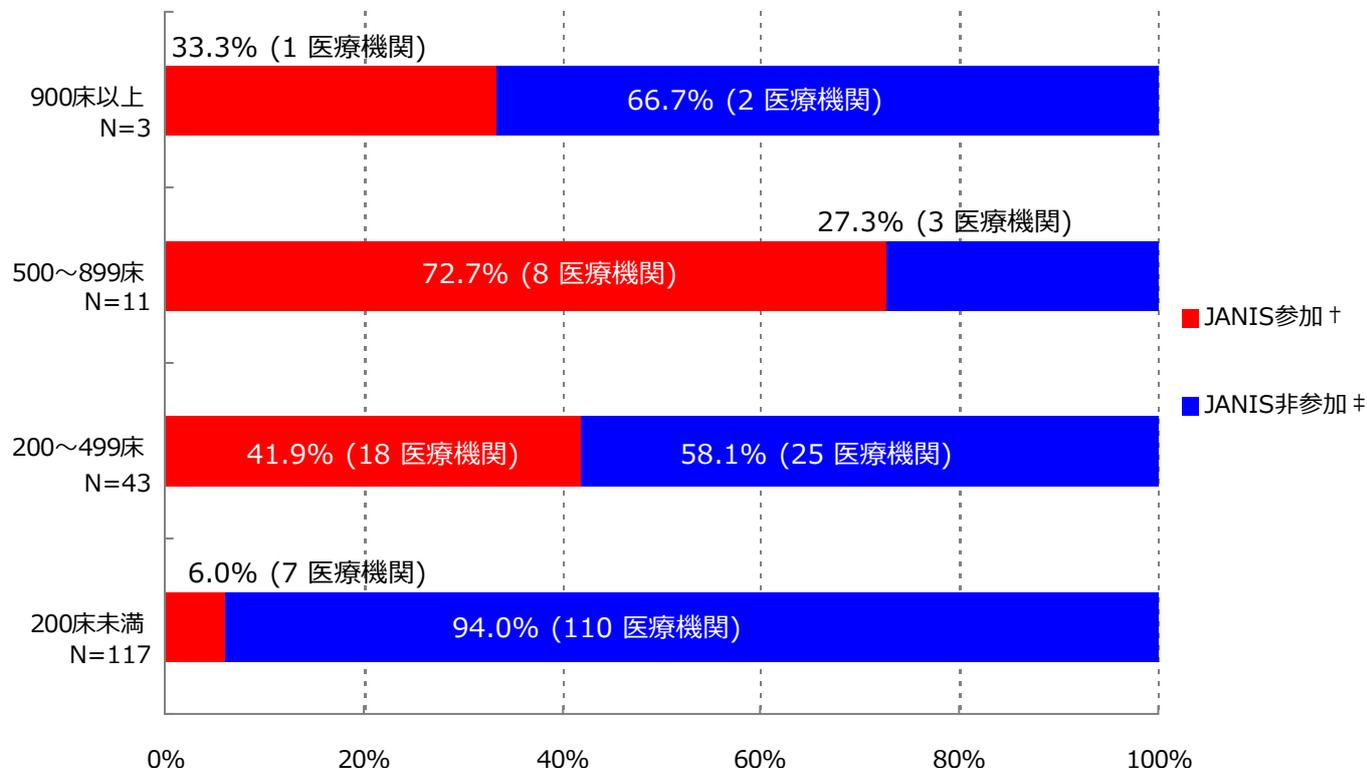
※ パーセンタイル：値を小さいものから大きいものへと順番に並べ、全体を 100 として何番目であるかを表したもの。  
 例えば、10パーセンタイルは、全体を 100 として小さいほうから数えて 10 番目の計測値を示している。

2. 公開情報の箱ひげ図





### 1. データ提出医療機関\*数(34医療機関)



\*ここではデータ提出医療機関は集計対象医療機関を表す

† JANIS参加 = 2015年1～12月 集計対象医療機関数

‡ JANIS非参加 = (2014年 都道府県別医療機関数¶) - (2015年1～12月 集計対象医療機関数)

病床数	2014年 都道府県別医療機関数¶	2015年1月～12月 集計対象医療機関数 (都道府県別医療機関数に占める割合)
900床以上	3	1 ( 33.3% )
500～899床	11	8 ( 72.7% )
200～499床	43	18 ( 41.9% )
200床未満	117	7 ( 6.0% )
病床数不明	-	0 ( - )
合計	174	34 ( 19.5% )

¶平成26年医療施設（動態）調査を参照した

## 2. データ提出医療機関数、検体数、分離菌数

検査材料分類	集計対象医療機関数	検体数	陽性検体数 (分離菌数)
呼吸器系検体	34	46,397	21,275 (35,369)
尿検体	34	23,460	11,589 (16,089)
便検体	34	10,086	2,370 (4,984)
血液検体	34	69,310	8,440 (9,247)
髄液検体	31	2,256	65 (68)
その他	34	34,072	13,512 (20,489)
合計	34	185,581	57,251 (86,246)

入院として報告された検体を集計

集計対象菌：コメントのみ(菌名コード9999)の報告以外の全ての菌

検査材料分類は以下に該当する検査材料コードを集計

呼吸器系検体：

101(喀出痰)、102(気管内採痰)、103(気管支洗浄液)、104(咽頭粘液)、105(鼻腔内)、106(口腔内)、  
107(生検材料(肺))、109(その他(呼吸器))、404(胸水)

尿検体：

201(自然排尿)、202(採尿カテーテル)、203(留置カテーテル)、206(カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能))

便検体：

301(糞便)

血液検体：

401(静脈血)、402(動脈血)

髄液検体：

403(髄液)

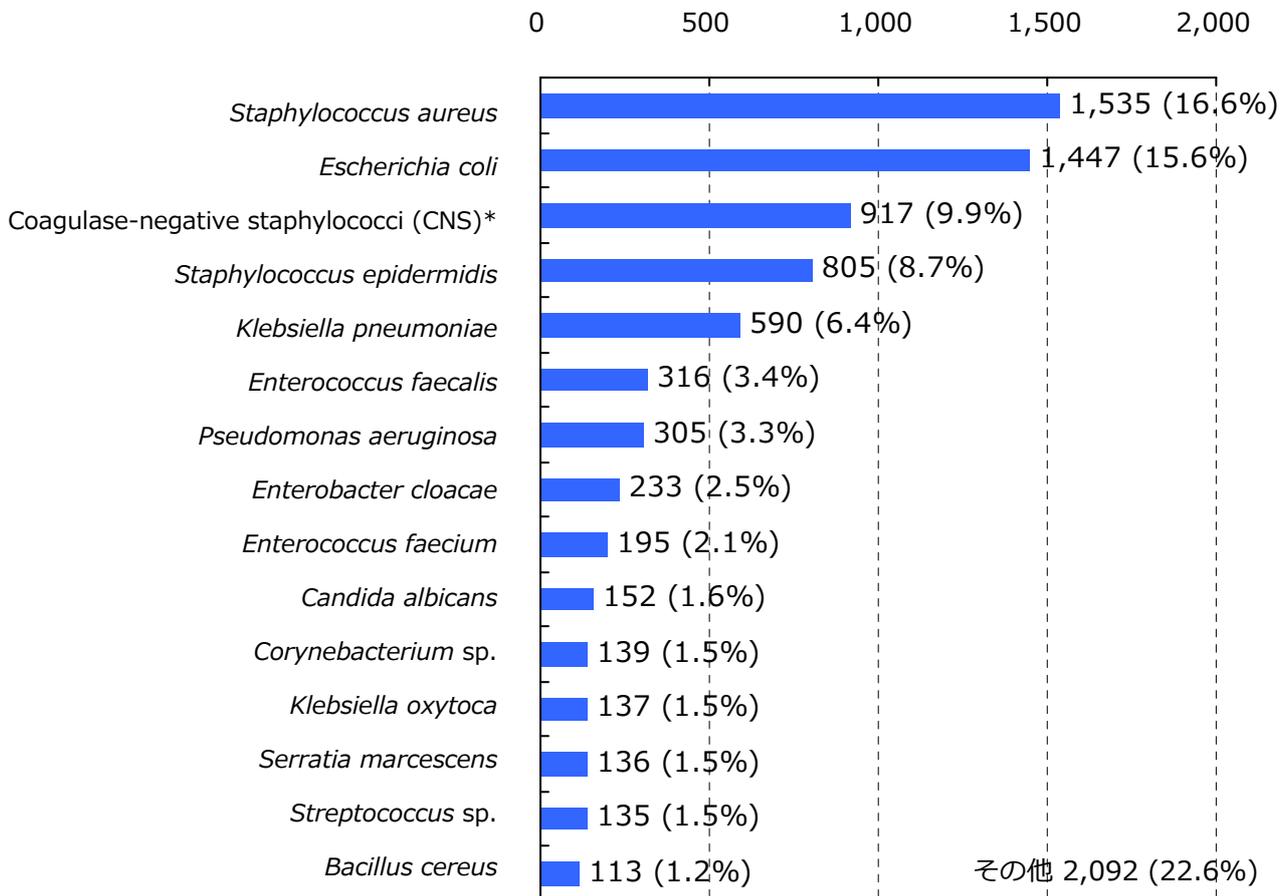
その他：上記以外の検査材料コード

検査材料コード：JANISホームページ>各部門について>検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>



### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 血液検体分離菌 (N=9,247)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌 (1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外)

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：静脈血(検査材料コード401)と動脈血(同402)

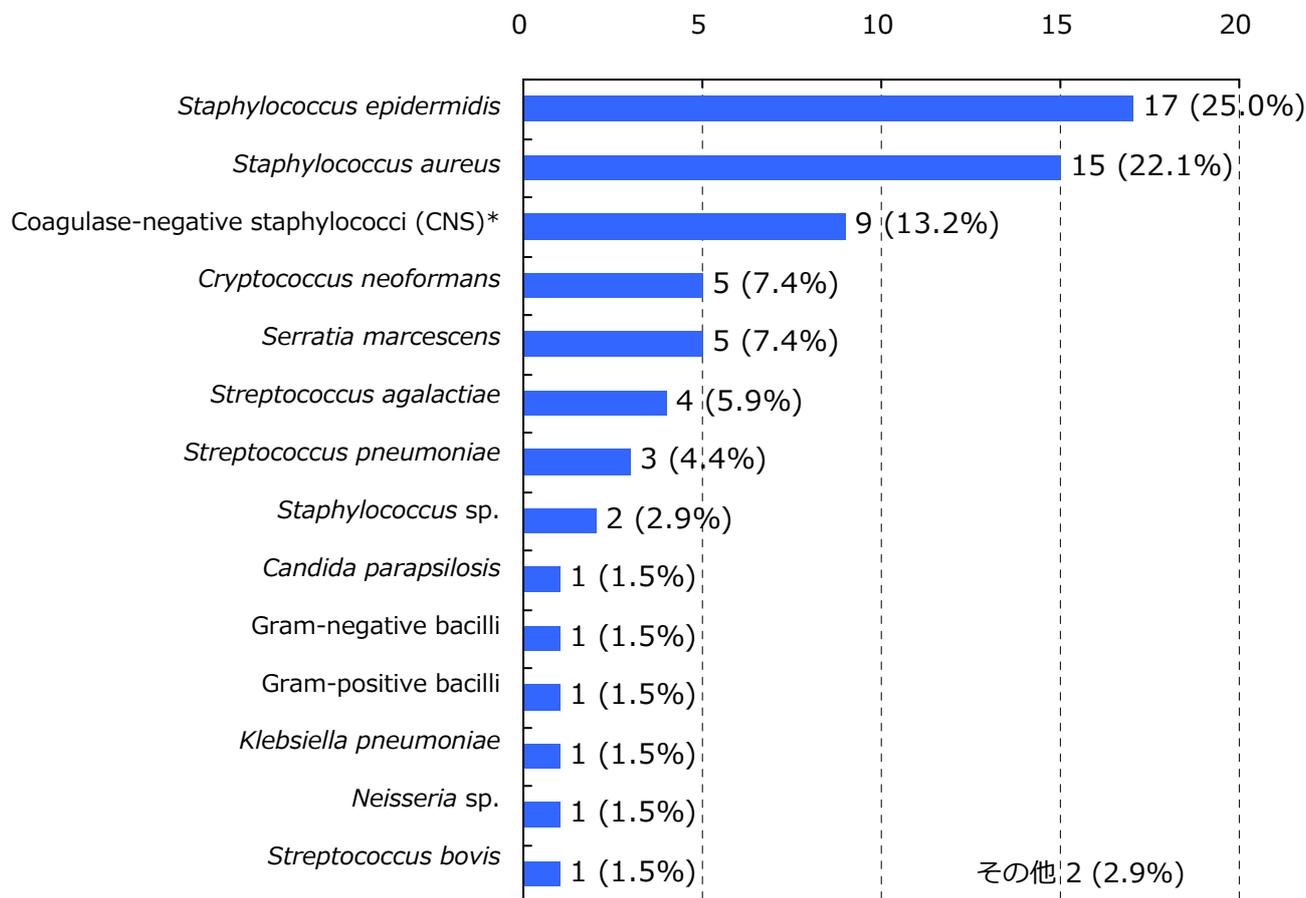
血液検体分離菌数割合 = (対象菌の血液検体分離菌数) ÷ (血液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 髄液検体分離菌 (N=68)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌 (1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外)

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：髄液(検査材料コード403)

髄液検体分離菌数割合 = (対象菌の髄液検体分離菌数) ÷ (髄液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

## 4. 主要菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

	2011年 患者数 (分離率‡)	2012年 患者数 (分離率‡)	2013年 患者数 (分離率‡)	2014年 患者数 (分離率‡)	2015年 患者数 (分離率‡)	集計対象医療機関の分離率¶ (%)の分布
検体提出患者数	-	-	-	-	60,949人	
<i>S. aureus</i>	-	-	-	-	6,994人 (11.48%)	4.76 11.95 19.88
<i>S. epidermidis</i>	-	-	-	-	1,644人 (2.70%)	0.00 1.23 6.61
<i>S. pneumoniae</i>	-	-	-	-	959人 (1.57%)	0.16 1.07 6.57
<i>E. faecalis</i>	-	-	-	-	2,759人 (4.53%)	1.73 4.63 14.97
<i>E. faecium</i>	-	-	-	-	1,091人 (1.79%)	0.16 1.36 4.76
<i>E. coli</i>	-	-	-	-	6,225人 (10.21%)	4.25 10.74 26.10
<i>K. pneumoniae</i>	-	-	-	-	2,918人 (4.79%)	0.21 5.07 12.50
<i>Enterobacter spp.</i>	-	-	-	-	1,719人 (2.82%)	0.70 2.59 5.58
<i>S. marcescens</i>	-	-	-	-	649人 (1.06%)	0.23 0.95 4.73
<i>P. aeruginosa</i>	-	-	-	-	3,065人 (5.03%)	1.76 4.64 18.94
<i>Acinetobacter spp.</i>	-	-	-	-	667人 (1.09%)	0.12 0.94 3.42

入院として報告された検体を集計

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

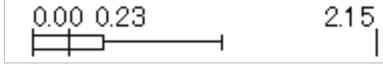
‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

全体の分離率

= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

## 5. 特定の耐性菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

	2011年 患者数 (分離率‡)	2012年 患者数 (分離率‡)	2013年 患者数 (分離率‡)	2014年 患者数 (分離率‡)	2015年 患者数 (分離率‡)	集計対象医療機関の分離率¶ (%)の分布
検体提出患者数	-	-	-	-	60,949人	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)	-	-	-	-	3,611人 (5.92%)	2.77 6.12 16.91 
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA)	-	-	-	-	0人 (0.00%)	0.00 
バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)	-	-	-	-	5人 (0.01%)	0.00 0.00 0.14 
ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)	-	-	-	-	257人 (0.42%)	0.00 0.23 2.15 
多剤耐性緑膿菌(MDRP)	-	-	-	-	22人 (0.04%)	0.00 0.00 0.31 
多剤耐性アシネトバクター属(MDRA)	-	-	-	-	0人 (0.00%)	0.00 
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)	-	-	-	-	172人 (0.28%)	0.00 0.13 5.01 
カルバペネム耐性緑膿菌	-	-	-	-	351人 (0.58%)	0.00 0.44 3.89 
第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌	-	-	-	-	202人 (0.33%)	0.00 0.15 5.15 
第三世代セファロスポリン耐性大腸菌	-	-	-	-	942人 (1.55%)	0.00 0.83 10.57 
フルオロキノロン耐性大腸菌	-	-	-	-	1,711人 (2.81%)	0.00 2.55 19.33 

入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計  
MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

全体の分離率

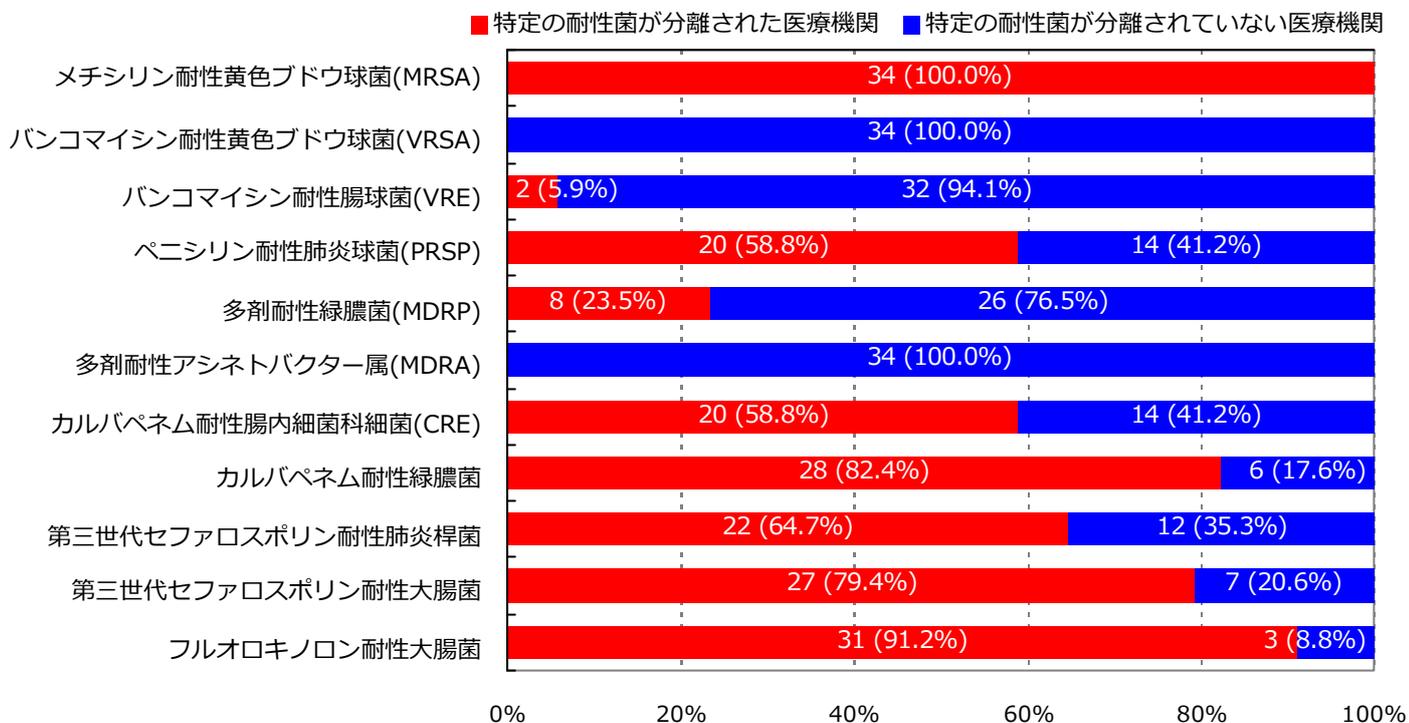
$$= (\text{集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計}) \div (\text{集計対象医療機関の検体提出患者数合計}) \times 100$$

$$\text{¶分離率} = (\text{対象菌の分離患者数}) \div (\text{検体提出患者数}) \times 100$$



### 6. 特定の耐性菌が分離された医療機関の割合

2015年 特定の耐性菌が分離された医療機関の割合 (N=34)



### 特定の耐性菌が分離された医療機関の割合 (過去5年間)

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
集計対象医療機関数	-	-	-	-	34
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)	-	-	-	-	100.0%
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA)	-	-	-	-	0.0%
バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)	-	-	-	-	5.9%
ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)	-	-	-	-	58.8%
多剤耐性緑膿菌(MDRP)	-	-	-	-	23.5%
多剤耐性アシネトバクター属(MDRA)	-	-	-	-	0.0%
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)	-	-	-	-	58.8%
カルバペネム耐性緑膿菌	-	-	-	-	82.4%
第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌	-	-	-	-	64.7%
第三世代セファロスポリン耐性大腸菌	-	-	-	-	79.4%
フルオロキノロン耐性大腸菌	-	-	-	-	91.2%

耐性菌判定薬剤(巻末資料参照)が未検査の場合、分離されていない医療機関として集計

入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計

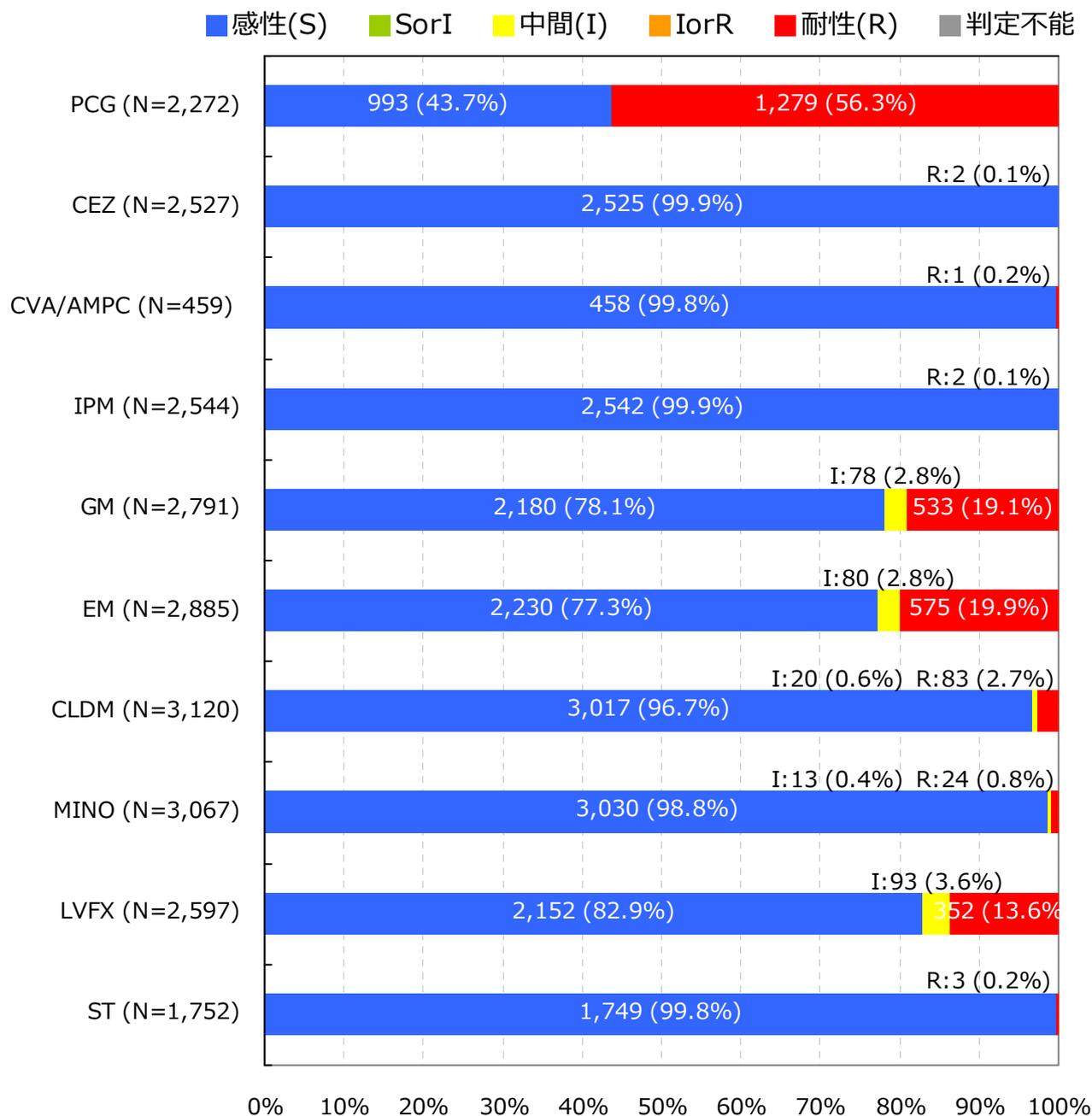
MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む

特定の耐性菌が検出された集計対象医療機関の割合

$$= \frac{\text{特定の耐性菌が1株でも報告された医療機関数}}{\text{集計対象医療機関数}}$$

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MSSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

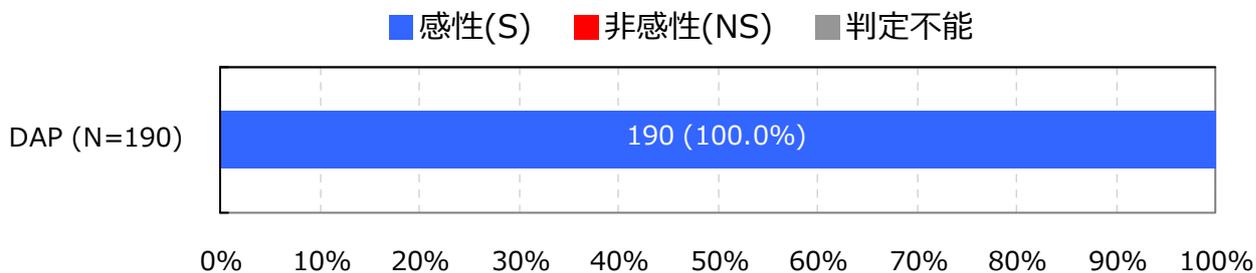
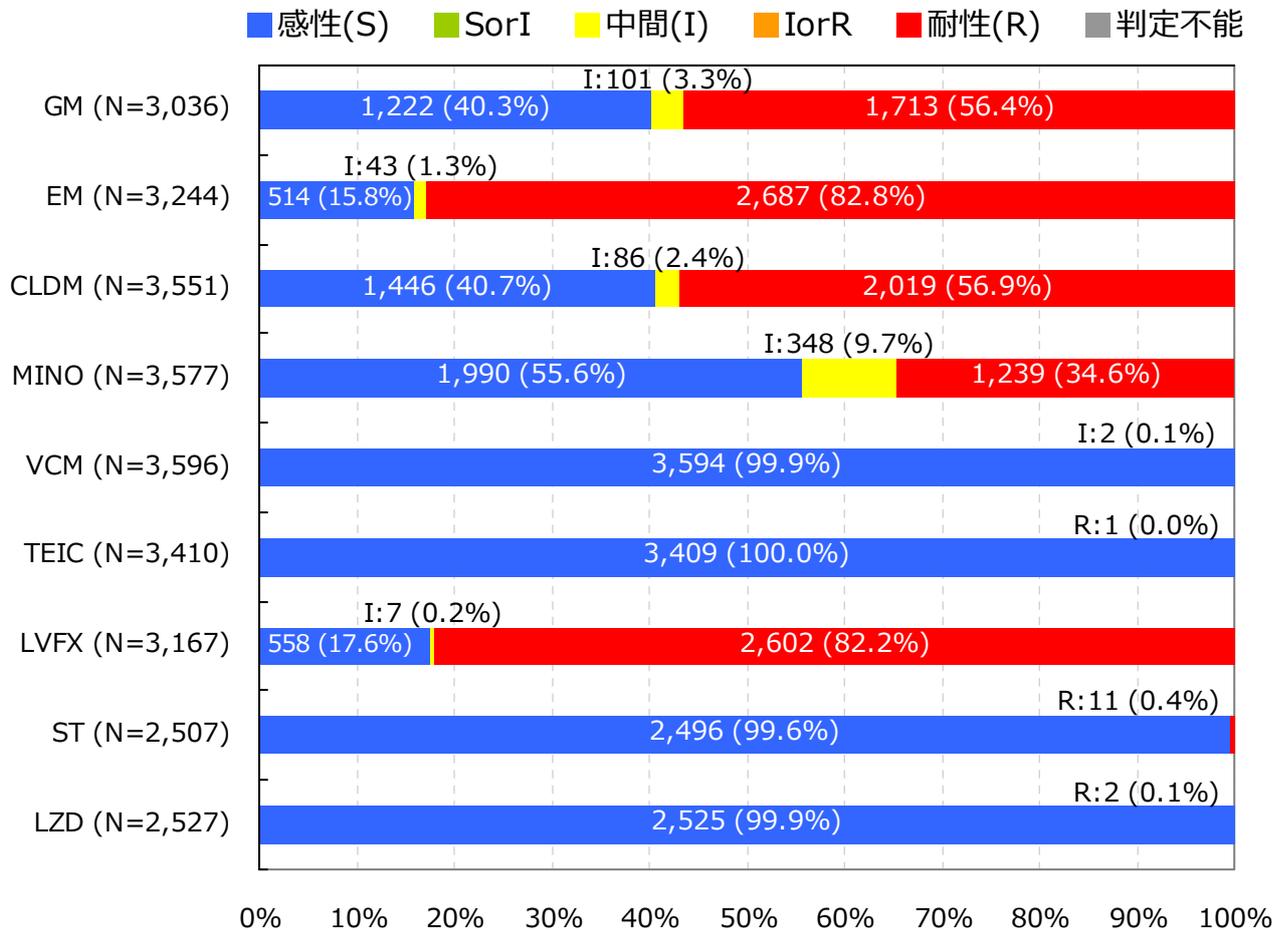
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1304, 1305, 1306と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「S」の菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MRSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

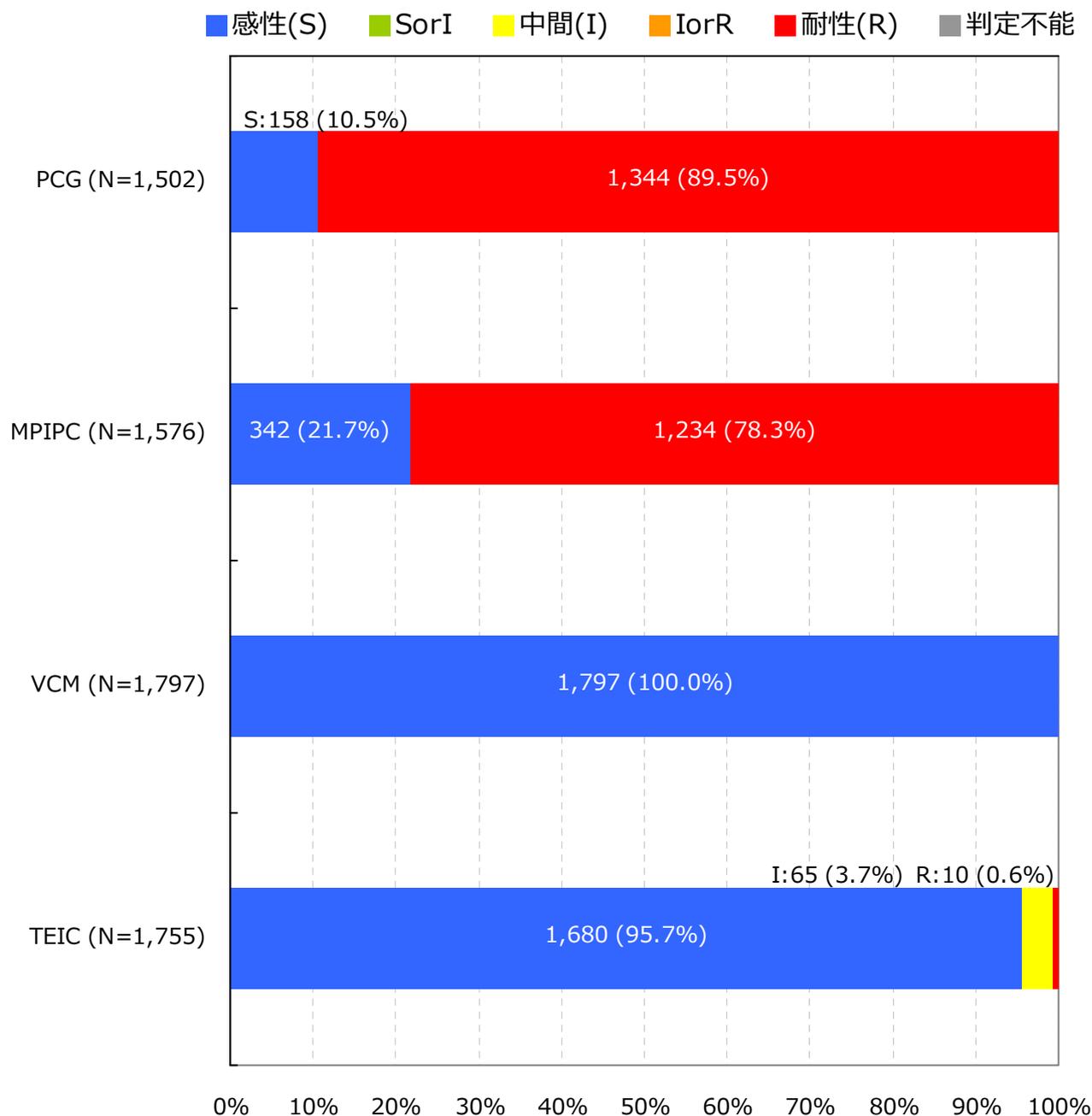
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1303と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「R」の菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus epidermidis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

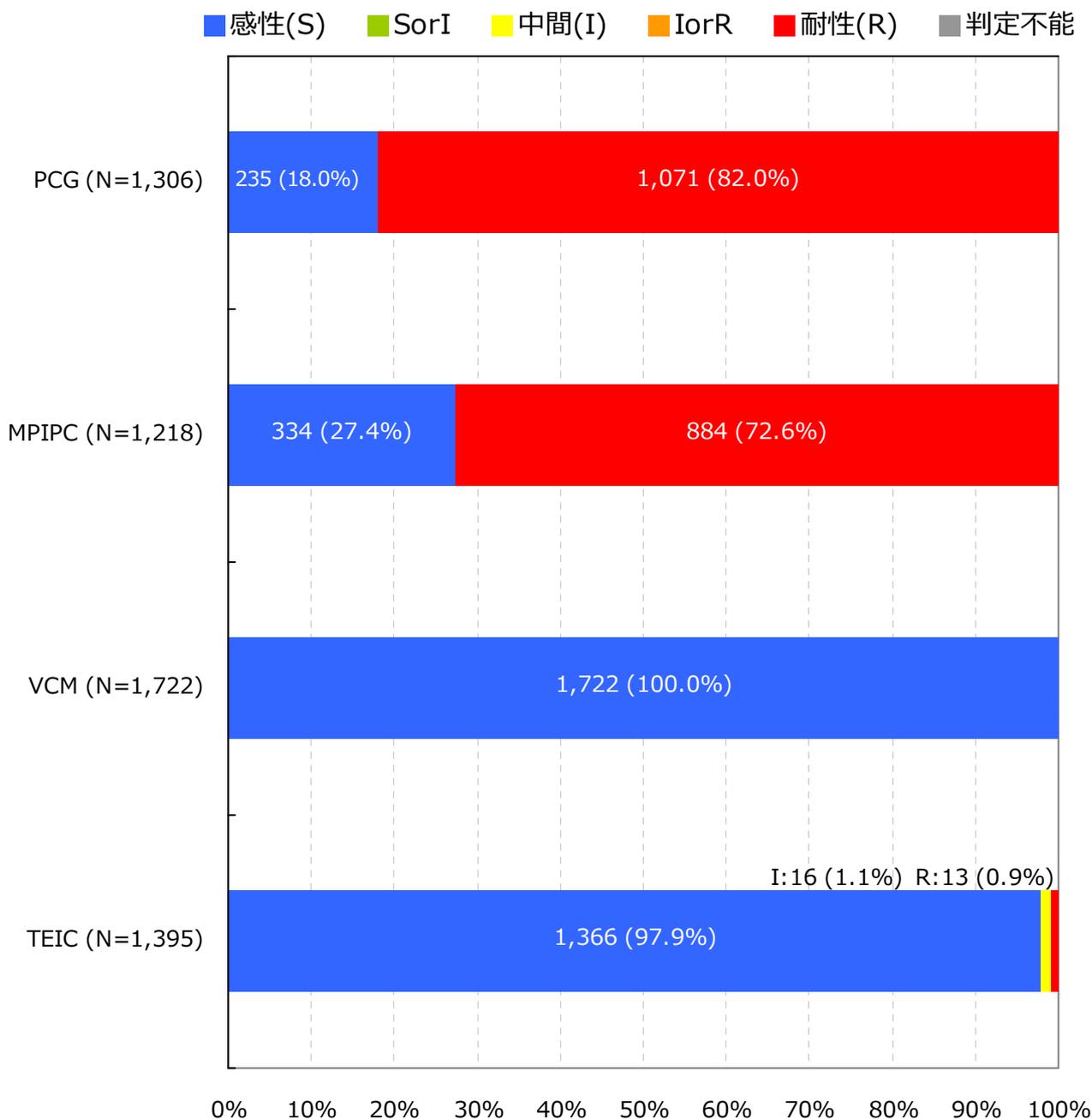
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1312と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### Coagulase-negative staphylococci (CNS) †



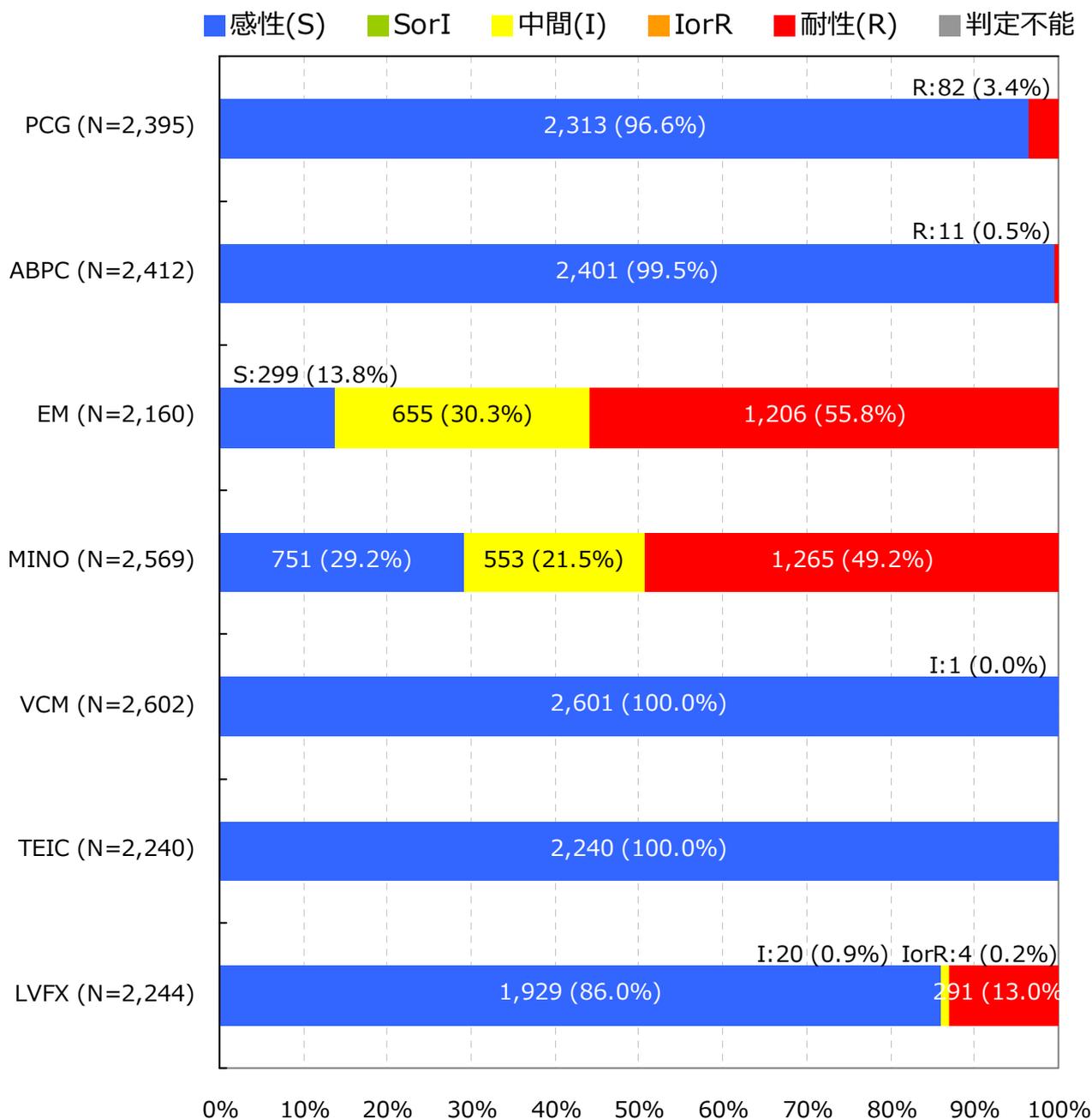
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1311, 1313～1325と報告された菌 (1312 : *Staphylococcus epidermidis*は対象外)

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecalis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

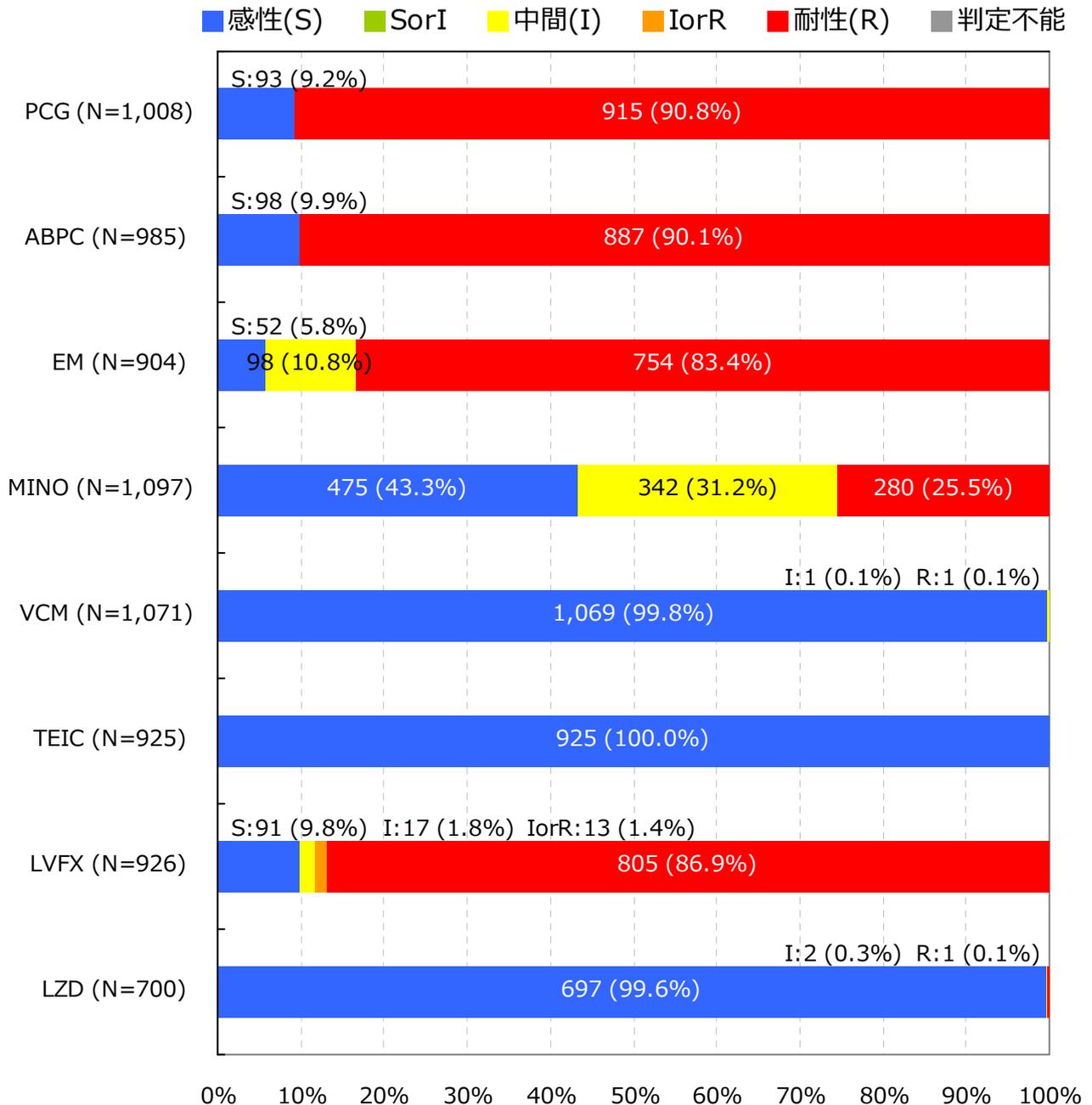
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1201, 1202と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecium* †



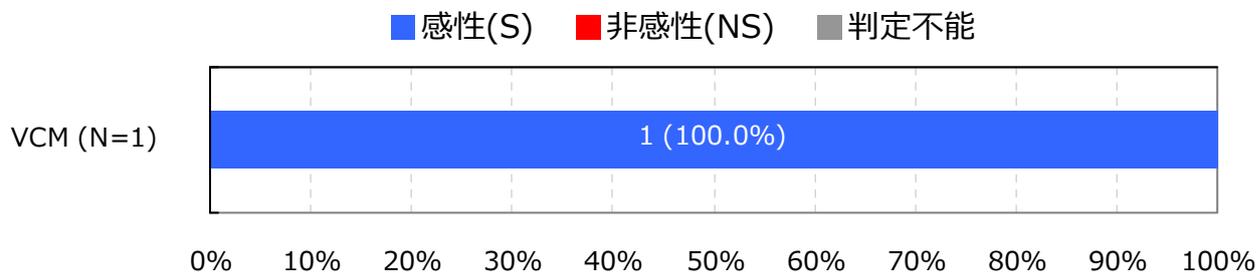
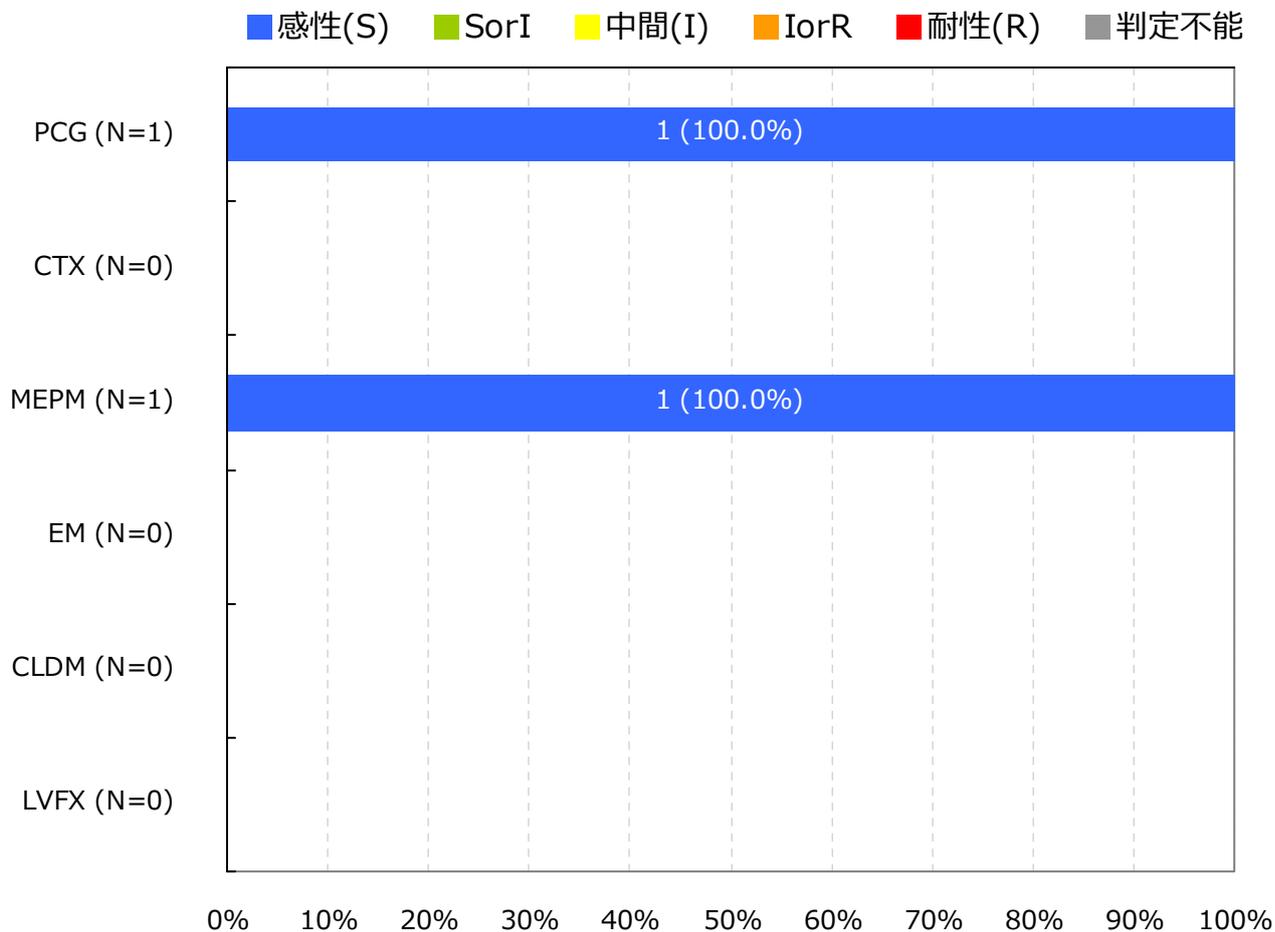
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1205, 1206と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pneumoniae*(髄液検体) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

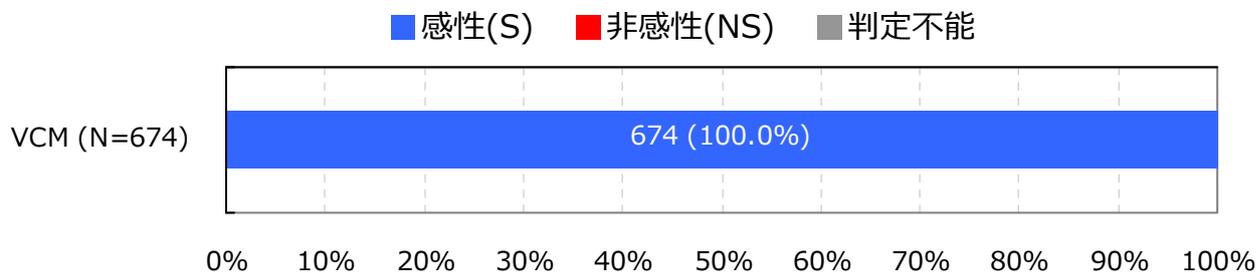
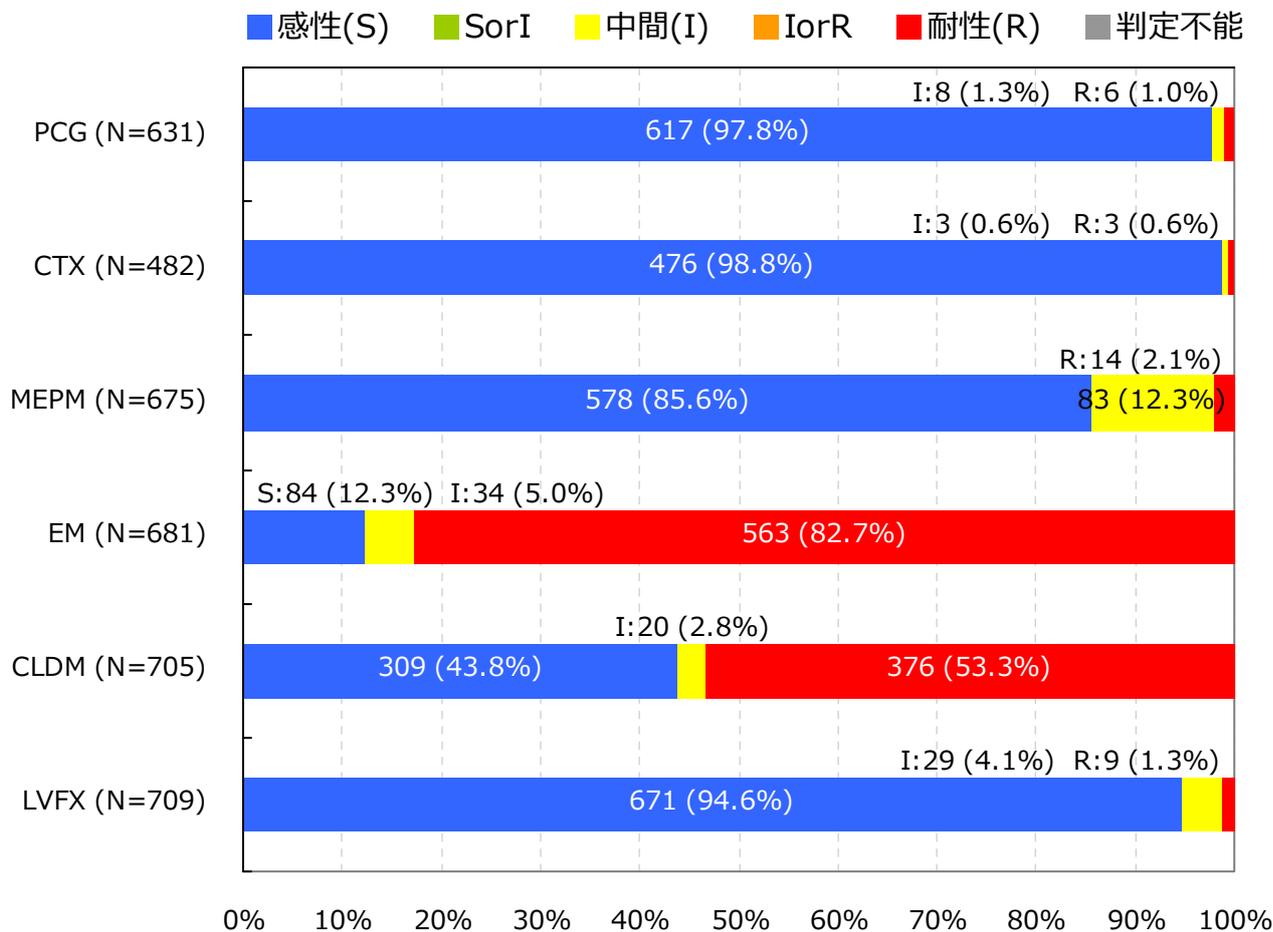
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1131と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pneumoniae*(髄液検体以外) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

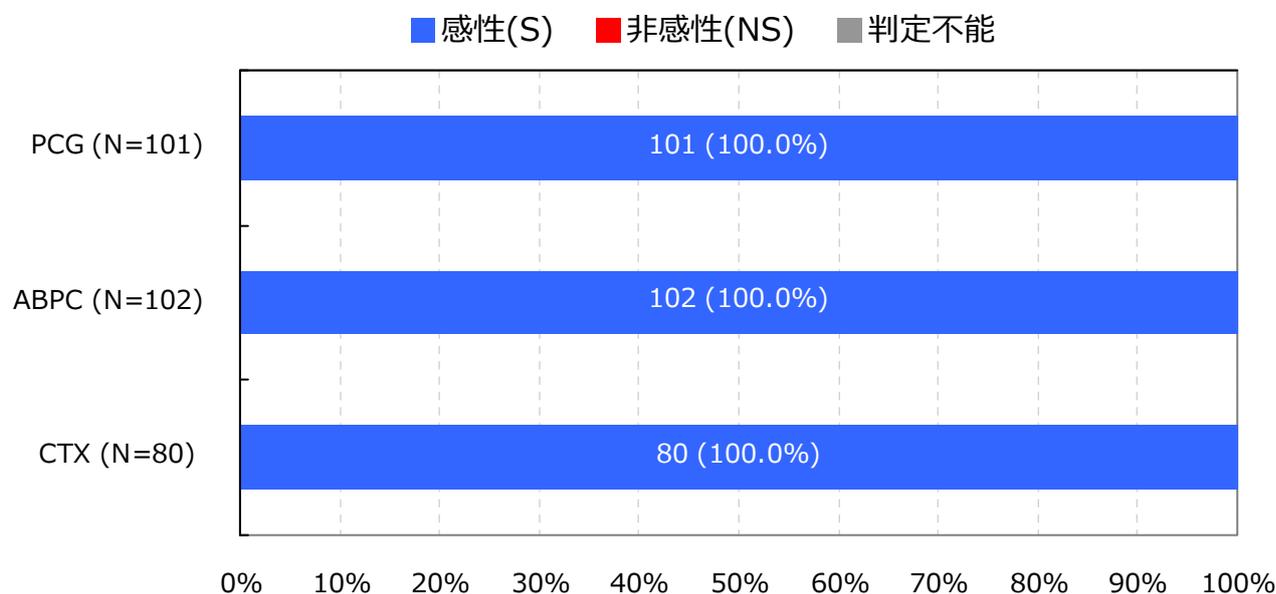
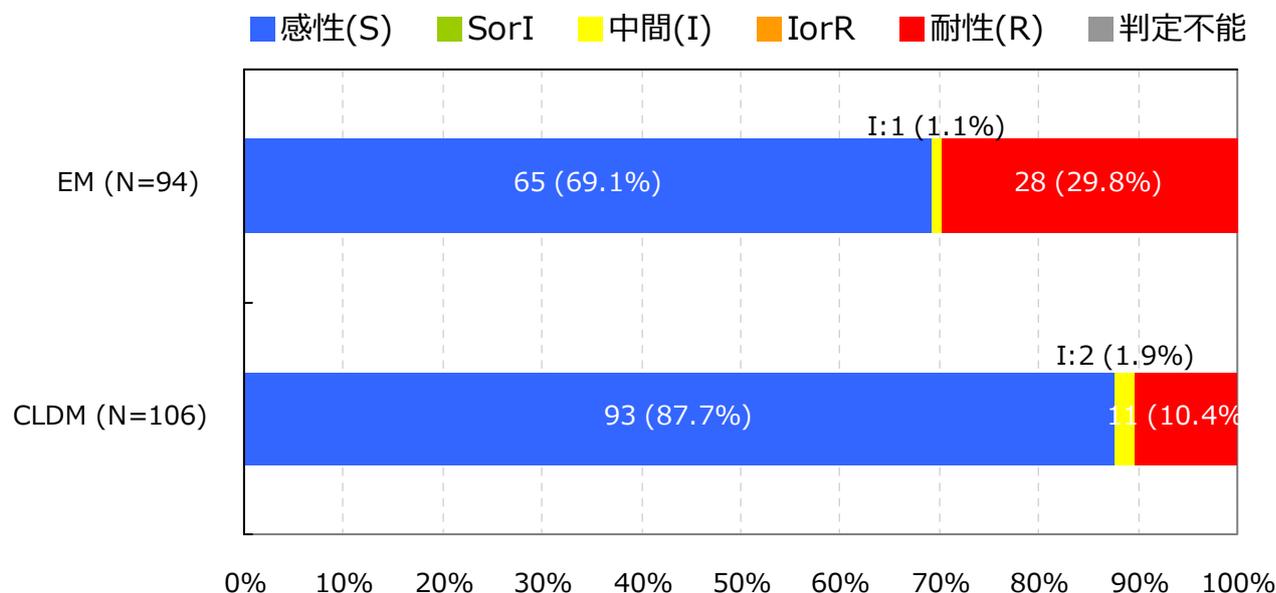
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1131と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pyogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

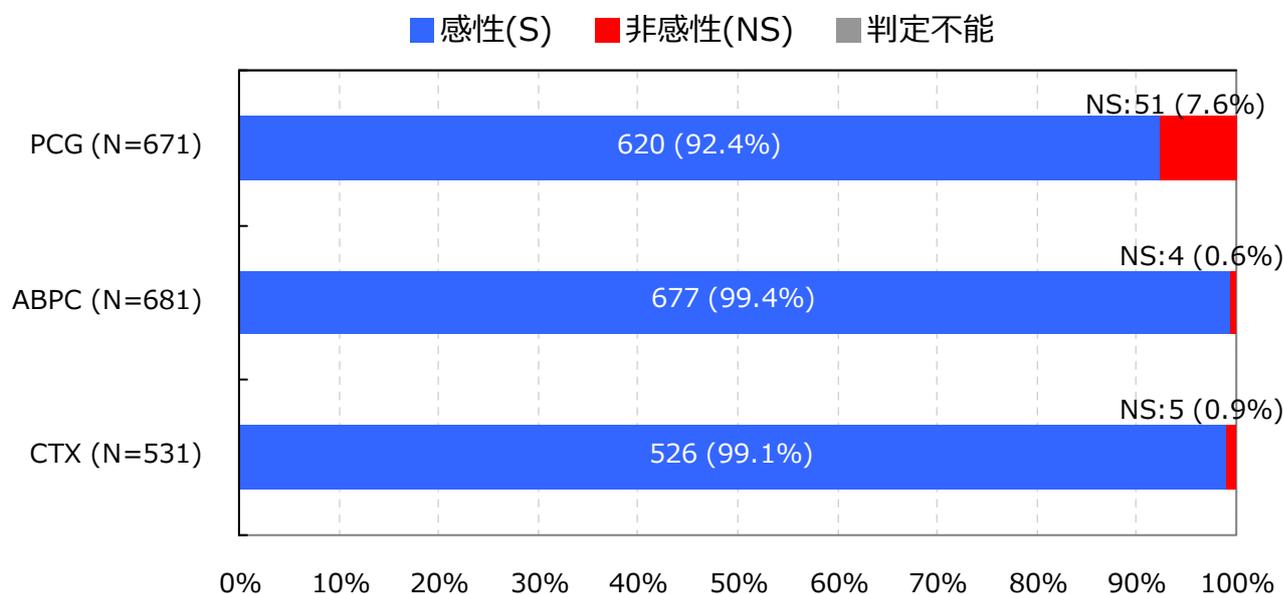
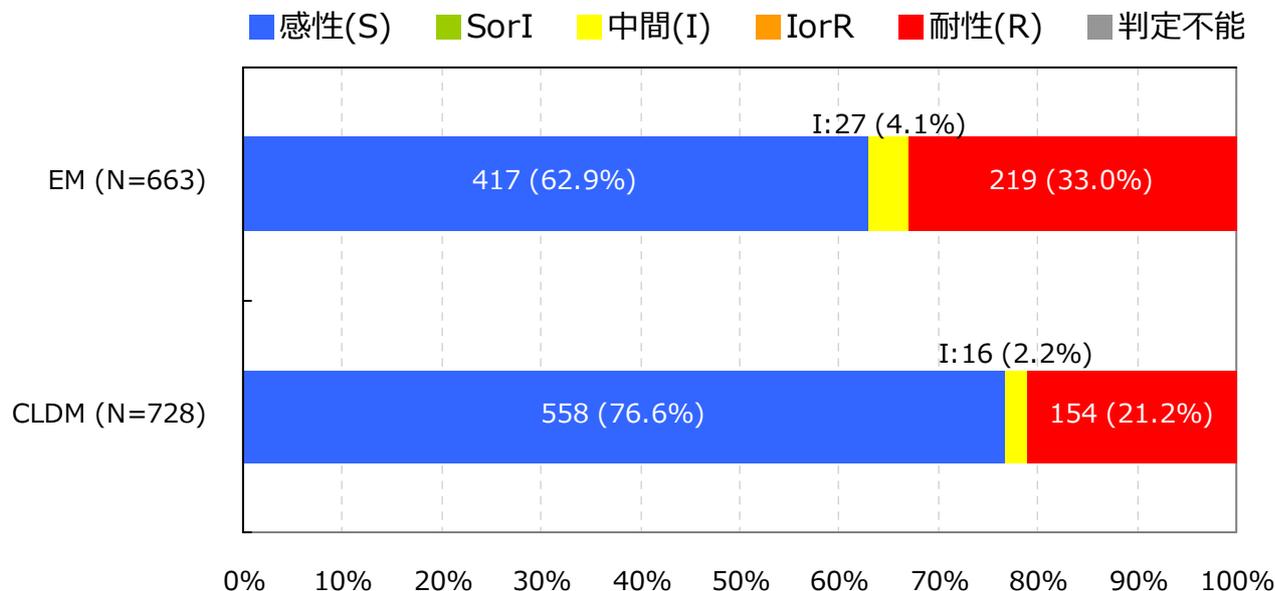
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1111と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus agalactiae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

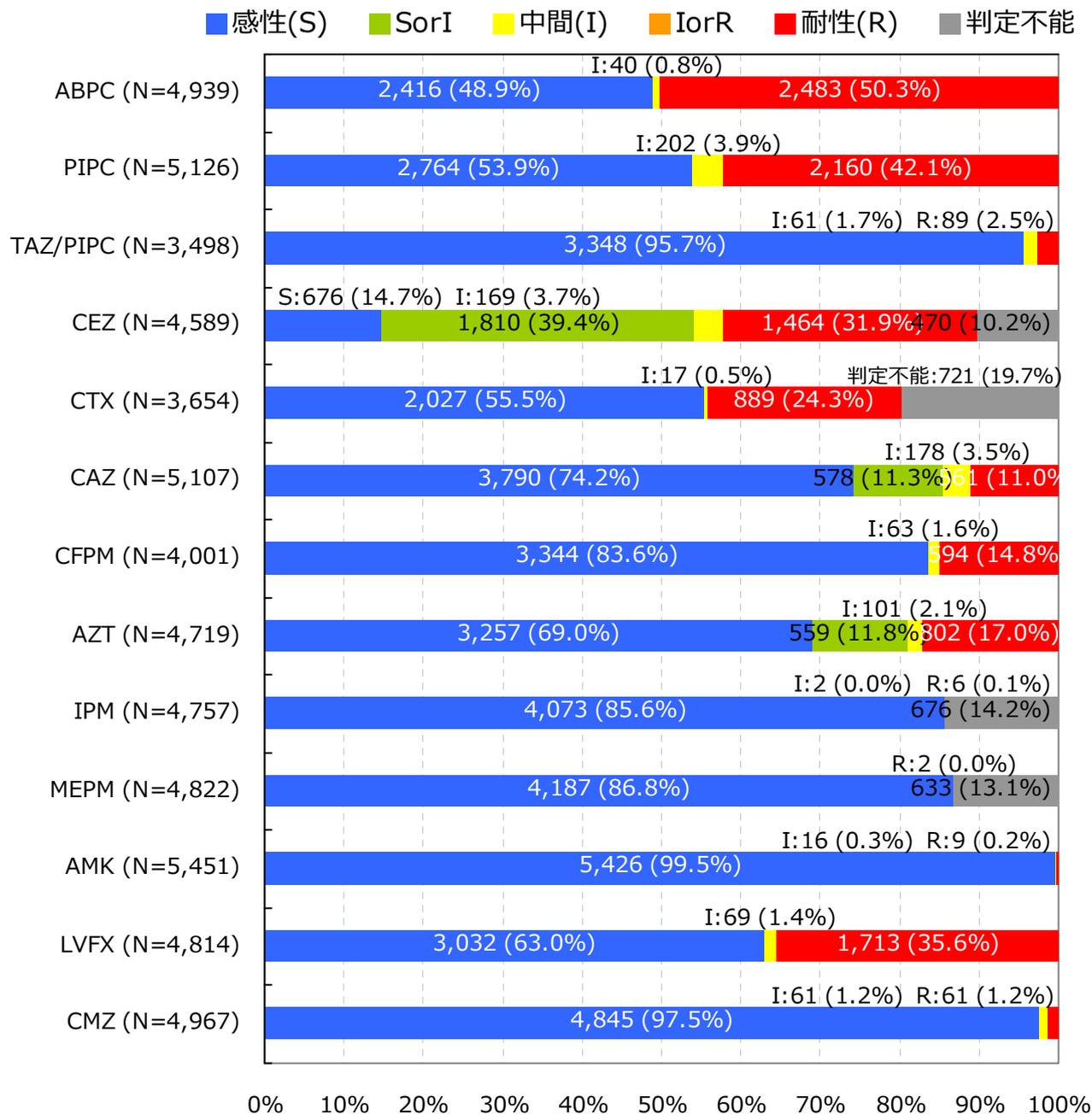
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1114と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Escherichia coli* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

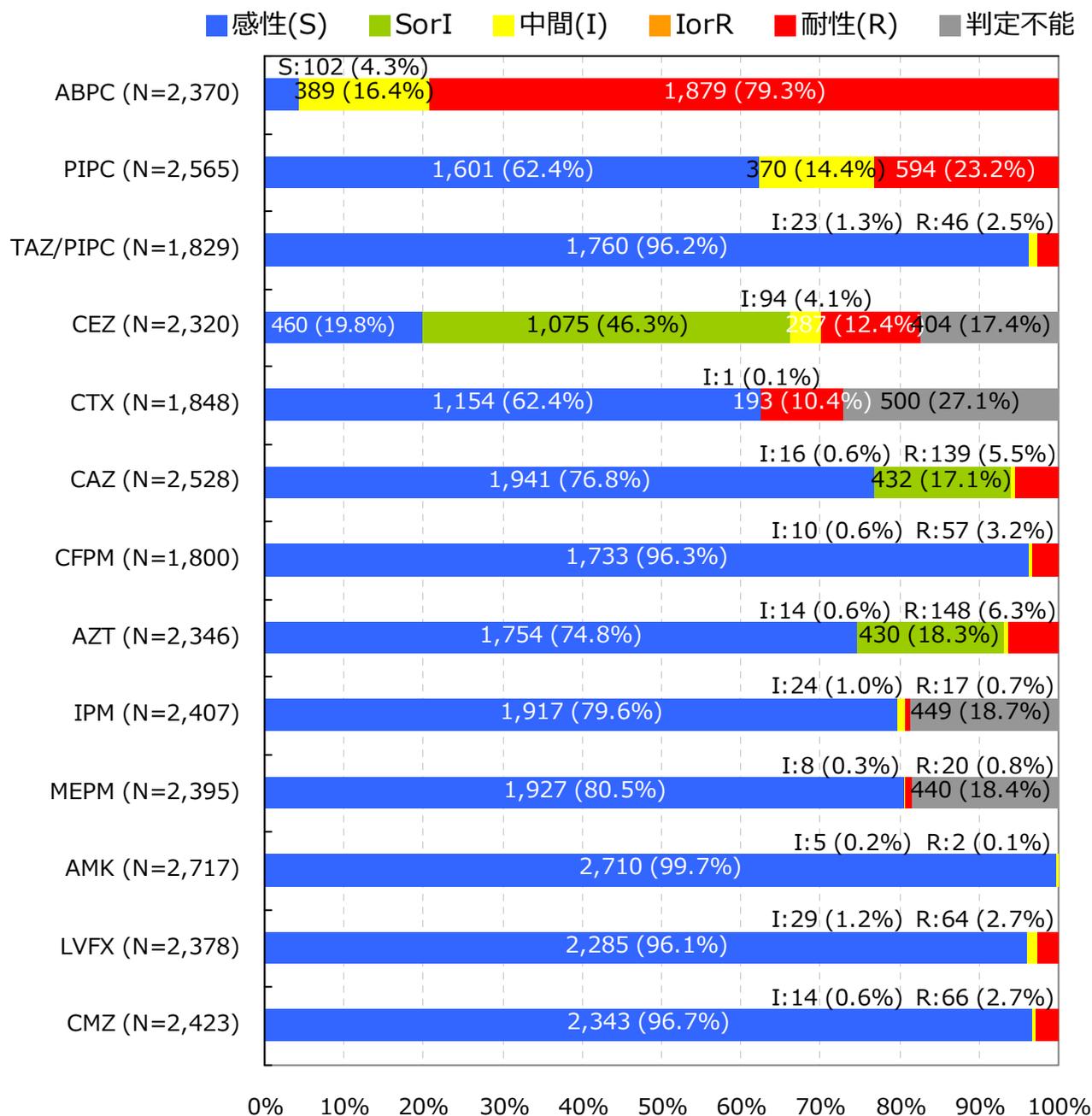
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2001～2007と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Klebsiella pneumoniae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

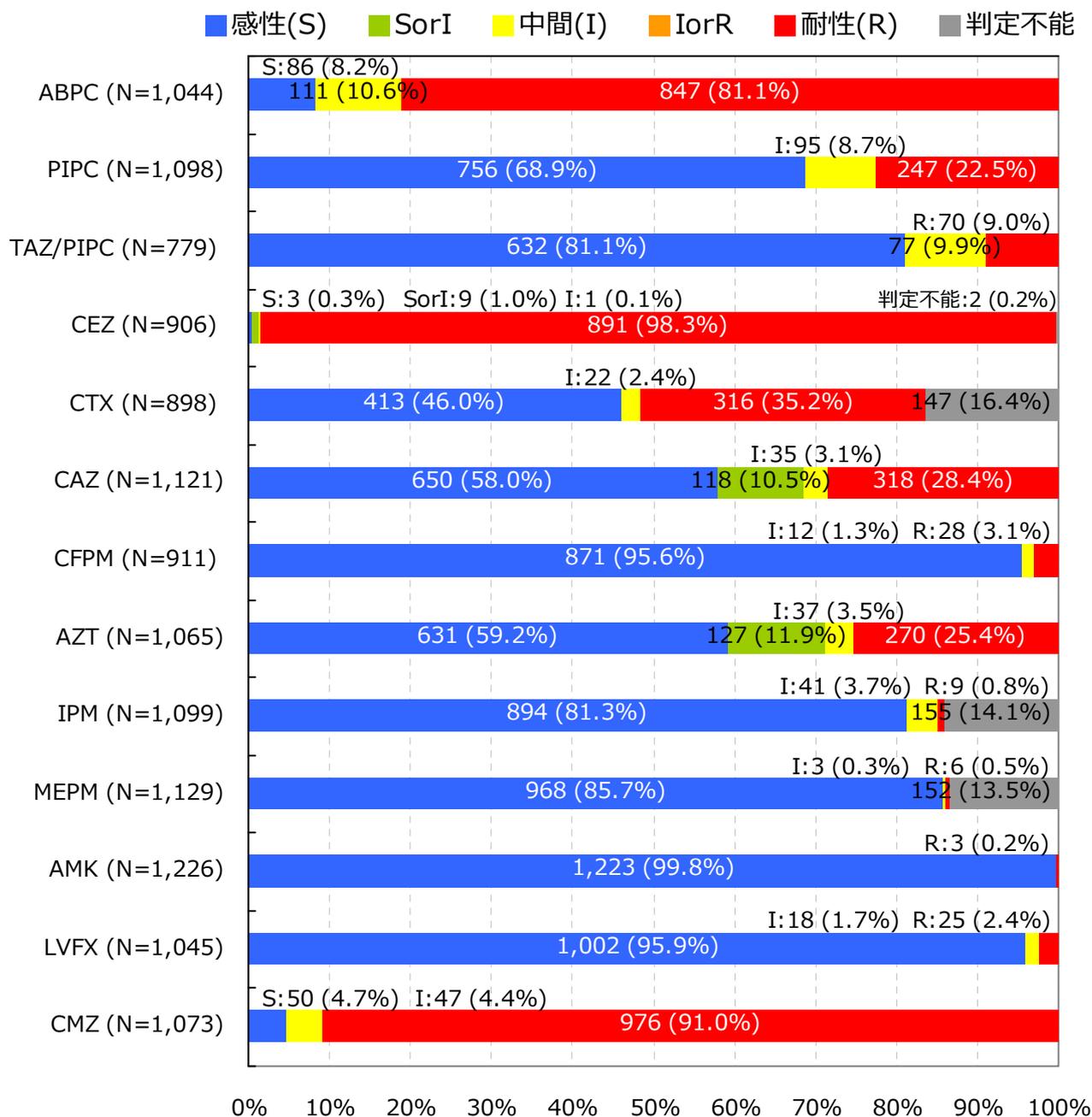
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2351と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterobacter cloacae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

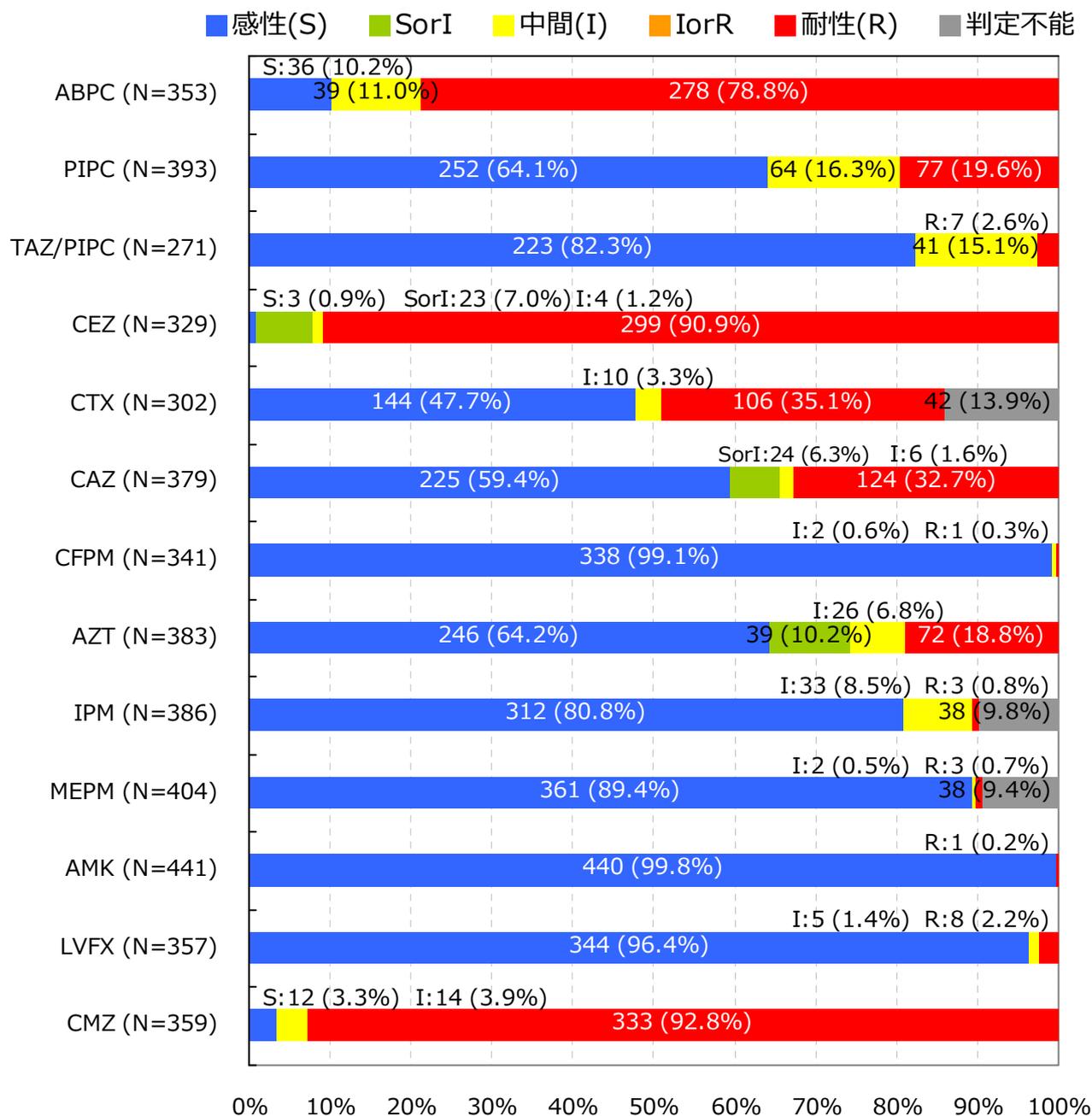
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2151と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterobacter aerogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

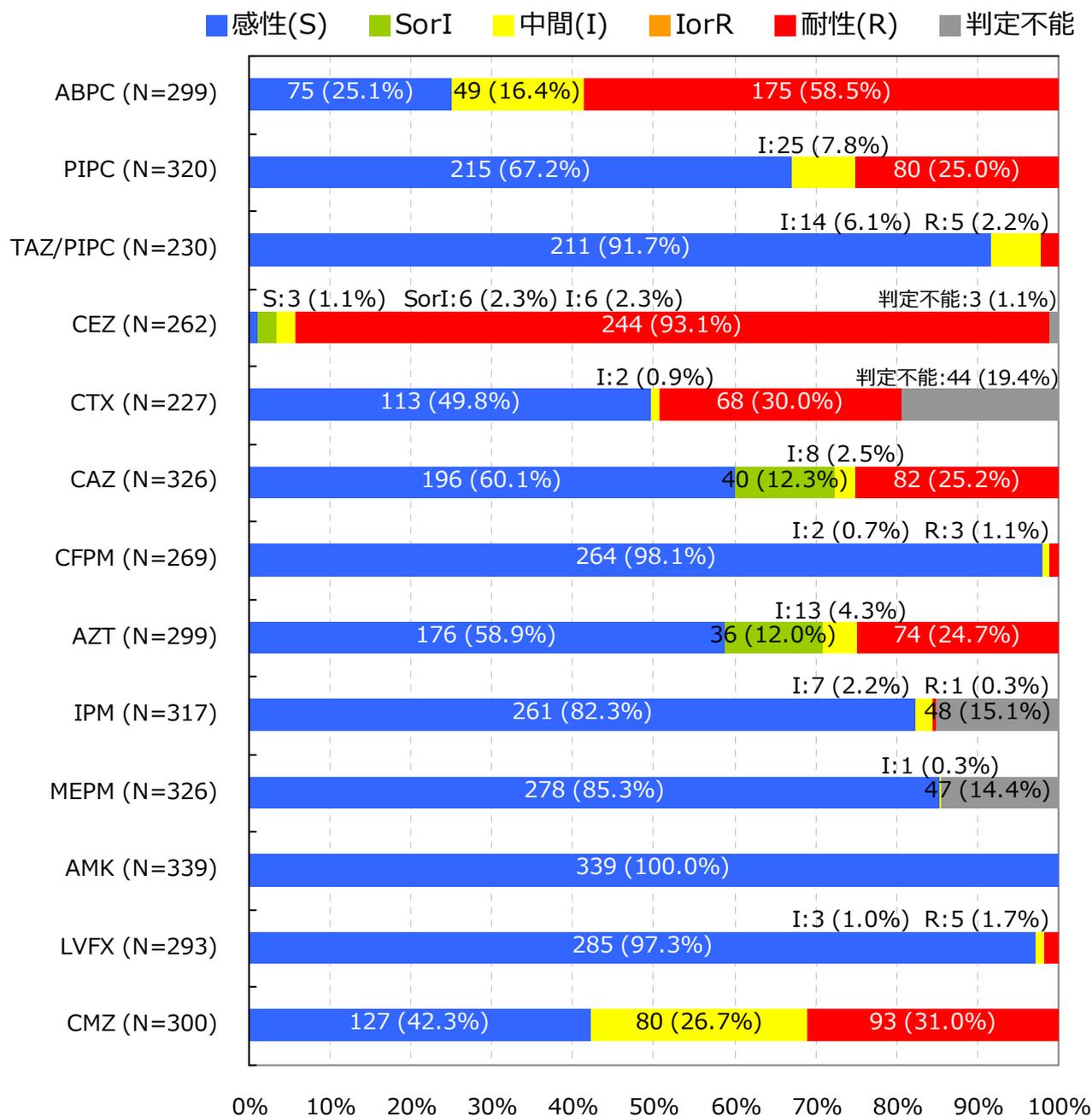
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2152と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter freundii* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

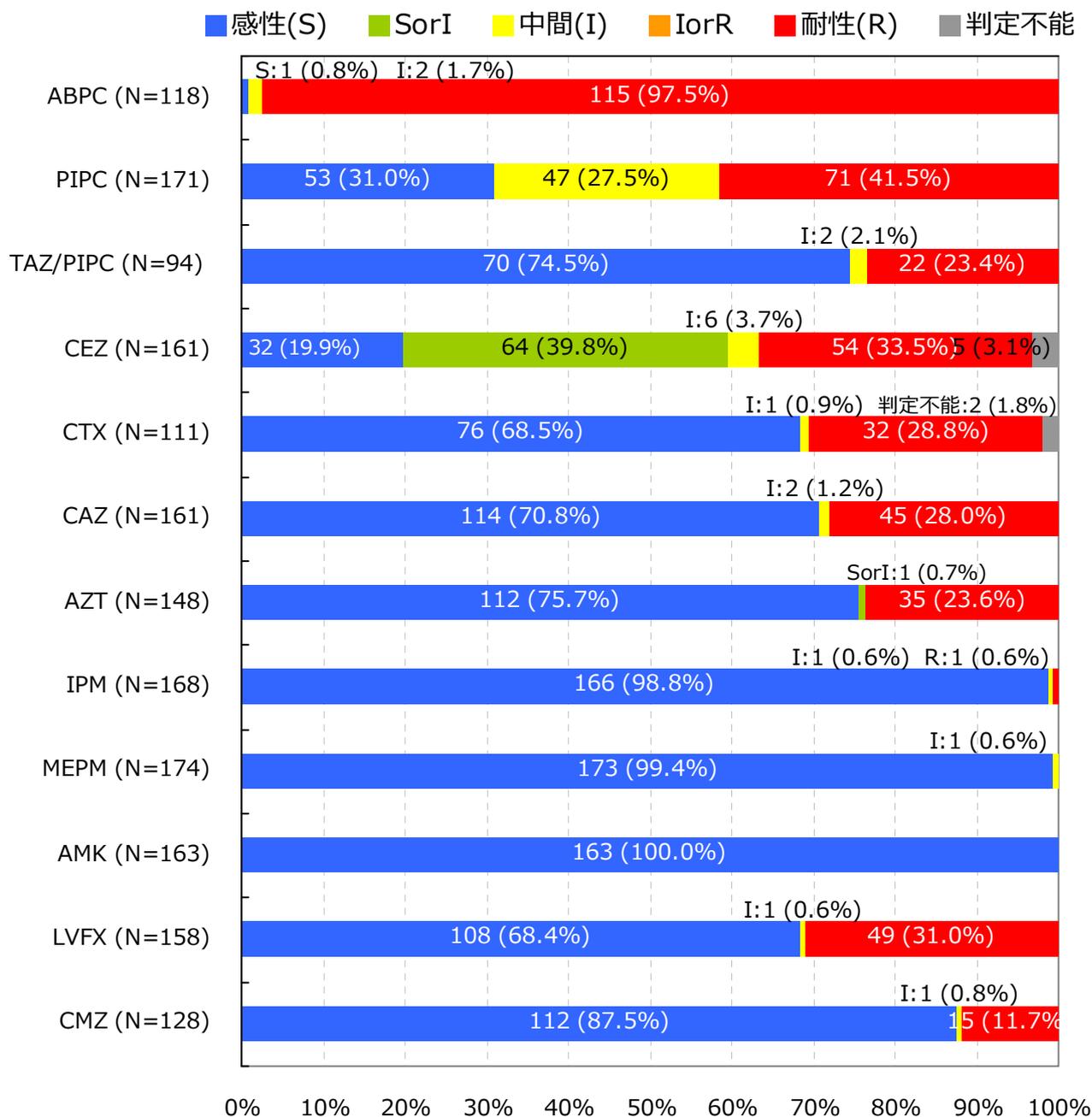
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2051と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter koseri* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

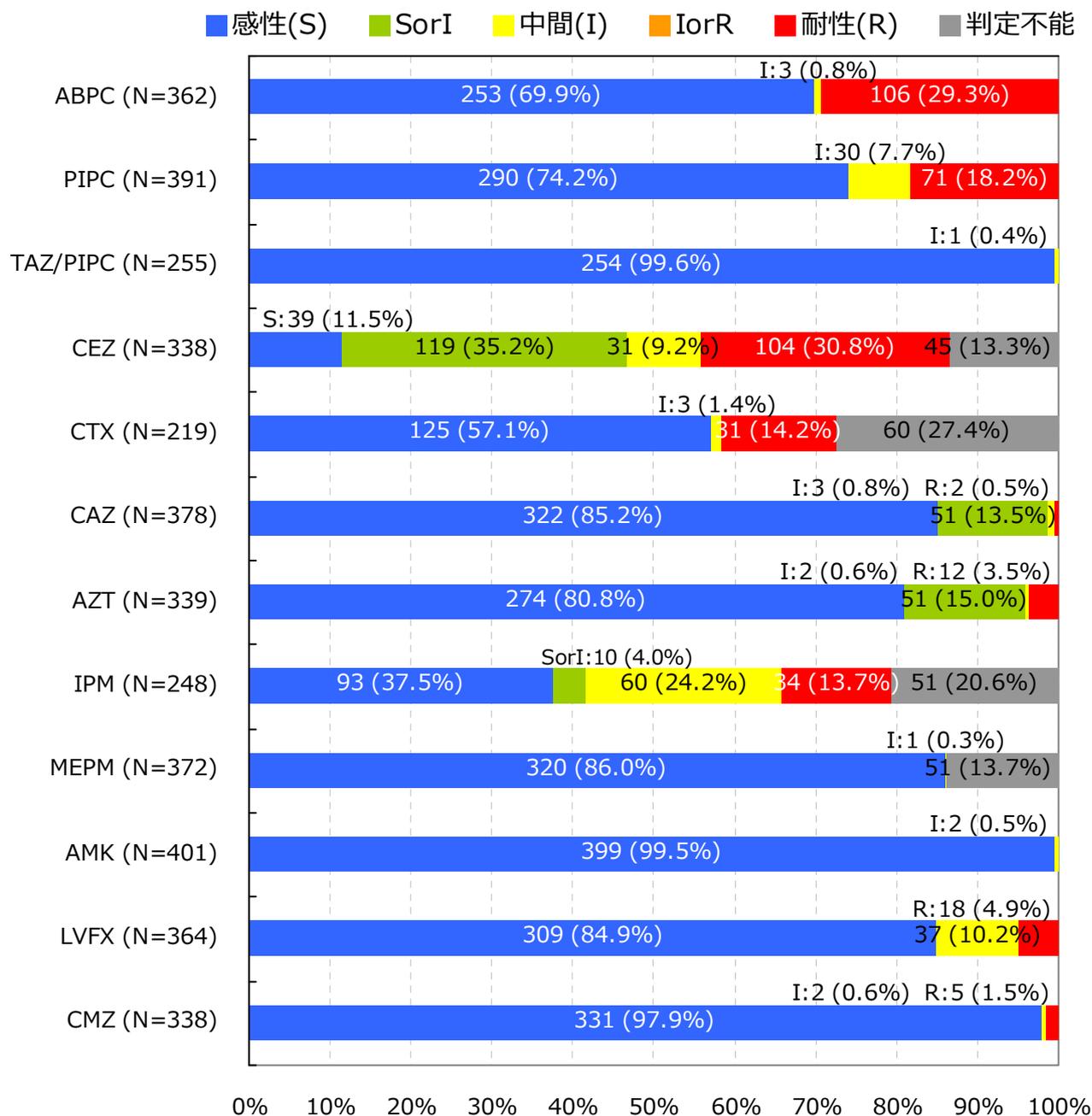
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2052と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus mirabilis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

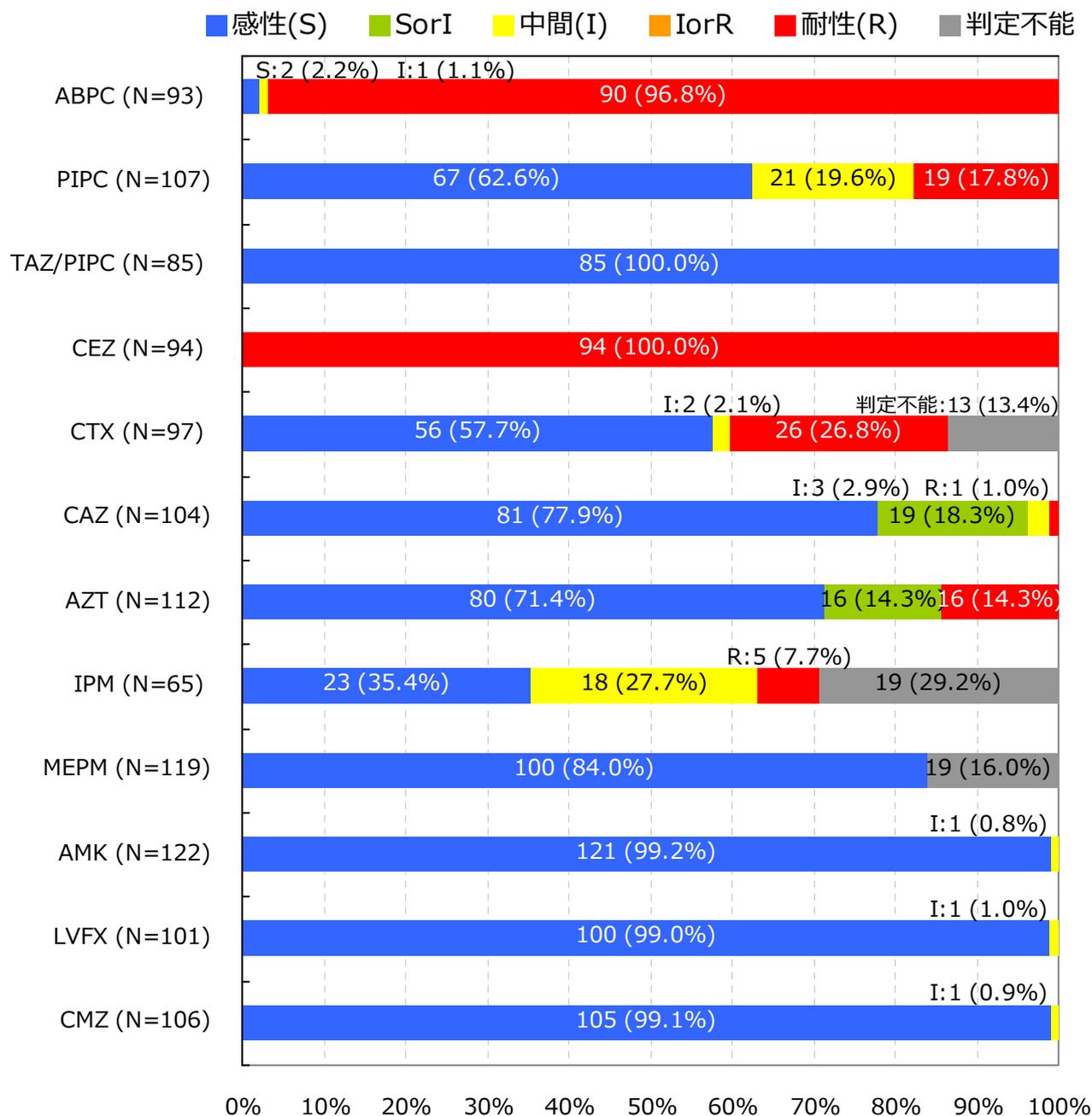
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2201と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus vulgaris* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

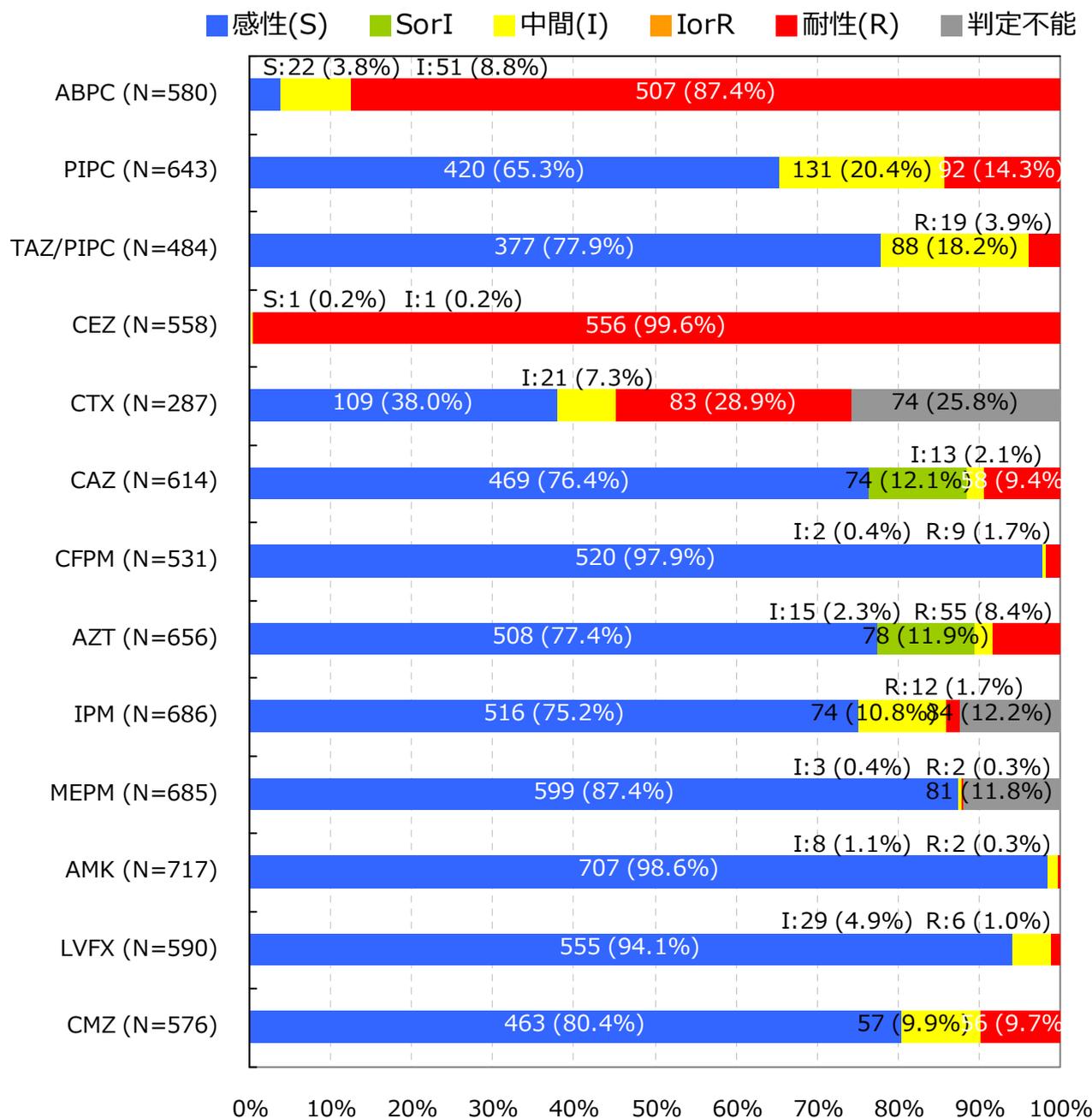
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2202と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Serratia marcescens* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

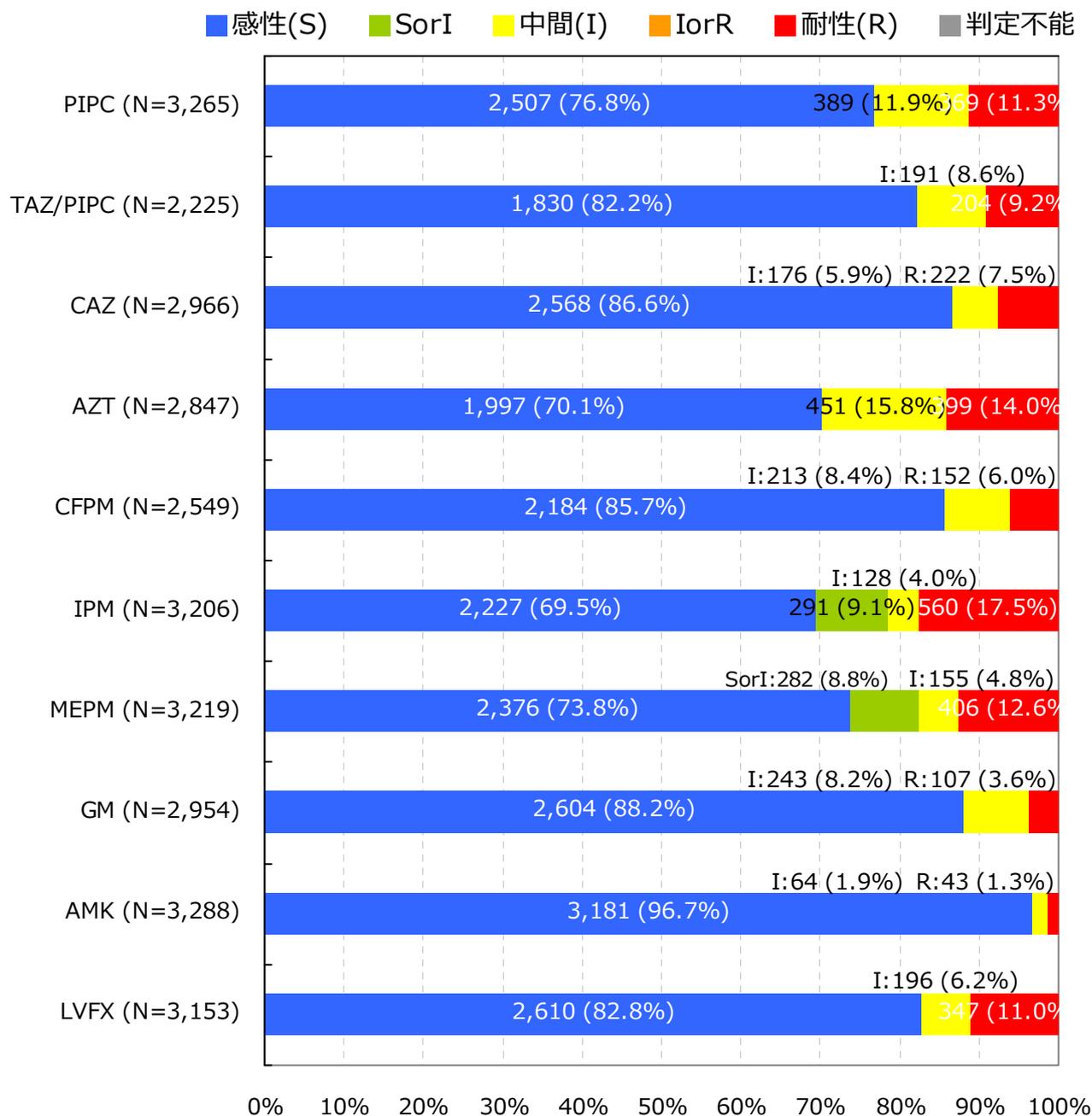
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2101と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Pseudomonas aeruginosa* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

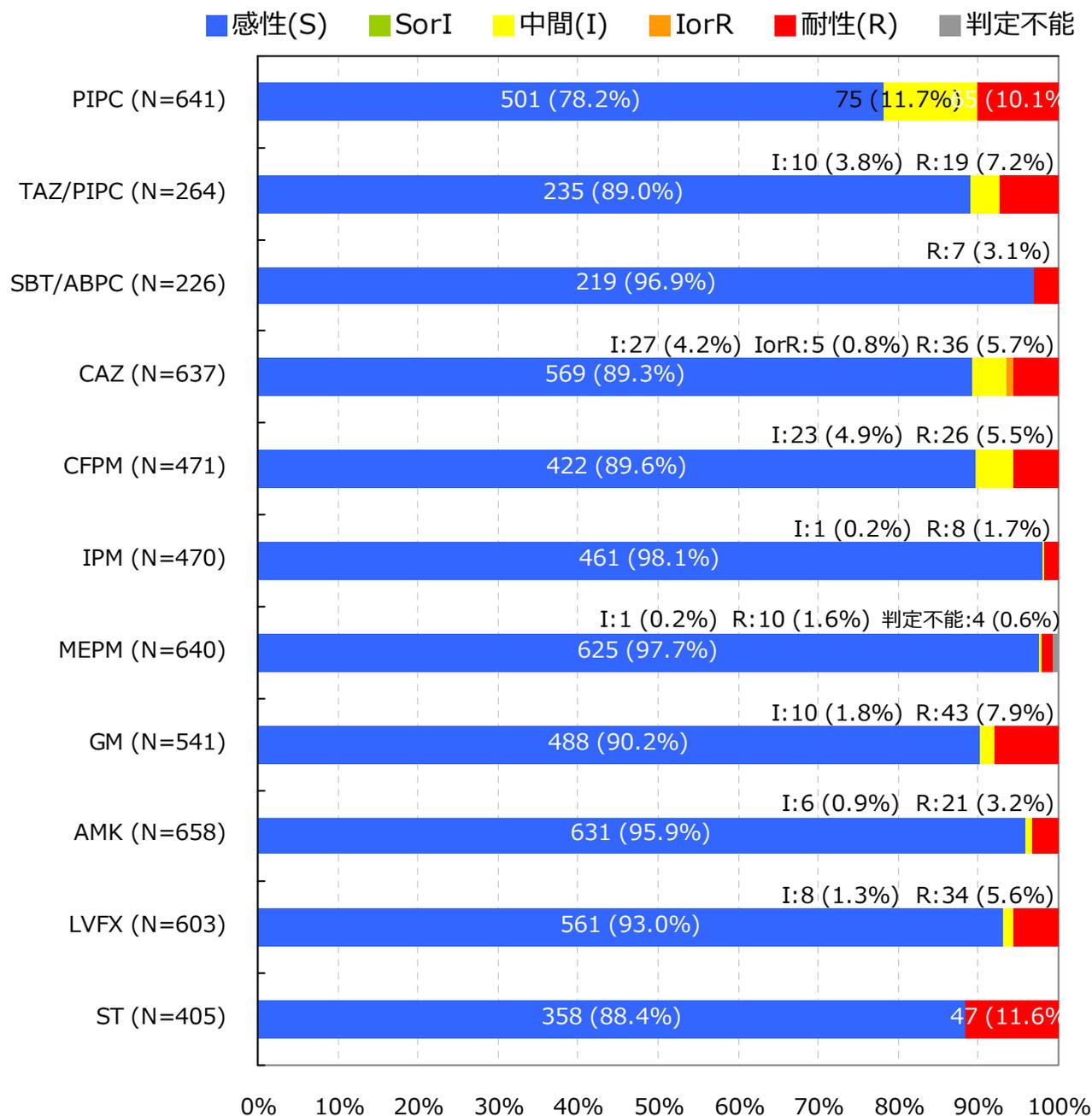
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：4001と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Acinetobacter* spp. †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

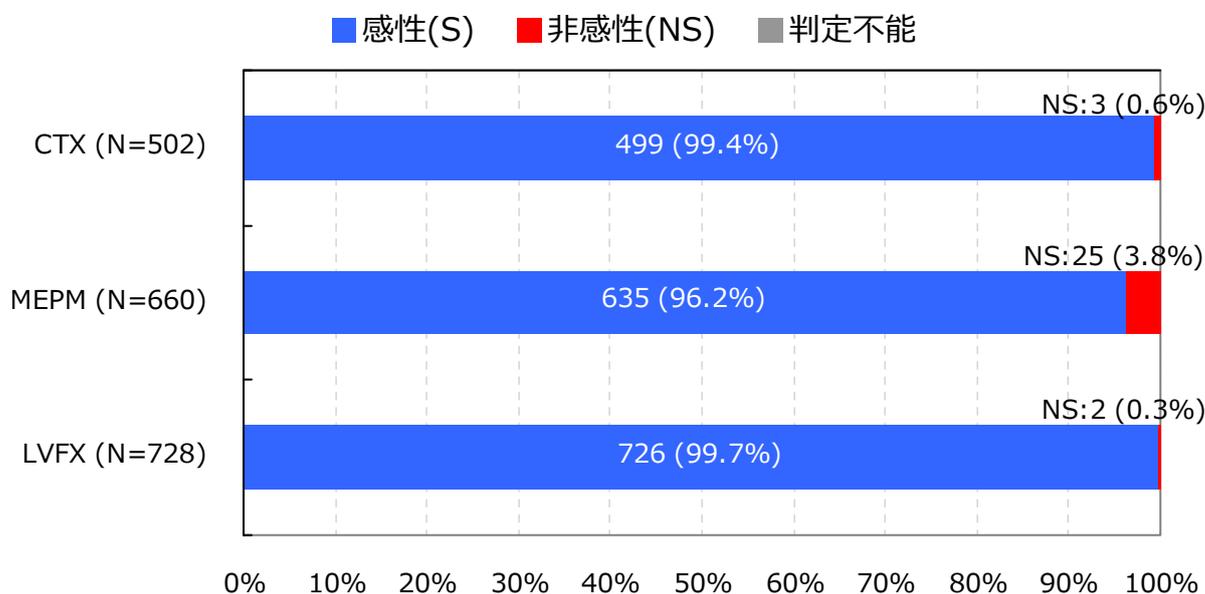
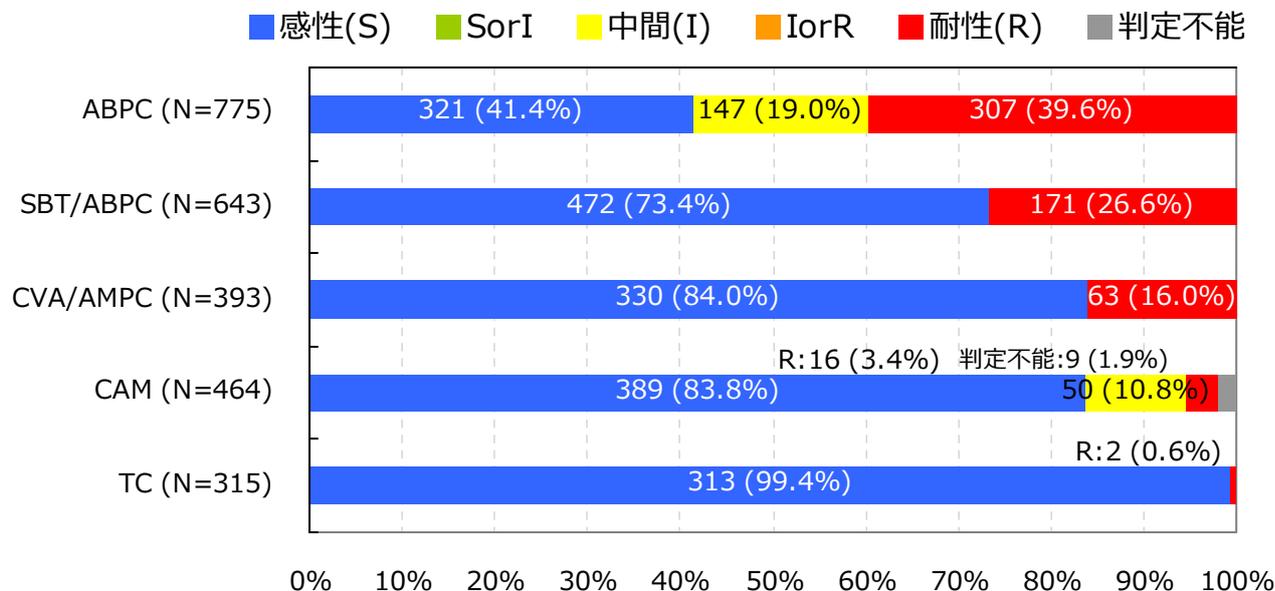
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 4400~4403と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Haemophilus influenzae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

【巻末資料1 微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準】

菌名‡	概要*	微量液体希釈法 MIC 値	菌名コード Ver.4.0
MRSA	MPIPC が “R” の <i>Staphylococcus aureus</i> または選択培地で MRSA と確認された菌	MPIPC $\geq 4\mu\text{g/ml}$	1301,1303
VRSA	VCM が微量液体希釈法で “R” の <i>Staphylococcus aureus</i>	VCM $\geq 16\mu\text{g/ml}$	1301,1303-1306
VRE	下記のいずれかの条件を満たす <i>Enterococcus</i> spp. ・VCM が微量液体希釈法で耐性‡ ・選択培地で VRE と確認された菌 注) 種の同定が行われていない <i>Enterococcus</i> sp. は除く	VCM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †	1201,1202,1205, 1206,1209,1210, 1213-1217
PRSP	PCG が微量液体希釈法で耐性‡ の <i>Streptococcus pneumoniae</i>	PCG $\geq 0.125\mu\text{g/ml}$ †	1131
MDRP	下記全てに該当する <i>Pseudomonas aeruginosa</i> 1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が微量液体希釈法で耐性‡ 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性‡ 3. フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, CFX, LFLX, GFLX の何れか) が “R”	1. IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †、 MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ † 2. AMK $\geq 32\mu\text{g/ml}$ † 3. NFLX $\geq 16\mu\text{g/ml}$ 、 OFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 LFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 CFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$	4001
MDRA	下記全てに該当する <i>Acinetobacter</i> spp. 1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が “R” 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性‡ 3. フルオロキノロン系 (LVFX, CFX, GFLX の何れか) が “R”	1. IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †、 MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ † 2. AMK $\geq 32\mu\text{g/ml}$ † 3. LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 CFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$	4400-4403
CRE	下記の何れかの条件を満たす腸内細菌科 1. MEPM が耐性‡ 2. IPM が耐性‡、かつ CMZ が “R”	1. MEPM $\geq 2\mu\text{g/ml}$ † 2. IPM $\geq 2\mu\text{g/ml}$ † かつ CMZ $\geq 64\mu\text{g/ml}$	2000-2691, 3150-3151
カルバペネム 耐性緑膿菌	IPM または MEPM が耐性‡ の <i>Pseudomonas aeruginosa</i>	IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ † MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †	4001
第三世代セファロ スポリン耐性 肺炎桿菌	CTX または CAZ が “R” の <i>Klebsiella pneumoniae</i>	CTX $\geq 4\mu\text{g/ml}$ CAZ $\geq 16\mu\text{g/ml}$	2351

菌名‡	概要*	微量液体希釈法 MIC 値	菌名コード Ver.4.0
第三世代セファロ スポリン耐性 大腸菌	CTX または CAZ が “R” の <i>Escherichia coli</i>	CTX $\geq 4\mu\text{g/ml}$ CAZ $\geq 16\mu\text{g/ml}$	2001-2007
フルオロキノロン 耐性大腸菌	フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, LFLX, GFLX, CFX の何れか) が “R” の <i>E. coli</i>	NFLX $\geq 16\mu\text{g/ml}$ 、 OFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 LFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 CFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$	2001-2007

\*原則 S,I,R の判定は CLSI2012 (M100-S22) に準拠

† 感染症発生动向調査の基準に準拠

‡ 菌名は以下の通り

- MRSA : Methicillin-resistant *S. aureus* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌
- VRSA : Vancomycin-resistant *S. aureus* バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌
- VRE : Vancomycin-resistant *Enterococcus* spp. バンコマイシン耐性腸球菌
- PRSP : Penicillin-resistant *S. pneumoniae* ペニシリン耐性肺炎球菌
- MDRP : Multidrug-resistant *P. aeruginosa* 多剤耐性緑膿菌
- MDRA : Multidrug-resistant *Acinetobacter* spp. 多剤耐性アシネトバクター属
- CRE : Carbapenem-Resistant Enterobacteriaceae カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 (2015年1月より集計開始)

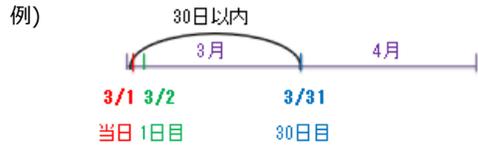
2014年12月分データまでは CLSI2007 (M100-S17)、2015年1月分データより CLSI2012 (M100-S22) に準拠する。

薬剤耐性菌判定基準 (Ver.3.1) と 検査部門特定の耐性菌判定基準 (Ver.4.1) を基に作成した。

【巻末資料 2 公開情報の集計方法について】

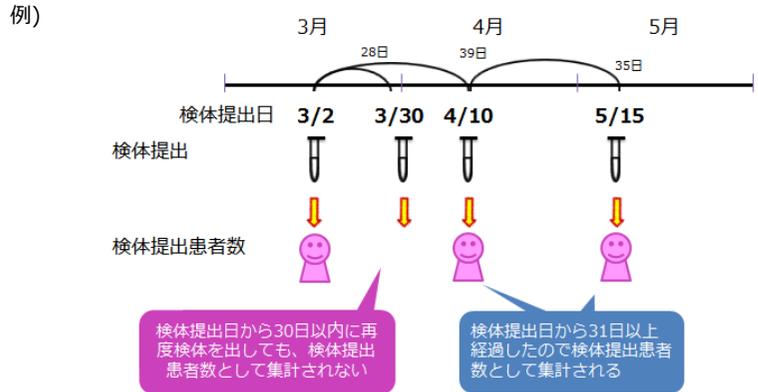
1. 日数の数え方

検体提出日の翌日を 1 日目とする。検体提出日が 3 月 1 日とすると、1 日目が 3 月 2 日、30 日目が 3 月 31 日となる。



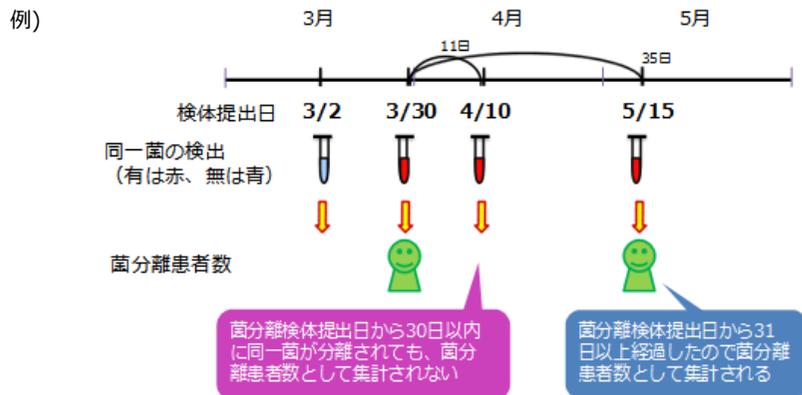
2. 検体提出患者数

検体提出患者数は、検体の種類や菌分離の有無に関わらず検体(入院検体)が提出された患者の数である。検体提出患者数は重複処理を行っており、30 日以内の同一患者からの複数の検体提出は 1 件とする。



3. 菌分離患者数

菌分離患者数も検体提出患者と同様の重複処理を行い、30 日以内に同一患者から同一菌が複数回検出された場合、菌分離患者数は 1 件とする。耐性菌分離患者数は、耐性菌の基準に合致する菌をまず抽出し、その中で上記重複処理を行っている。



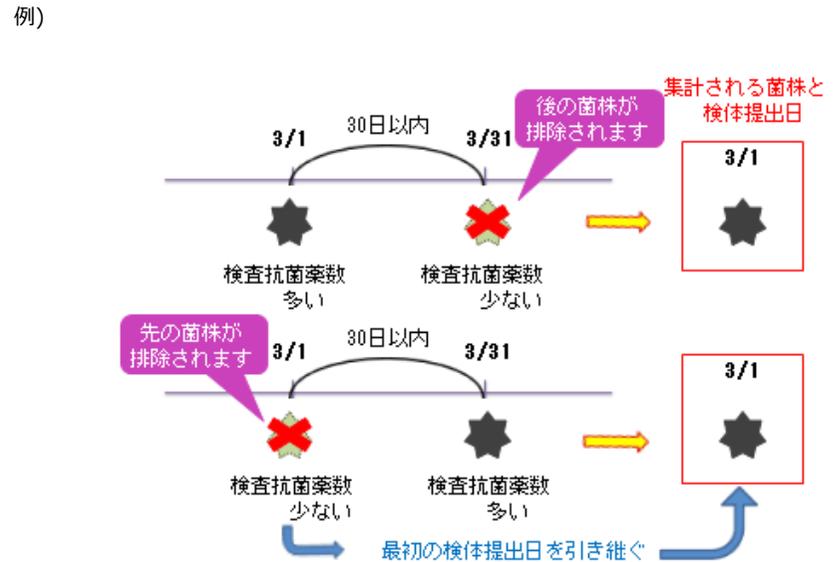
4. 抗菌薬感受性検査結果をもとにした同一菌と異なる菌との区別

30 日以内に同一患者から同一菌が検出された場合であっても、検査抗菌薬感受性結果に 1 つ以上不一致(下記①～④のいずれかに該当)がある場合は異なる菌株として集計される。

- ① MIC 値に 4 倍以上の違いがある  
ただし、MIC > 2 は MIC ≥ 4 と考え、判定時は MIC = 4 として扱う  
また、MIC < 16 は MIC ≤ 16 と考え、判定時は MIC = 16 として扱う
- ② SIR 判定では「S と R」の組み合わせ
- ③ +/- 判定では「-と++」または「+と+++」または「-と+++」の組み合わせ
- ④ 共通する検査抗菌薬数が 5 未満

5. 抗菌薬感受性結果の重複処理

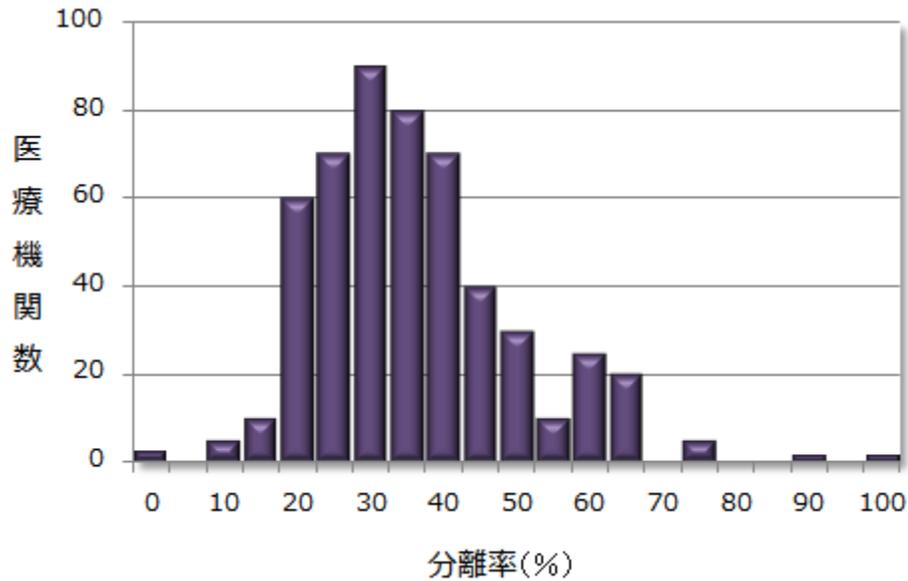
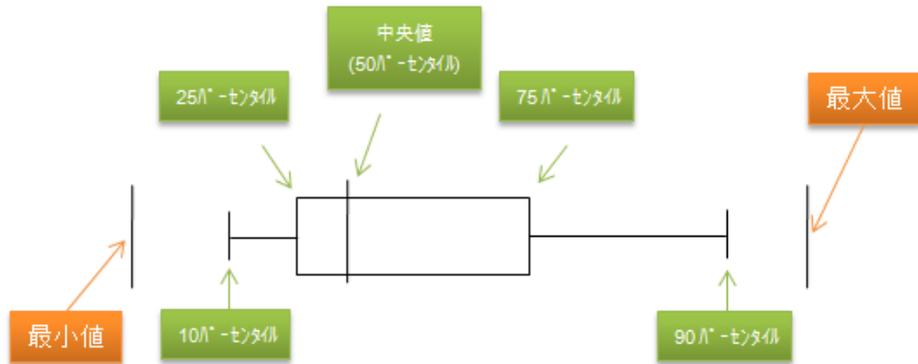
検体提出日が先の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内)の後の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、後の菌株の抗菌薬感受性検査結果は排除する。また、検体提出日が後の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内)の先の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、先の菌株の抗菌薬感受性検査結果を排除するが、先の検査の検体提出日を引き継ぐ。



【巻末資料 3 箱ひげ図について】

1. 箱ひげ図について

集計対象医療機関のデータのばらつきを示し、集計対象医療機関における自施設の位置を確認することができる。



※ パーセンタイル：値を小さいものから大きいものへと順番に並べ、全体を 100 として何番目であるかを表したものの。  
 例えば、10 パーセンタイルは、全体を 100 として小さいほうから数えて 10 番目の計測値を示している。

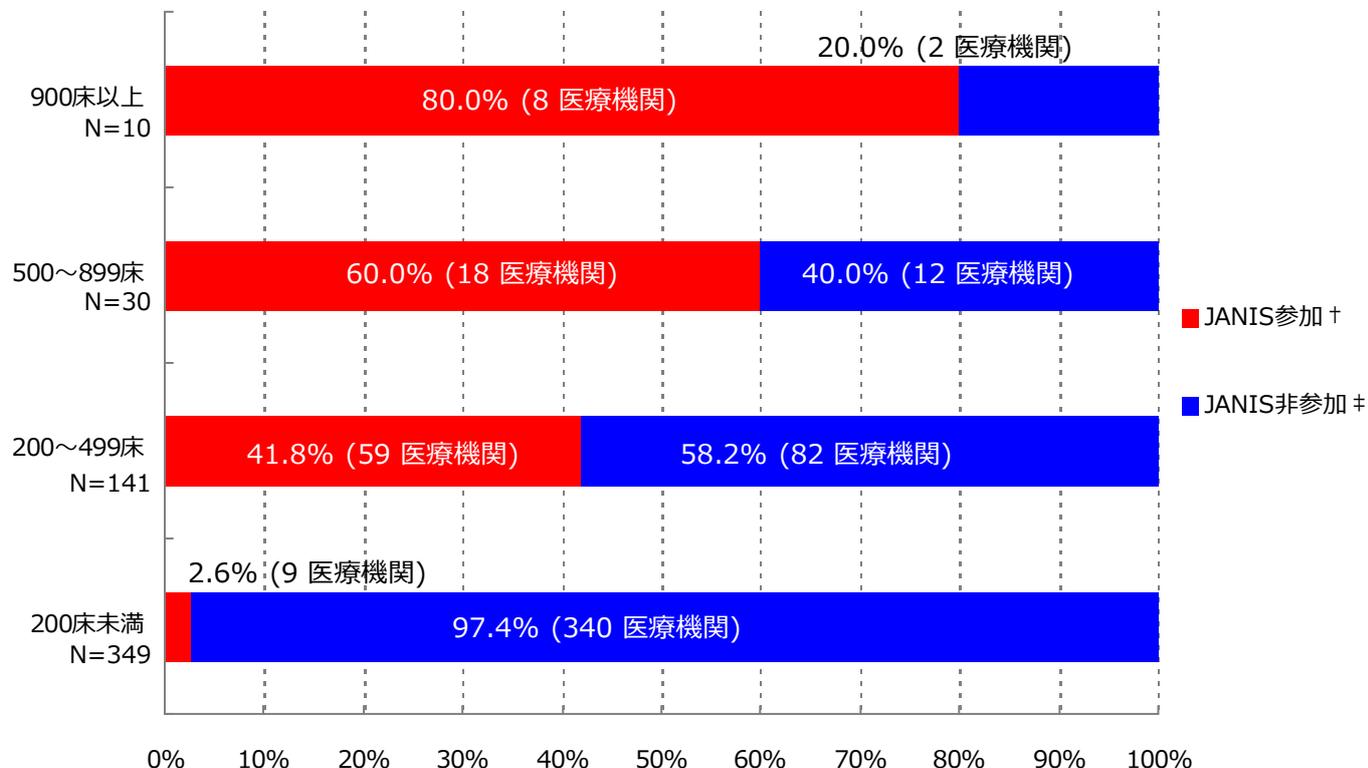
2. 公開情報の箱ひげ図



		集計対象医療機関の分離率 (%)の分布	
2010年 *	2011年		
1,069,216人	1,309,993人		
175,145人 (16.38%)	210,382人 (16.06%)	2.43	15.96 46.06
47,523人 (4.44%)	64,588人 (4.93%)	0.00	3.21 37.54



### 1. データ提出医療機関\*数(94医療機関)



\*ここではデータ提出医療機関は集計対象医療機関を表す

† JANIS参加 = 2015年1～12月 集計対象医療機関数

‡ JANIS非参加 = (2014年 都道府県別医療機関数¶) - (2015年1～12月 集計対象医療機関数)

病床数	2014年 都道府県別医療機関数¶	2015年1月～12月 集計対象医療機関数 (都道府県別医療機関数に占める割合)
900床以上	10	8 ( 80.0% )
500～899床	30	18 ( 60.0% )
200～499床	141	59 ( 41.8% )
200床未満	349	9 ( 2.6% )
病床数不明	-	0 ( - )
合計	530	94 ( 17.7% )

¶平成26年医療施設（動態）調査を参照した

## 2. データ提出医療機関数、検体数、分離菌数

検査材料分類	集計対象医療機関数	検体数	陽性検体数 (分離菌数)
呼吸器系検体	94	188,050	111,126 (227,015)
尿検体	94	73,079	36,576 (55,523)
便検体	93	40,722	23,027 (47,740)
血液検体	94	193,914	23,440 (25,580)
髄液検体	83	6,626	254 (266)
その他	94	112,595	48,221 (81,610)
合計	94	614,986	242,644 (437,734)

入院として報告された検体を集計

集計対象菌：コメントのみ(菌名コード9999)の報告以外の全ての菌

検査材料分類は以下に該当する検査材料コードを集計

呼吸器系検体：

101(喀出痰)、102(気管内採痰)、103(気管支洗浄液)、104(咽頭粘液)、105(鼻腔内)、106(口腔内)、  
107(生検材料(肺))、109(その他(呼吸器))、404(胸水)

尿検体：

201(自然排尿)、202(採尿カテーテル)、203(留置カテーテル)、206(カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能))

便検体：

301(糞便)

血液検体：

401(静脈血)、402(動脈血)

髄液検体：

403(髄液)

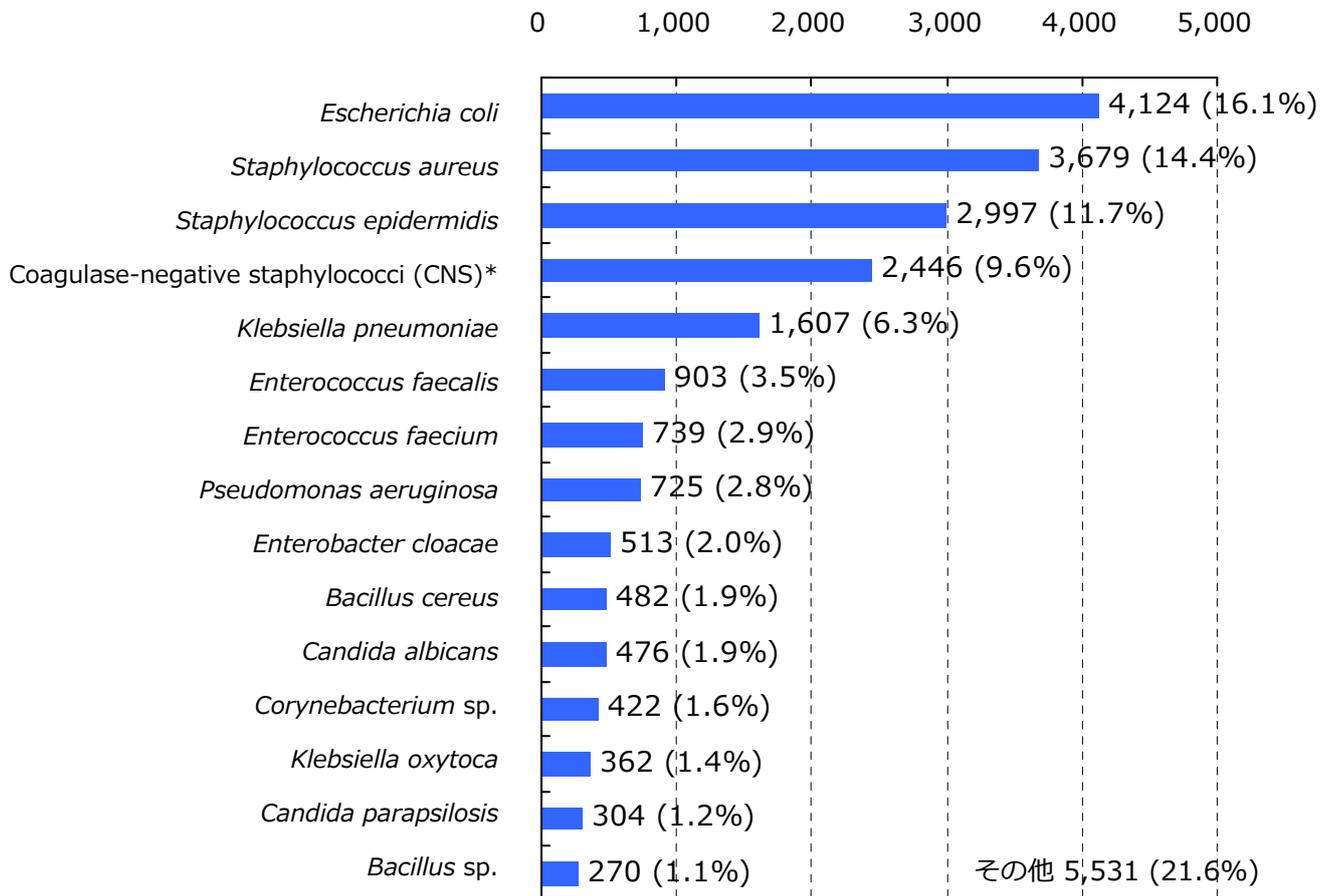
その他：上記以外の検査材料コード

検査材料コード：JANISホームページ>各部門について>検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>



### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 血液検体分離菌 (N=25,580)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：静脈血(検査材料コード401)と動脈血(同402)

血液検体分離菌数割合 = (対象菌の血液検体分離菌数) ÷ (血液検体分離菌数合計) × 100

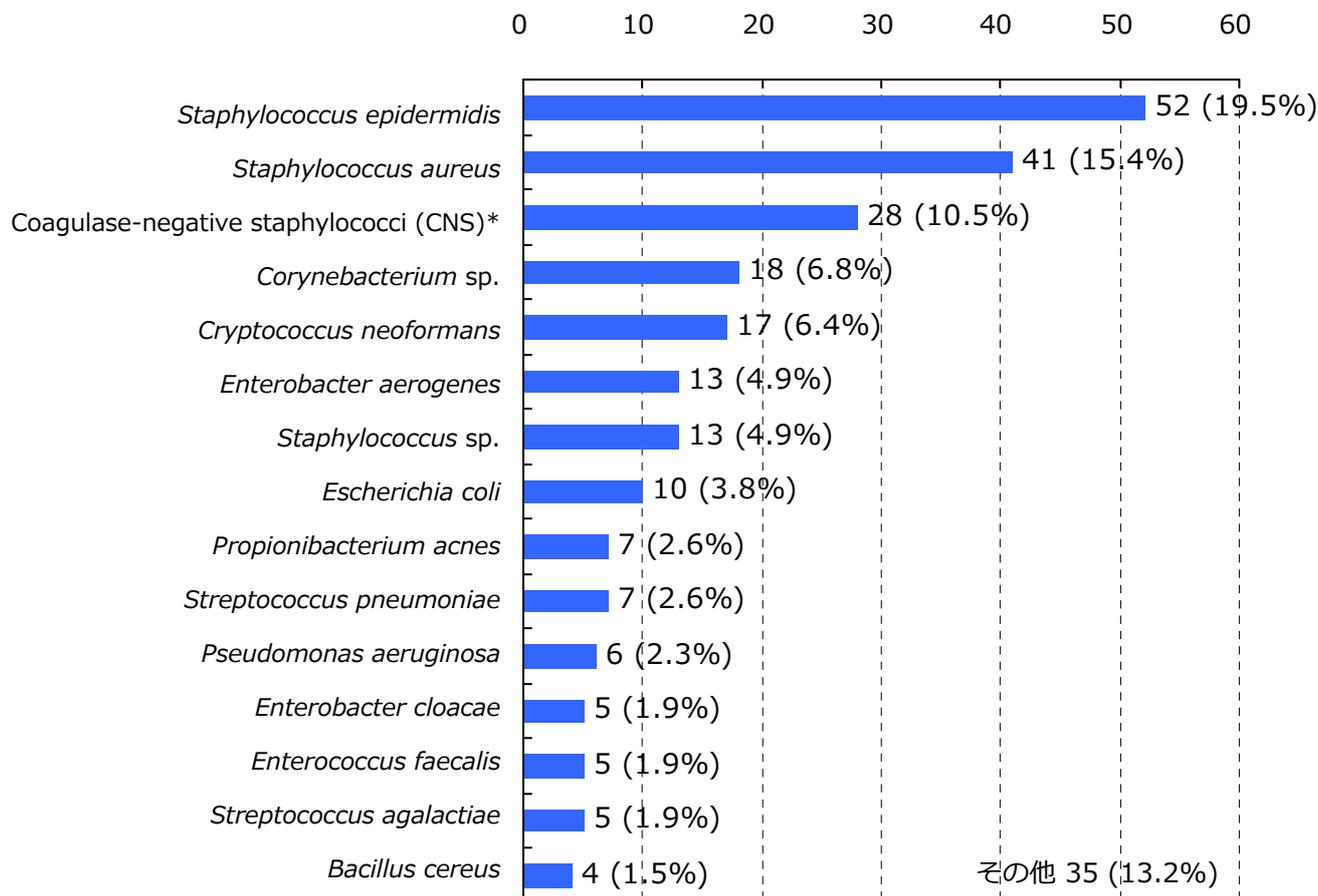
菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>



### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 髄液検体分離菌 (N=266)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

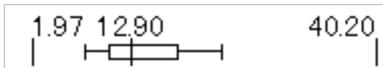
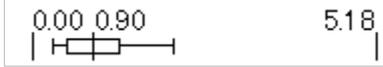
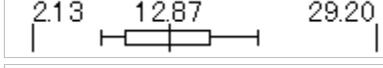
集計対象検査材料：髄液(検査材料コード403)

髄液検体分離菌数割合 = (対象菌の髄液検体分離菌数) ÷ (髄液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

## 4. 主要菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

	2011年 患者数 (分離率‡)	2012年 患者数 (分離率‡)	2013年 患者数 (分離率‡)	2014年 患者数 (分離率‡)	2015年 患者数 (分離率‡)	集計対象医療機関の分離率¶ (%)の分布
検体提出患者数	-	-	-	-	212,668人	
<i>S. aureus</i>	-	-	-	-	28,640人 (13.47%)	1.97 12.90 40.20 
<i>S. epidermidis</i>	-	-	-	-	5,552人 (2.61%)	0.00 2.22 16.42 
<i>S. pneumoniae</i>	-	-	-	-	2,248人 (1.06%)	0.00 0.90 5.18 
<i>E. faecalis</i>	-	-	-	-	9,865人 (4.64%)	0.00 4.53 20.06 
<i>E. faecium</i>	-	-	-	-	4,005人 (1.88%)	0.00 1.63 10.05 
<i>E. coli</i>	-	-	-	-	25,115人 (11.81%)	2.13 12.87 29.20 
<i>K. pneumoniae</i>	-	-	-	-	11,914人 (5.60%)	0.00 5.47 16.42 
<i>Enterobacter spp.</i>	-	-	-	-	7,102人 (3.34%)	0.00 3.15 9.85 
<i>S. marcescens</i>	-	-	-	-	2,002人 (0.94%)	0.00 0.83 3.44 
<i>P. aeruginosa</i>	-	-	-	-	12,401人 (5.83%)	0.00 5.90 36.03 
<i>Acinetobacter spp.</i>	-	-	-	-	2,230人 (1.05%)	0.00 0.84 5.38 

入院として報告された検体を集計

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

全体の分離率

= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

## 5. 特定の耐性菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

	2011年 患者数 (分離率 †)	2012年 患者数 (分離率 †)	2013年 患者数 (分離率 †)	2014年 患者数 (分離率 †)	2015年 患者数 (分離率 †)	集計対象医療機関の分離率‡ (%)の分布
検体提出患者数	-	-	-	-	212,668人	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)	-	-	-	-	14,907人 (7.01%)	0.74 6.56 35.12   H □ I
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA)	-	-	-	-	0人 (0.00%)	0.00 
バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)	-	-	-	-	14人 (0.01%)	0.00 0.00 0.15 
ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)	-	-	-	-	761人 (0.36%)	0.00 0.27 1.87   H □ I
多剤耐性緑膿菌(MDRP)	-	-	-	-	237人 (0.11%)	0.00 0.05 1.87   H □ I
多剤耐性アシネトバクター属(MDRA)	-	-	-	-	2人 (0.00%)	0.00 0.00 0.04 
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)	-	-	-	-	672人 (0.32%)	0.00 0.25 1.38   H □ I
カルバペネム耐性緑膿菌	-	-	-	-	1,764人 (0.83%)	0.00 0.62 3.13   H □ I
第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌	-	-	-	-	661人 (0.31%)	0.00 0.23 1.71   H □ I
第三世代セファロスポリン耐性大腸菌	-	-	-	-	4,608人 (2.17%)	0.00 2.17 8.97   H □ I
フルオロキノロン耐性大腸菌	-	-	-	-	8,104人 (3.81%)	0.00 3.86 19.87   H □ I

入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計  
MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

全体の分離率

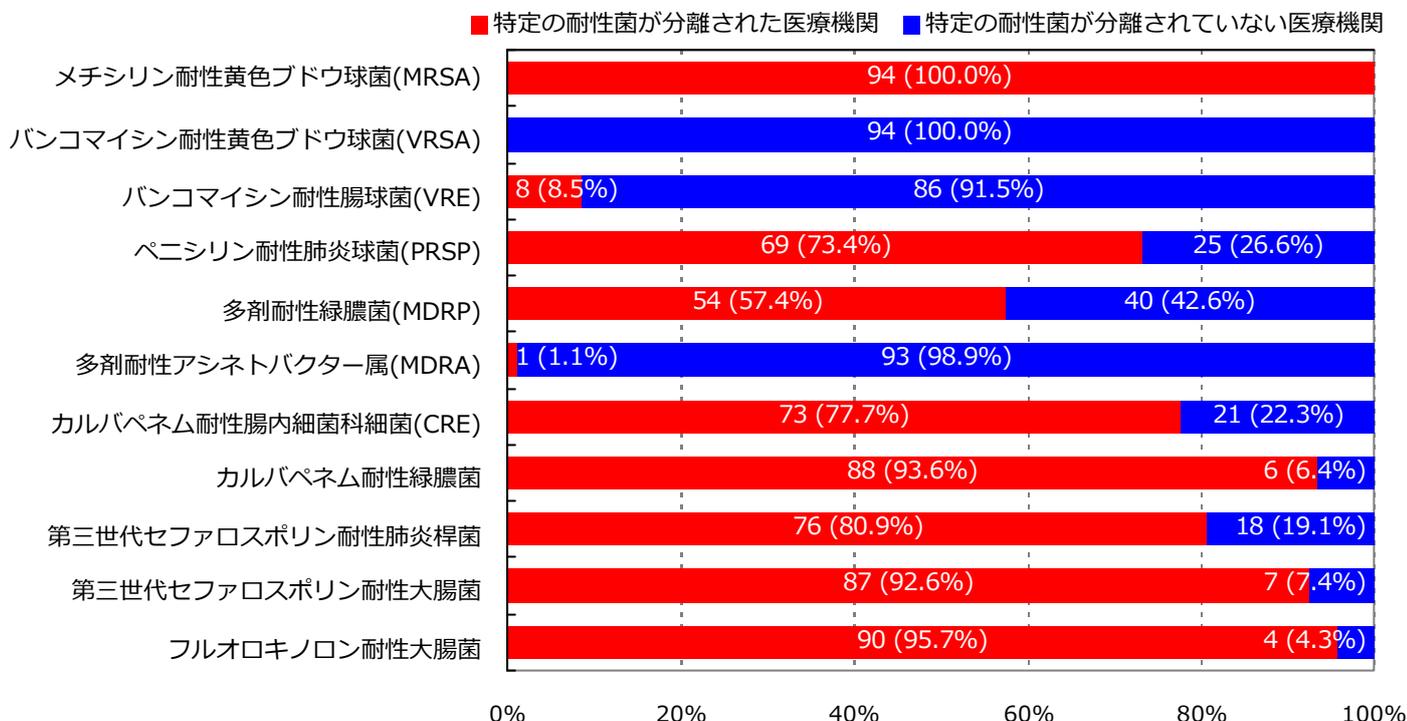
$$= (\text{集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計}) \div (\text{集計対象医療機関の検体提出患者数合計}) \times 100$$

$$\text{¶分離率} = (\text{対象菌の分離患者数}) \div (\text{検体提出患者数}) \times 100$$



### 6. 特定の耐性菌が分離された医療機関の割合

2015年 特定の耐性菌が分離された医療機関の割合 (N=94)



### 特定の耐性菌が分離された医療機関の割合 (過去5年間)

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
集計対象医療機関数	-	-	-	-	94
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)	-	-	-	-	100.0%
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA)	-	-	-	-	0.0%
バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)	-	-	-	-	8.5%
ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)	-	-	-	-	73.4%
多剤耐性緑膿菌(MDRP)	-	-	-	-	57.4%
多剤耐性アシネトバクター属(MDRA)	-	-	-	-	1.1%
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)	-	-	-	-	77.7%
カルバペネム耐性緑膿菌	-	-	-	-	93.6%
第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌	-	-	-	-	80.9%
第三世代セファロスポリン耐性大腸菌	-	-	-	-	92.6%
フルオロキノロン耐性大腸菌	-	-	-	-	95.7%

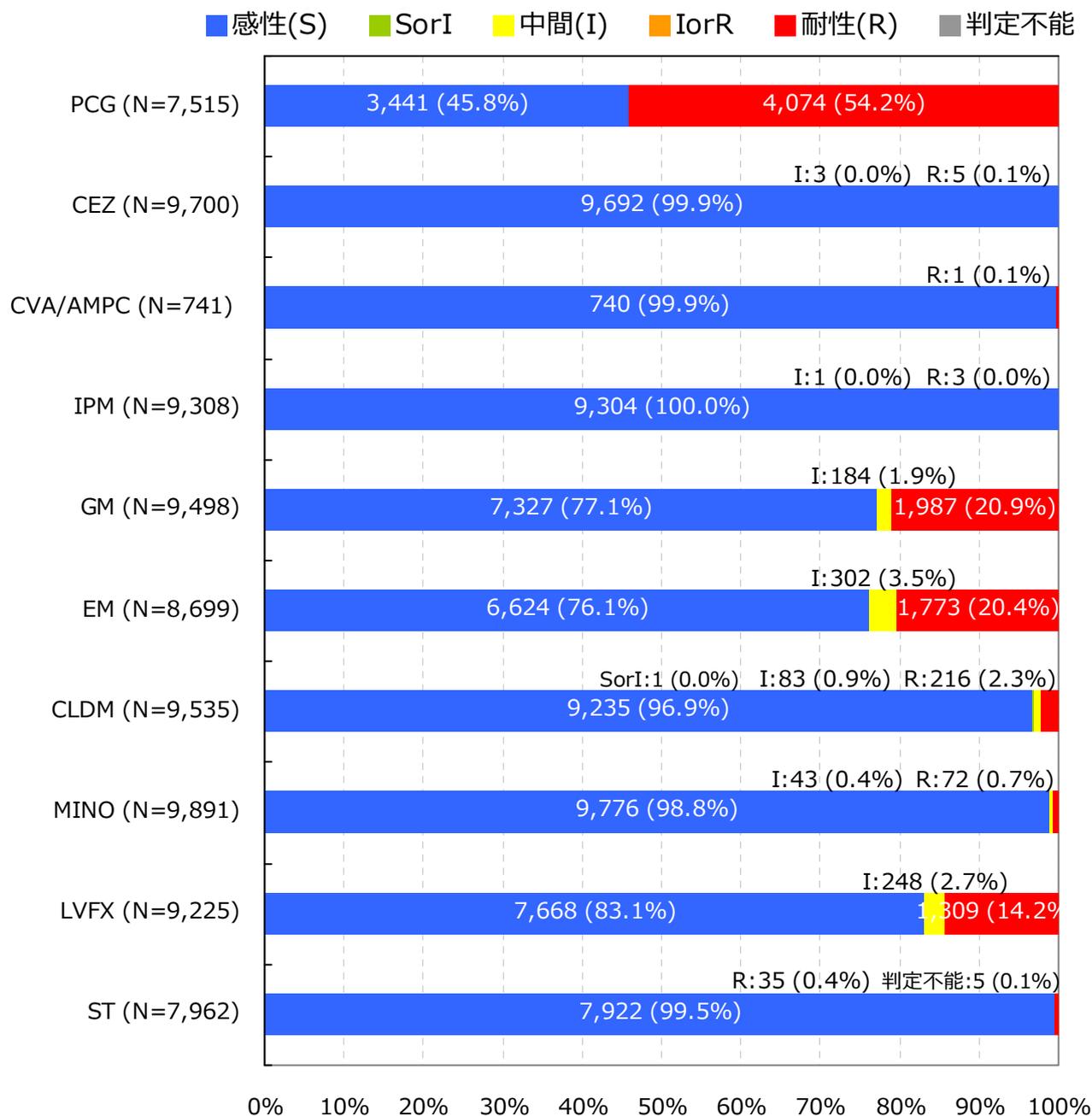
耐性菌判定薬剤(巻末資料参照)が未検査の場合、分離されていない医療機関として集計  
 入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計  
 MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む  
 特定の耐性菌が検出された集計対象医療機関の割合

$$= \frac{\text{特定の耐性菌が1株でも報告された医療機関数}}{\text{集計対象医療機関数}}$$



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MSSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

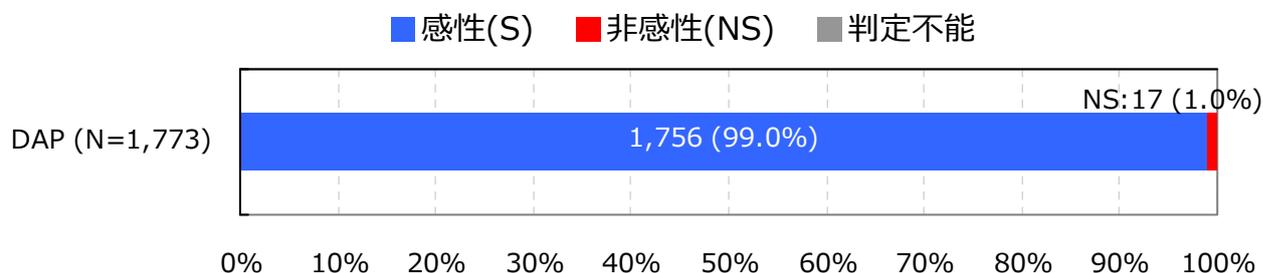
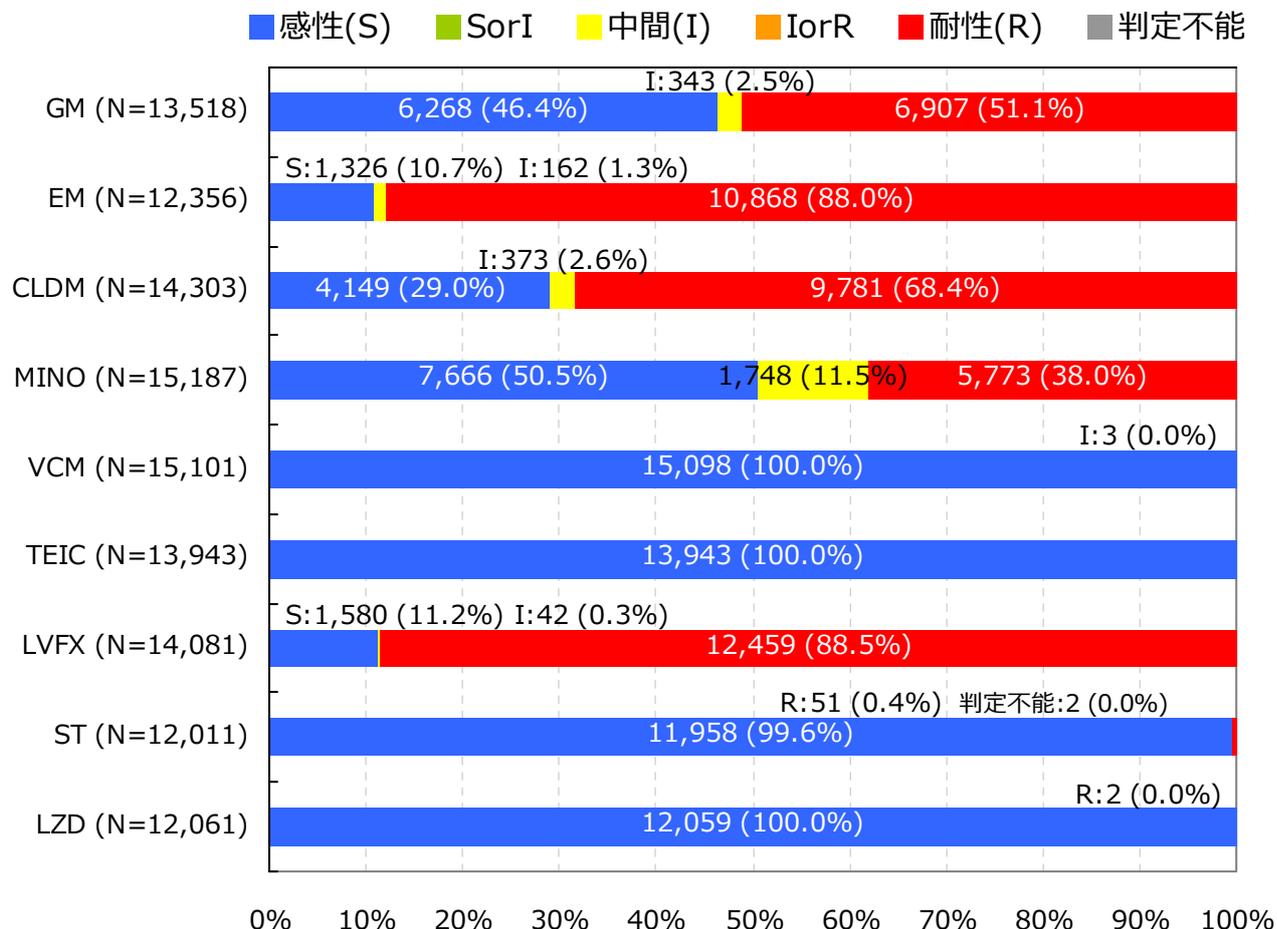
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1304, 1305, 1306と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「S」の菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MRSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

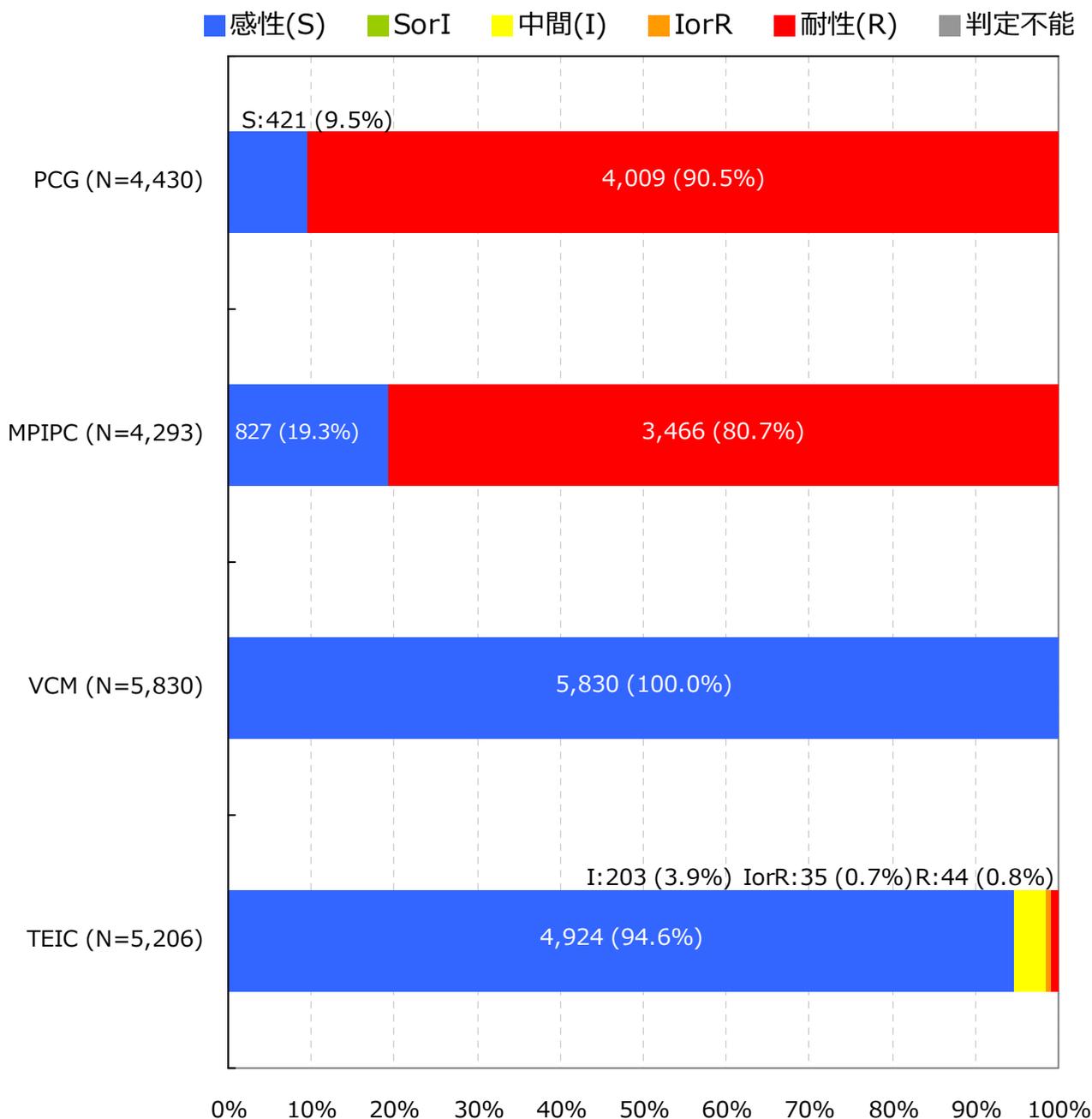
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1303と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「R」の菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus epidermidis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

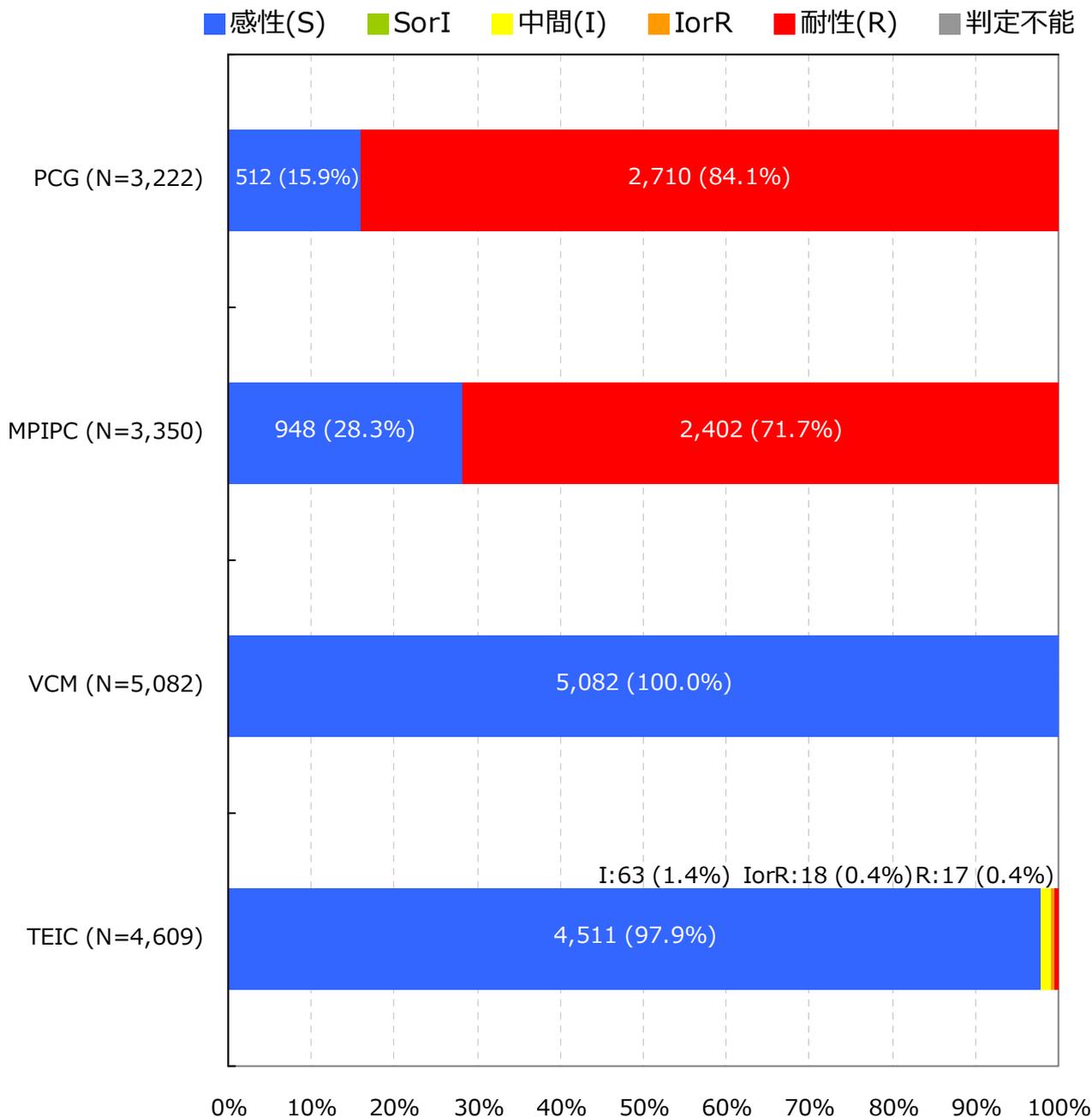
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1312と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### Coagulase-negative staphylococci (CNS) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

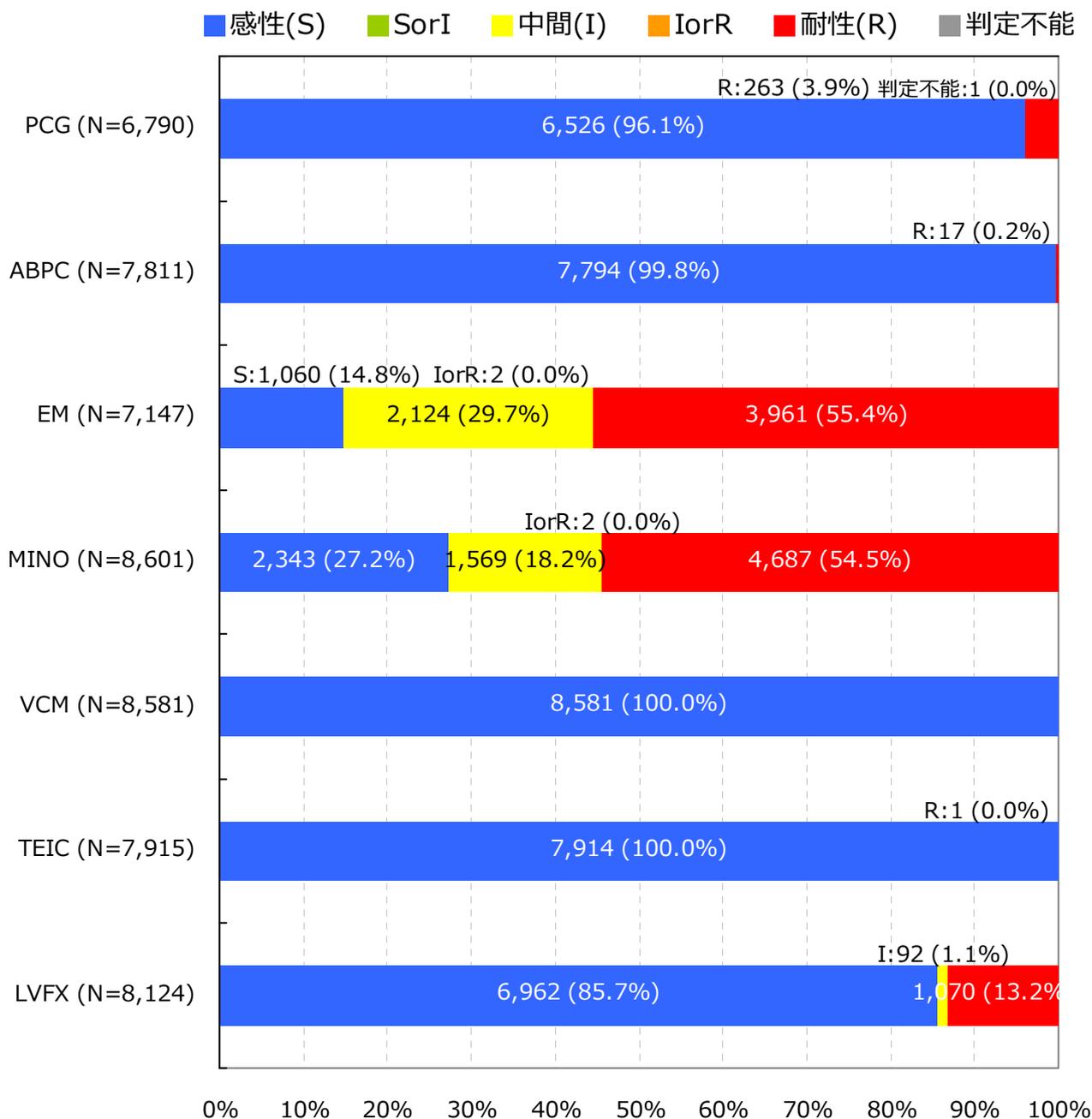
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1311, 1313～1325と報告された菌 (1312 : *Staphylococcus epidermidis*は対象外)



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecalis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

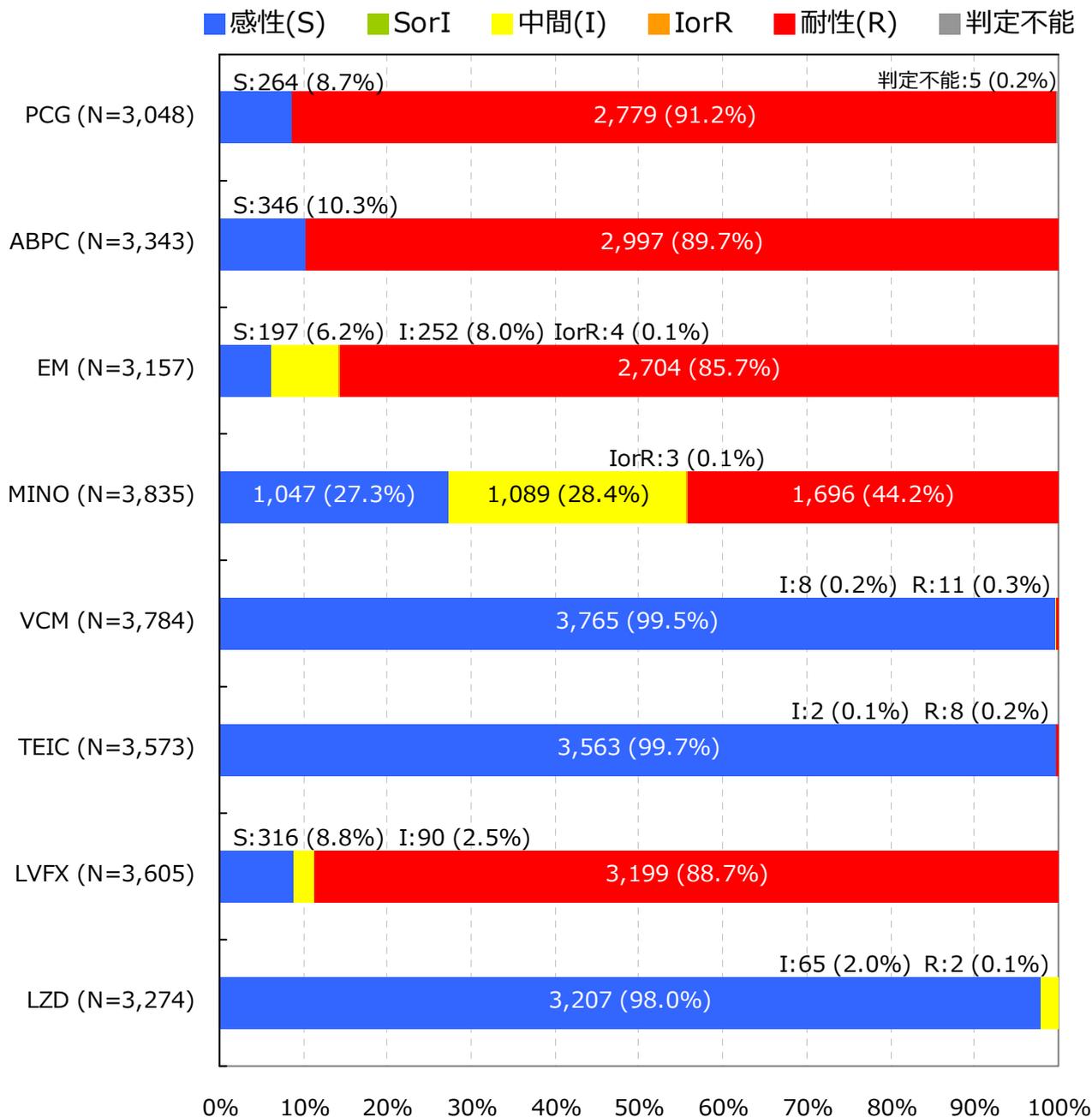
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1201, 1202と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecium* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

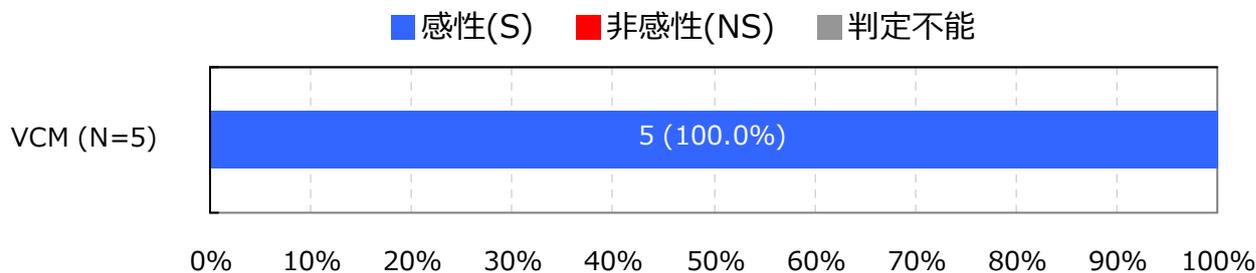
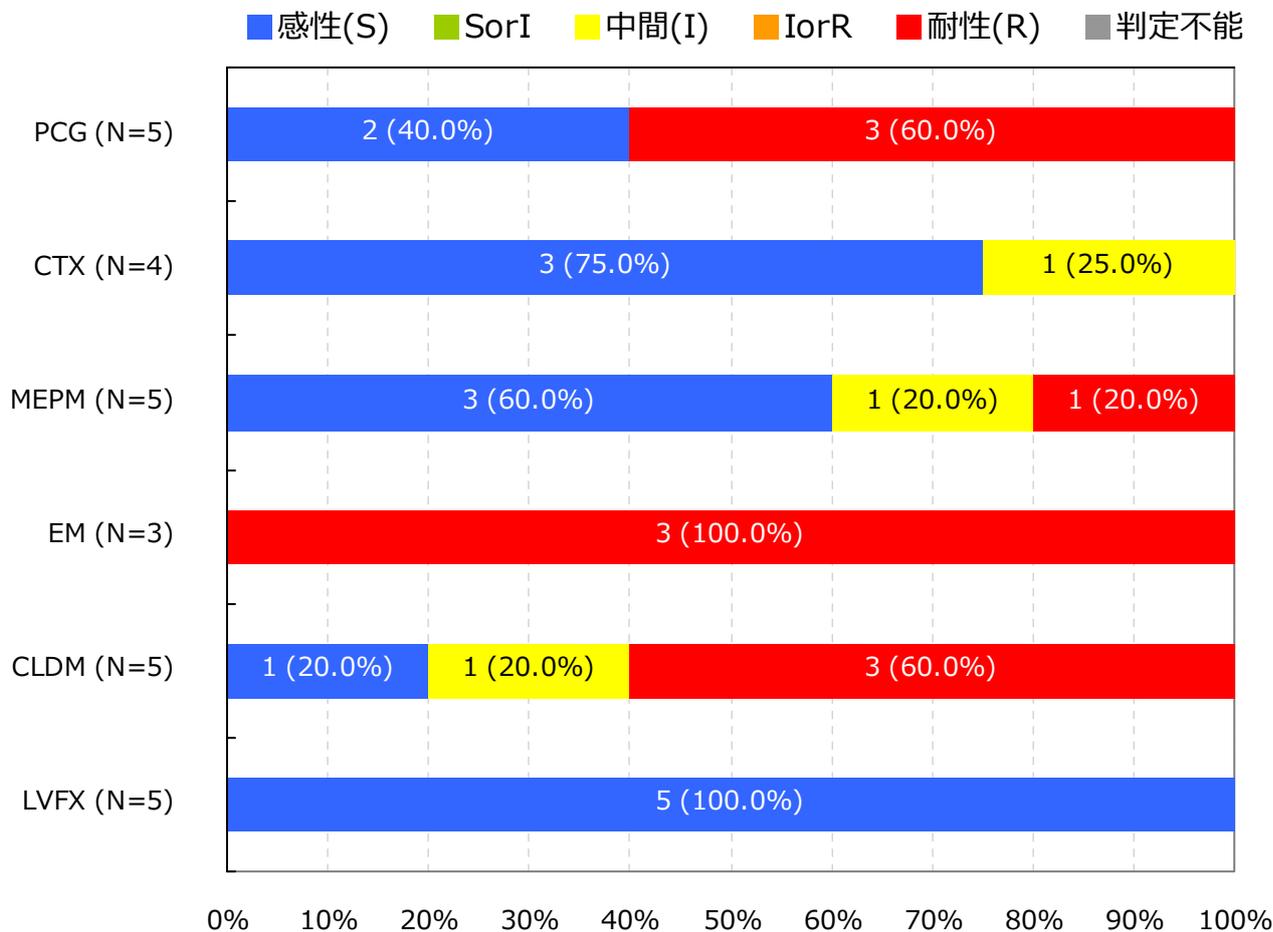
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1205, 1206と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pneumoniae*(髄液検体) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

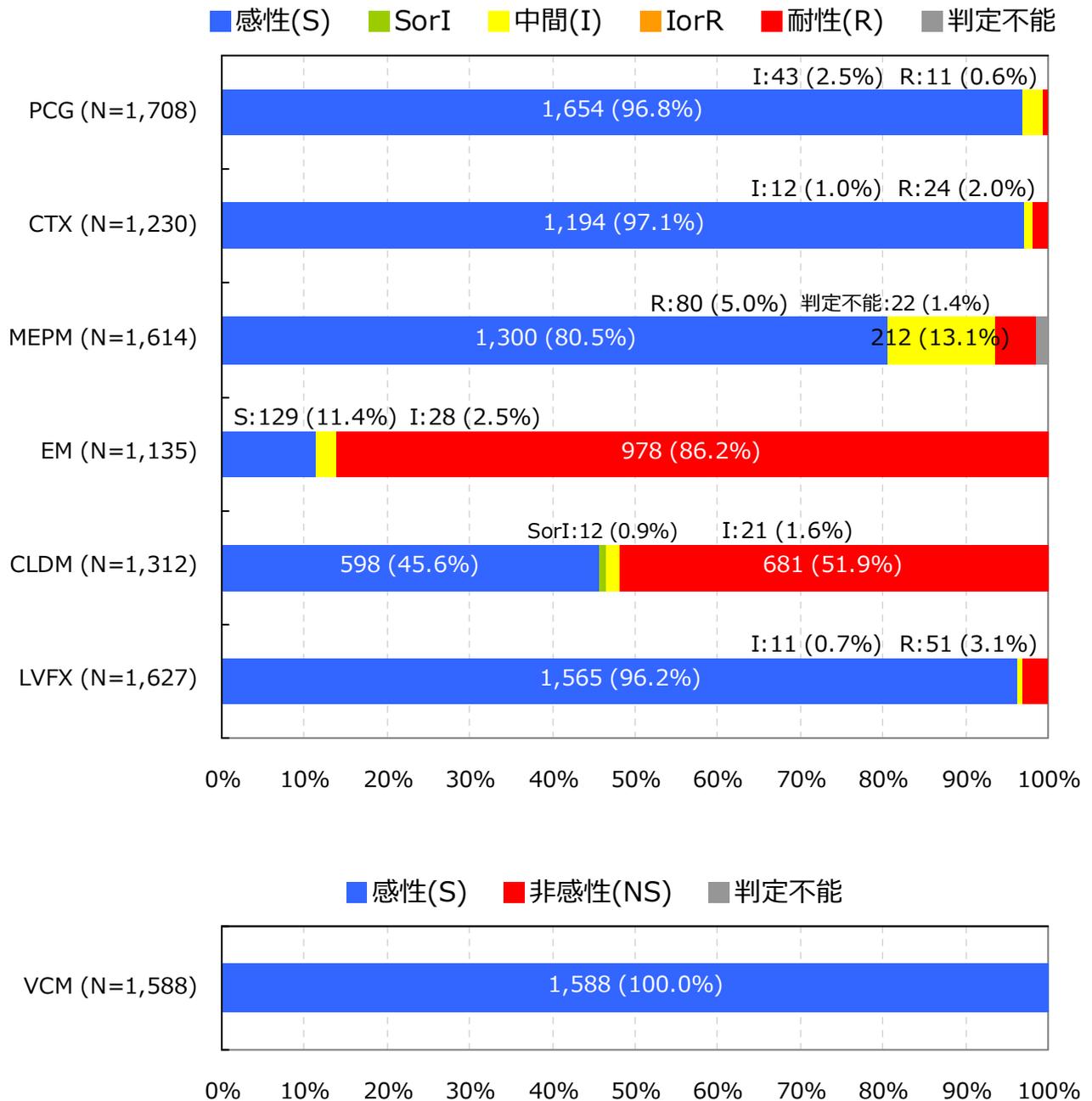
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1131と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pneumoniae*(髄液検体以外) †



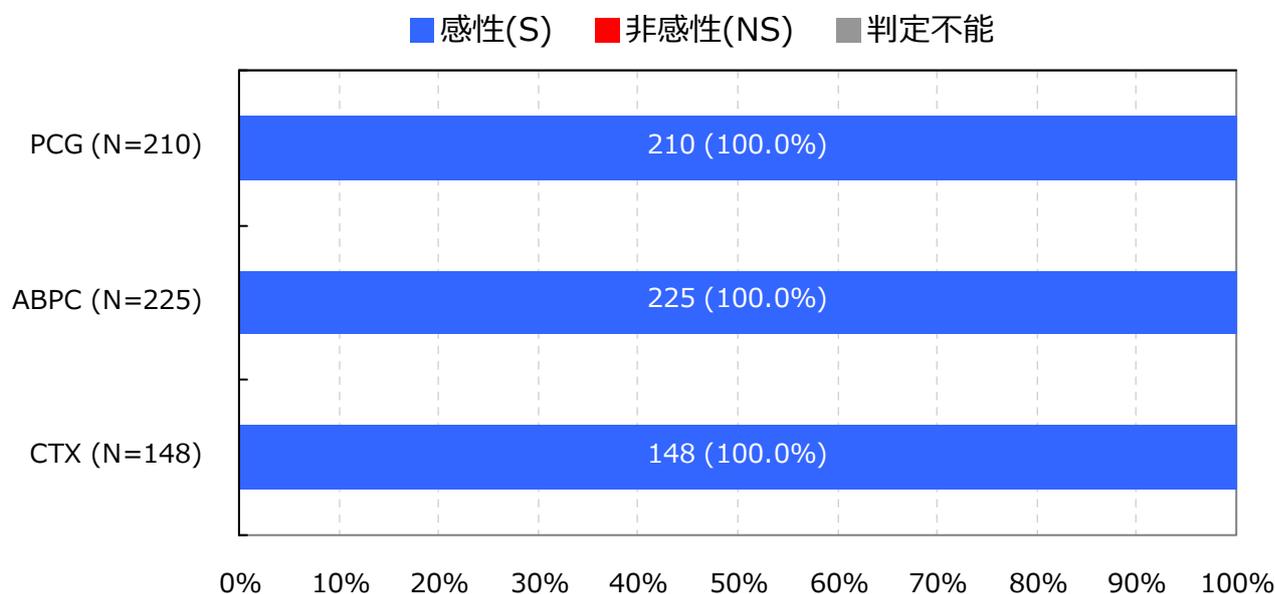
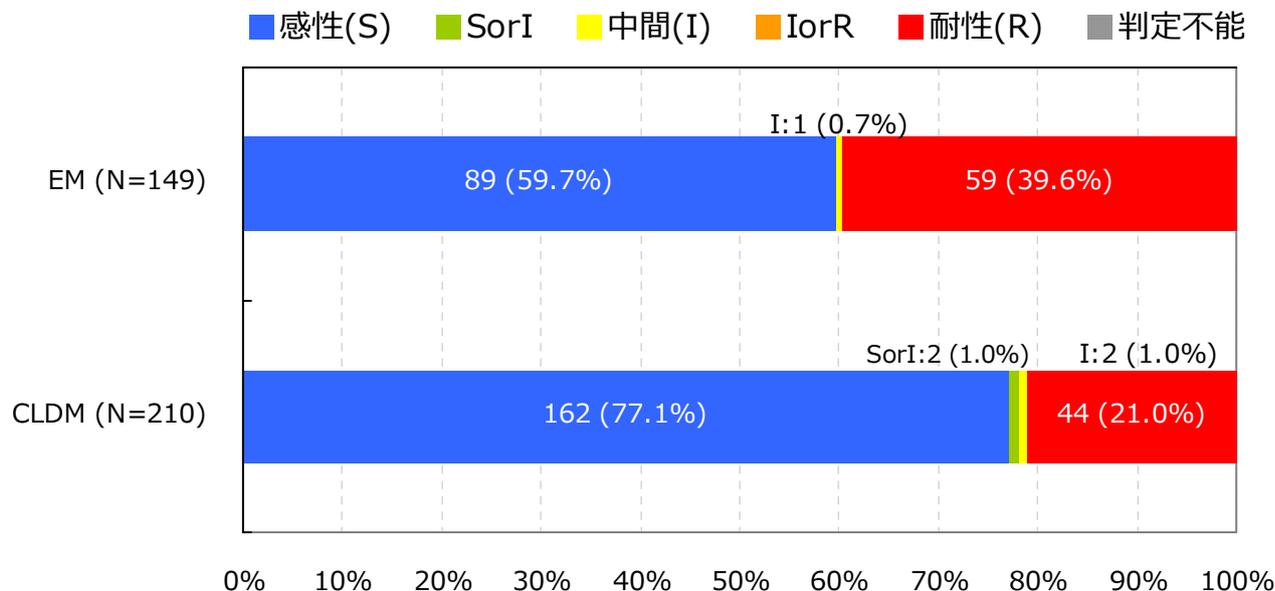
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1131と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pyogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

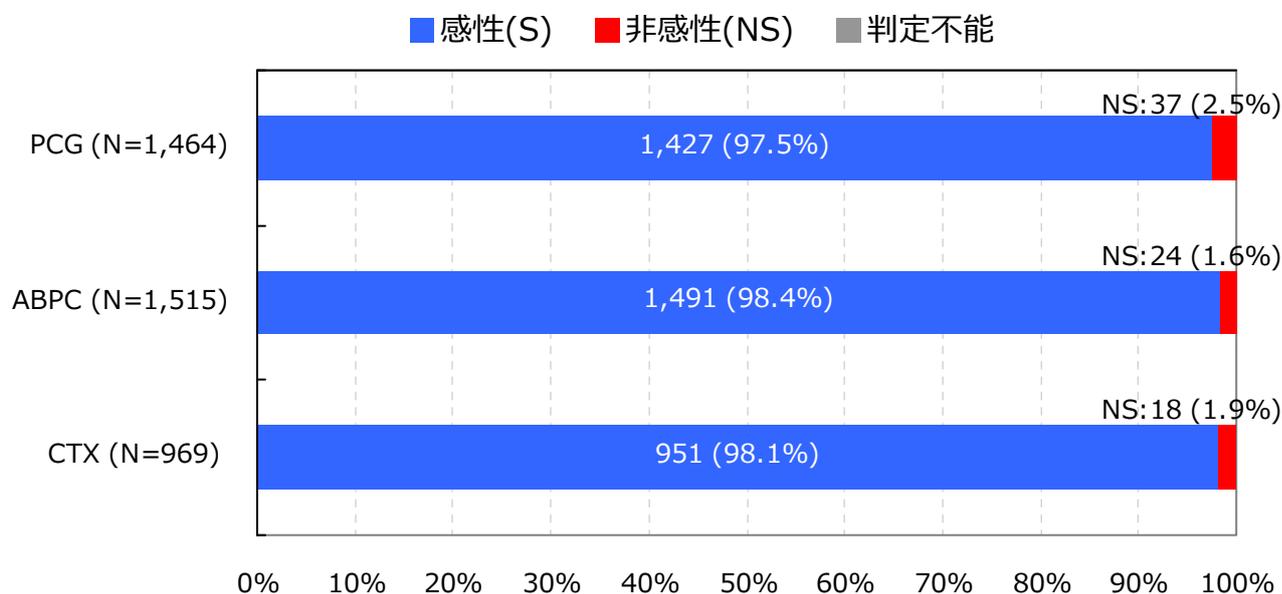
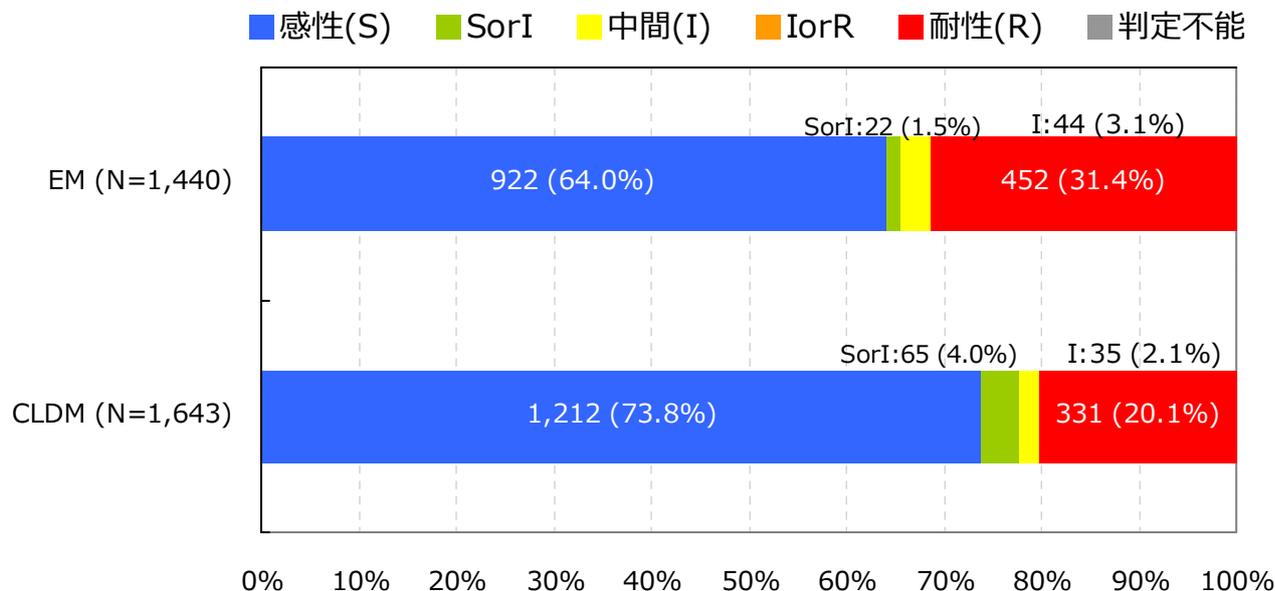
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1111と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus agalactiae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

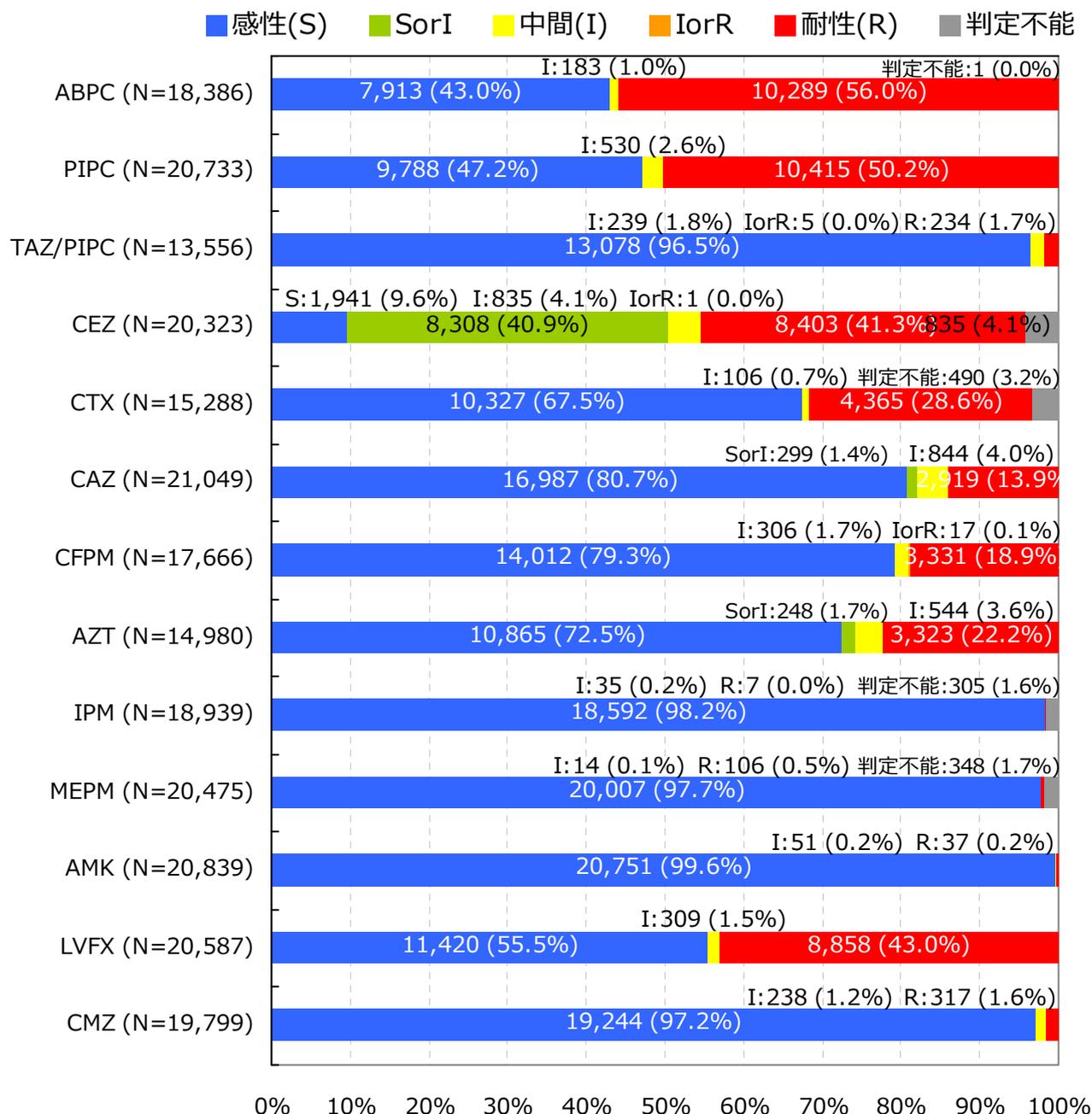
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1114と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Escherichia coli* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

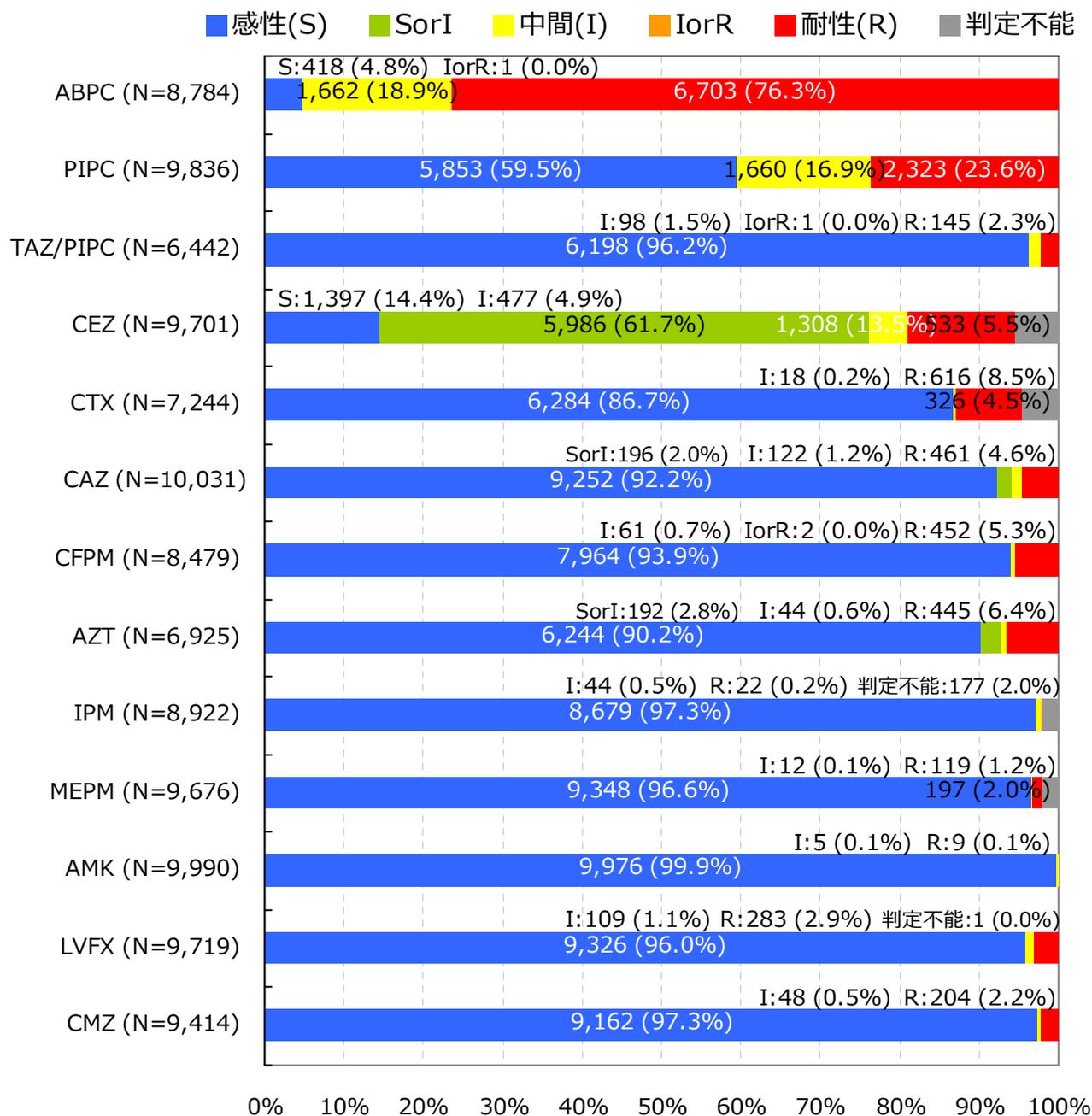
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード: 2001~2007と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Klebsiella pneumoniae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

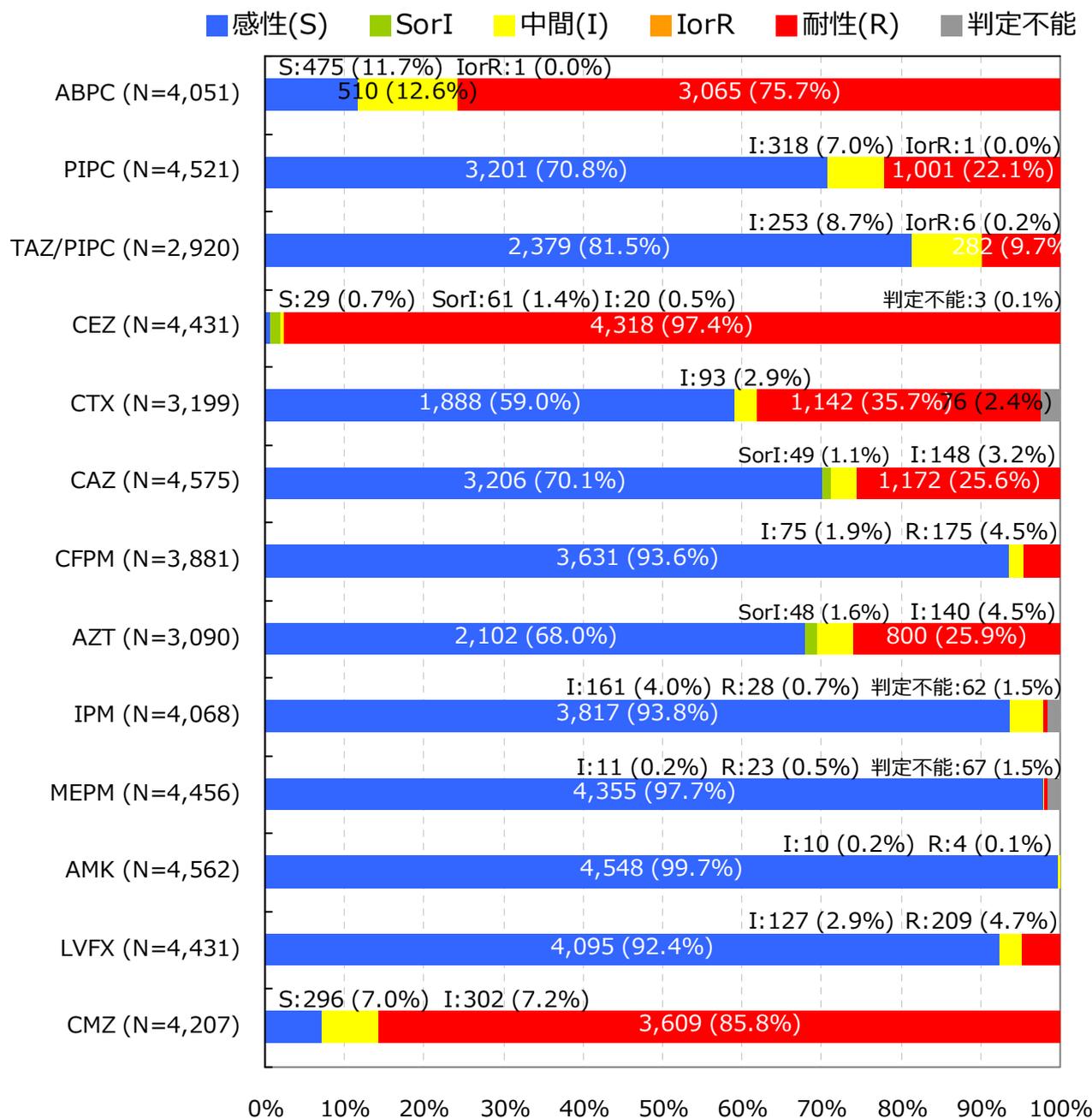
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2351と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterobacter cloacae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

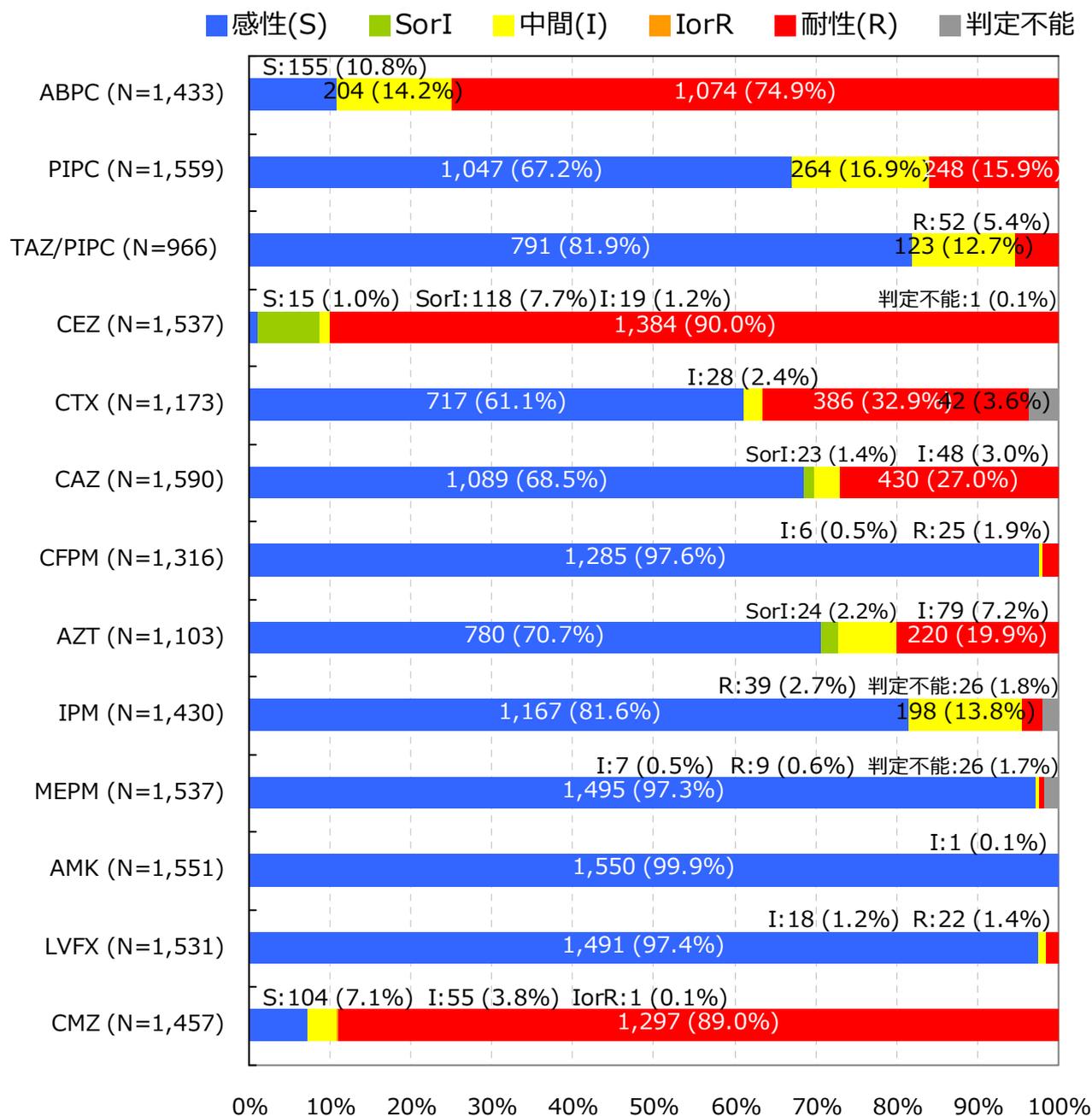
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2151と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterobacter aerogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

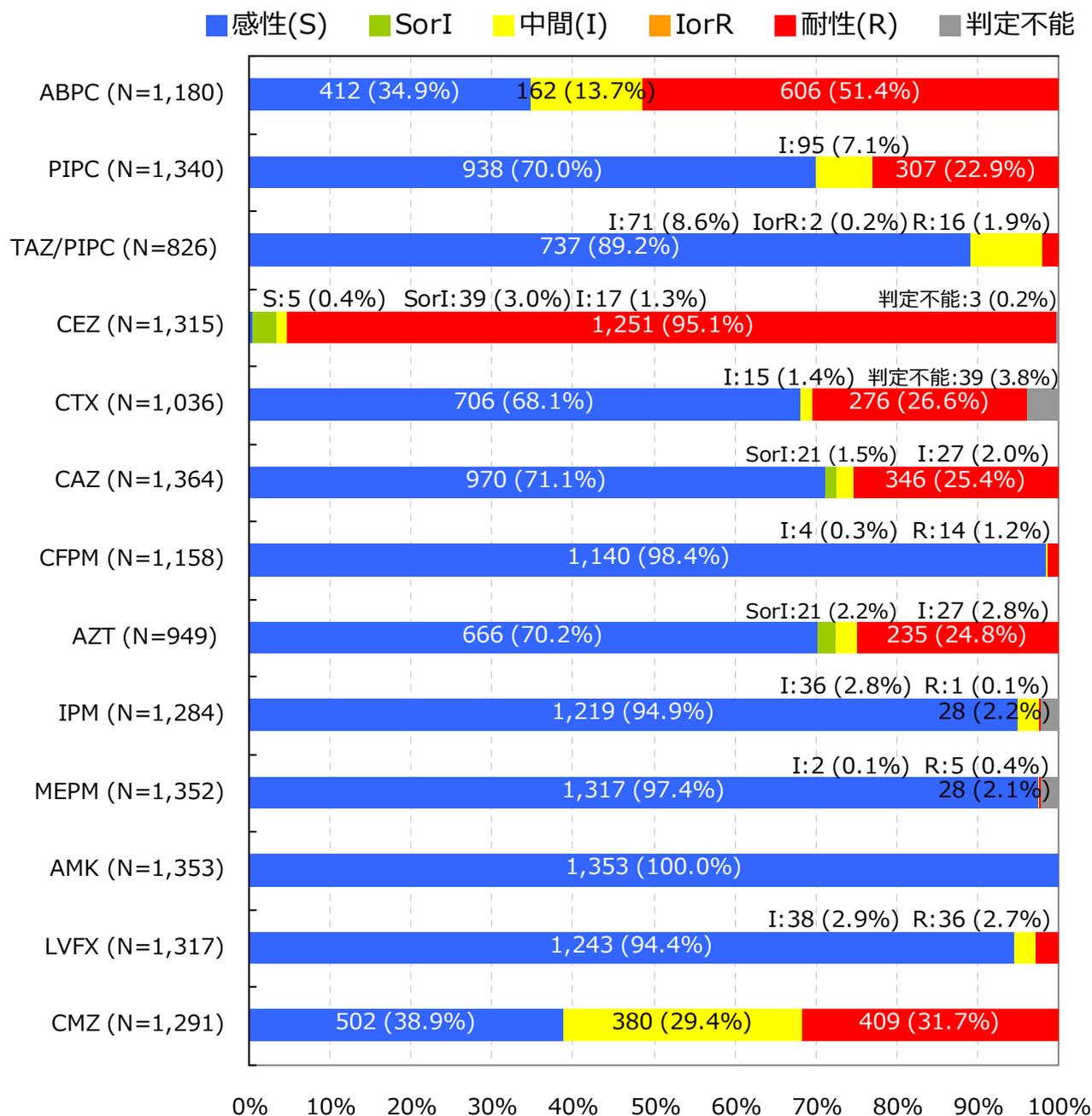
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2152と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter freundii* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

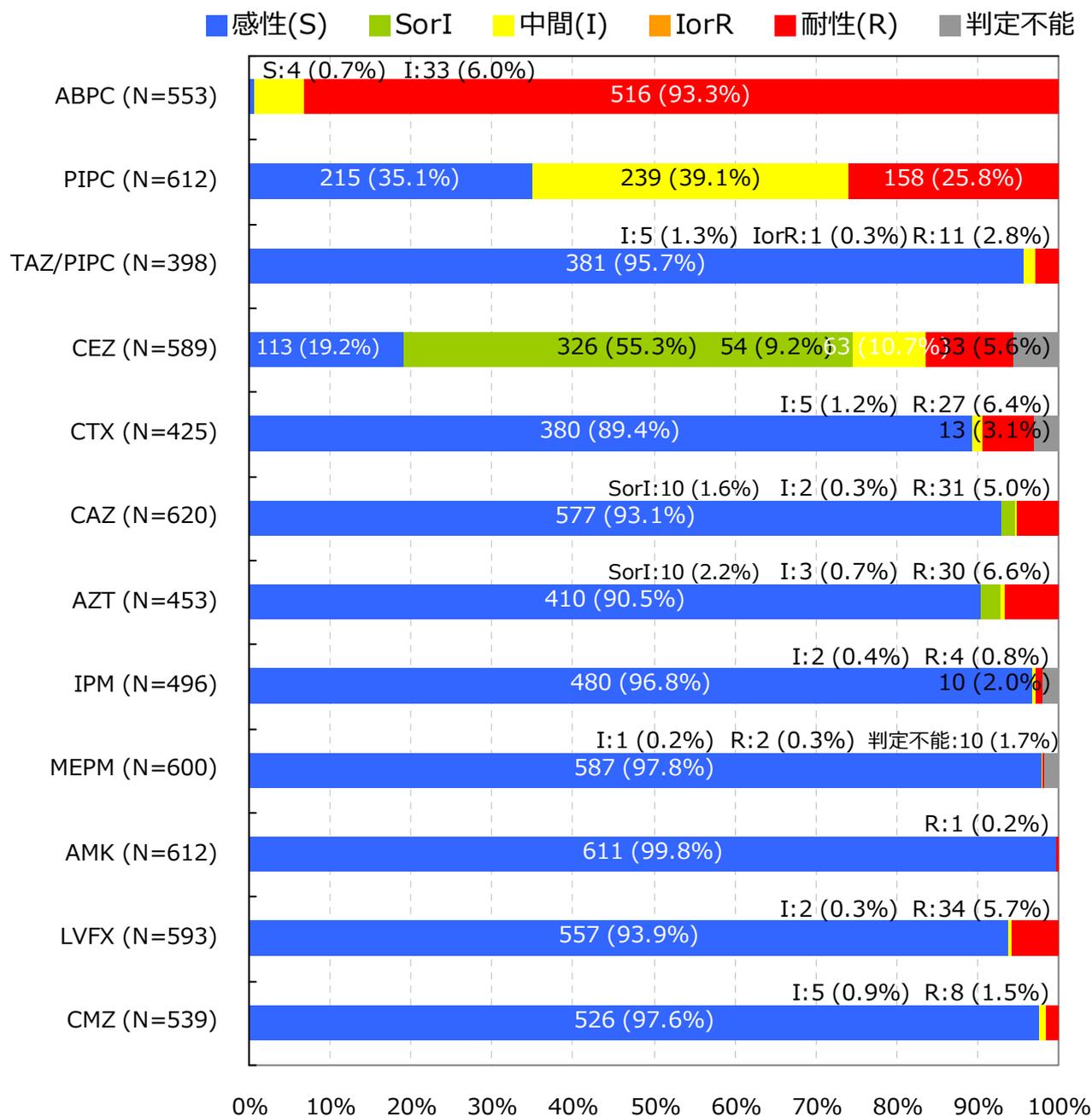
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2051と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter koseri* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

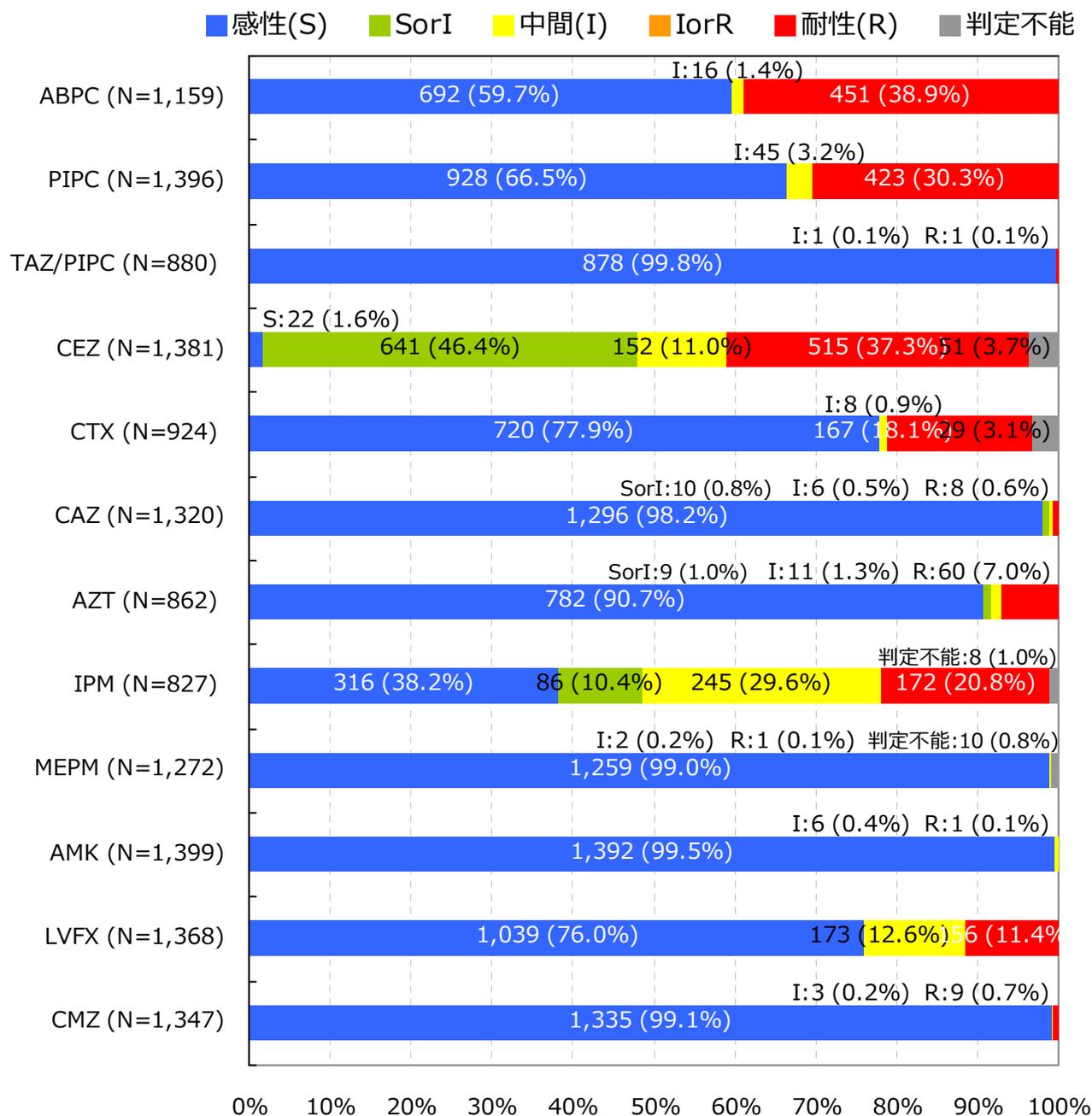
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2052と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus mirabilis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

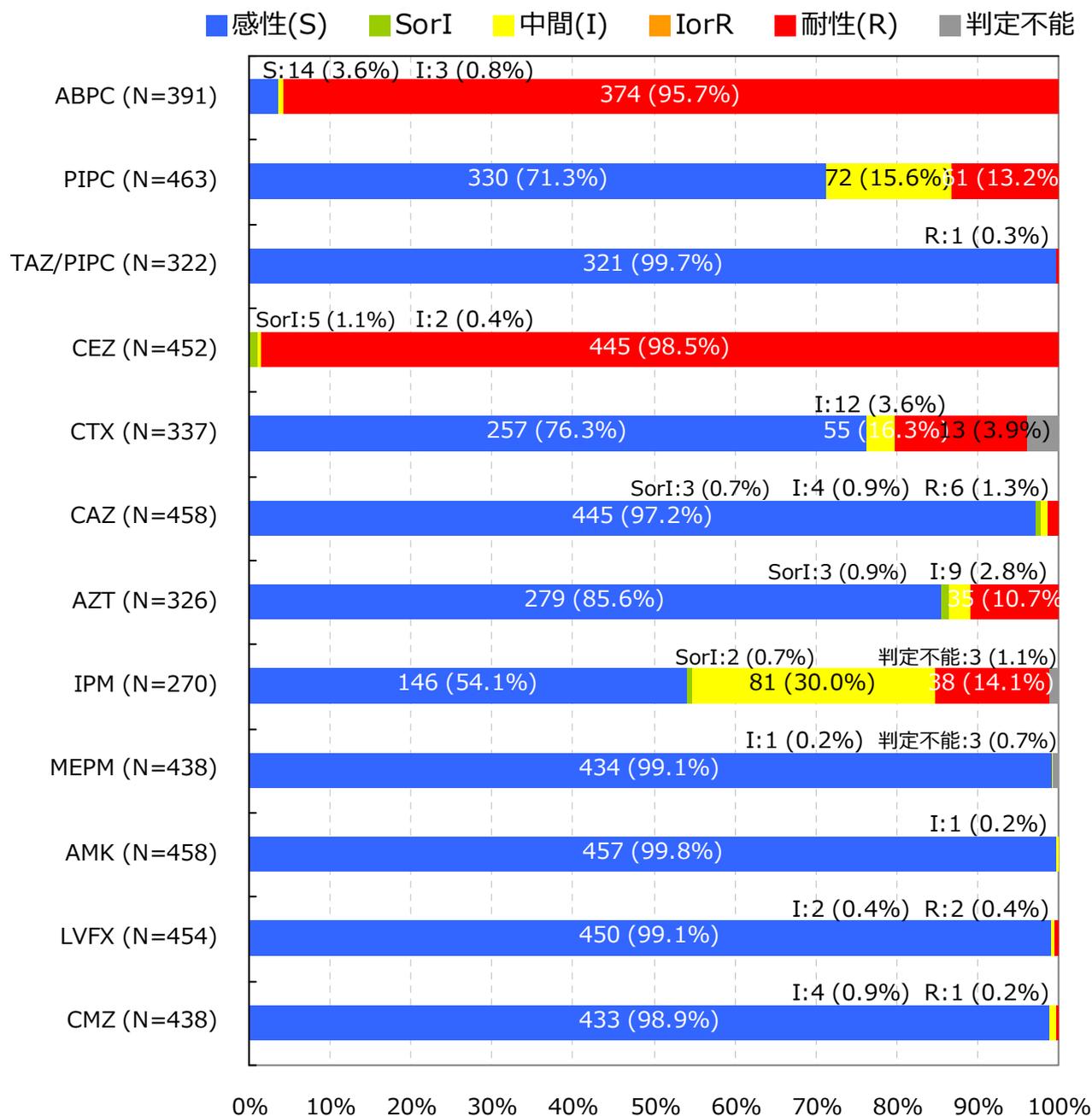
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2201と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus vulgaris* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

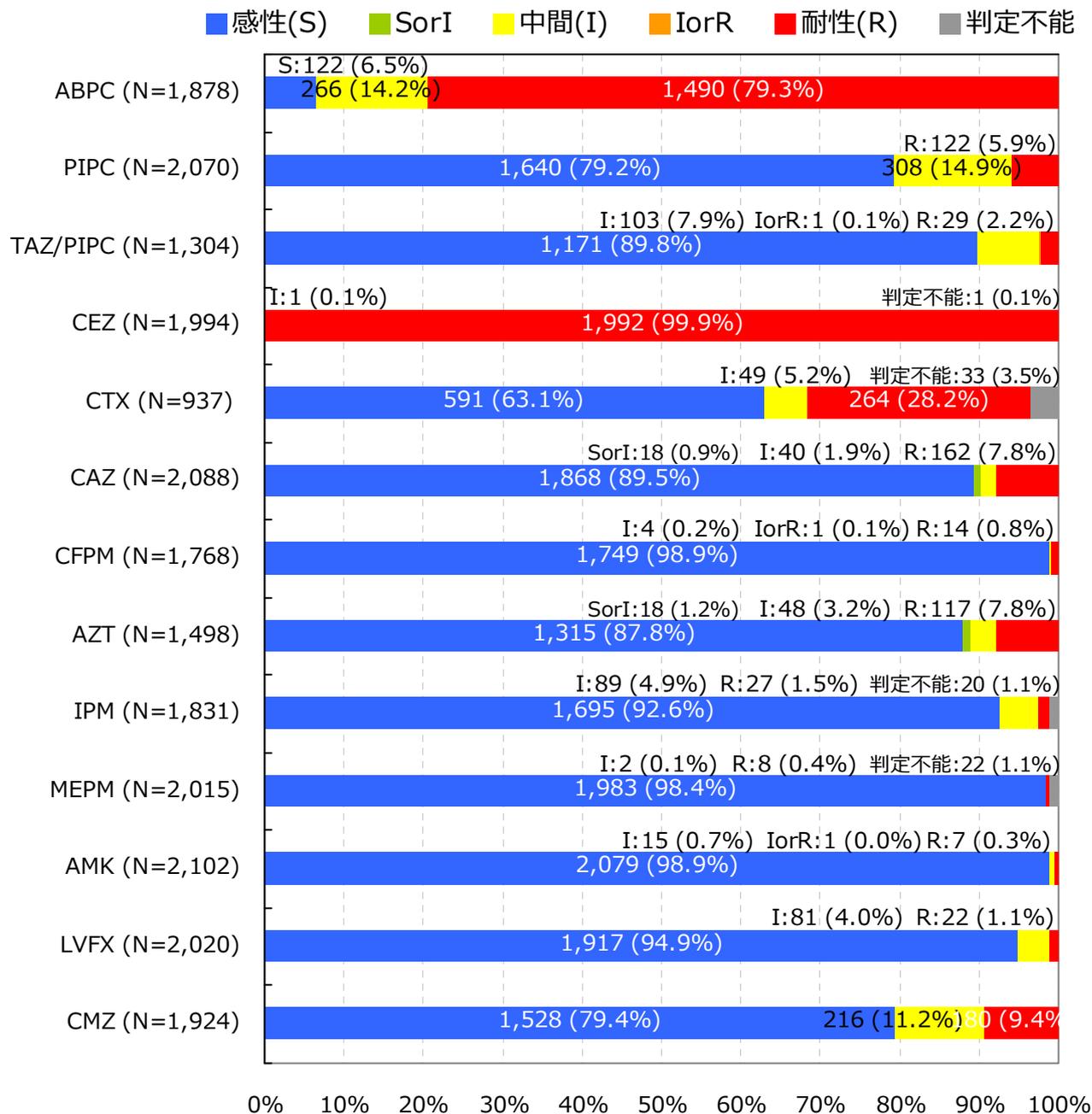
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2202と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Serratia marcescens* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

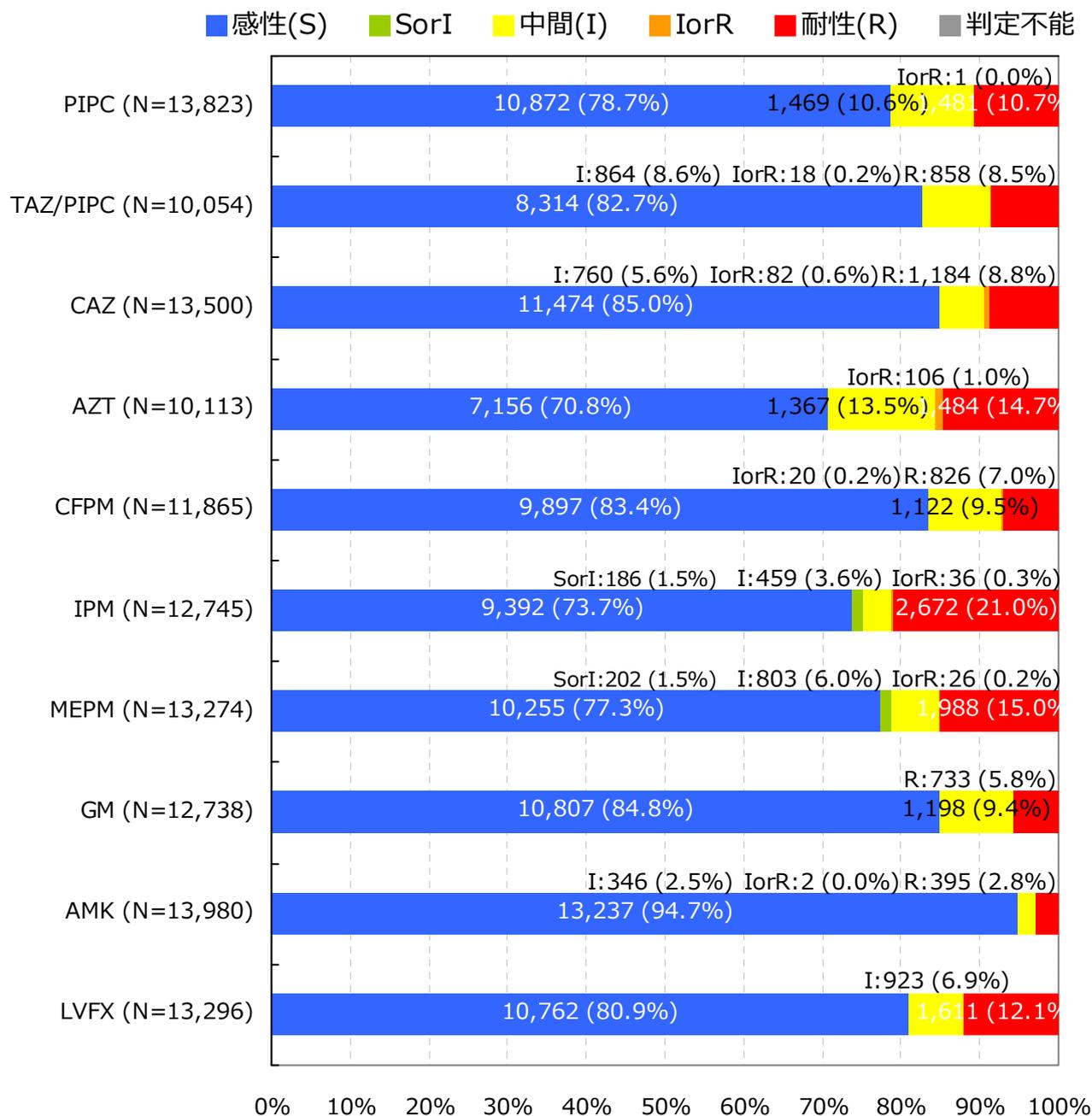
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2101と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Pseudomonas aeruginosa* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

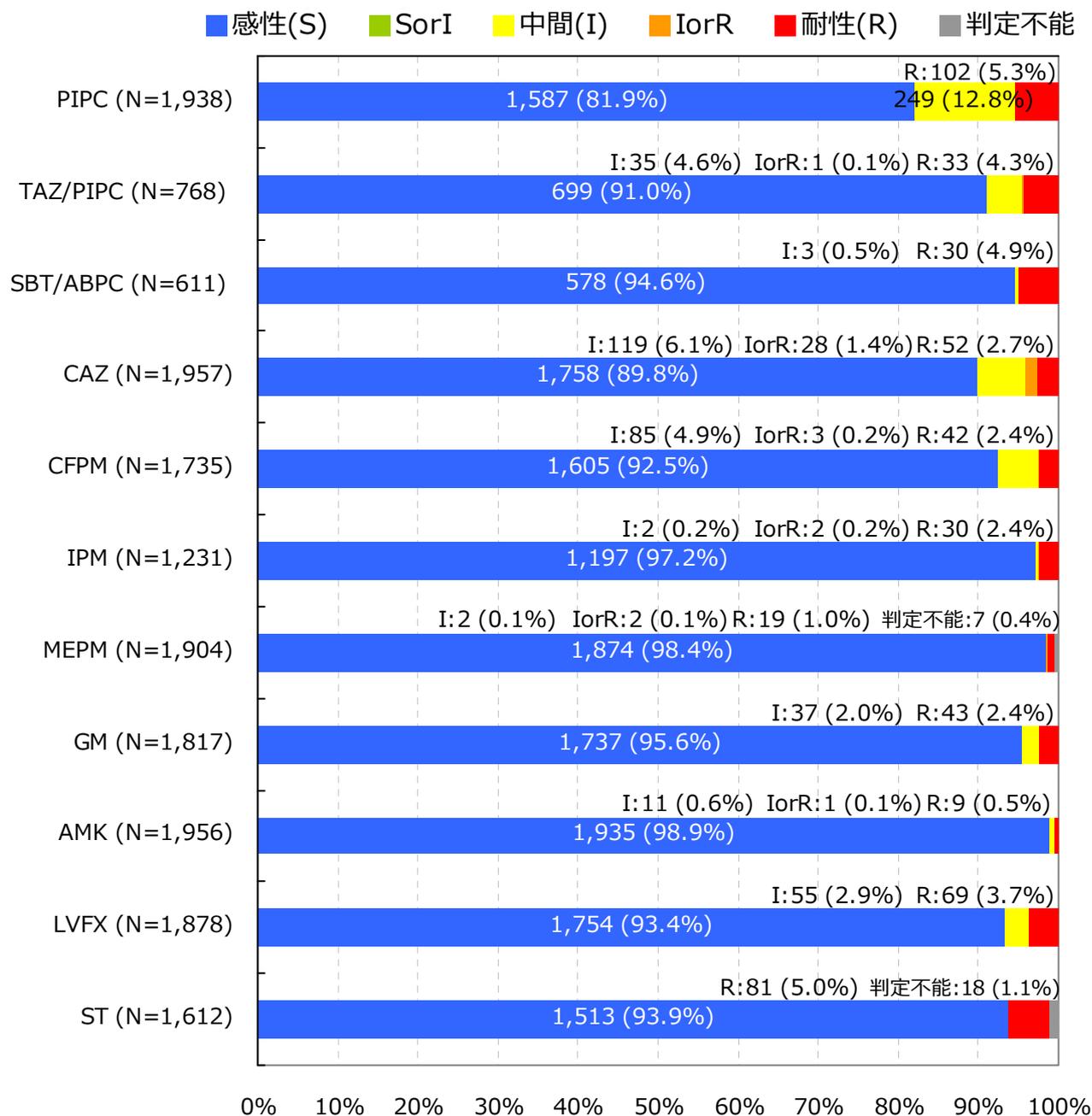
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：4001と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Acinetobacter* spp. †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

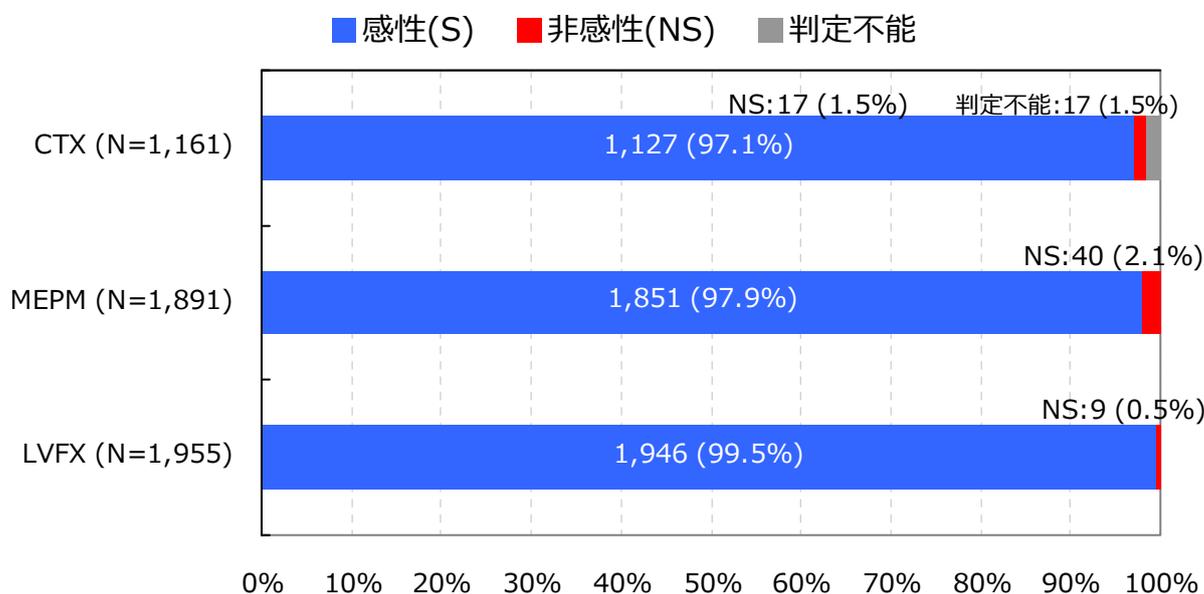
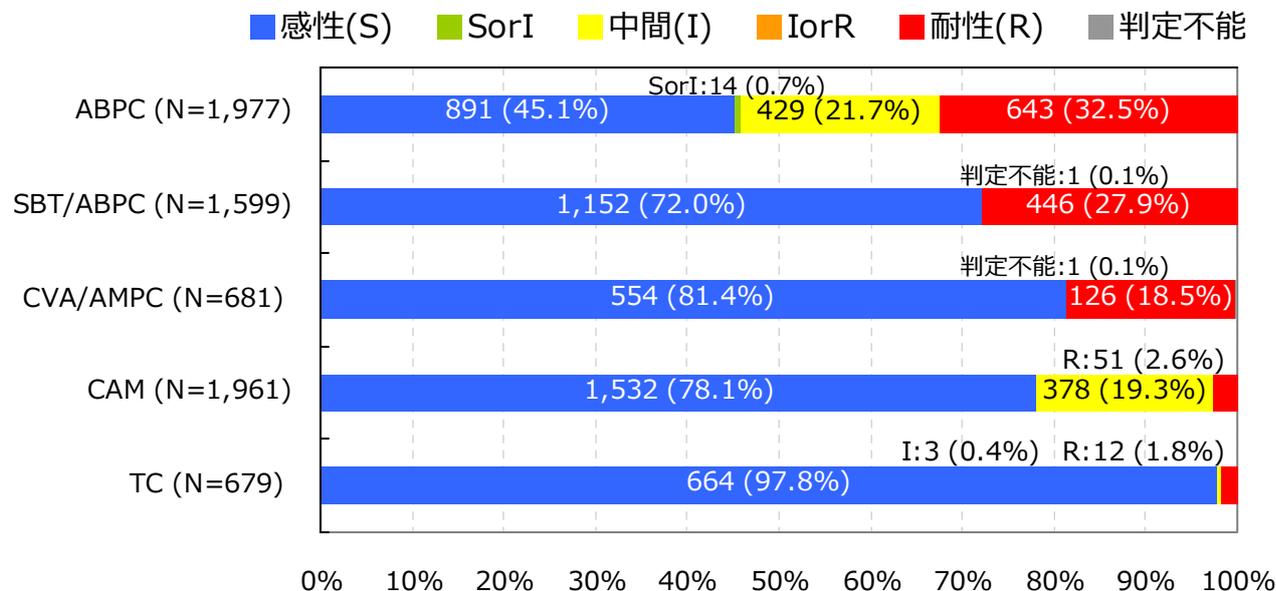
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 4400~4403と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Haemophilus influenzae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

【巻末資料1 微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準】

菌名 †	概要*	微量液体希釈法 MIC 値	菌名コード Ver.4.0
MRSA	MPIPC が “R” の <i>Staphylococcus aureus</i> または選択培地で MRSA と確認された菌	MPIPC $\geq 4\mu\text{g/ml}$	1301,1303
VRSA	VCM が微量液体希釈法で “R” の <i>Staphylococcus aureus</i>	VCM $\geq 16\mu\text{g/ml}$	1301,1303-1306
VRE	下記のいずれかの条件を満たす <i>Enterococcus</i> spp. ・VCM が微量液体希釈法で耐性 † ・選択培地で VRE と確認された菌 (注) 種の同定が行われていない <i>Enterococcus</i> sp. は除く	VCM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †	1201,1202,1205, 1206,1209,1210, 1213-1217
PRSP	PCG が微量液体希釈法で耐性 † の <i>Streptococcus pneumoniae</i>	PCG $\geq 0.125\mu\text{g/ml}$ †	1131
MDRP	下記全てに該当する <i>Pseudomonas aeruginosa</i> 1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が微量液体希釈法で耐性 † 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 † 3. フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, CFX, LFLX, GFLX の何れか) が “R”	1. IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †、 MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ † 2. AMK $\geq 32\mu\text{g/ml}$ † 3. NFLX $\geq 16\mu\text{g/ml}$ 、 OFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 LFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 CFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$	4001
MDRA	下記全てに該当する <i>Acinetobacter</i> spp. 1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が “R” 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 † 3. フルオロキノロン系 (LVFX, CFX, GFLX の何れか) が “R”	1. IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †、 MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ † 2. AMK $\geq 32\mu\text{g/ml}$ † 3. LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 CFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$	4400-4403
CRE	下記の何れかの条件を満たす腸内細菌科 1. MEPM が耐性 † 2. IPM が耐性 †、かつ CMZ が “R”	1. MEPM $\geq 2\mu\text{g/ml}$ † 2. IPM $\geq 2\mu\text{g/ml}$ † かつ CMZ $\geq 64\mu\text{g/ml}$	2000-2691, 3150-3151
カルバペネム 耐性緑膿菌	IPM または MEPM が耐性 † の <i>Pseudomonas aeruginosa</i>	IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ † MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †	4001
第三世代セファロ スポリン耐性 肺炎桿菌	CTX または CAZ が “R” の <i>Klebsiella pneumoniae</i>	CTX $\geq 4\mu\text{g/ml}$ CAZ $\geq 16\mu\text{g/ml}$	2351

菌名 †	概要*	微量液体希釈法 MIC 値	菌名コード Ver.4.0
第三世代セファロ スポリン耐性 大腸菌	CTX または CAZ が “R” の <i>Escherichia coli</i>	CTX $\geq 4\mu\text{g/ml}$ CAZ $\geq 16\mu\text{g/ml}$	2001-2007
フルオロキノロン 耐性大腸菌	フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, LFLX, GFLX, CFX の何れか) が “R” の <i>E. coli</i>	NFLX $\geq 16\mu\text{g/ml}$ 、 OFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 LFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 CFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$	2001-2007

\*原則 S,I,R の判定は CLSI2012 (M100-S22) に準拠

† 感染症発生动向調査の基準に準拠

‡ 菌名は以下の通り

- MRSA : Methicillin-resistant *S. aureus* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌
- VRSA : Vancomycin-resistant *S. aureus* バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌
- VRE : Vancomycin-resistant *Enterococcus* spp. バンコマイシン耐性腸球菌
- PRSP : Penicillin-resistant *S. pneumoniae* ペニシリン耐性肺炎球菌
- MDRP : Multidrug-resistant *P. aeruginosa* 多剤耐性緑膿菌
- MDRA : Multidrug-resistant *Acinetobacter* spp. 多剤耐性アシネトバクター属
- CRE : Carbapenem-Resistant Enterobacteriaceae カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 (2015年1月より集計開始)

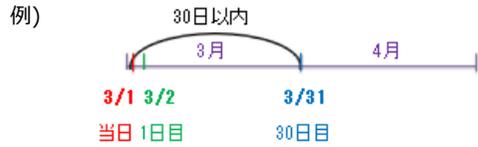
2014年12月分データまでは CLSI2007 (M100-S17)、2015年1月分データより CLSI2012 (M100-S22) に準拠する。

薬剤耐性菌判定基準 (Ver.3.1) と 検査部門特定の耐性菌判定基準 (Ver.4.1) を基に作成した。

【巻末資料 2 公開情報の集計方法について】

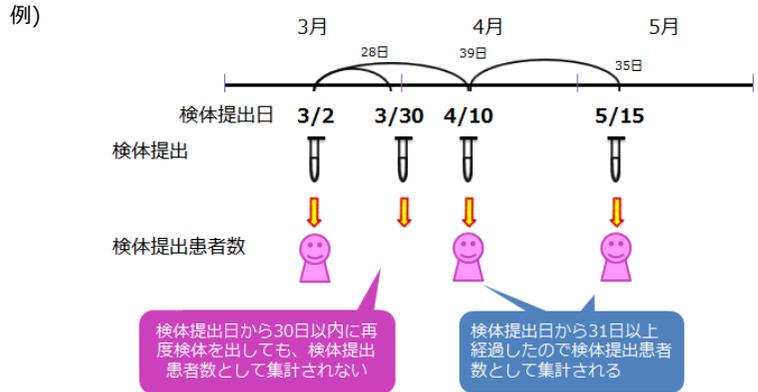
1. 日数の数え方

検体提出日の翌日を 1 日目とする。検体提出日が 3 月 1 日とすると、1 日目が 3 月 2 日、30 日目が 3 月 31 日となる。



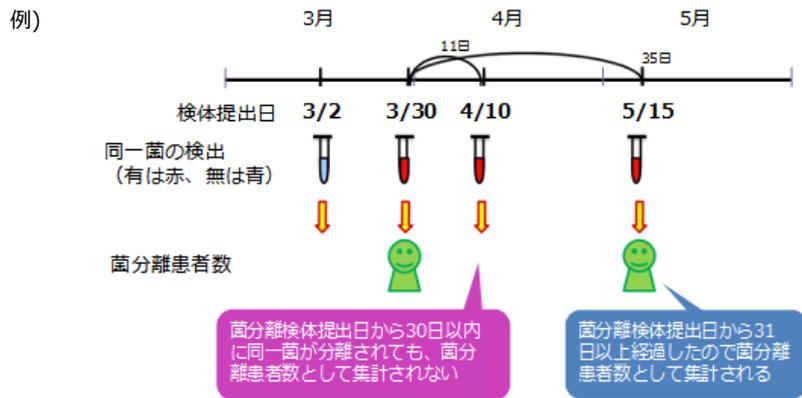
2. 検体提出患者数

検体提出患者数は、検体の種類や菌分離の有無に関わらず検体(入院検体)が提出された患者の数である。検体提出患者数は重複処理を行っており、30 日以内の同一患者からの複数の検体提出は 1 件とする。



3. 菌分離患者数

菌分離患者数も検体提出患者と同様の重複処理を行い、30 日以内に同一患者から同一菌が複数回検出された場合、菌分離患者数は 1 件とする。耐性菌分離患者数は、耐性菌の基準に合致する菌をまず抽出し、その中で上記重複処理を行っている。



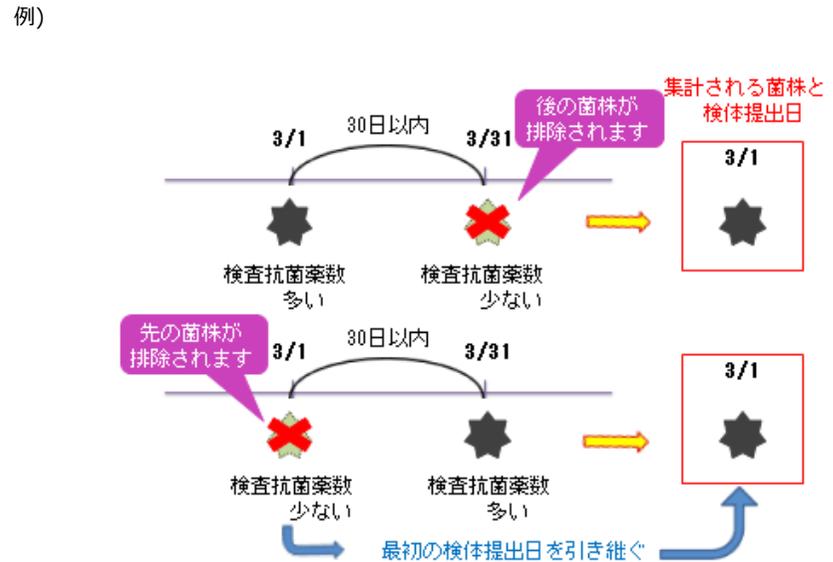
4. 抗菌薬感受性検査結果をもとにした同一菌と異なる菌との区別

30 日以内に同一患者から同一菌が検出された場合であっても、検査抗菌薬感受性結果に 1 つ以上不一致(下記①～④のいずれかに該当)がある場合は異なる菌株として集計される。

- ① MIC 値に 4 倍以上の違いがある  
ただし、MIC > 2 は MIC  $\geq$  4 と考え、判定時は MIC = 4 として扱う  
また、MIC < 16 は MIC  $\leq$  16 と考え、判定時は MIC = 16 として扱う
- ② SIR 判定では「S と R」の組み合わせ
- ③ +/- 判定では「-と++」または「+と+++」または「-と+++」の組み合わせ
- ④ 共通する検査抗菌薬数が 5 未満

5. 抗菌薬感受性結果の重複処理

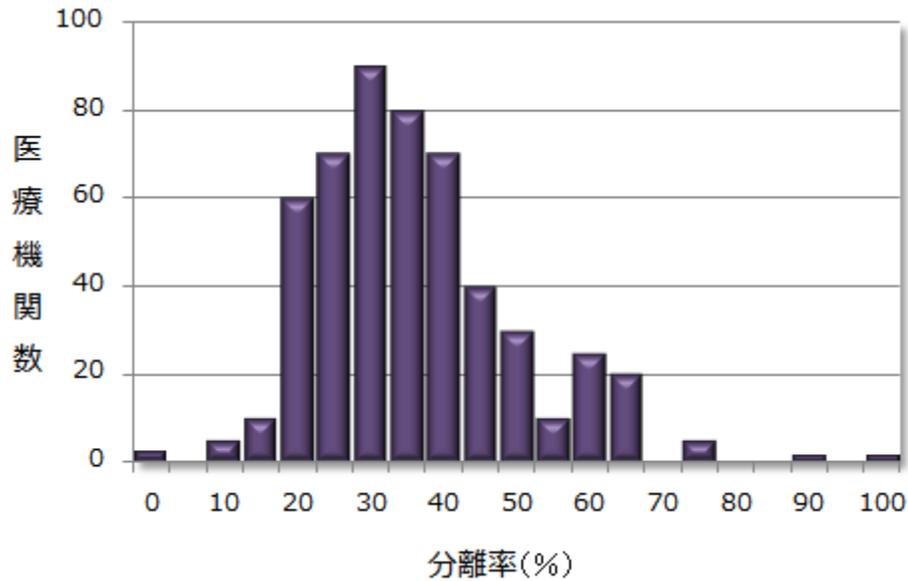
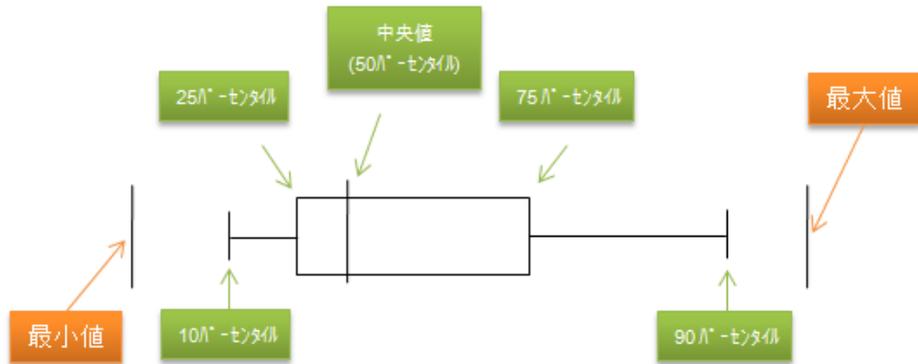
検体提出日が先の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内の)後の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、後の菌株の抗菌薬感受性検査結果は排除する。また、検体提出日が後の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内の)先の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、先の菌株の抗菌薬感受性検査結果を排除するが、先の検査の検体提出日を引き継ぐ。



【巻末資料3 箱ひげ図について】

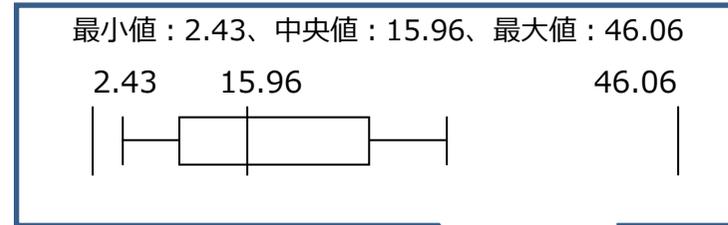
1. 箱ひげ図について

集計対象医療機関のデータのばらつきを示し、集計対象医療機関における自施設の位置を確認することができる。



※ パーセンタイル：値を小さいものから大きいものへと順番に並べ、全体を 100 として何番目であるかを表したものの。  
 例えば、10パーセンタイルは、全体を 100 として小さいほうから数えて 10 番目の計測値を示している。

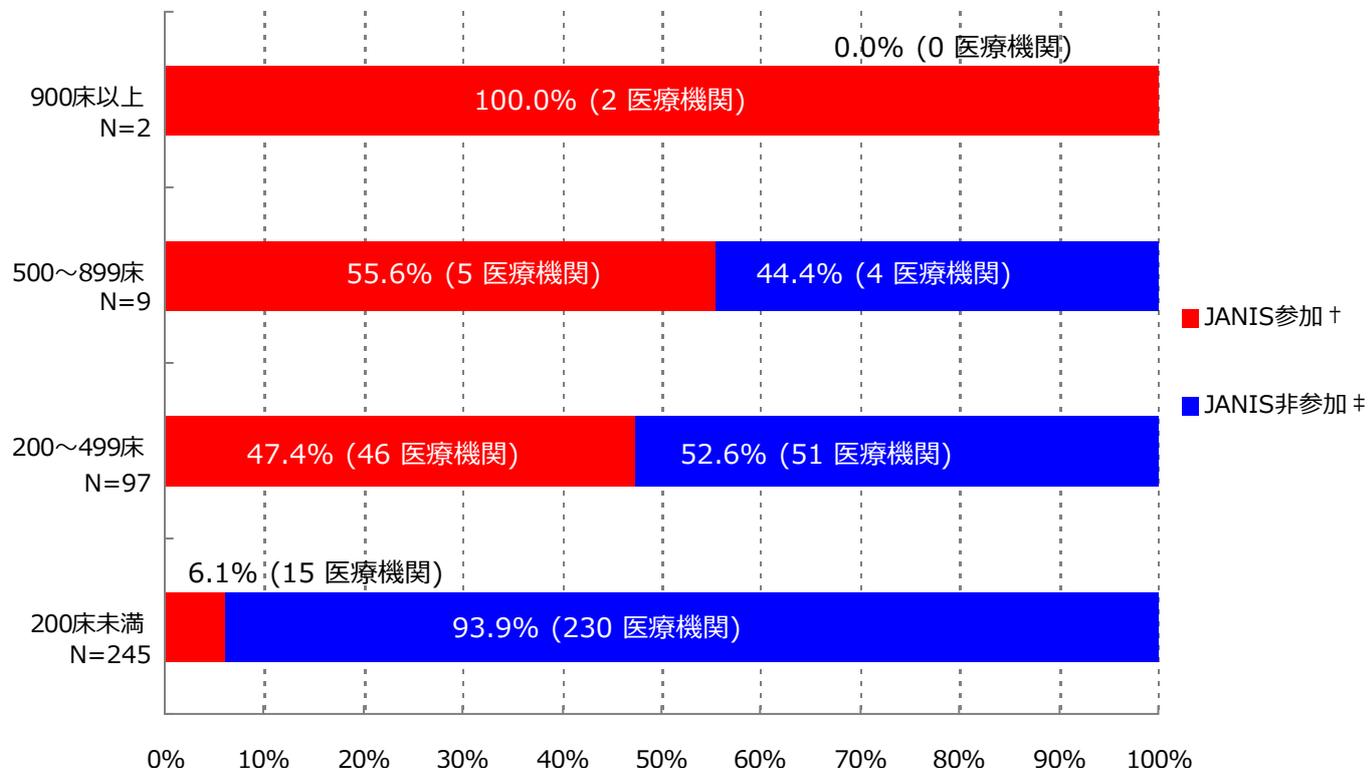
2. 公開情報の箱ひげ図



		集計対象医療機関の分離率 (%)の分布	
2010年 *	2011		
1,069,216人	1,309,993人		
175,145人 (16.38%)	210,382人 (16.06%)	2.43	15.96 46.06
47,523人 (4.44%)	64,588人 (4.93%)	0.00	3.21 37.54



### 1. データ提出医療機関\*数(68医療機関)



\*ここではデータ提出医療機関は集計対象医療機関を表す

† JANIS参加 = 2015年1～12月 集計対象医療機関数

‡ JANIS非参加 = (2014年 都道府県別医療機関数¶) - (2015年1～12月 集計対象医療機関数)

病床数	2014年 都道府県別医療機関数¶	2015年1月～12月 集計対象医療機関数 (都道府県別医療機関数に占める割合)
900床以上	2	2 (100.0%)
500～899床	9	5 (55.6%)
200～499床	97	46 (47.4%)
200床未満	245	15 (6.1%)
病床数不明	-	0 (-)
合計	353	68 (19.3%)

¶平成26年医療施設（動態）調査を参照した

## 2. データ提出医療機関数、検体数、分離菌数

検査材料分類	集計対象医療機関数	検体数	陽性検体数 (分離菌数)
呼吸器系検体	68	83,595	41,016 (68,108)
尿検体	68	41,910	22,246 (32,820)
便検体	68	17,065	5,528 (7,826)
血液検体	68	107,832	13,990 (15,404)
髄液検体	61	2,942	161 (166)
その他	68	61,068	25,441 (41,150)
合計	68	314,412	108,382 (165,474)

入院として報告された検体を集計

集計対象菌：コメントのみ(菌名コード9999)の報告以外の全ての菌

検査材料分類は以下に該当する検査材料コードを集計

呼吸器系検体：

101(喀出痰)、102(気管内採痰)、103(気管支洗浄液)、104(咽頭粘液)、105(鼻腔内)、106(口腔内)、  
107(生検材料(肺))、109(その他(呼吸器))、404(胸水)

尿検体：

201(自然排尿)、202(採尿カテーテル)、203(留置カテーテル)、206(カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能))

便検体：

301(糞便)

血液検体：

401(静脈血)、402(動脈血)

髄液検体：

403(髄液)

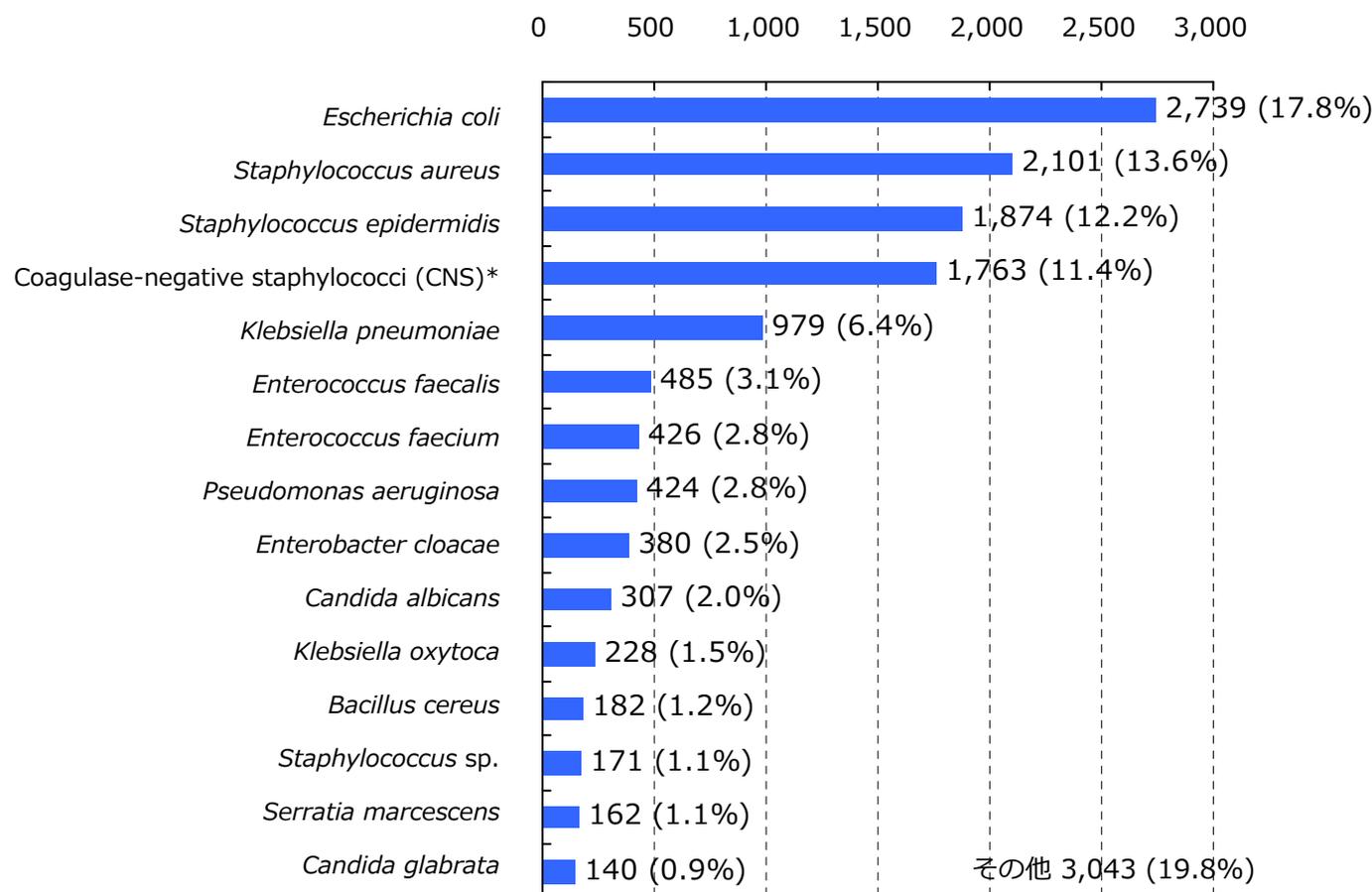
その他：上記以外の検査材料コード

検査材料コード：JANISホームページ>各部門について>検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>



### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 血液検体分離菌 (N=15,404)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌 (1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外)

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：静脈血(検査材料コード401)と動脈血(同402)

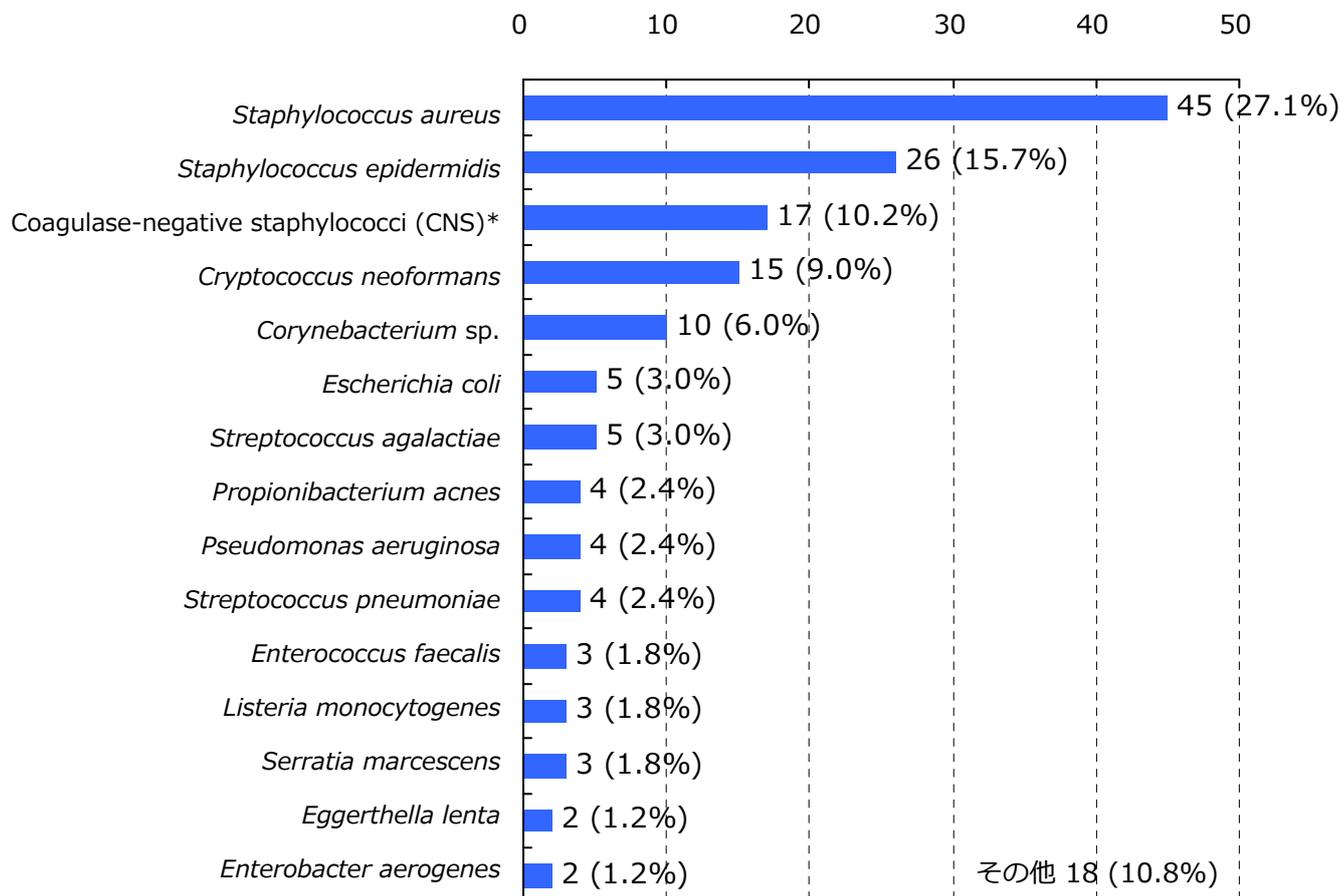
血液検体分離菌数割合 = (対象菌の血液検体分離菌数) ÷ (血液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 髄液検体分離菌 (N=166)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：髄液(検査材料コード403)

髄液検体分離菌数割合 = (対象菌の髄液検体分離菌数) ÷ (髄液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

## 4. 主要菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

	2011年 患者数 (分離率‡)	2012年 患者数 (分離率‡)	2013年 患者数 (分離率‡)	2014年 患者数 (分離率‡)	2015年 患者数 (分離率‡)	集計対象医療機関の分離率¶ (%)の分布
検体提出患者数	-	-	-	-	106,056人	
<i>S. aureus</i>	-	-	-	-	13,875人 (13.08%)	5.85 13.19 38.71   H
<i>S. epidermidis</i>	-	-	-	-	3,789人 (3.57%)	0.00 2.21 12.56   H
<i>S. pneumoniae</i>	-	-	-	-	1,377人 (1.30%)	0.11 1.03 6.42   H
<i>E. faecalis</i>	-	-	-	-	5,064人 (4.77%)	0.00 4.47 9.02   H
<i>E. faecium</i>	-	-	-	-	2,192人 (2.07%)	0.00 1.80 6.32   H
<i>E. coli</i>	-	-	-	-	13,231人 (12.48%)	4.56 12.49 31.69   H
<i>K. pneumoniae</i>	-	-	-	-	5,743人 (5.42%)	2.47 5.64 15.24   H
<i>Enterobacter spp.</i>	-	-	-	-	3,388人 (3.19%)	1.07 2.74 8.51   H
<i>S. marcescens</i>	-	-	-	-	1,126人 (1.06%)	0.00 0.86 7.02   H
<i>P. aeruginosa</i>	-	-	-	-	5,985人 (5.64%)	2.23 5.58 26.92   H
<i>Acinetobacter spp.</i>	-	-	-	-	1,044人 (0.98%)	0.00 0.75 4.46   H

入院として報告された検体を集計

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

全体の分離率

= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

## 5. 特定の耐性菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

	2011年 患者数 (分離率 †)	2012年 患者数 (分離率 †)	2013年 患者数 (分離率 †)	2014年 患者数 (分離率 †)	2015年 患者数 (分離率 †)	集計対象医療機関の分離率‡ (%)の分布
検体提出患者数	-	-	-	-	106,056人	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)	-	-	-	-	7,580人 (7.15%)	2.25 6.76 33.02 
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA)	-	-	-	-	0人 (0.00%)	0.00 
バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)	-	-	-	-	33人 (0.03%)	0.00 0.00 2.19 
ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)	-	-	-	-	410人 (0.39%)	0.00 0.27 2.19 
多剤耐性緑膿菌(MDRP)	-	-	-	-	26人 (0.02%)	0.00 0.00 0.33 
多剤耐性アシネトバクター属(MDRA)	-	-	-	-	0人 (0.00%)	0.00 
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)	-	-	-	-	432人 (0.41%)	0.00 0.17 3.36 
カルバペネム耐性緑膿菌	-	-	-	-	743人 (0.70%)	0.00 0.50 13.18 
第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌	-	-	-	-	311人 (0.29%)	0.00 0.22 1.86 
第三世代セファロスポリン耐性大腸菌	-	-	-	-	2,648人 (2.50%)	0.00 2.35 13.62 
フルオロキノロン耐性大腸菌	-	-	-	-	4,328人 (4.08%)	0.00 4.22 14.91 

入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計  
MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

全体の分離率

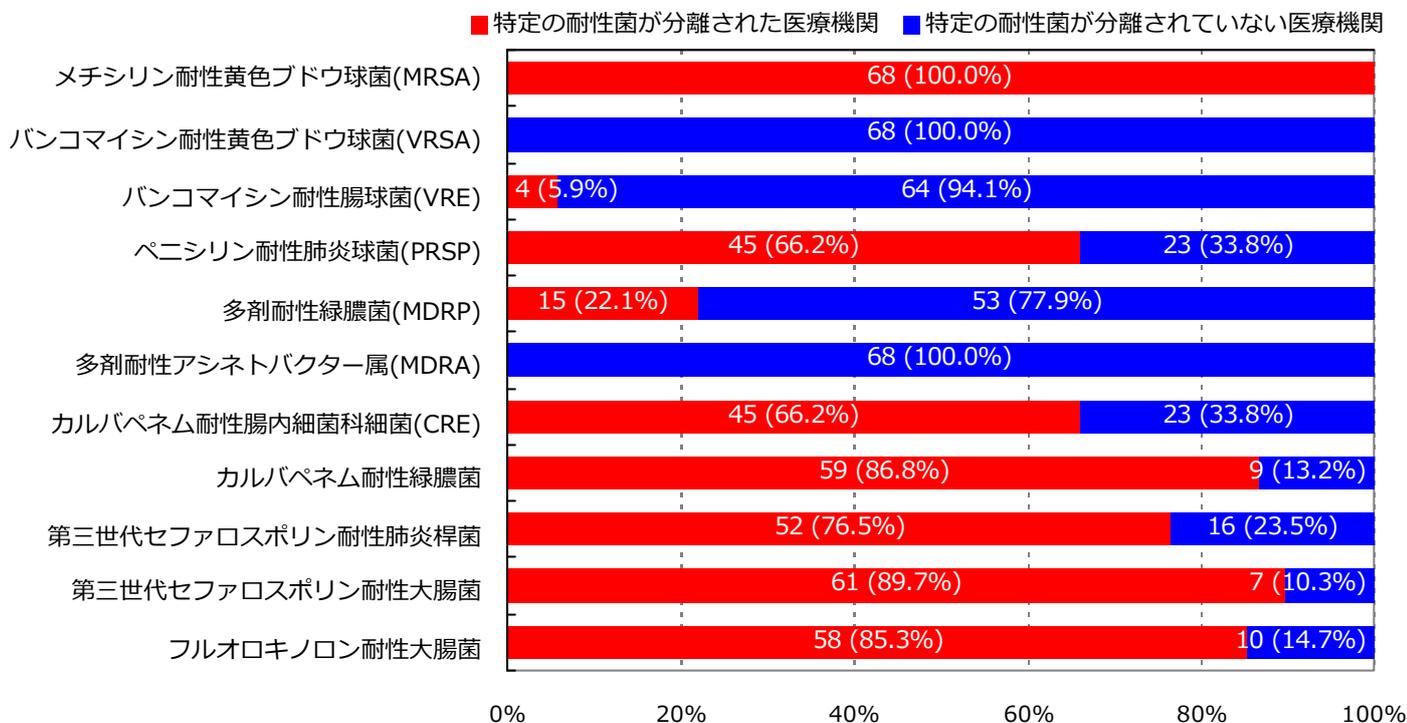
$$= (\text{集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計}) \div (\text{集計対象医療機関の検体提出患者数合計}) \times 100$$

$$\text{¶分離率} = (\text{対象菌の分離患者数}) \div (\text{検体提出患者数}) \times 100$$



### 6. 特定の耐性菌が分離された医療機関の割合

2015年 特定の耐性菌が分離された医療機関の割合 (N=68)



### 特定の耐性菌が分離された医療機関の割合 (過去5年間)

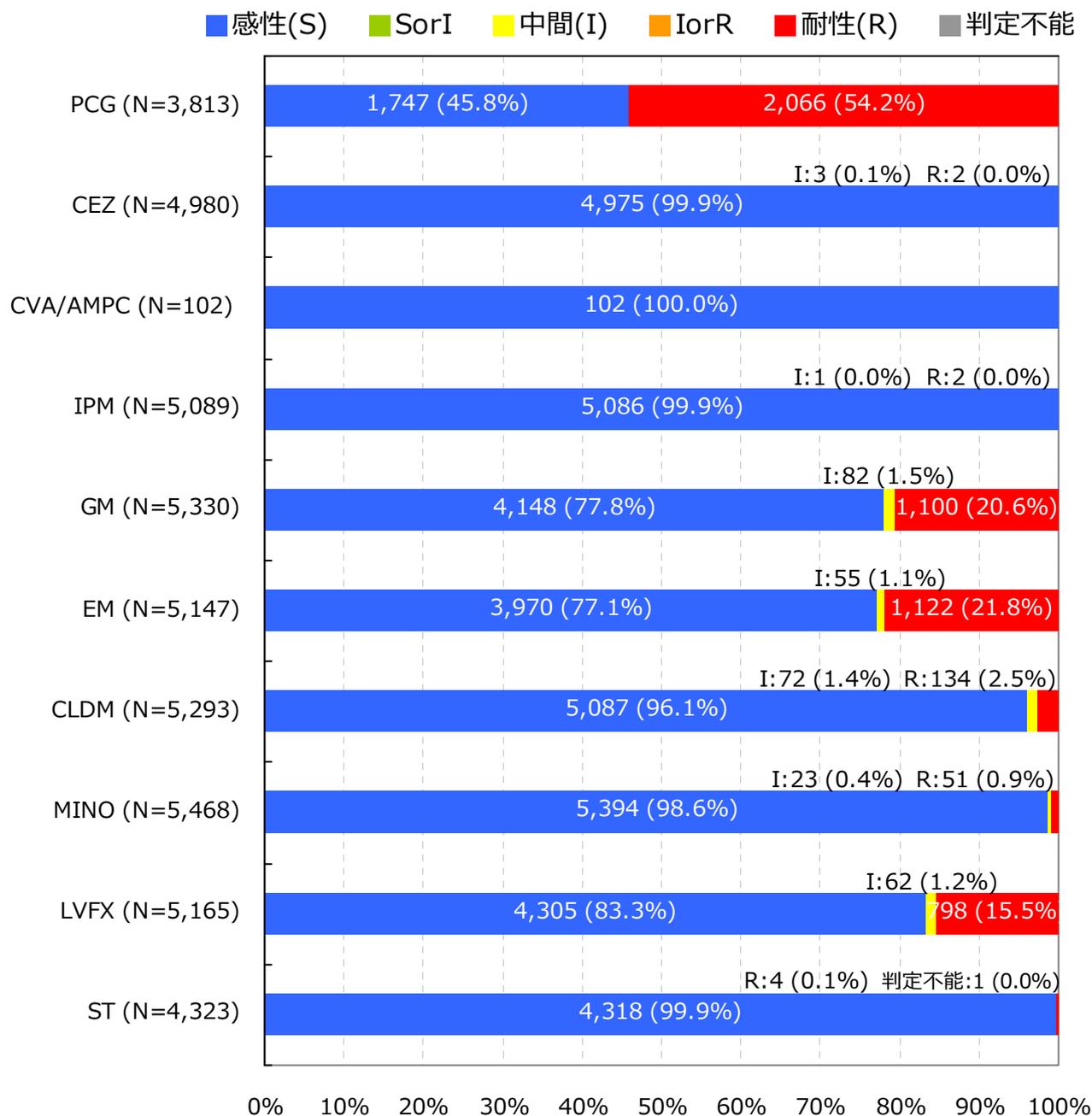
	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
集計対象医療機関数	-	-	-	-	68
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)	-	-	-	-	100.0%
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA)	-	-	-	-	0.0%
バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)	-	-	-	-	5.9%
ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)	-	-	-	-	66.2%
多剤耐性緑膿菌(MDRP)	-	-	-	-	22.1%
多剤耐性アシネトバクター属(MDRA)	-	-	-	-	0.0%
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)	-	-	-	-	66.2%
カルバペネム耐性緑膿菌	-	-	-	-	86.8%
第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌	-	-	-	-	76.5%
第三世代セファロスポリン耐性大腸菌	-	-	-	-	89.7%
フルオロキノロン耐性大腸菌	-	-	-	-	85.3%

耐性菌判定薬剤(巻末資料参照)が未検査の場合、分離されていない医療機関として集計  
 入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計  
 MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む  
 特定の耐性菌が検出された集計対象医療機関の割合

$$= \frac{\text{特定の耐性菌が1株でも報告された医療機関数}}{\text{集計対象医療機関数}}$$

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MSSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

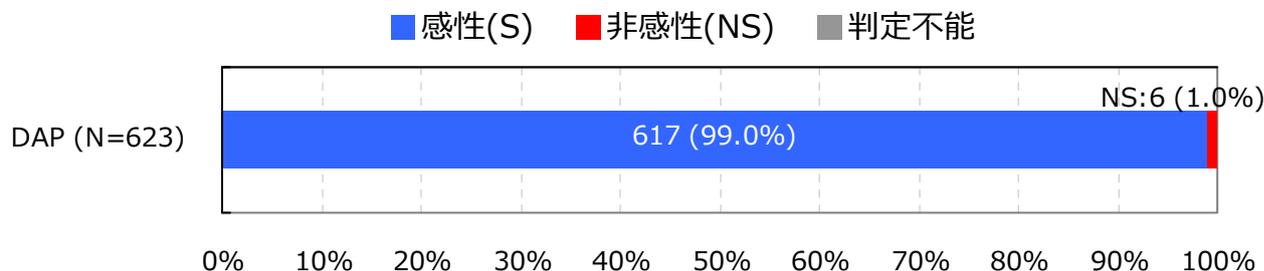
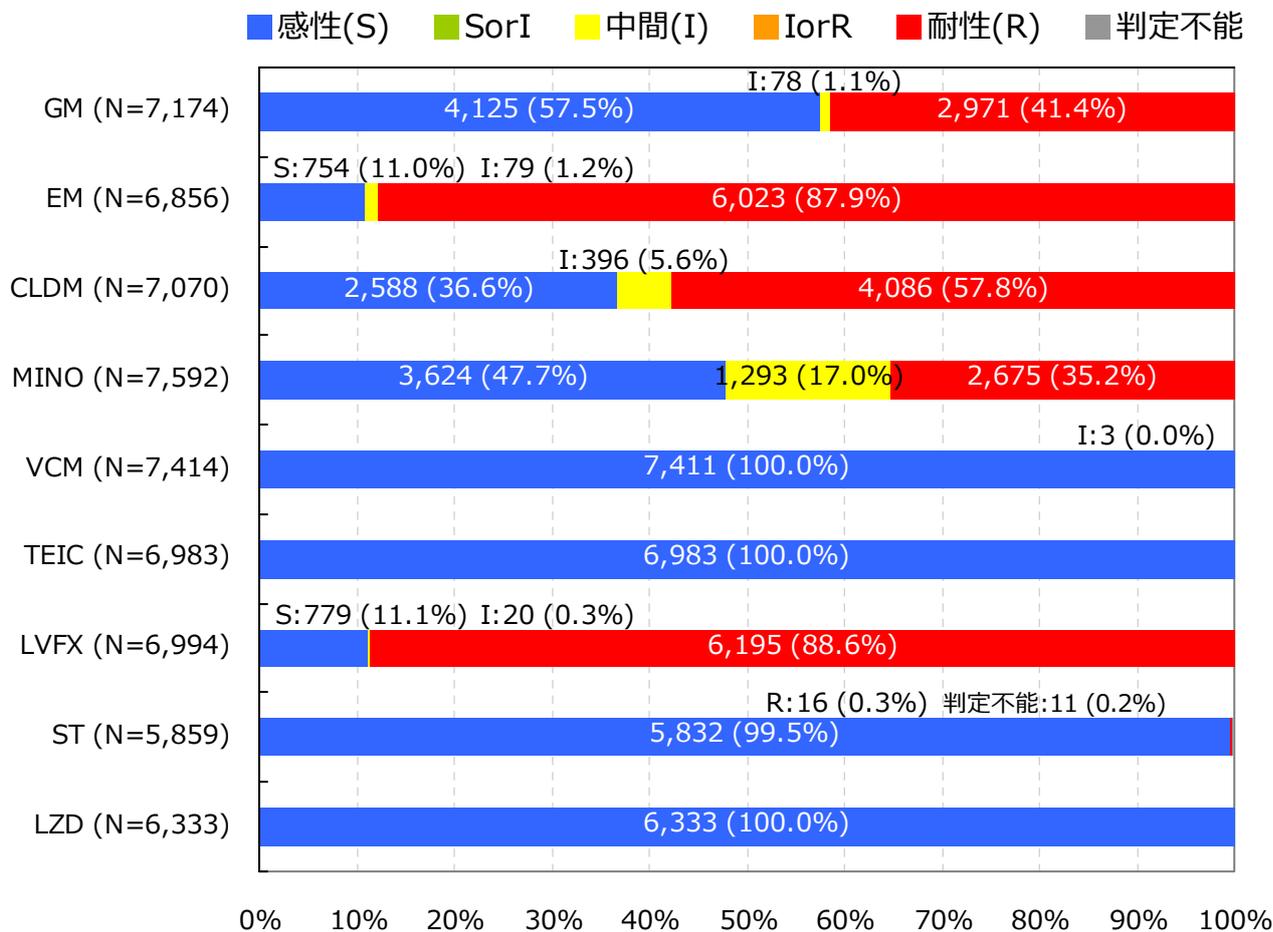
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1304, 1305, 1306と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「S」の菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MRSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

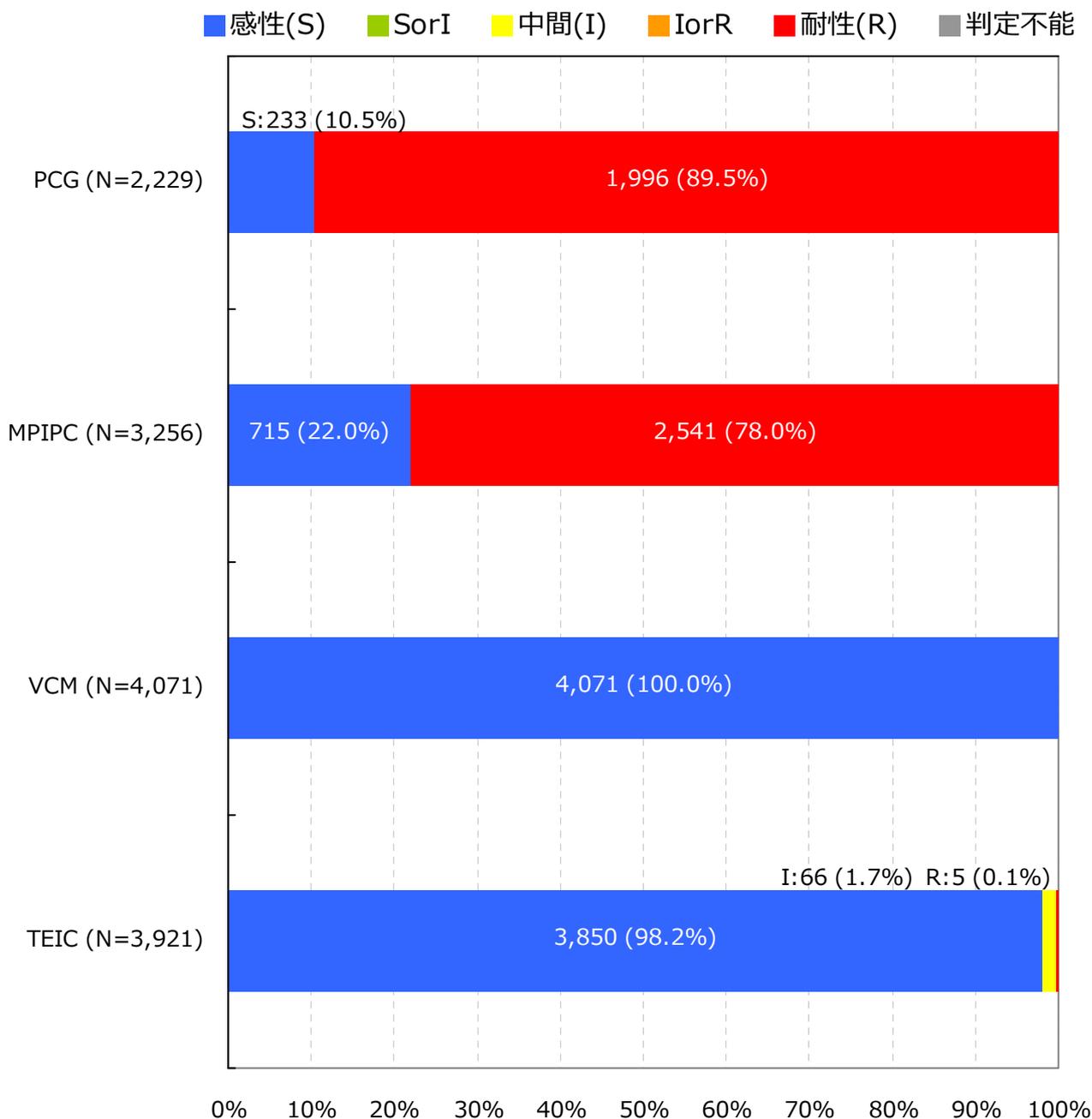
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1303と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「R」の菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus epidermidis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

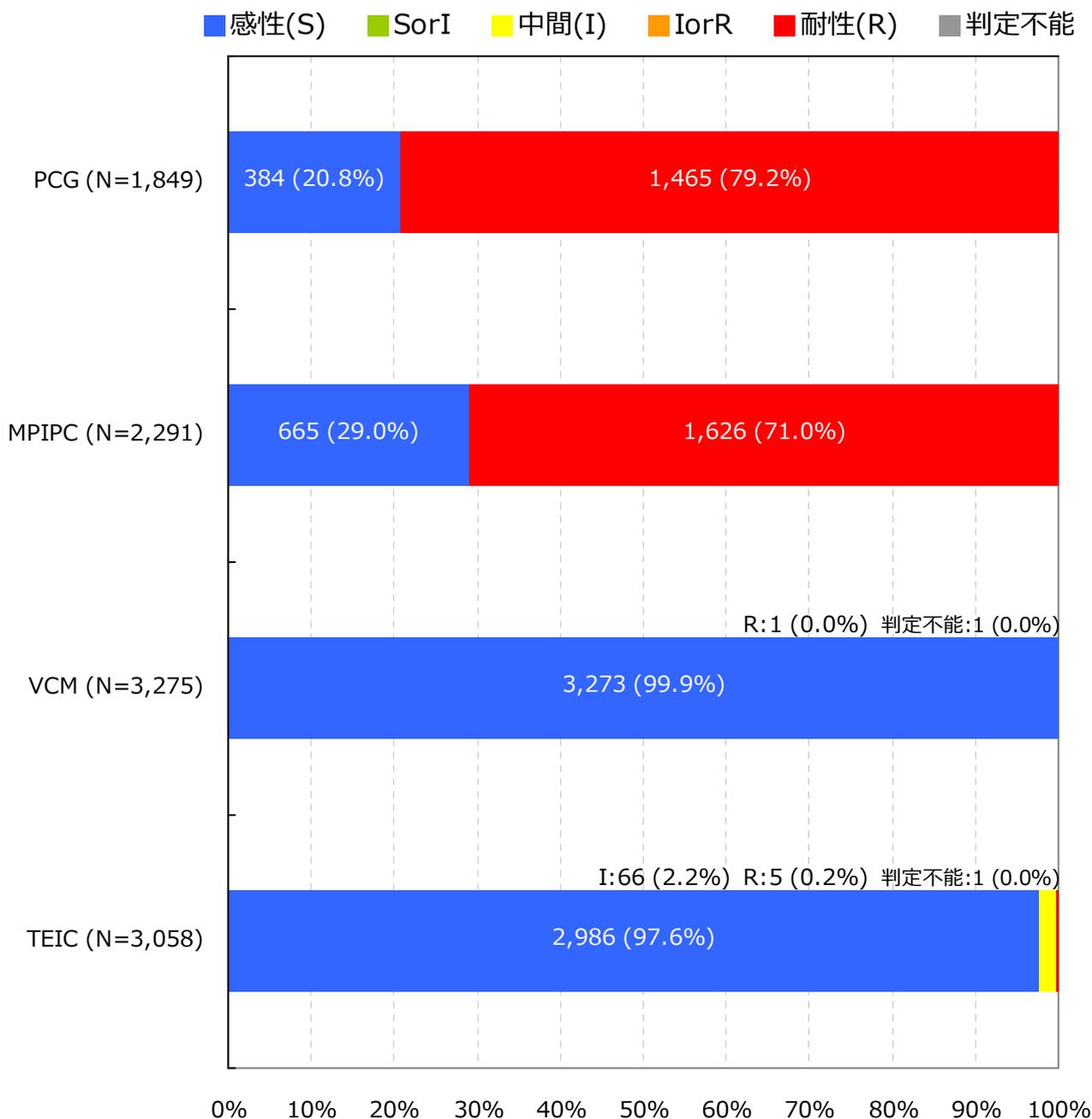
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1312と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### Coagulase-negative staphylococci (CNS) †



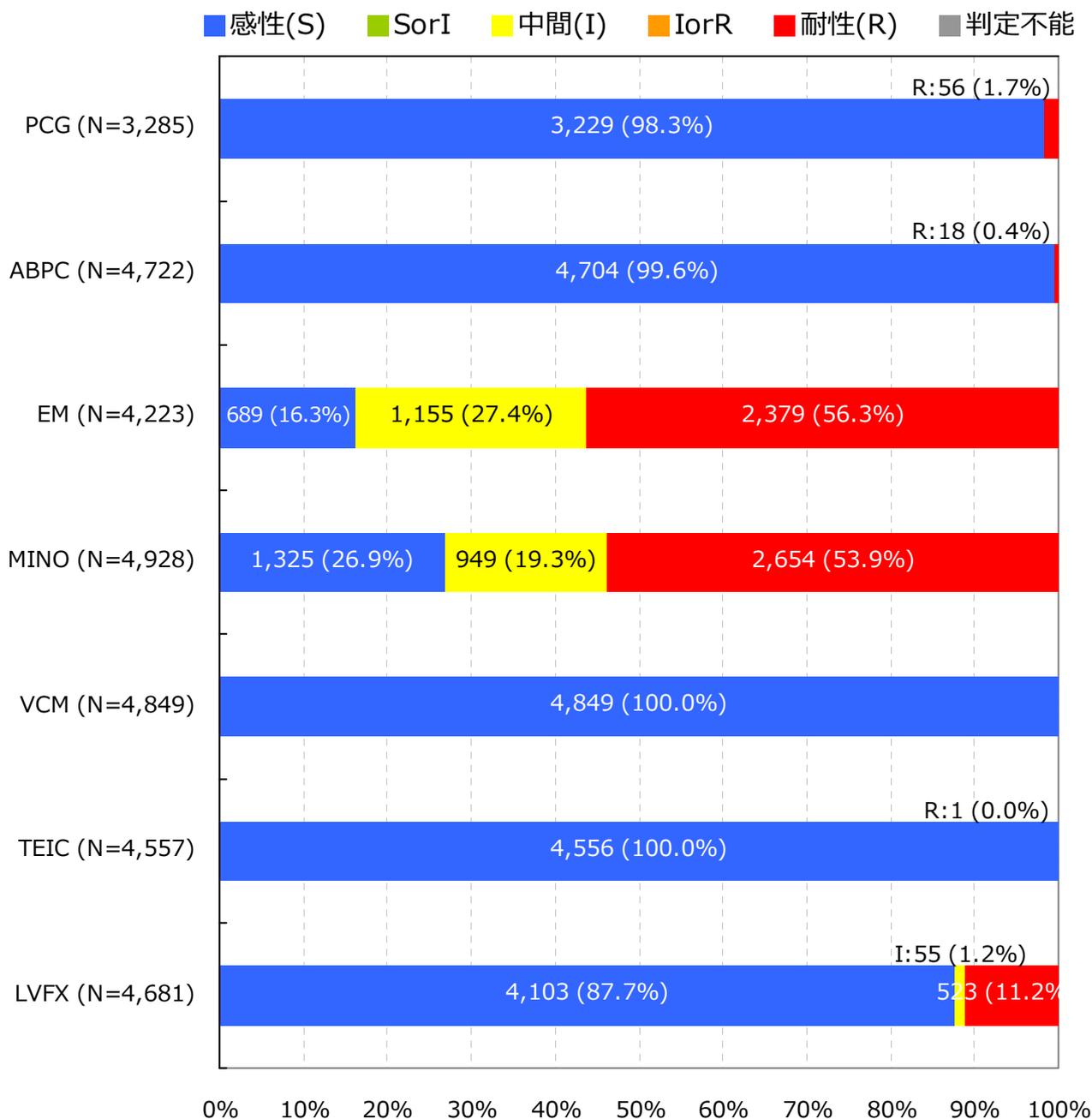
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1311, 1313～1325と報告された菌 (1312 : *Staphylococcus epidermidis*は対象外)

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecalis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

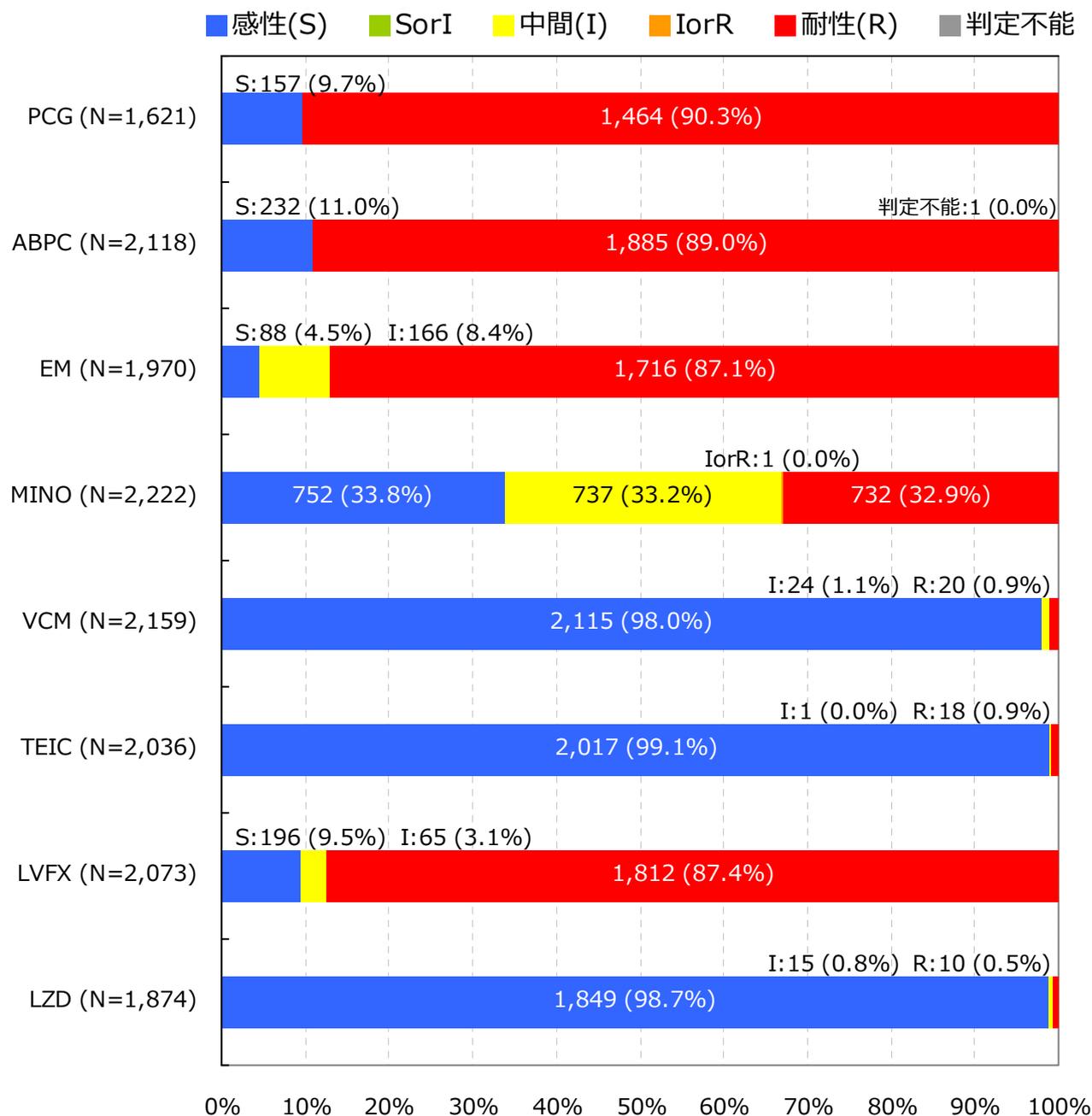
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1201, 1202と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecium* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

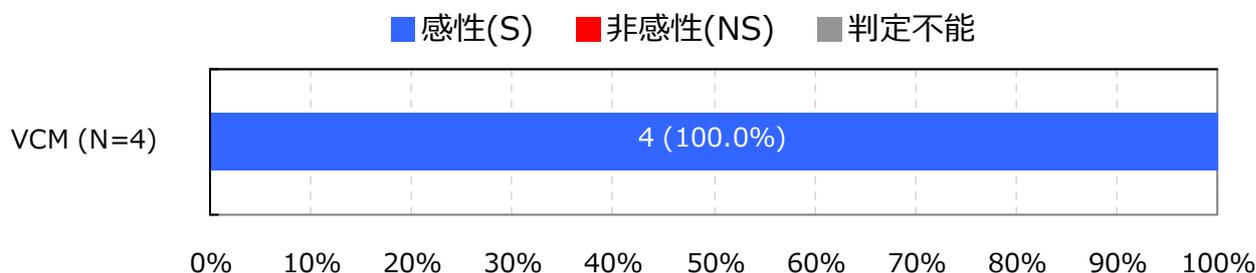
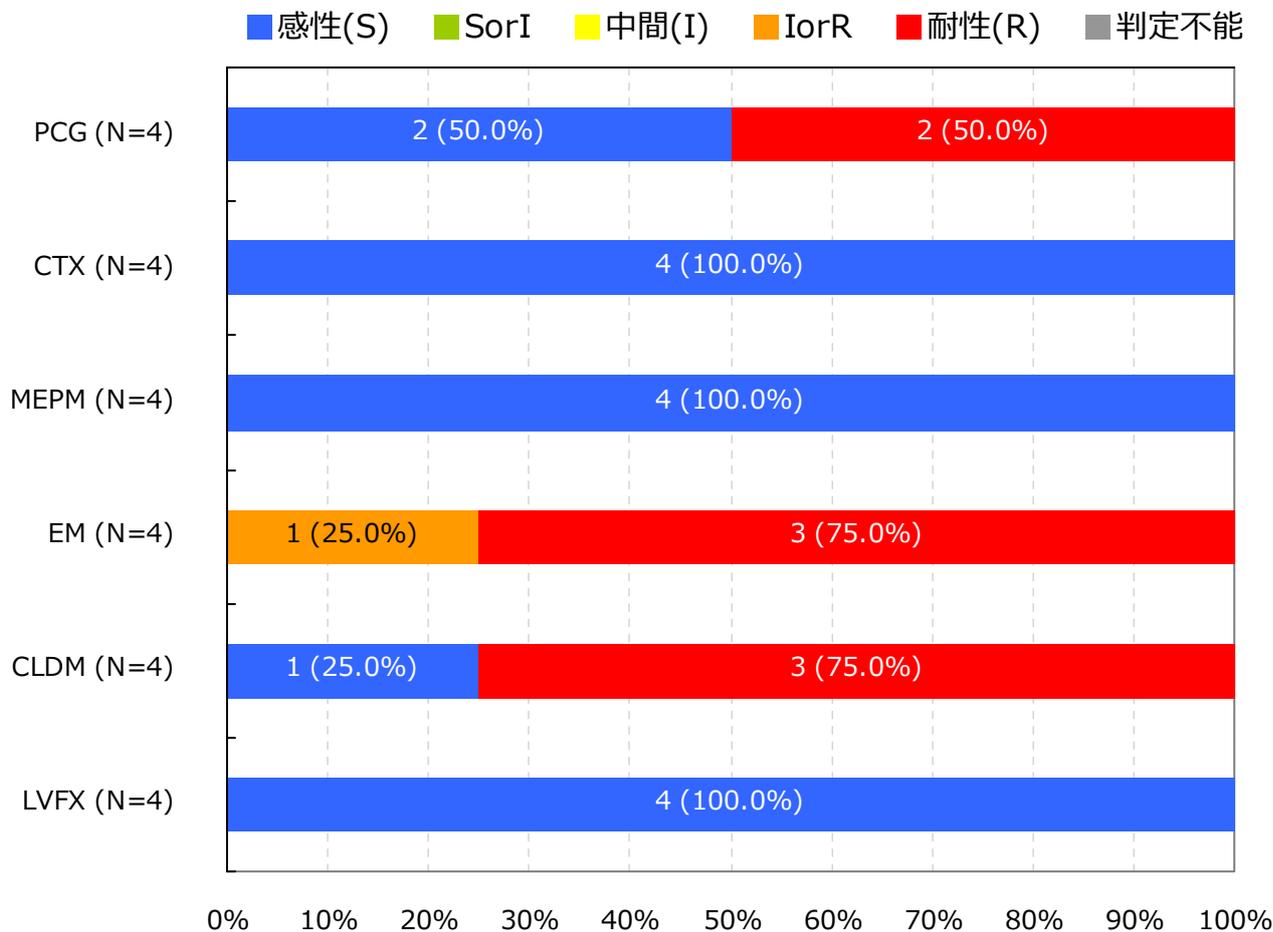
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1205, 1206と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pneumoniae*(髄液検体) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

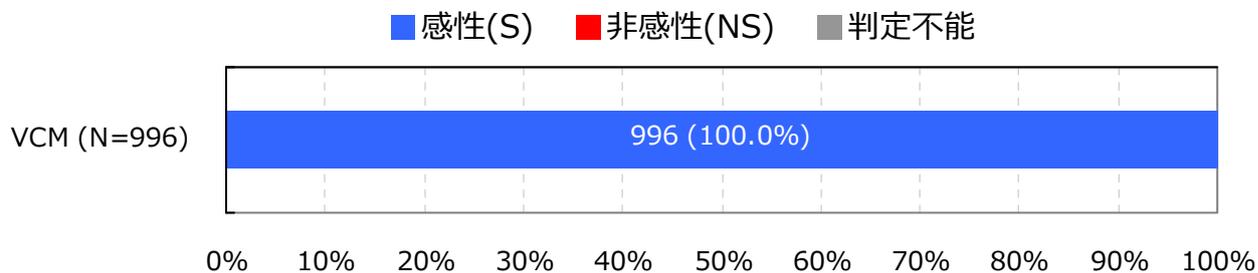
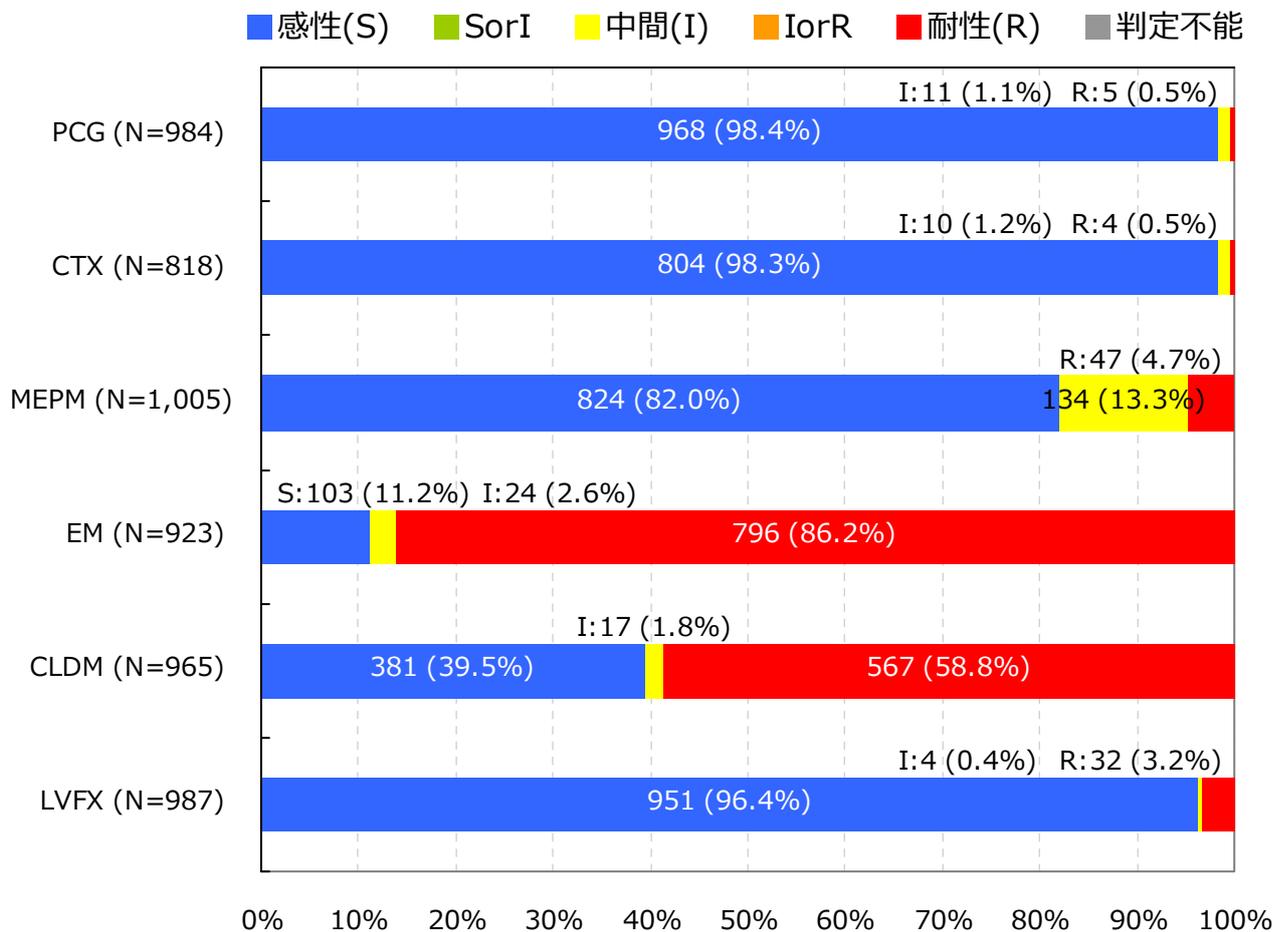
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1131と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pneumoniae*(髄液検体以外) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

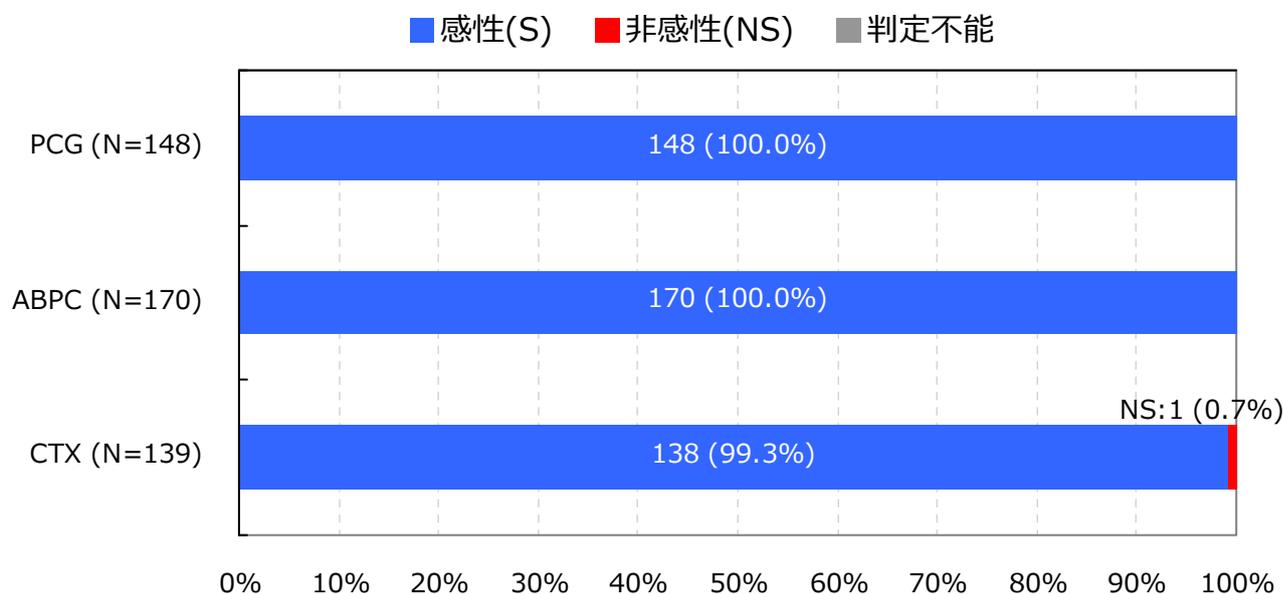
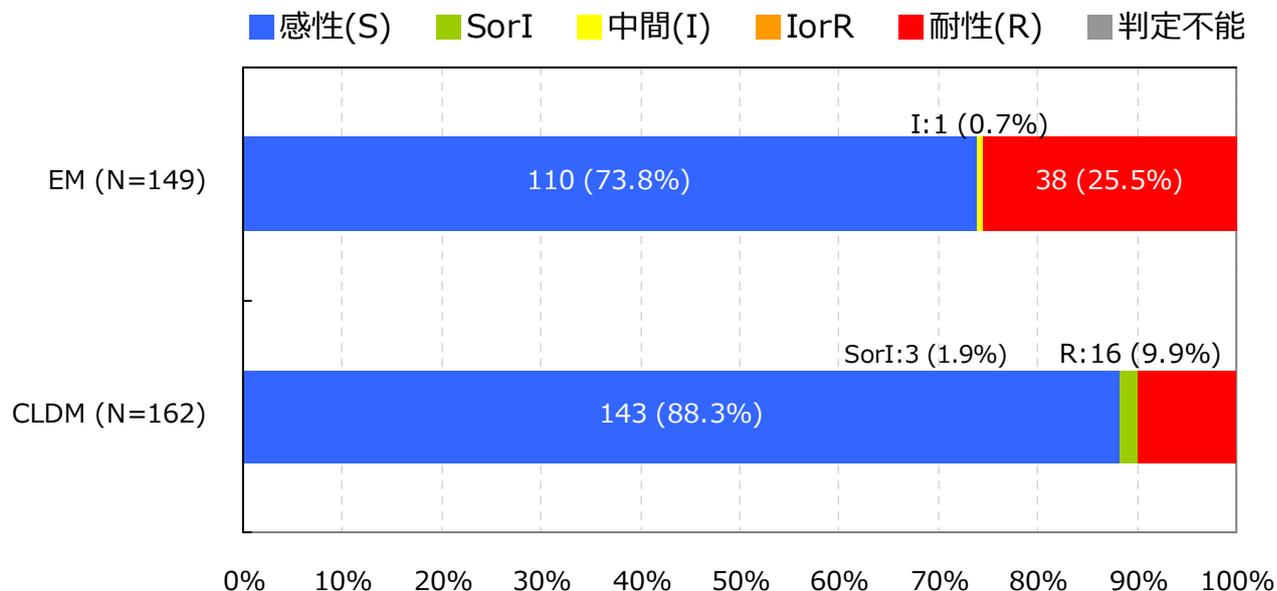
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1131と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pyogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

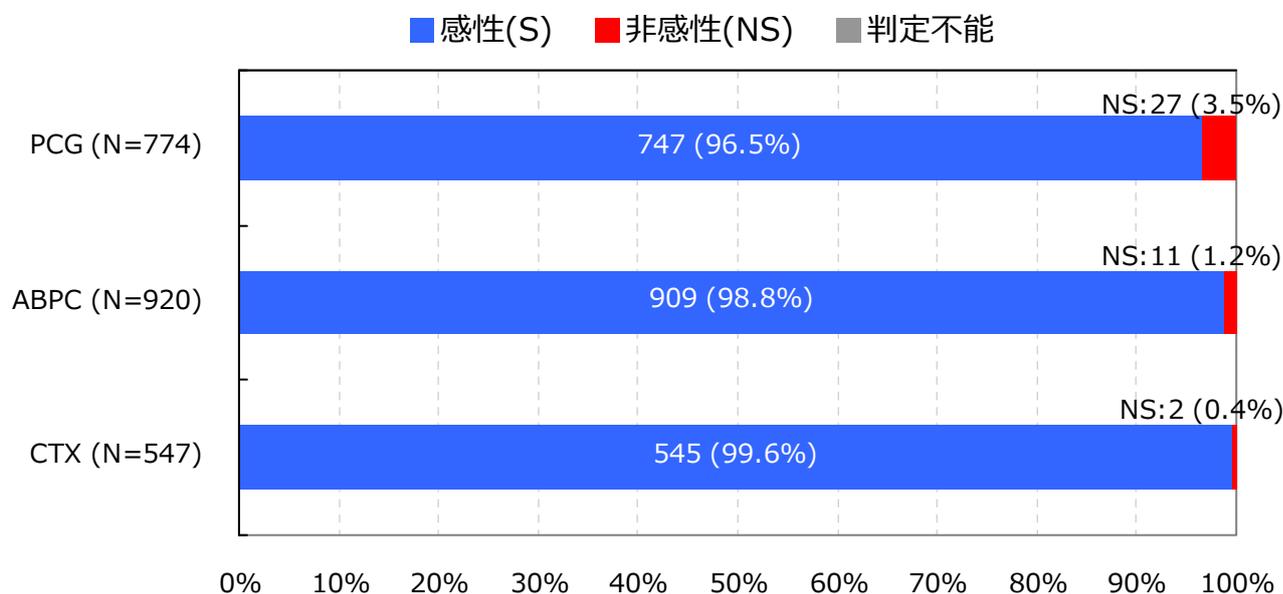
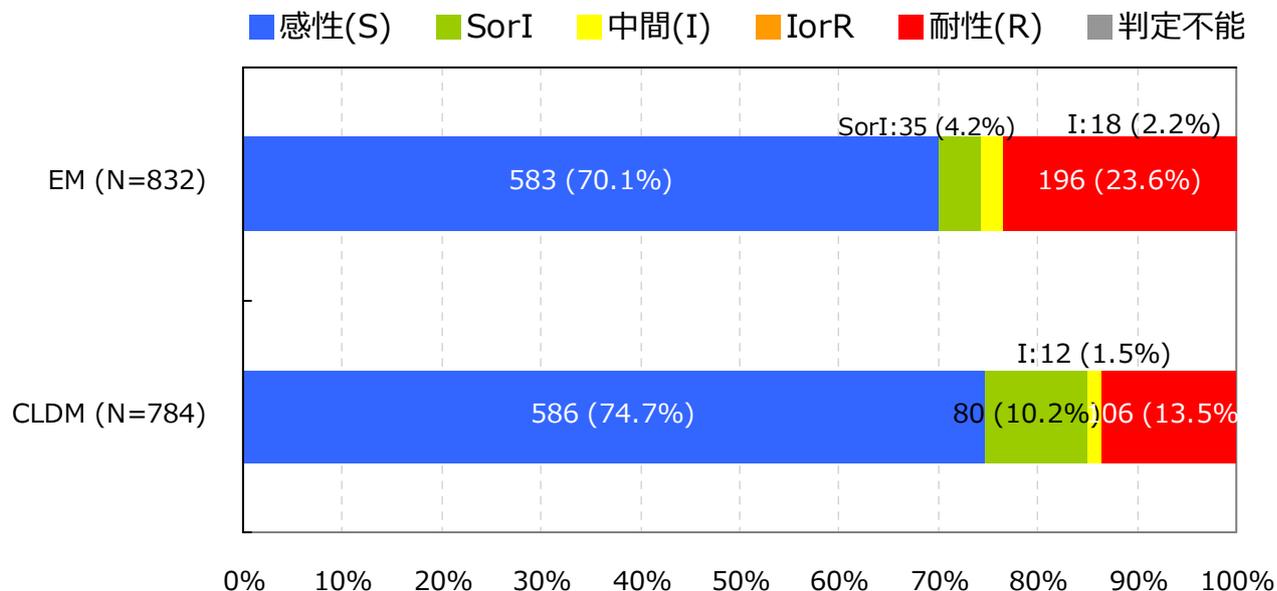
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1111と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus agalactiae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

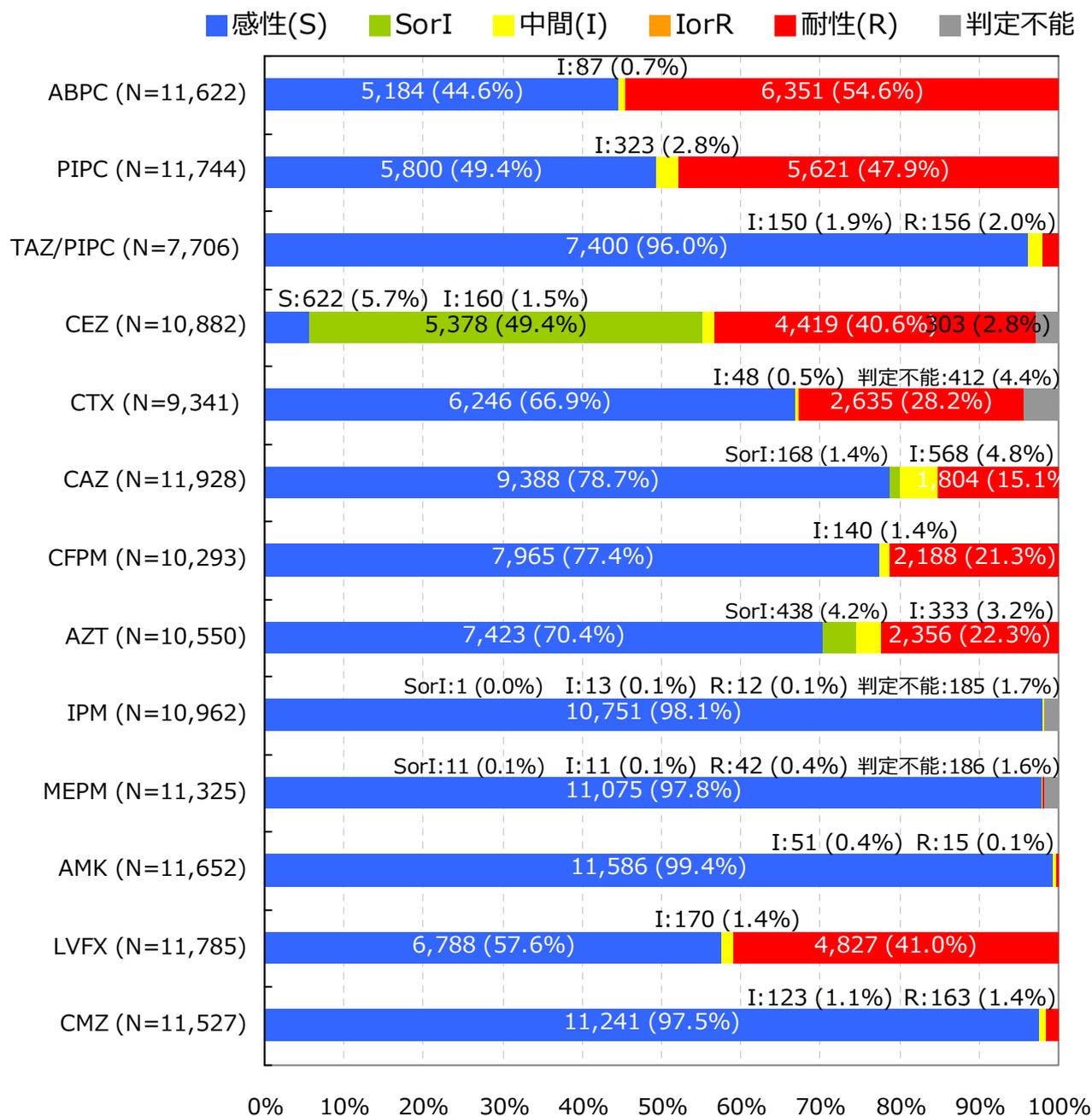
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1114と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Escherichia coli* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

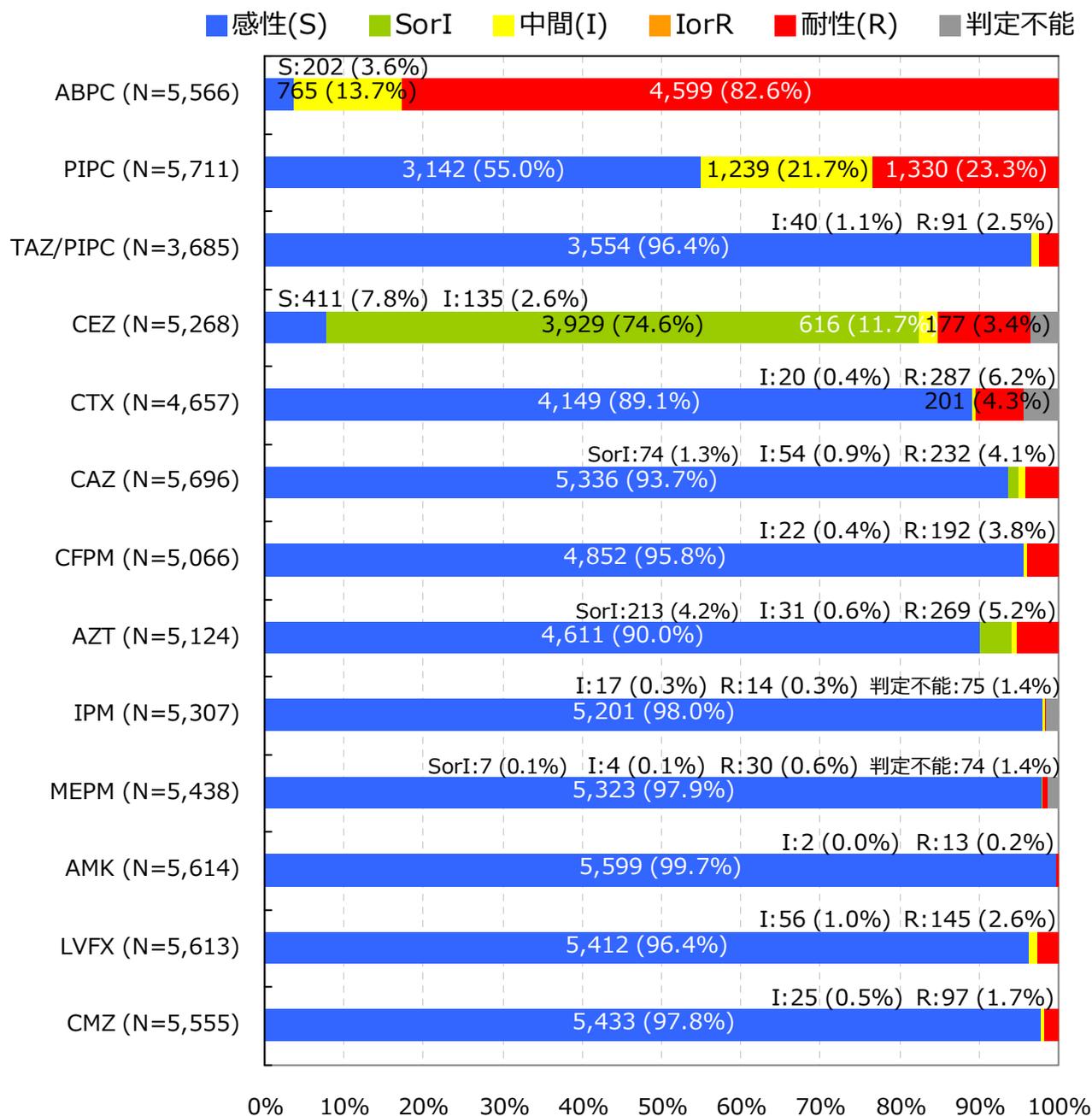
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2001～2007と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Klebsiella pneumoniae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

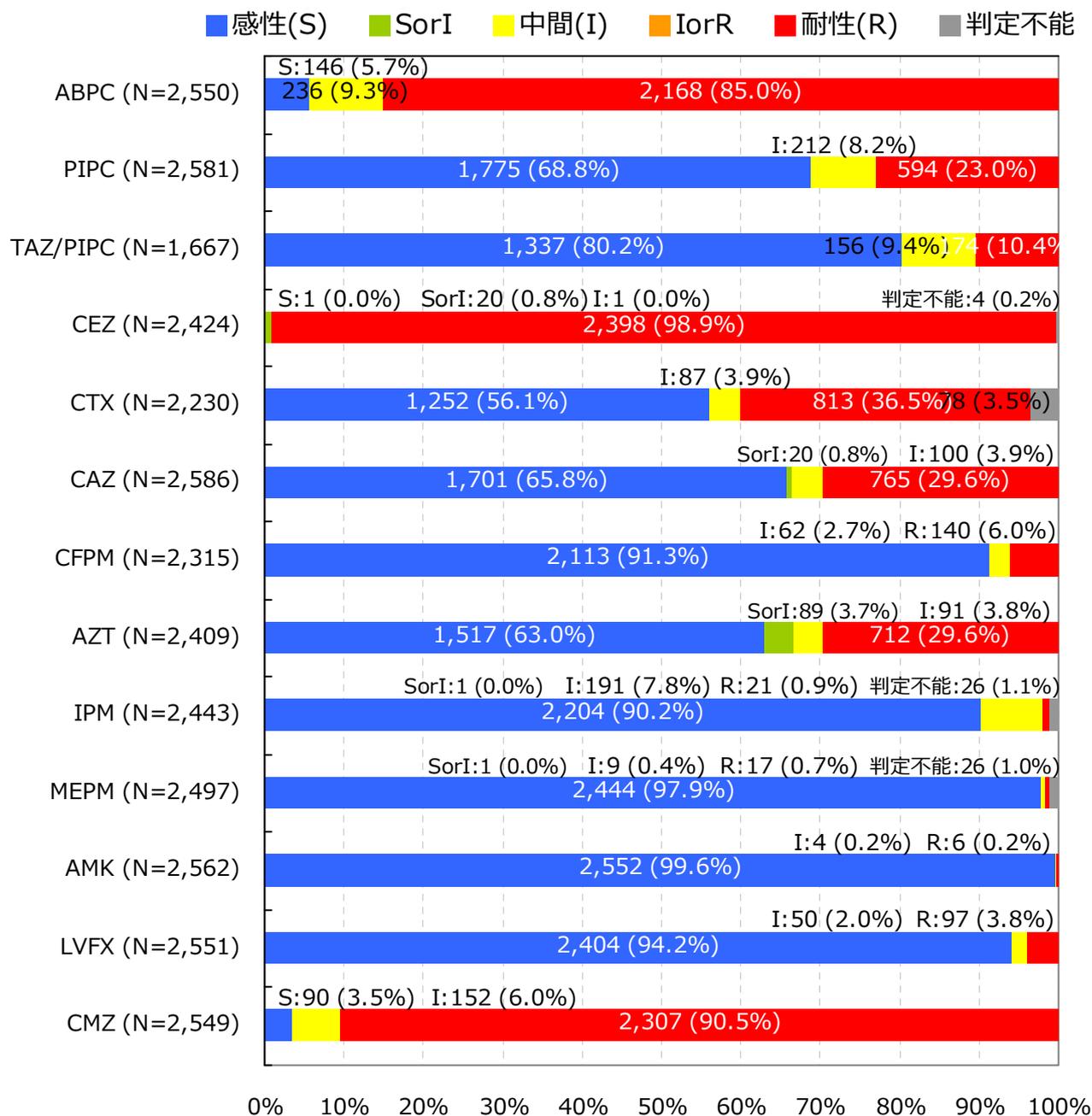
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2351と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterobacter cloacae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

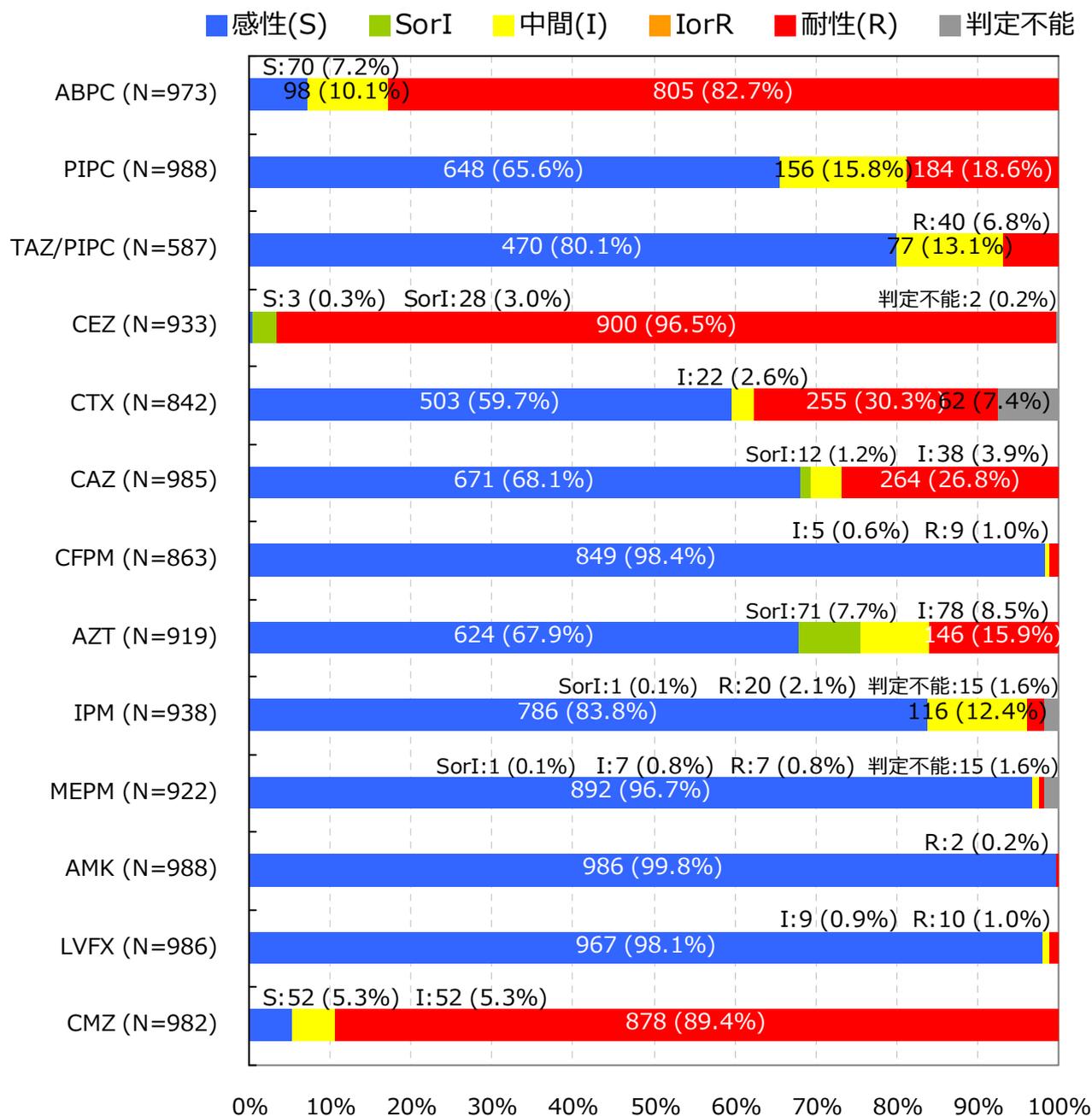
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2151と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterobacter aerogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

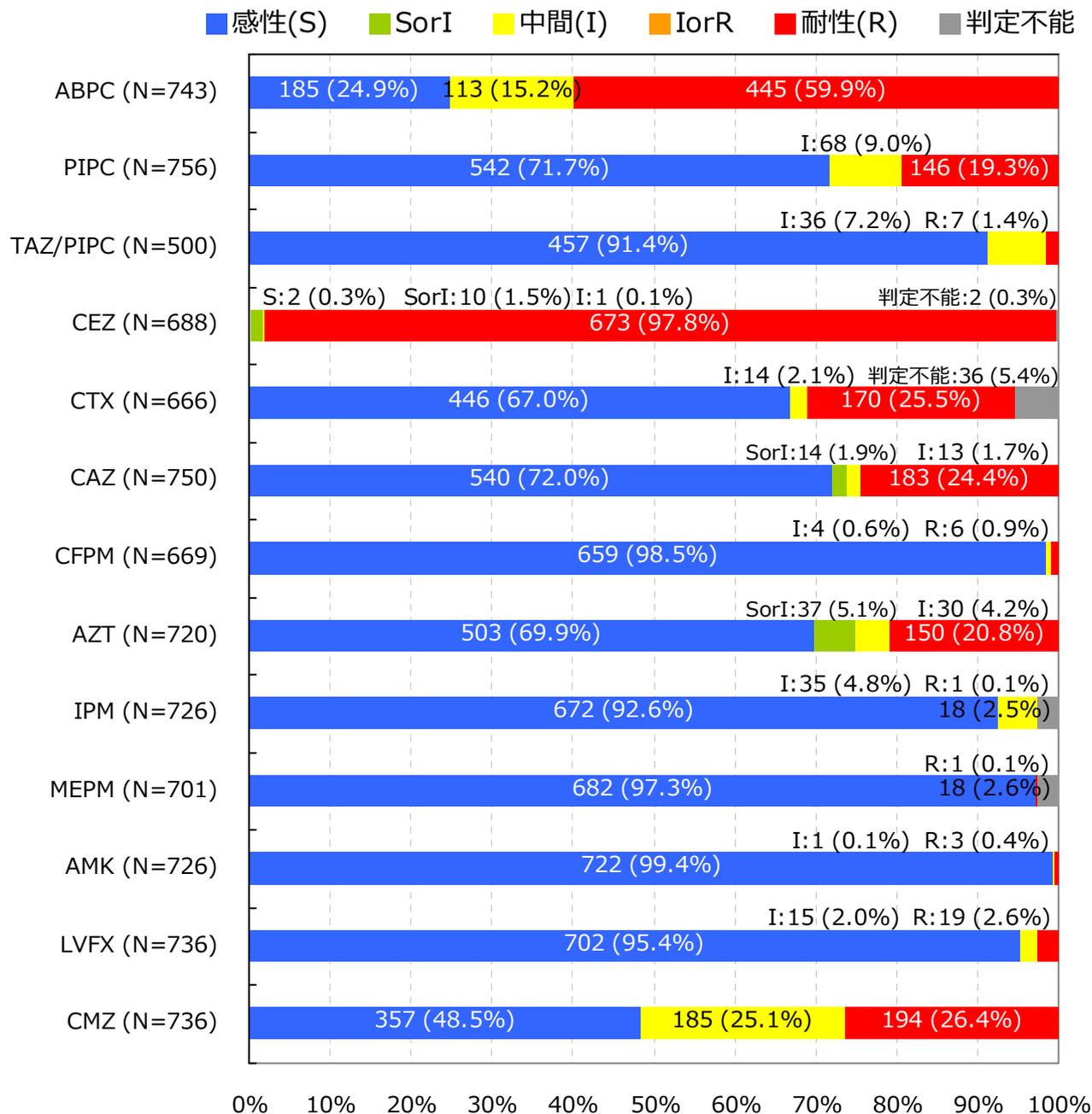
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2152と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter freundii* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

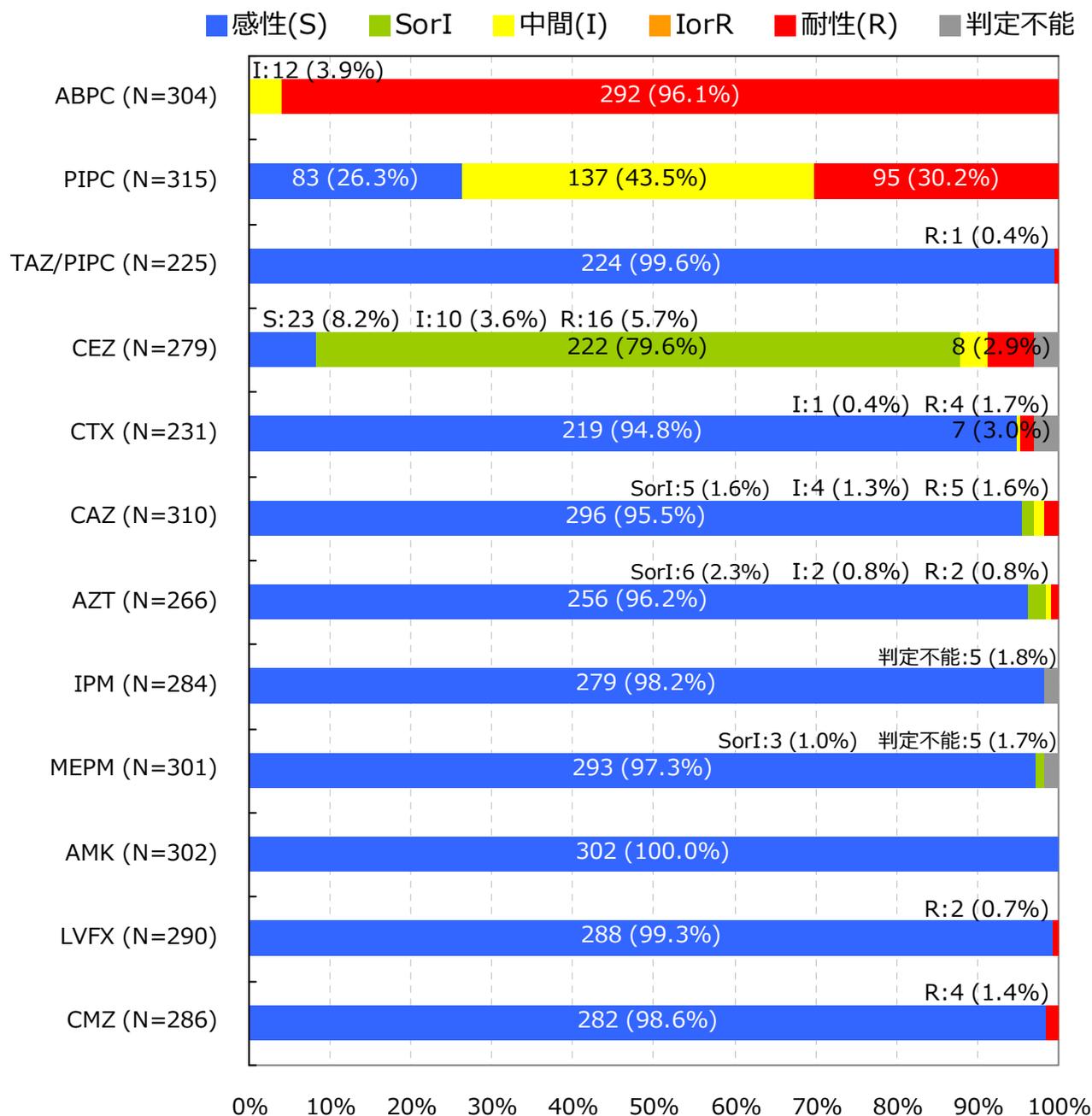
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2051と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter koseri* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

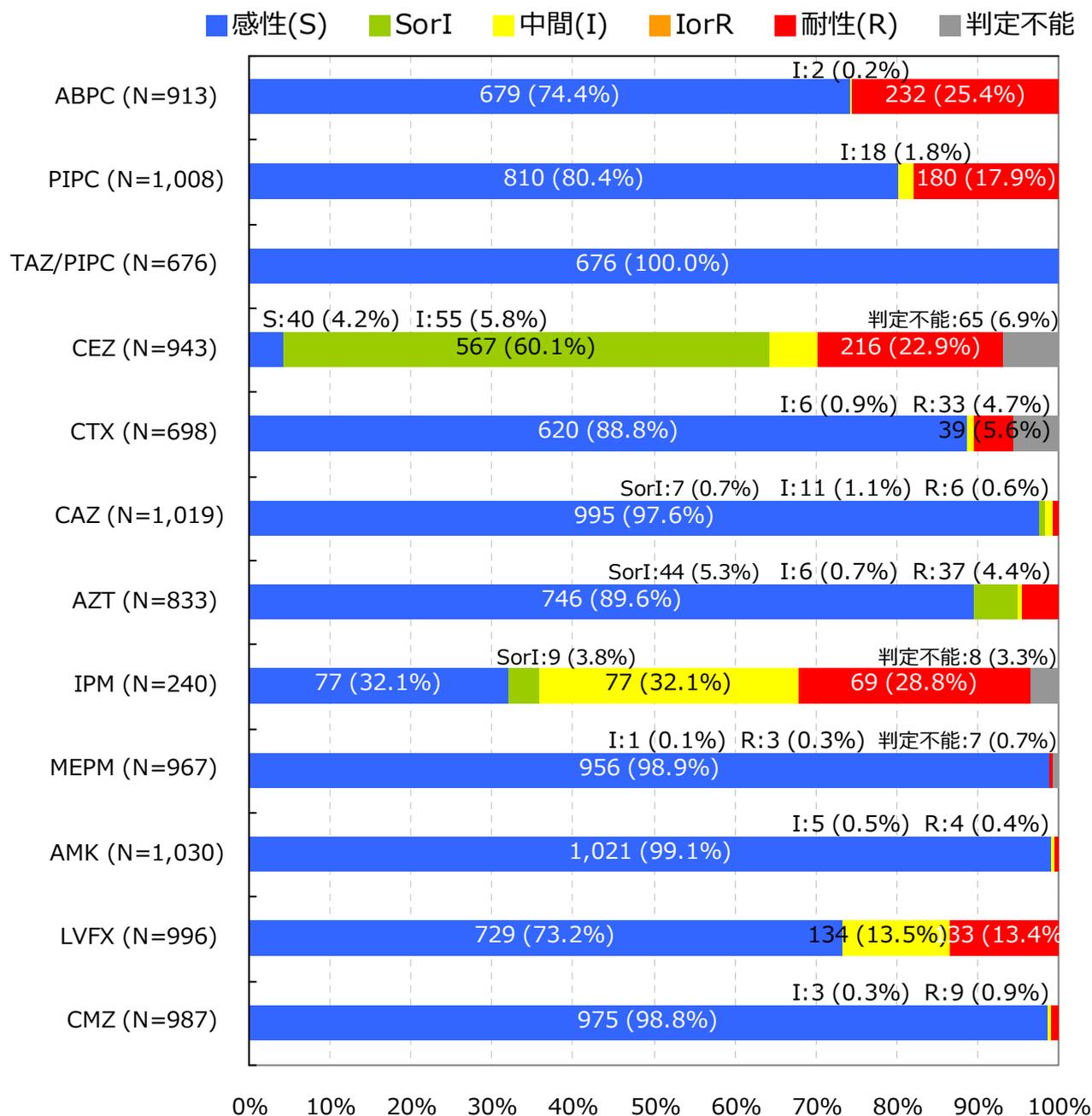
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2052と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus mirabilis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

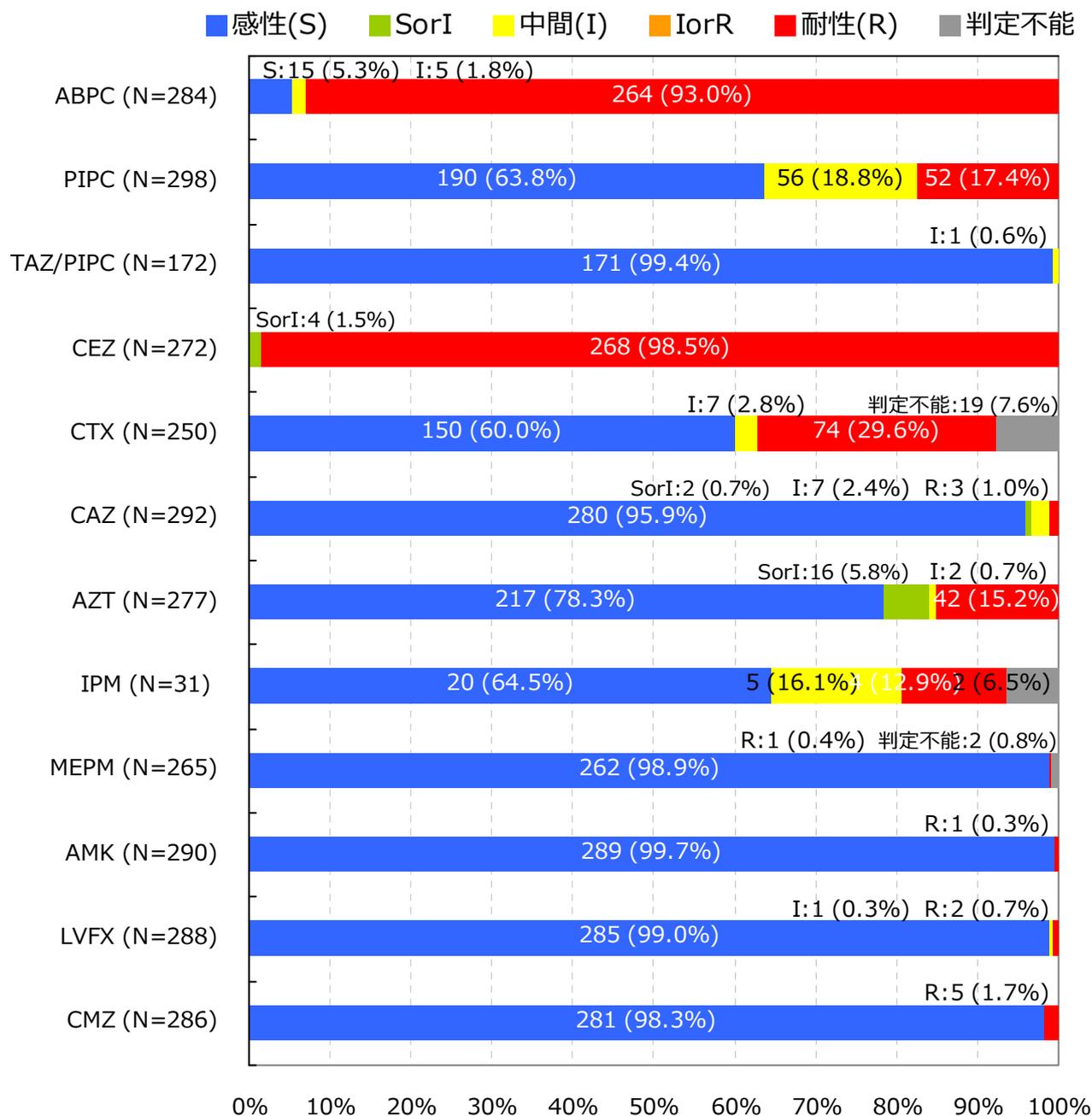
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2201と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus vulgaris* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

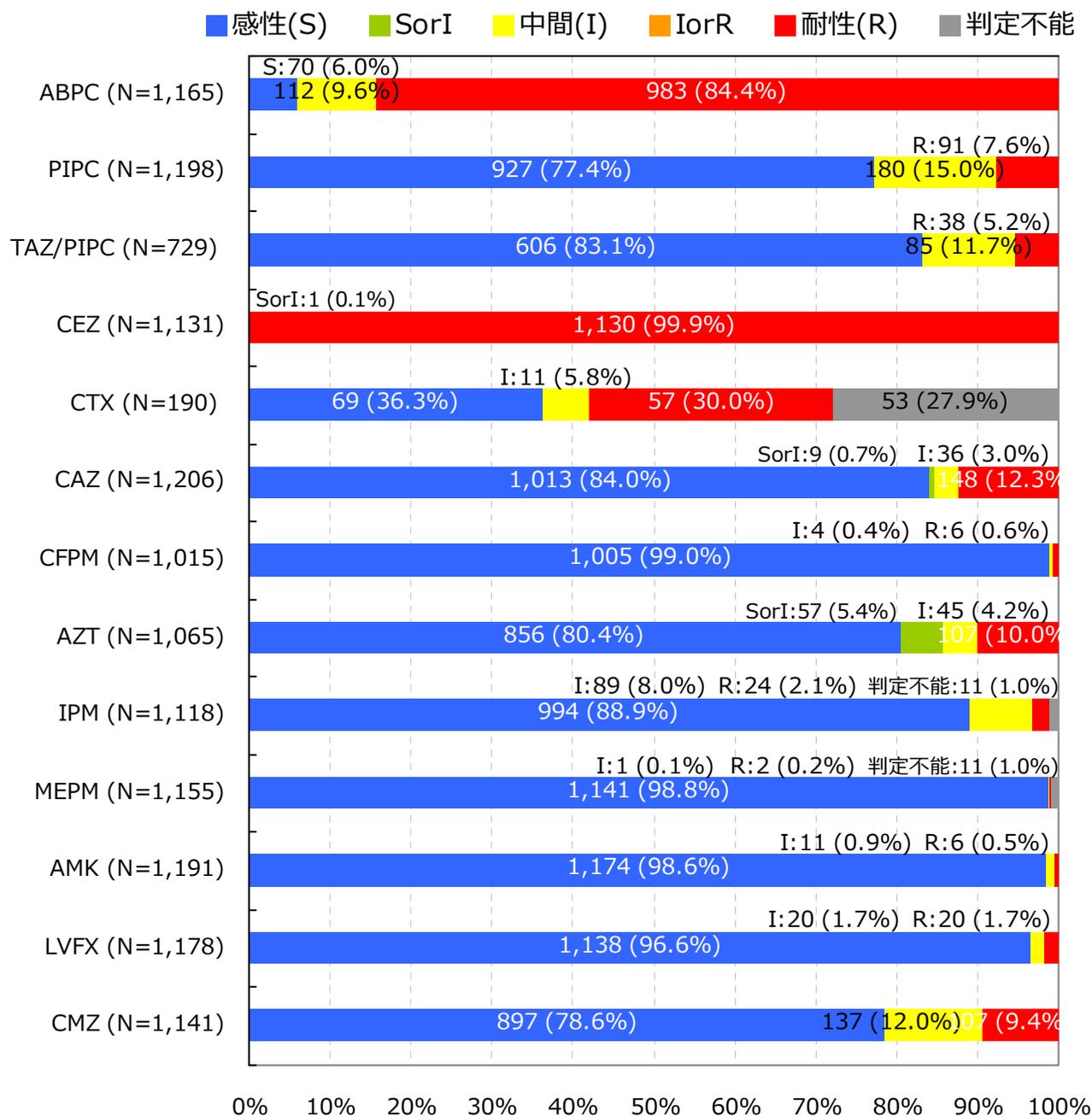
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2202と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Serratia marcescens* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

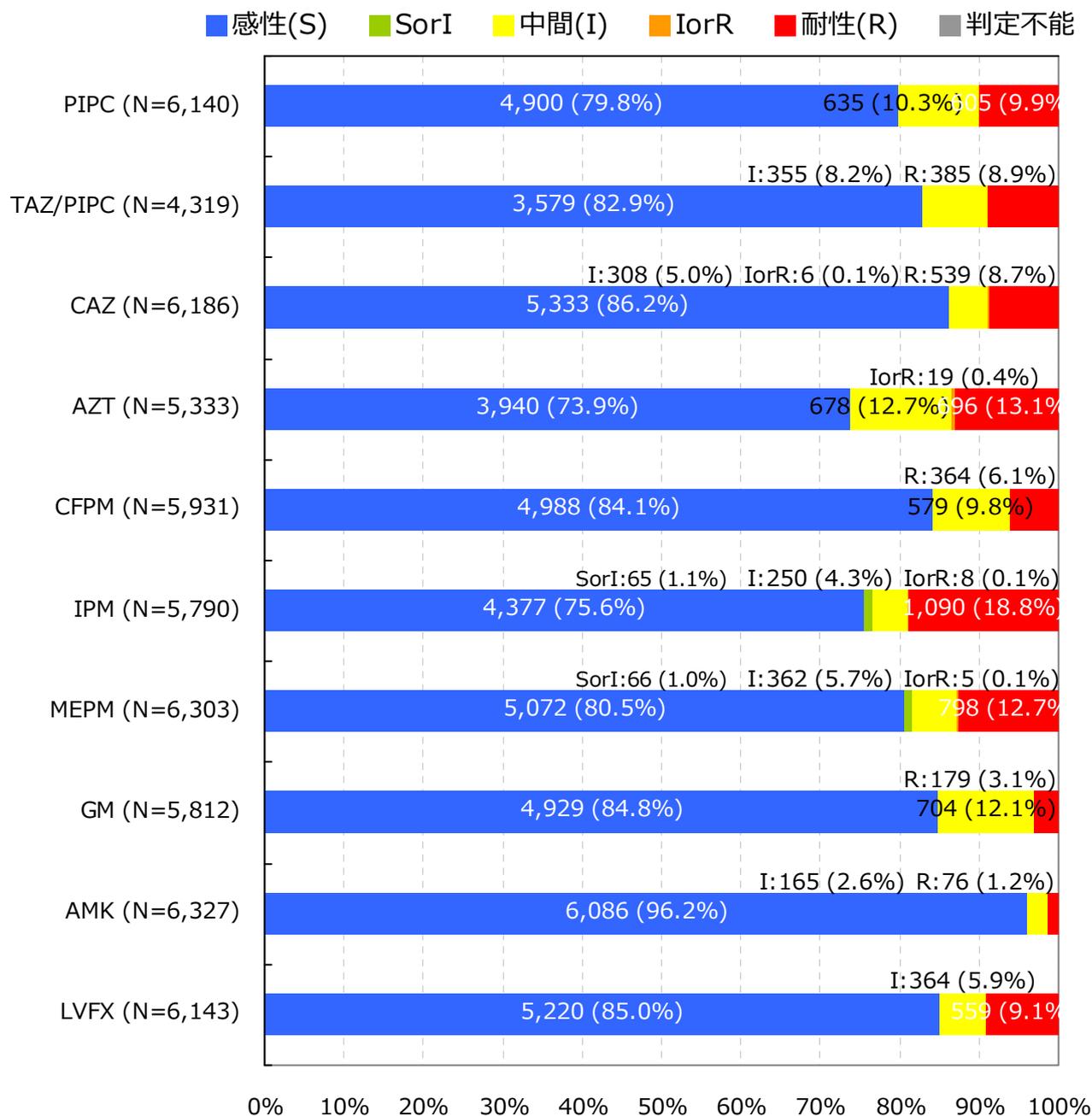
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2101と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Pseudomonas aeruginosa* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

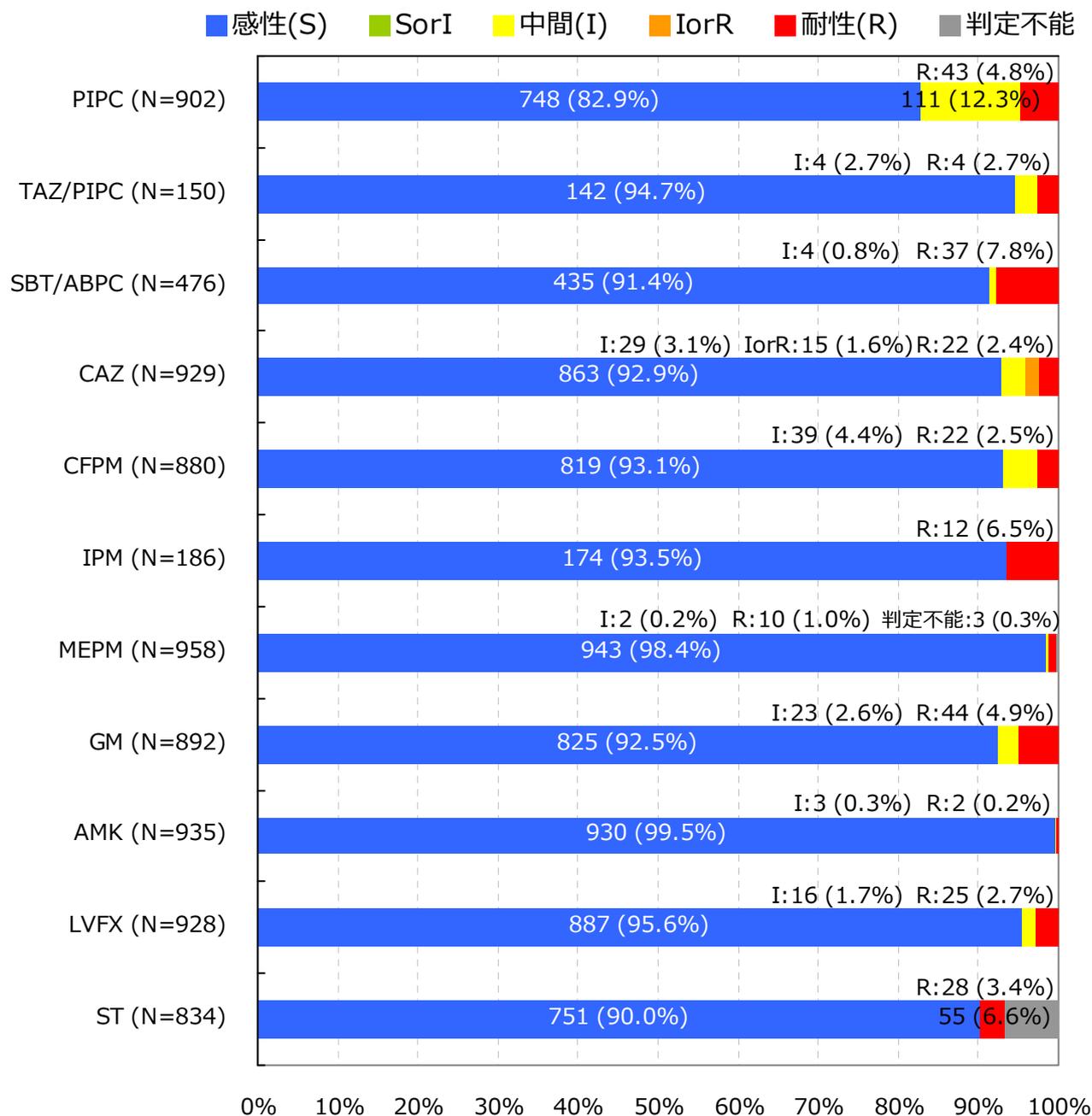
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：4001と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Acinetobacter* spp. †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

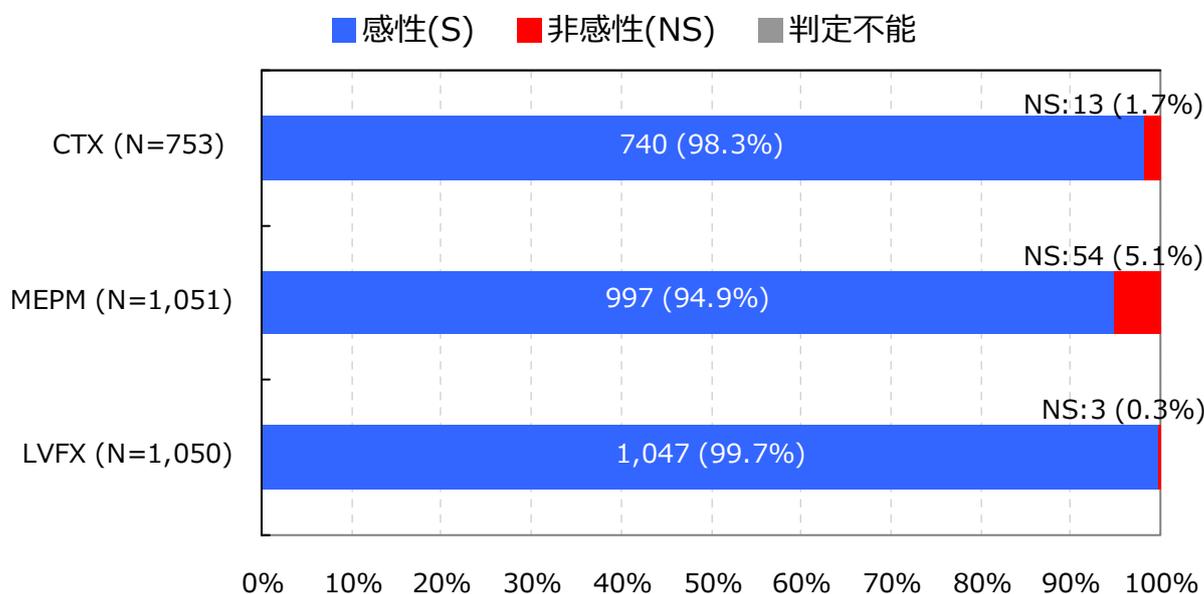
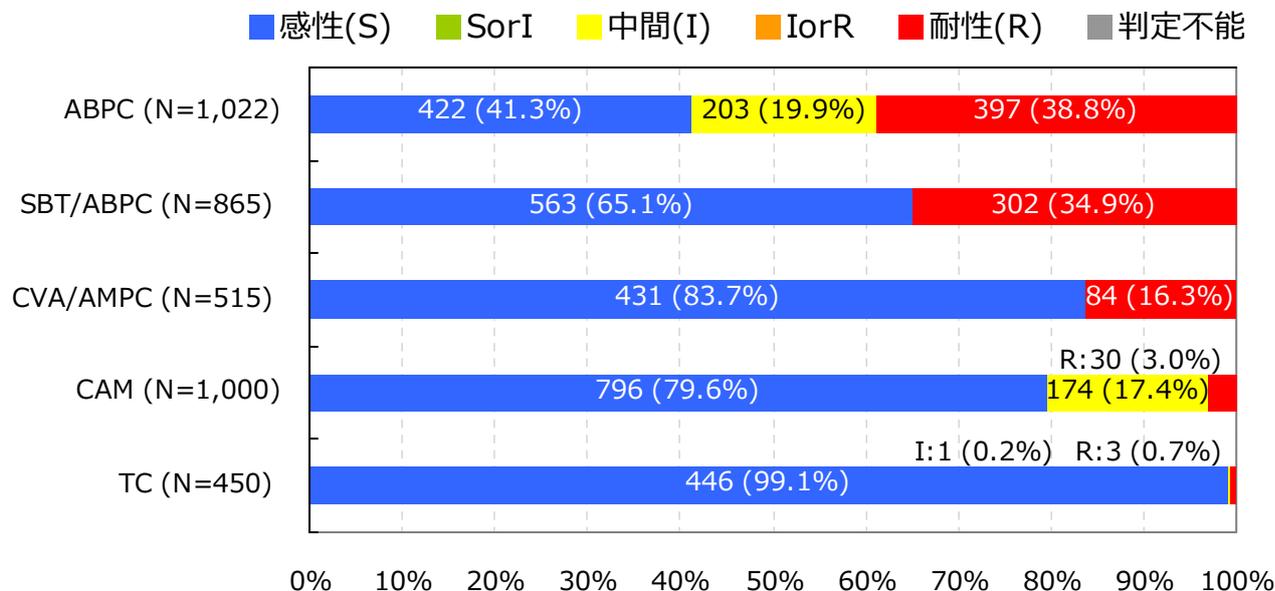
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 4400~4403と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Haemophilus influenzae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

【巻末資料1 微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準】

菌名※	概要*	微量液体希釈法 MIC 値	菌名コード Ver.4.0
MRSA	MPIPC が “R” の <i>Staphylococcus aureus</i> または選択培地で MRSA と確認された菌	MPIPC $\geq 4\mu\text{g/ml}$	1301,1303
VRSA	VCM が微量液体希釈法で “R” の <i>Staphylococcus aureus</i>	VCM $\geq 16\mu\text{g/ml}$	1301,1303-1306
VRE	下記のいずれかの条件を満たす <i>Enterococcus</i> spp. ・VCM が微量液体希釈法で耐性+ ・選択培地で VRE と確認された菌 (注) 種の同定が行われていない <i>Enterococcus</i> sp. は除く	VCM $\geq 16\mu\text{g/ml}+$	1201,1202,1205, 1206,1209,1210, 1213-1217
PRSP	PCG が微量液体希釈法で耐性+ の <i>Streptococcus pneumoniae</i>	PCG $\geq 0.125\mu\text{g/ml}+$	1131
MDRP	下記全てに該当する <i>Pseudomonas aeruginosa</i> 1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が微量液体希釈法で耐性+ 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性+ 3. フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, CFX, LFLX, GFLX の何れか) が “R”	1. IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}+$ 、 MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}+$ 2. AMK $\geq 32\mu\text{g/ml}+$ 3. NFLX $\geq 16\mu\text{g/ml}$ 、 OFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 LFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 CFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$	4001
MDRA	下記全てに該当する <i>Acinetobacter</i> spp. 1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が “R” 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性+ 3. フルオロキノロン系 (LVFX, CFX, GFLX の何れか) が “R”	1. IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}+$ 、 MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}+$ 2. AMK $\geq 32\mu\text{g/ml}+$ 3. LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 CFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$	4400-4403
CRE	下記の何れかの条件を満たす腸内細菌科 1. MEPM が耐性+ 2. IPM が耐性+、かつ CMZ が “R”	1. MEPM $\geq 2\mu\text{g/ml}+$ 2. IPM $\geq 2\mu\text{g/ml}+$ かつ CMZ $\geq 64\mu\text{g/ml}$	2000-2691, 3150-3151
カルバペネム 耐性緑膿菌	IPM または MEPM が耐性+ の <i>Pseudomonas aeruginosa</i>	IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}+$ MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}+$	4001
第三世代セファロ スポリン耐性 肺炎桿菌	CTX または CAZ が “R” の <i>Klebsiella pneumoniae</i>	CTX $\geq 4\mu\text{g/ml}$ CAZ $\geq 16\mu\text{g/ml}$	2351

菌名※	概要*	微量液体希釈法 MIC 値	菌名コード Ver.4.0
第三世代セファロ スポリン耐性 大腸菌	CTX または CAZ が “R” の <i>Escherichia coli</i>	CTX $\geq 4\mu\text{g/ml}$ CAZ $\geq 16\mu\text{g/ml}$	2001-2007
フルオロキノロン 耐性大腸菌	フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, LFLX, GFLX, CFX の何れか) が “R” の <i>E. coli</i>	NFLX $\geq 16\mu\text{g/ml}$ 、 OFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 LFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 CFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$	2001-2007

\*原則 S,I,R の判定は CLSI2012 (M100-S22) に準拠

+ 感染症発生动向調査の基準に準拠

※ 菌名は以下の通り

- MRSA : Methicillin-resistant *S. aureus* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌
- VRSA : Vancomycin-resistant *S. aureus* バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌
- VRE : Vancomycin-resistant *Enterococcus* spp. バンコマイシン耐性腸球菌
- PRSP : Penicillin-resistant *S. pneumoniae* ペニシリン耐性肺炎球菌
- MDRP : Multidrug-resistant *P. aeruginosa* 多剤耐性緑膿菌
- MDRA : Multidrug-resistant *Acinetobacter* spp. 多剤耐性アシネトバクター属
- CRE : Carbapenem-Resistant Enterobacteriaceae カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 (2015年1月より集計開始)

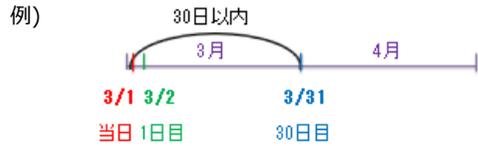
2014年12月分データまでは CLSI2007 (M100-S17)、2015年1月分データより CLSI2012 (M100-S22) に準拠する。

薬剤耐性菌判定基準 (Ver.3.1) と 検査部門特定の耐性菌判定基準 (Ver.4.1) を基に作成した。

【巻末資料 2 公開情報の集計方法について】

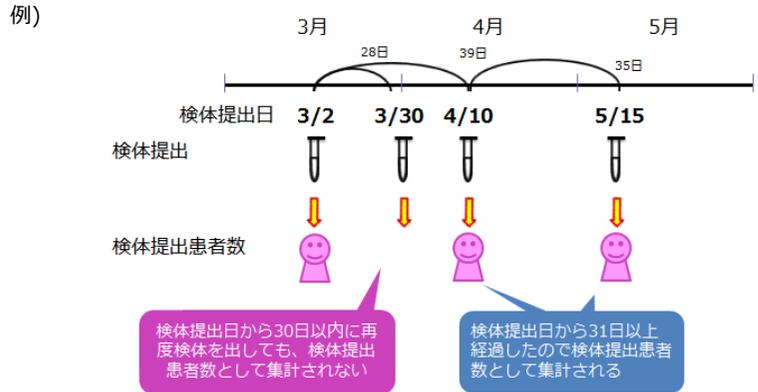
1. 日数の数え方

検体提出日の翌日を 1 日目とする。検体提出日が 3 月 1 日とすると、1 日目が 3 月 2 日、30 日目が 3 月 31 日となる。



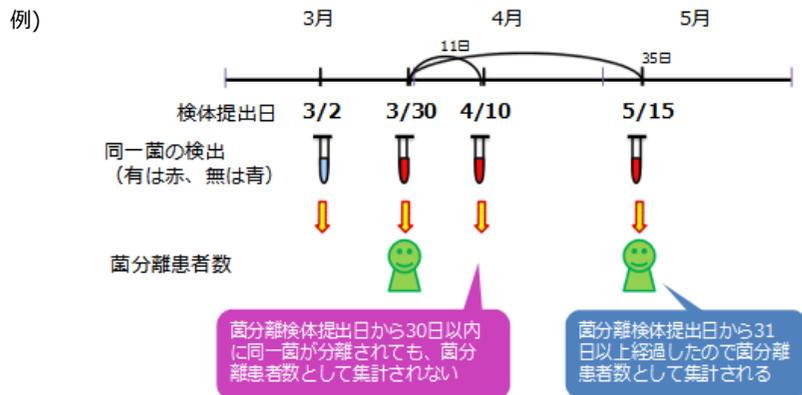
2. 検体提出患者数

検体提出患者数は、検体の種類や菌分離の有無に関わらず検体(入院検体)が提出された患者の数である。検体提出患者数は重複処理を行っており、30 日以内の同一患者からの複数の検体提出は 1 件とする。



3. 菌分離患者数

菌分離患者数も検体提出患者と同様の重複処理を行い、30 日以内に同一患者から同一菌が複数回検出された場合、菌分離患者数は 1 件とする。耐性菌分離患者数は、耐性菌の基準に合致する菌をまず抽出し、その中で上記重複処理を行っている。



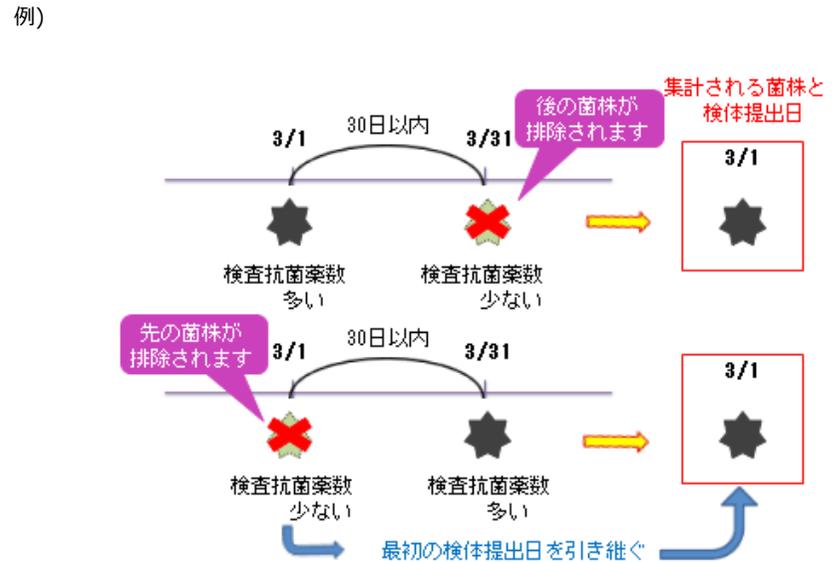
4. 抗菌薬感受性検査結果をもとにした同一菌と異なる菌との区別

30 日以内に同一患者から同一菌が検出された場合であっても、検査抗菌薬感受性結果に 1 つ以上不一致(下記①~④のいずれかに該当)がある場合は異なる菌株として集計される。

- ① MIC 値に 4 倍以上の違いがある  
ただし、MIC > 2 は MIC ≥ 4 と考え、判定時は MIC = 4 として扱う  
また、MIC < 16 は MIC ≤ 16 と考え、判定時は MIC = 16 として扱う
- ② SIR 判定では「S と R」の組み合わせ
- ③ +/- 判定では「-と++」または「+と+++」または「-と+++」の組み合わせ
- ④ 共通する検査抗菌薬数が 5 未満

5. 抗菌薬感受性結果の重複処理

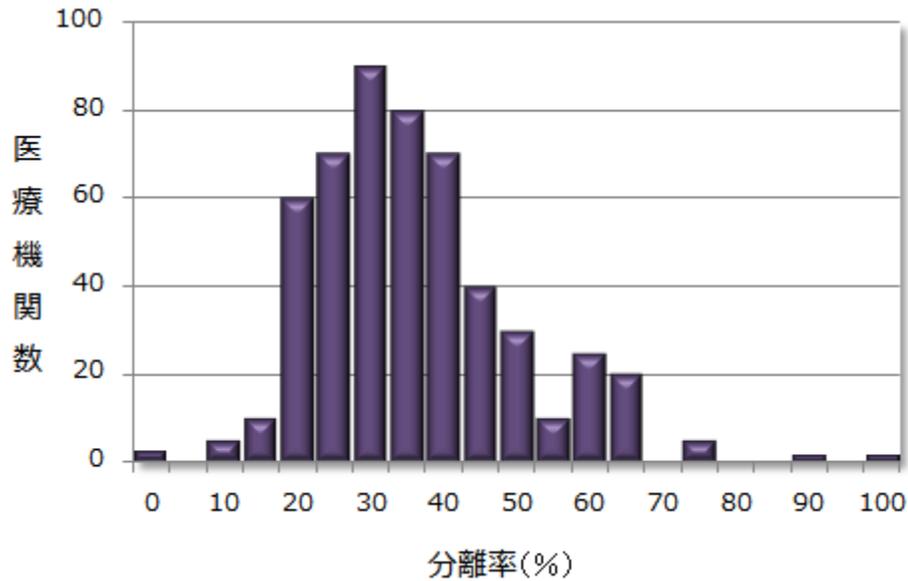
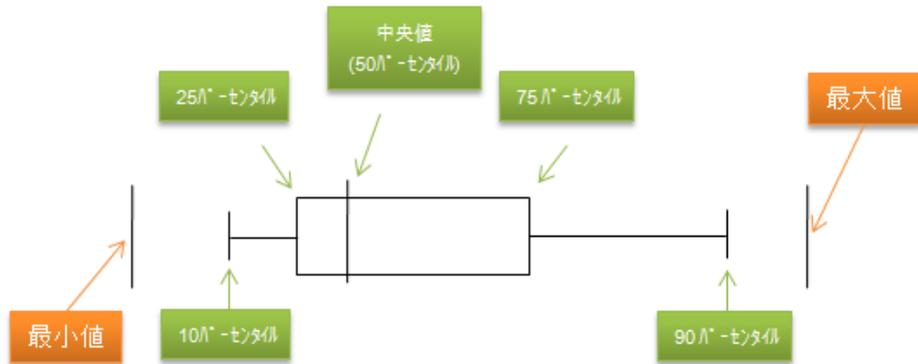
検体提出日が先の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内)の後の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、後の菌株の抗菌薬感受性検査結果は排除する。また、検体提出日が後の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内)の先の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、先の菌株の抗菌薬感受性検査結果を排除するが、先の検査の検体提出日を引き継ぐ。



【巻末資料3 箱ひげ図について】

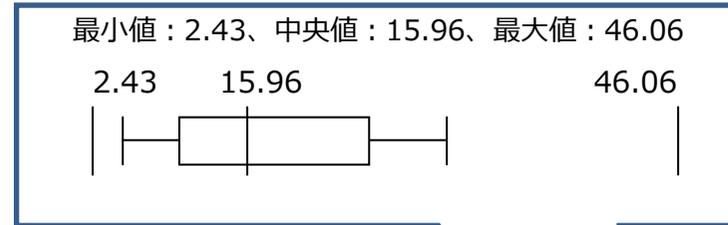
1. 箱ひげ図について

集計対象医療機関のデータのばらつきを示し、集計対象医療機関における自施設の位置を確認することができる。



※ パーセンタイル：値を小さいものから大きいものへと順番に並べ、全体を 100 として何番目であるかを表したもの。  
 例えば、10パーセンタイルは、全体を 100 として小さいほうから数えて 10 番目の計測値を示している。

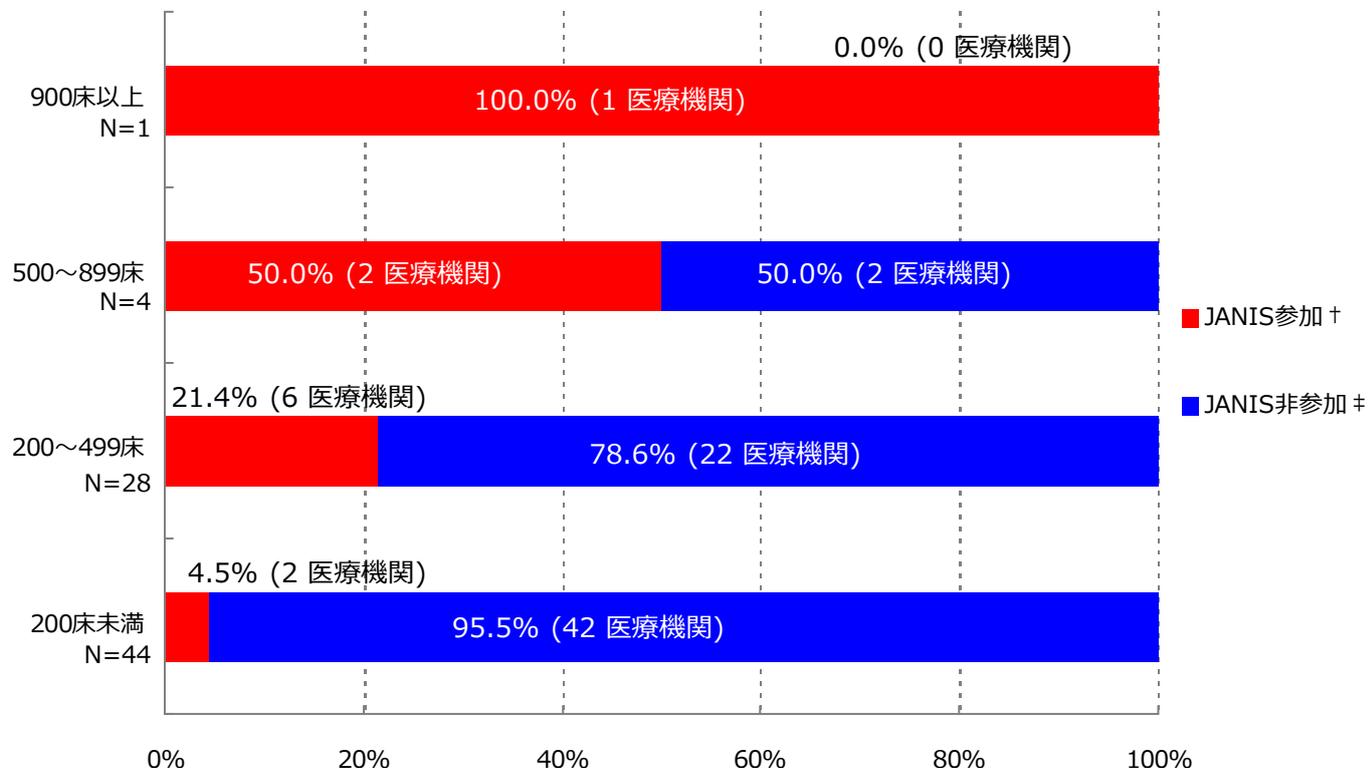
2. 公開情報の箱ひげ図



		集計対象医療機関の分離率 (%)の分布	
2010年 *	2011年		
1,069,216人	1,309,993人		
175,145人 (16.38%)	210,382人 (16.06%)	2.43	15.96 46.06
47,523人 (4.44%)	64,588人 (4.93%)	0.00	3.21 37.54



### 1. データ提出医療機関\*数(11医療機関)



\*ここではデータ提出医療機関は集計対象医療機関を表す

† JANIS参加 = 2015年1～12月 集計対象医療機関数

‡ JANIS非参加 = (2014年 都道府県別医療機関数¶) - (2015年1～12月 集計対象医療機関数)

病床数	2014年 都道府県別医療機関数¶	2015年1月～12月 集計対象医療機関数 (都道府県別医療機関数に占める割合)
900床以上	1	1 (100.0%)
500～899床	4	2 (50.0%)
200～499床	28	6 (21.4%)
200床未満	44	2 (4.5%)
病床数不明	-	0 (-)
合計	77	11 (14.3%)

¶平成26年医療施設（動態）調査を参照した

## 2. データ提出医療機関数、検体数、分離菌数

検査材料分類	集計対象医療機関数	検体数	陽性検体数 (分離菌数)
呼吸器系検体	11	15,347	8,789 (16,122)
尿検体	11	6,383	3,629 (5,502)
便検体	11	4,462	1,964 (3,075)
血液検体	11	14,759	2,189 (2,409)
髄液検体	9	1,044	51 (56)
その他	11	11,940	5,625 (10,266)
合計	11	53,935	22,247 (37,430)

入院として報告された検体を集計

集計対象菌：コメントのみ(菌名コード9999)の報告以外の全ての菌

検査材料分類は以下に該当する検査材料コードを集計

呼吸器系検体：

101(喀出痰)、102(気管内採痰)、103(気管支洗浄液)、104(咽頭粘液)、105(鼻腔内)、106(口腔内)、  
107(生検材料(肺))、109(その他(呼吸器))、404(胸水)

尿検体：

201(自然排尿)、202(採尿カテーテル)、203(留置カテーテル)、206(カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能))

便検体：

301(糞便)

血液検体：

401(静脈血)、402(動脈血)

髄液検体：

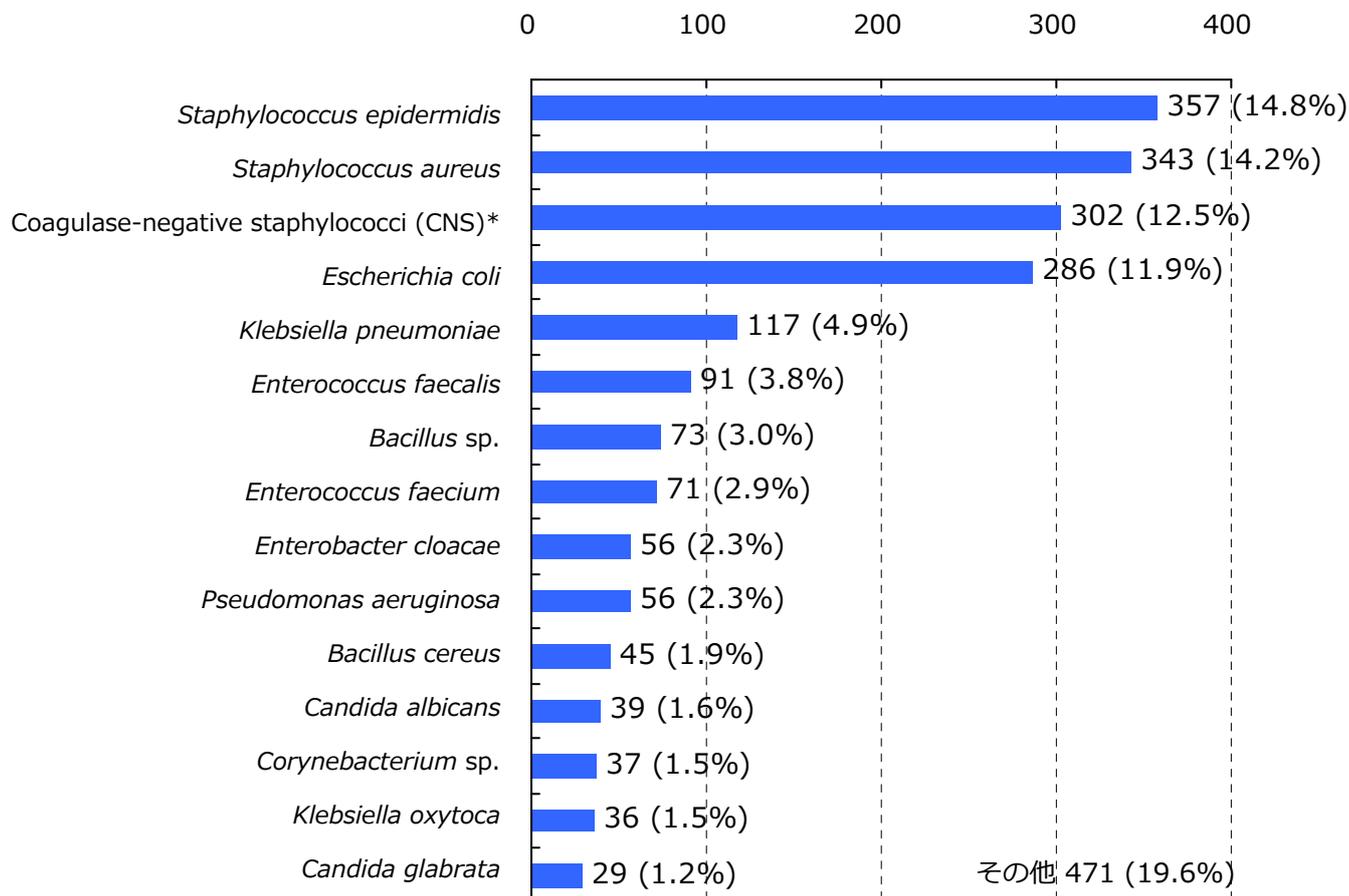
403(髄液)

その他：上記以外の検査材料コード

検査材料コード：JANISホームページ>各部門について>検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 血液検体分離菌 (N=2,409)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌 (1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外)

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：静脈血(検査材料コード401)と動脈血(同402)

血液検体分離菌数割合 = (対象菌の血液検体分離菌数) ÷ (血液検体分離菌数合計) × 100

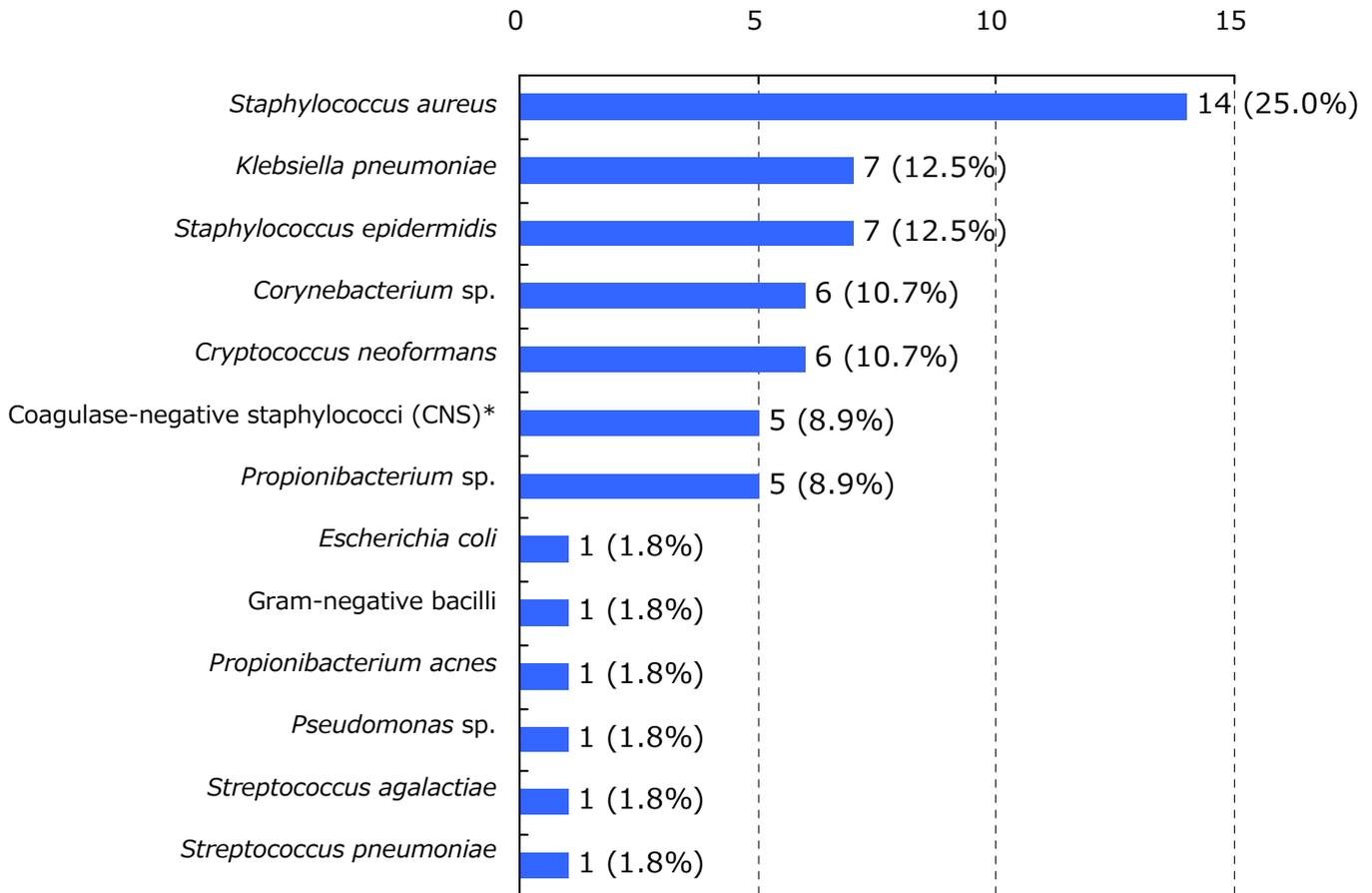
菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>



### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 髄液検体分離菌 (N=56)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

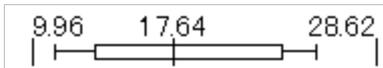
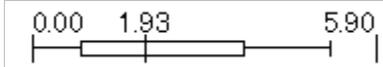
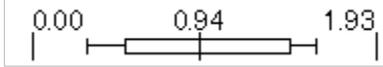
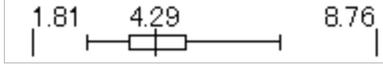
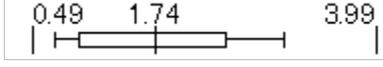
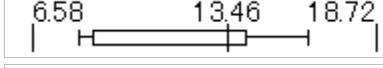
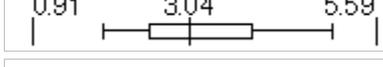
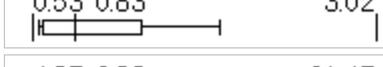
集計対象検査材料：髄液(検査材料コード403)

髄液検体分離菌数割合 = (対象菌の髄液検体分離菌数) ÷ (髄液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

## 4. 主要菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

	2011年 患者数 (分離率‡)	2012年 患者数 (分離率‡)	2013年 患者数 (分離率‡)	2014年 患者数 (分離率‡)	2015年 患者数 (分離率‡)	集計対象医療機関の分離率¶ (%)の分布
検体提出患者数	-	-	-	-	17,841人	
<i>S. aureus</i>	-	-	-	-	2,858人 (16.02%)	9.96 17.64 28.62 
<i>S. epidermidis</i>	-	-	-	-	529人 (2.97%)	0.00 1.93 5.90 
<i>S. pneumoniae</i>	-	-	-	-	156人 (0.87%)	0.00 0.94 1.93 
<i>E. faecalis</i>	-	-	-	-	744人 (4.17%)	1.81 4.29 8.76 
<i>E. faecium</i>	-	-	-	-	328人 (1.84%)	0.49 1.74 3.99 
<i>E. coli</i>	-	-	-	-	2,017人 (11.31%)	6.58 13.46 18.72 
<i>K. pneumoniae</i>	-	-	-	-	885人 (4.96%)	3.75 5.52 10.74 
<i>Enterobacter spp.</i>	-	-	-	-	602人 (3.37%)	0.91 3.04 5.59 
<i>S. marcescens</i>	-	-	-	-	155人 (0.87%)	0.53 0.83 3.02 
<i>P. aeruginosa</i>	-	-	-	-	1,224人 (6.86%)	4.35 6.38 21.45 
<i>Acinetobacter spp.</i>	-	-	-	-	187人 (1.05%)	0.00 0.38 2.75 

入院として報告された検体を集計

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

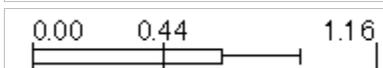
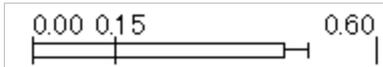
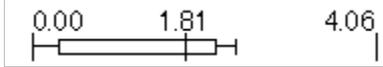
‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

全体の分離率

= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

## 5. 特定の耐性菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

	2011年 患者数 (分離率 †)	2012年 患者数 (分離率 †)	2013年 患者数 (分離率 †)	2014年 患者数 (分離率 †)	2015年 患者数 (分離率 †)	集計対象医療機関の分離率‡ (%)の分布
検体提出患者数	-	-	-	-	17,841人	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)	-	-	-	-	1,653人 (9.27%)	5.58 9.25 19.86 
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA)	-	-	-	-	0人 (0.00%)	0.00 
バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)	-	-	-	-	0人 (0.00%)	0.00 
ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)	-	-	-	-	44人 (0.25%)	0.00 0.17 0.97 
多剤耐性緑膿菌(MDRP)	-	-	-	-	36人 (0.20%)	0.00 0.00 7.85 
多剤耐性アシネトバクター属(MDRA)	-	-	-	-	0人 (0.00%)	0.00 
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)	-	-	-	-	62人 (0.35%)	0.00 0.44 1.16 
カルバペネム耐性緑膿菌	-	-	-	-	187人 (1.05%)	0.00 0.60 13.29 
第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌	-	-	-	-	34人 (0.19%)	0.00 0.15 0.60 
第三世代セファロスポリン耐性大腸菌	-	-	-	-	227人 (1.27%)	0.00 1.81 4.06 
フルオロキノロン耐性大腸菌	-	-	-	-	422人 (2.37%)	0.00 2.59 10.88 

入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計  
MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

全体の分離率

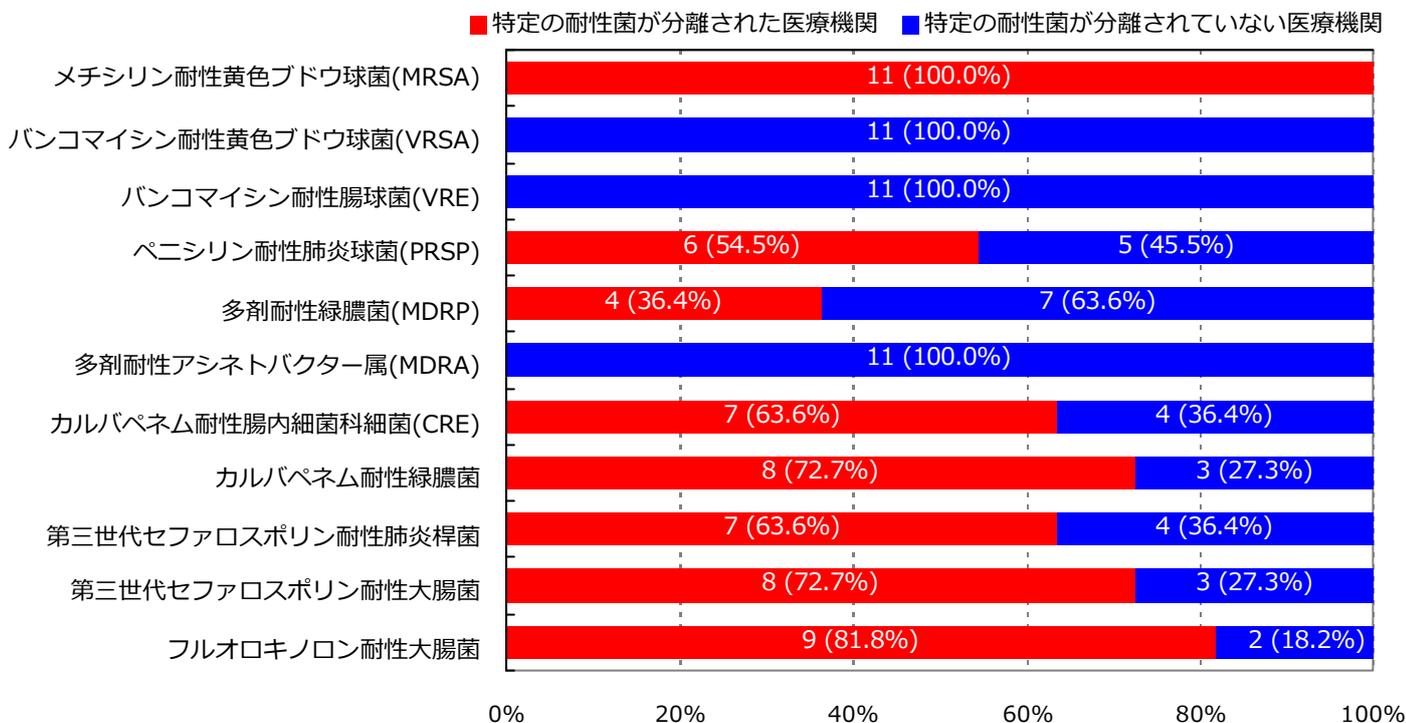
$$= (\text{集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計}) \div (\text{集計対象医療機関の検体提出患者数合計}) \times 100$$

$$\text{‡分離率} = (\text{対象菌の分離患者数}) \div (\text{検体提出患者数}) \times 100$$



### 6. 特定の耐性菌が分離された医療機関の割合

2015年 特定の耐性菌が分離された医療機関の割合 (N=11)



### 特定の耐性菌が分離された医療機関の割合 (過去5年間)

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
集計対象医療機関数	-	-	-	-	11
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)	-	-	-	-	100.0%
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA)	-	-	-	-	0.0%
バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)	-	-	-	-	0.0%
ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)	-	-	-	-	54.5%
多剤耐性緑膿菌(MDRP)	-	-	-	-	36.4%
多剤耐性アシネトバクター属(MDRA)	-	-	-	-	0.0%
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)	-	-	-	-	63.6%
カルバペネム耐性緑膿菌	-	-	-	-	72.7%
第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌	-	-	-	-	63.6%
第三世代セファロスポリン耐性大腸菌	-	-	-	-	72.7%
フルオロキノロン耐性大腸菌	-	-	-	-	81.8%

耐性菌判定薬剤(巻末資料参照)が未検査の場合、分離されていない医療機関として集計

入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計

MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む

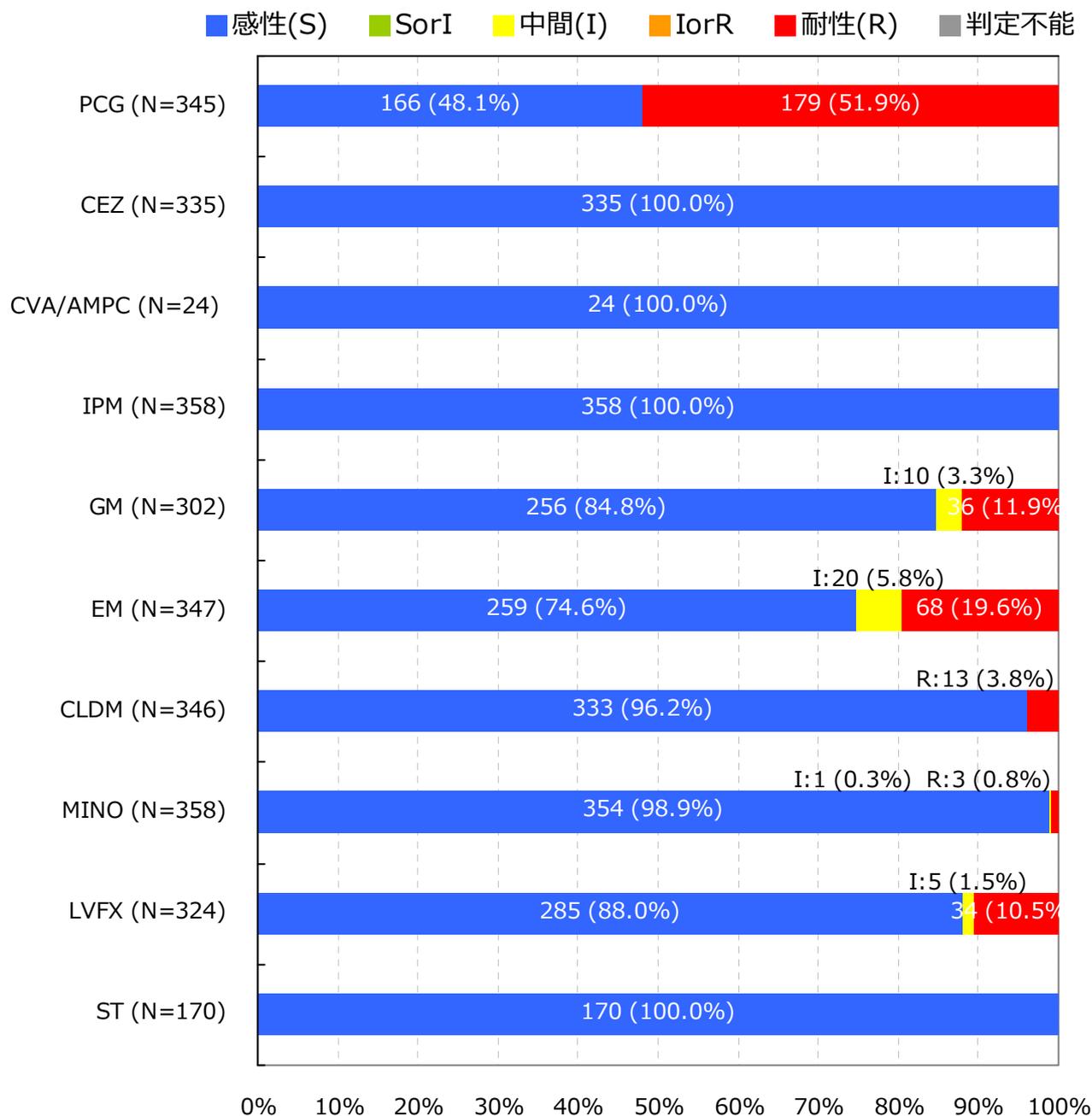
特定の耐性菌が検出された集計対象医療機関の割合

$$= \frac{\text{特定の耐性菌が1株でも報告された医療機関数}}{\text{集計対象医療機関数}}$$

7

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MSSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

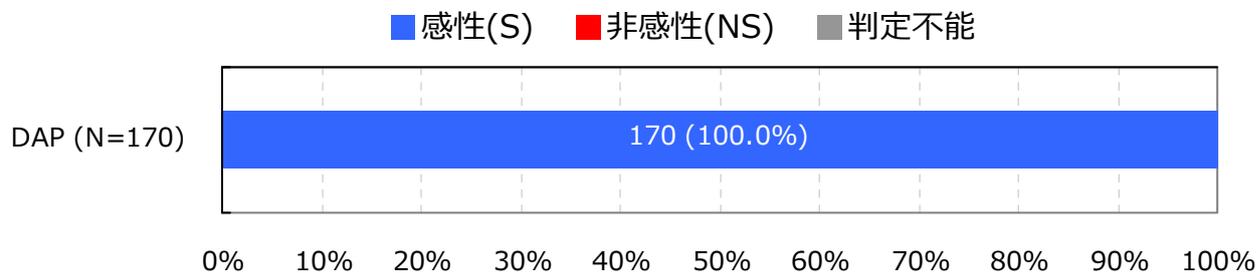
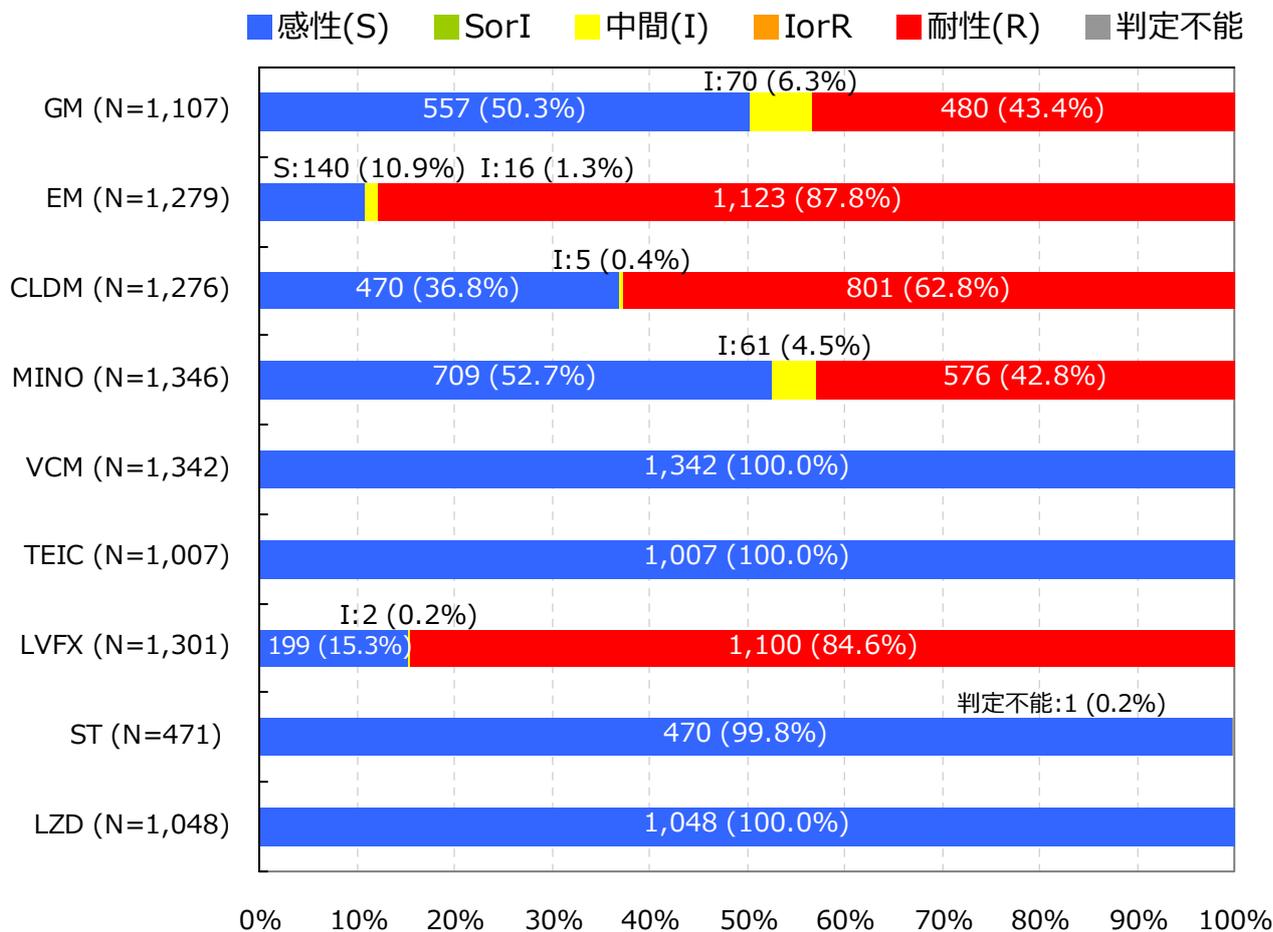
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1304, 1305, 1306と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「S」の菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MRSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

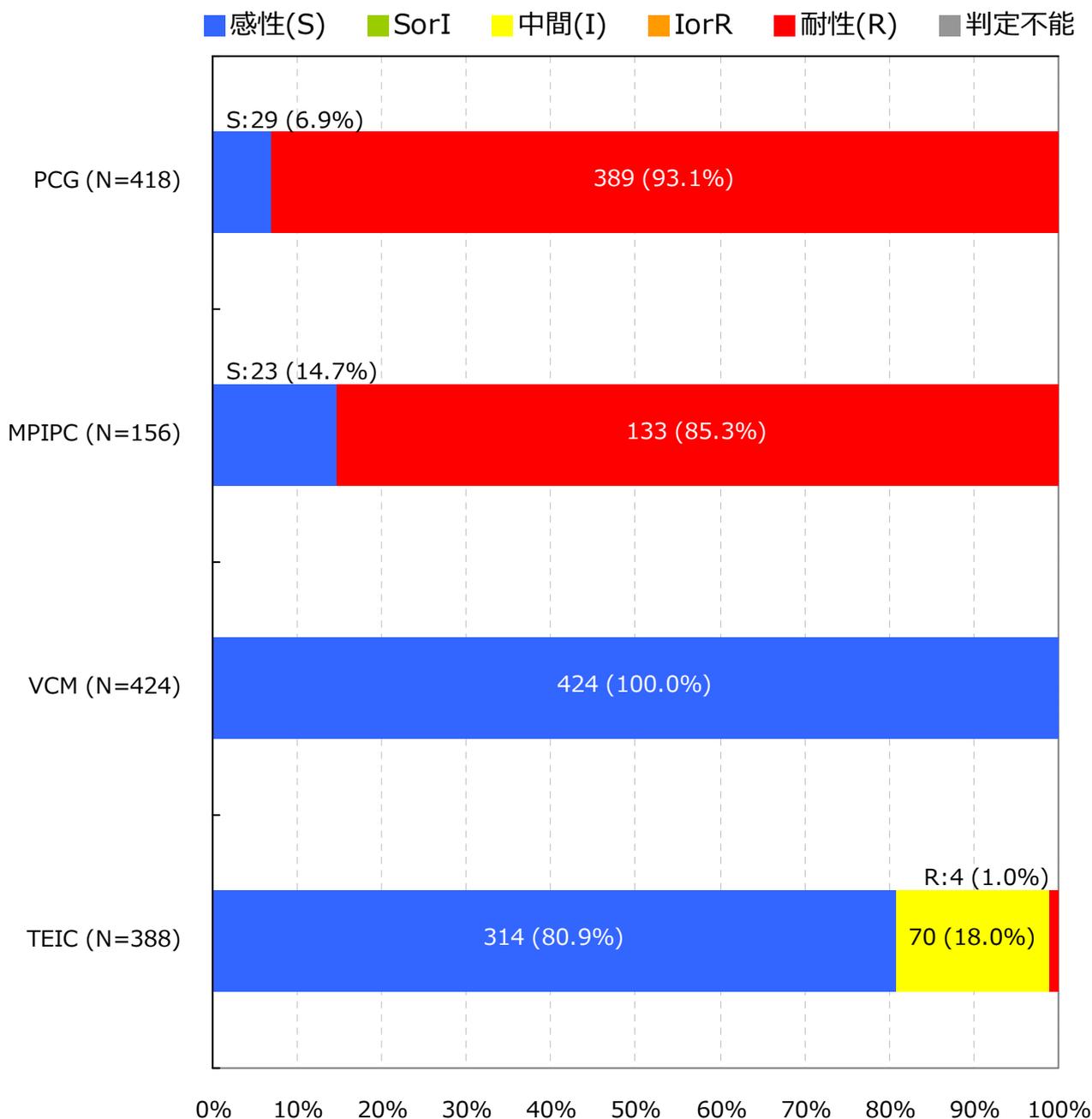
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1303と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「R」の菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus epidermidis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

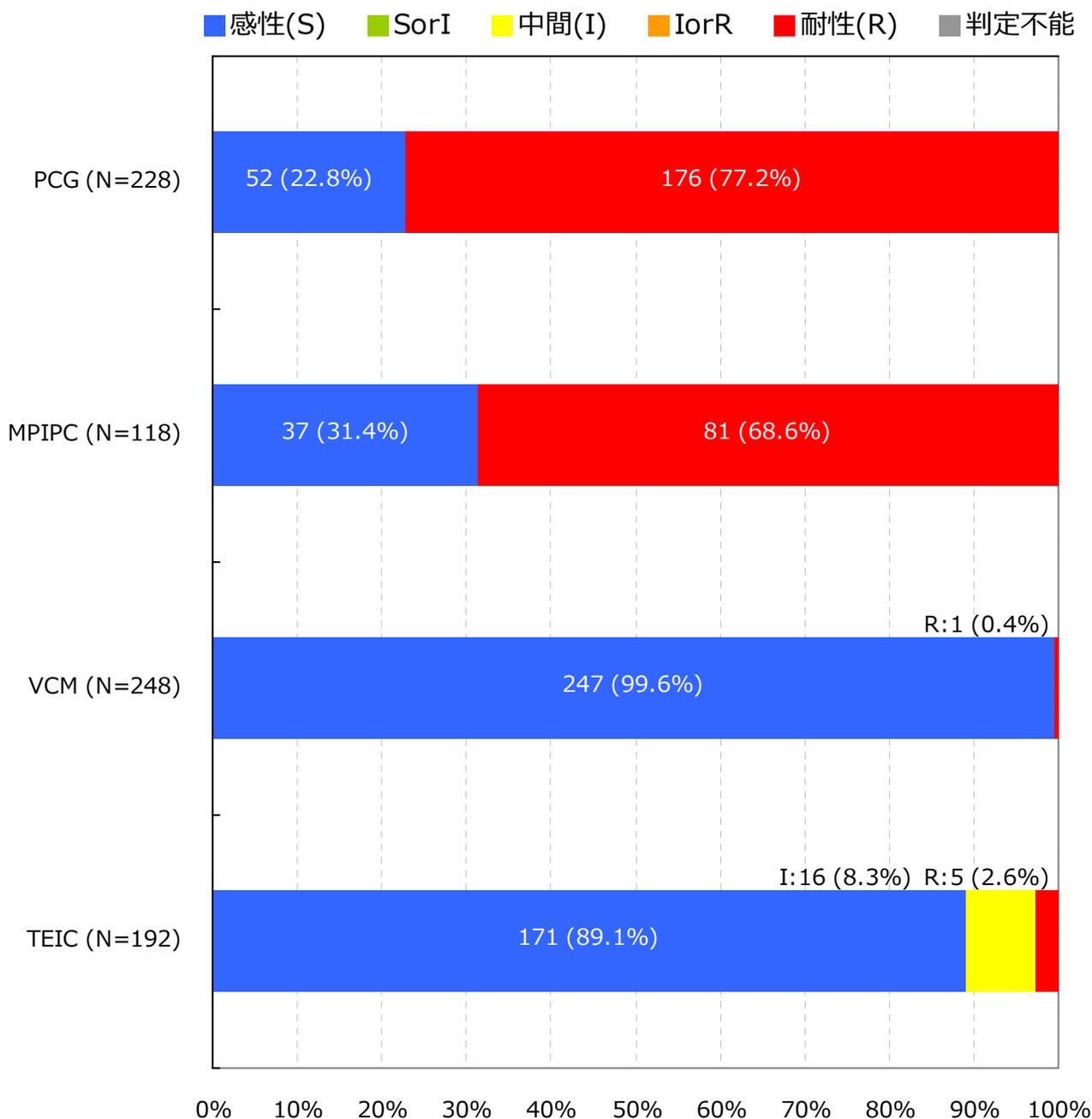
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1312と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### Coagulase-negative staphylococci (CNS) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

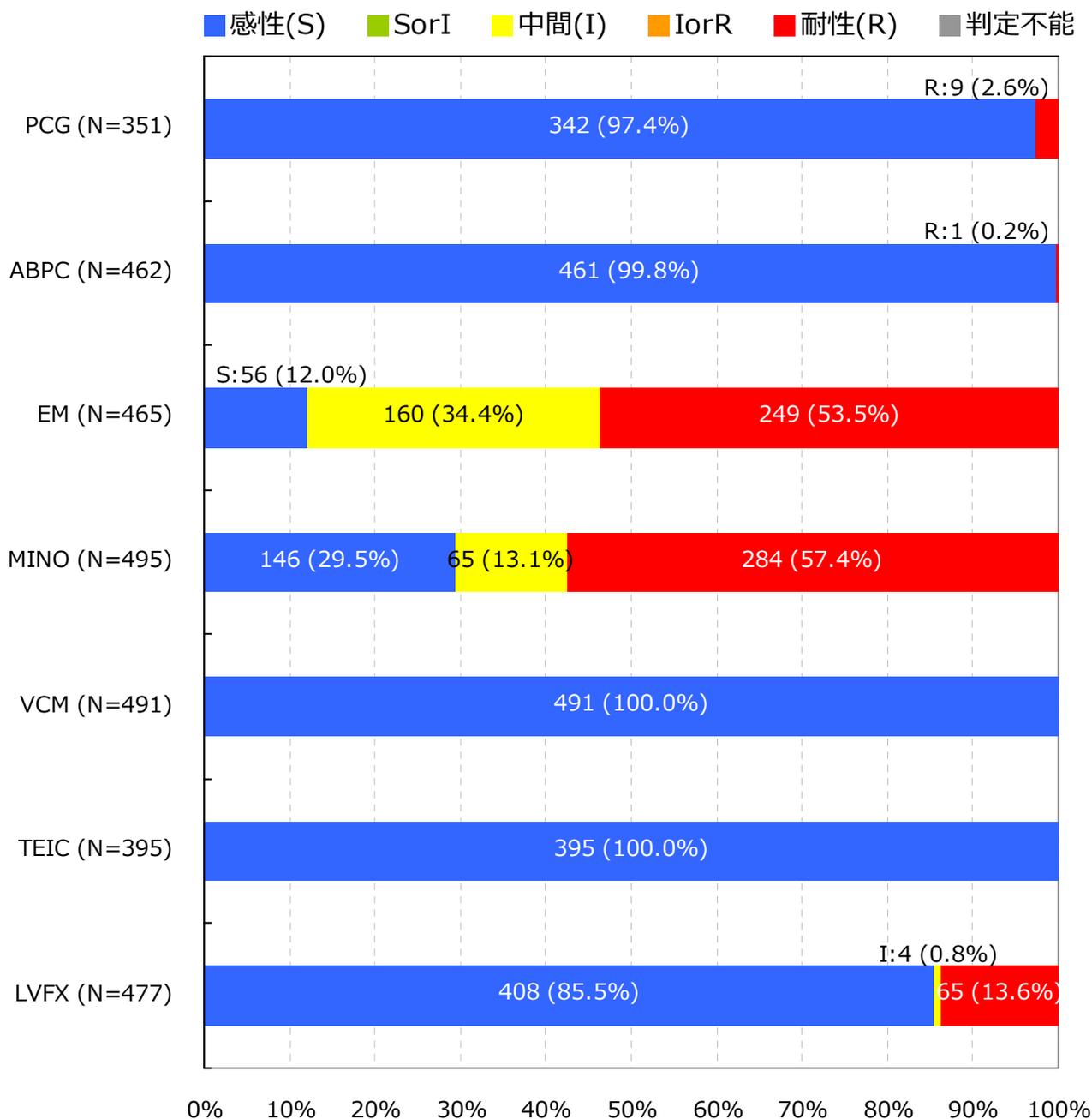
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1311, 1313~1325と報告された菌 (1312 : *Staphylococcus epidermidis*は対象外)



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecalis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

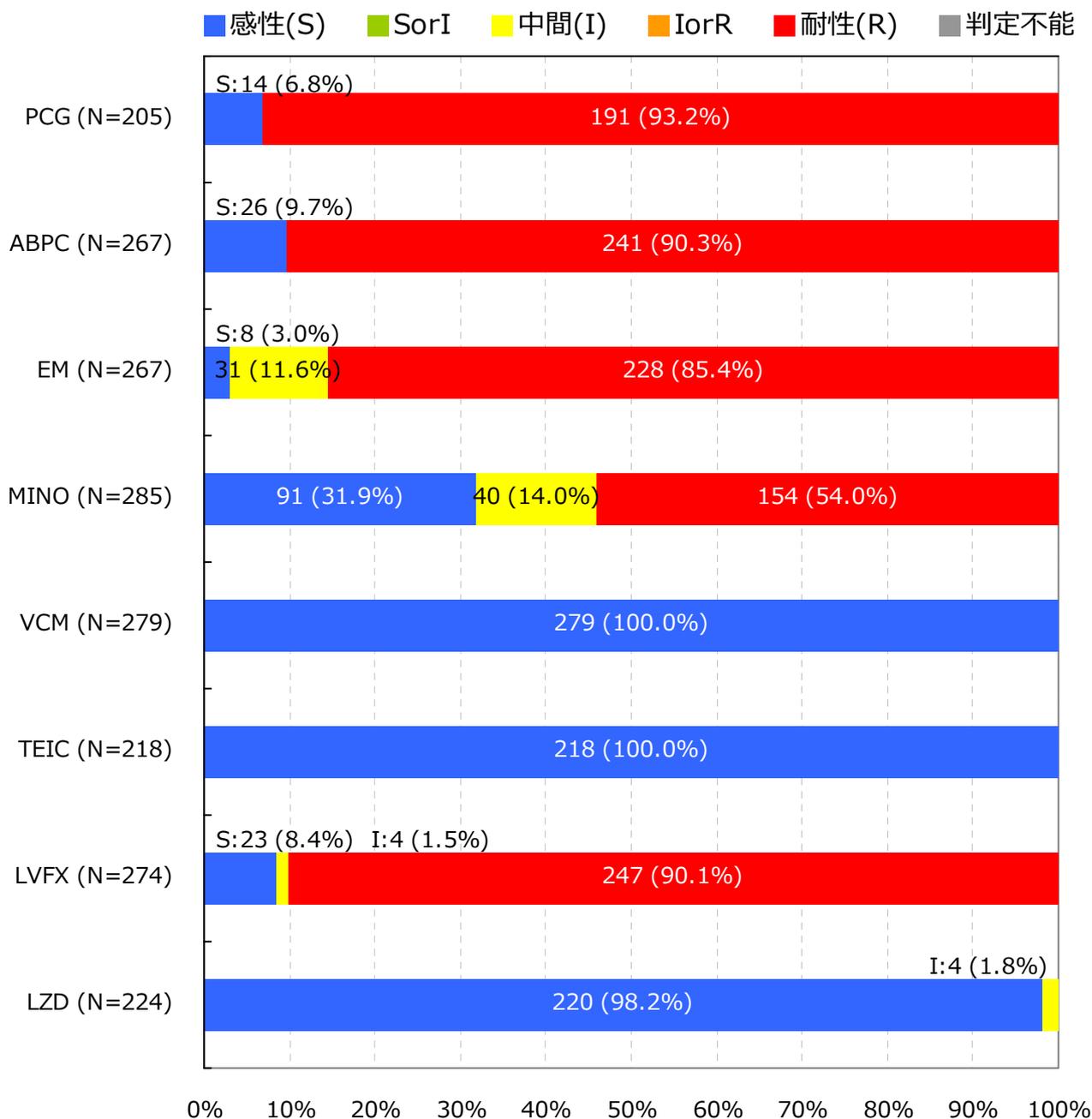
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1201, 1202と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecium* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

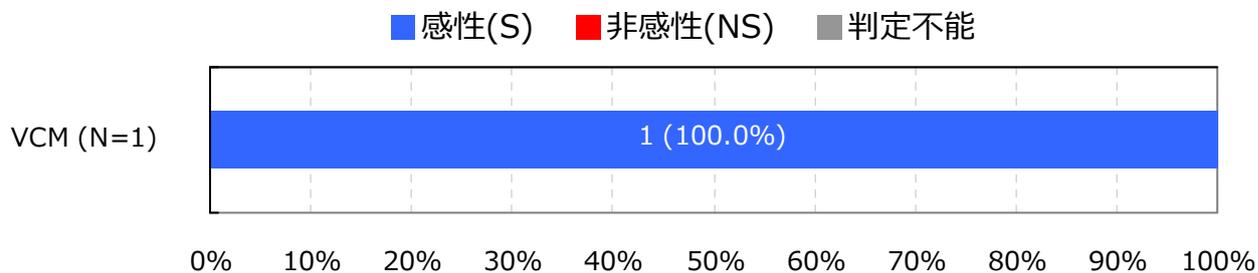
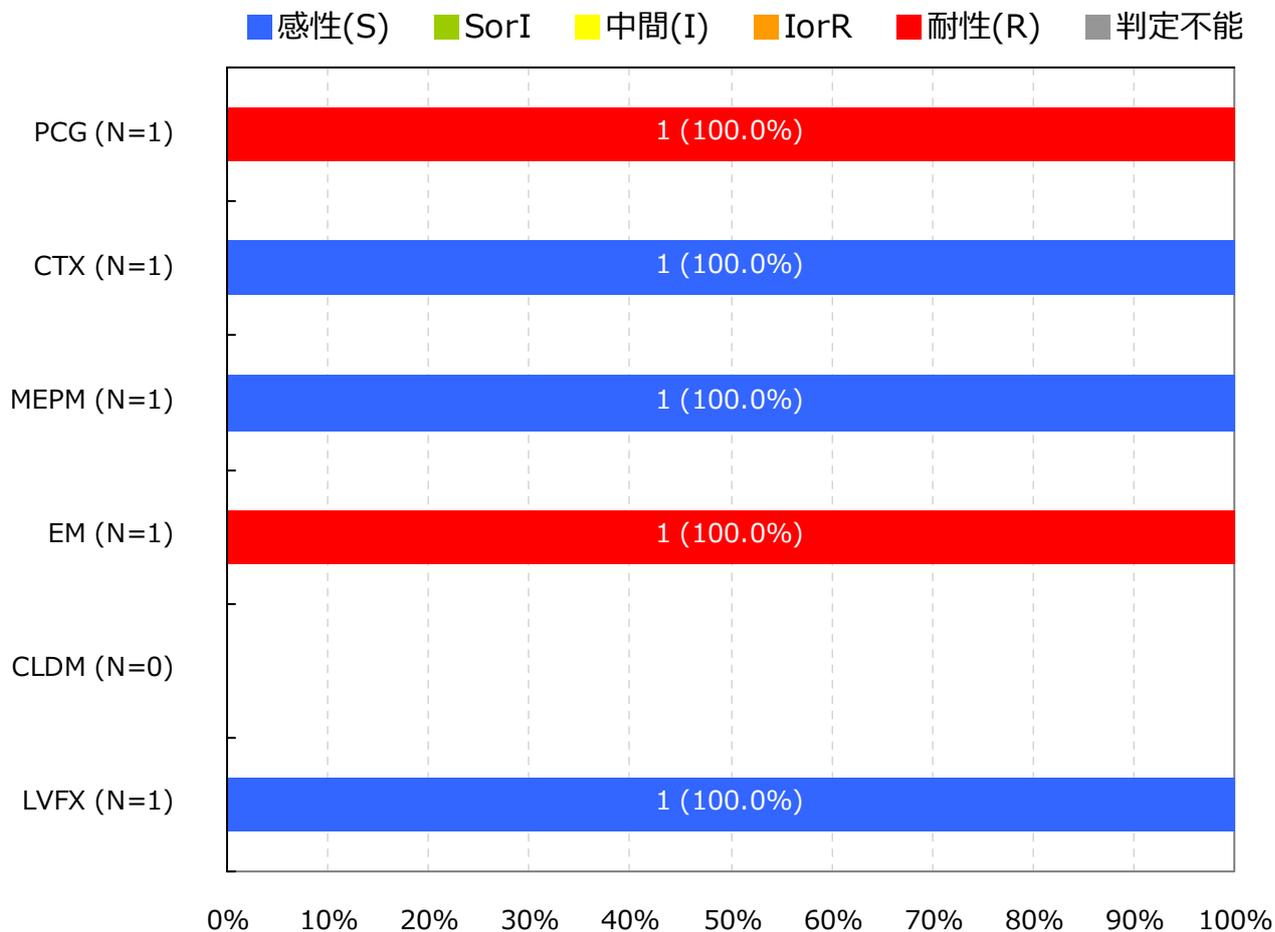
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1205, 1206と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pneumoniae*(髄液検体) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

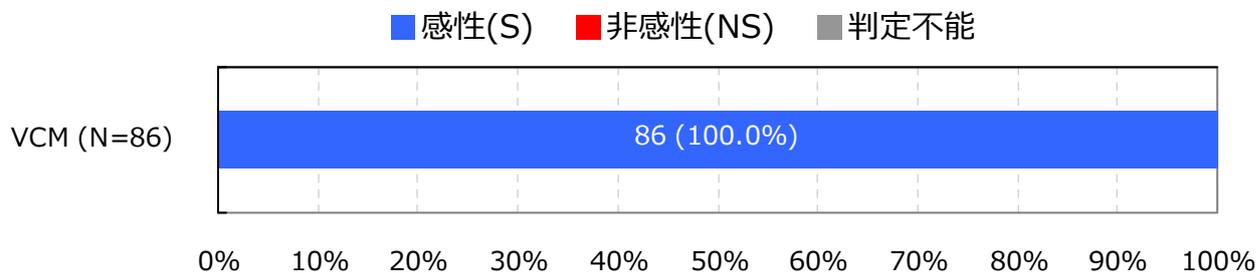
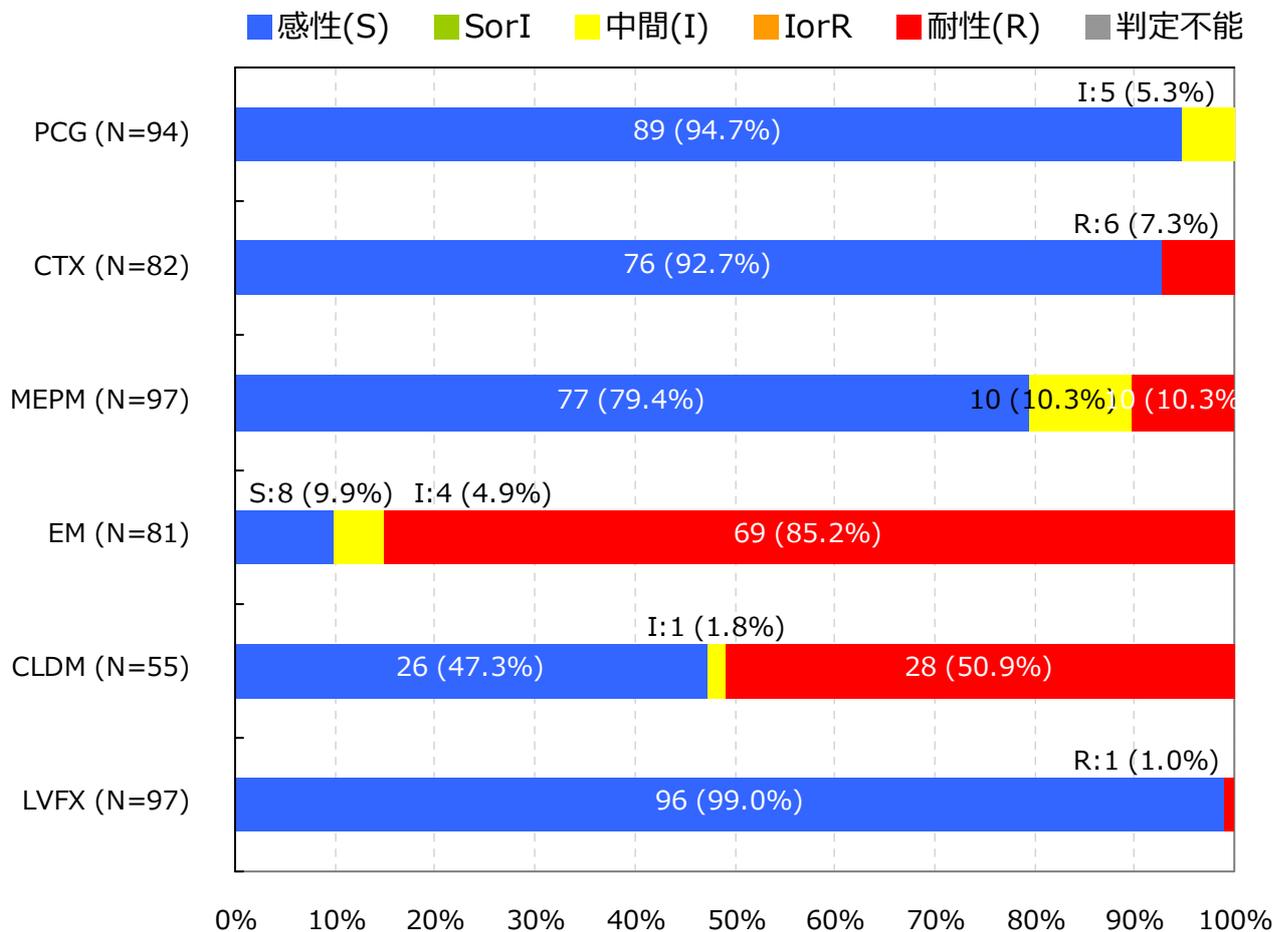
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1131と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pneumoniae*(髄液検体以外) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

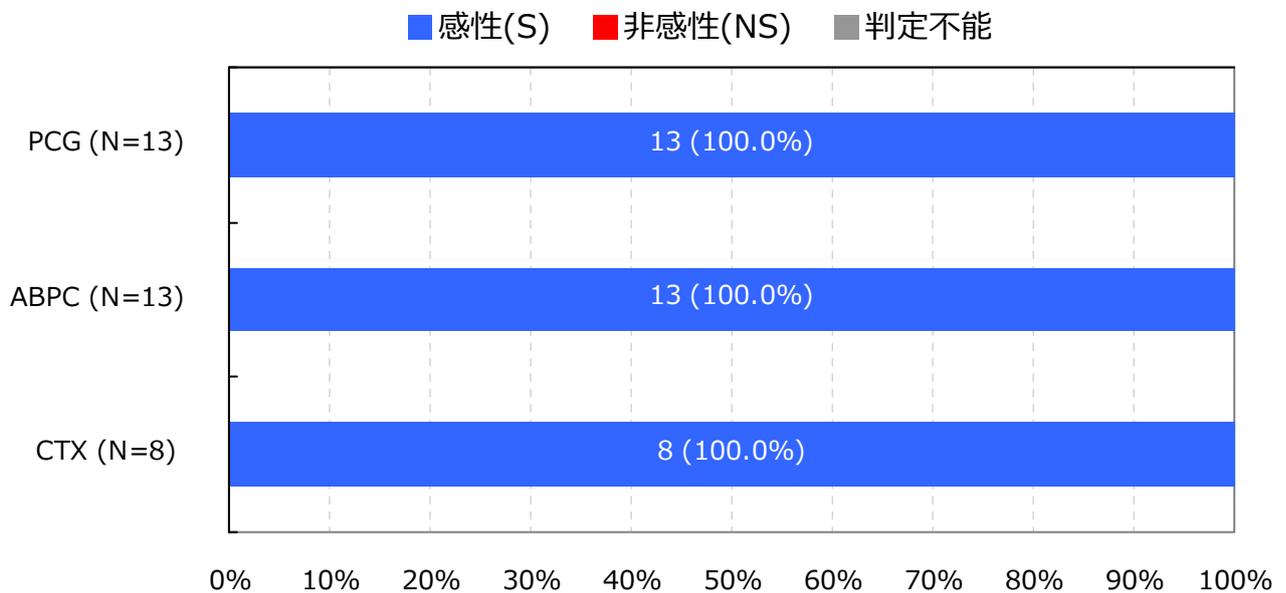
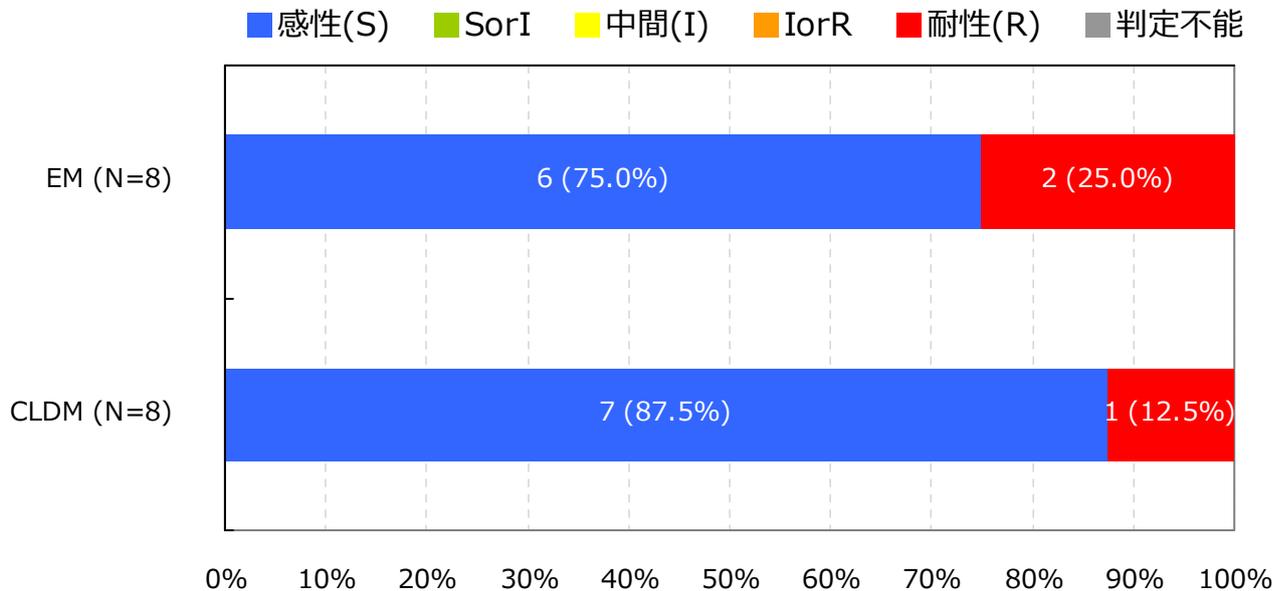
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1131と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pyogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

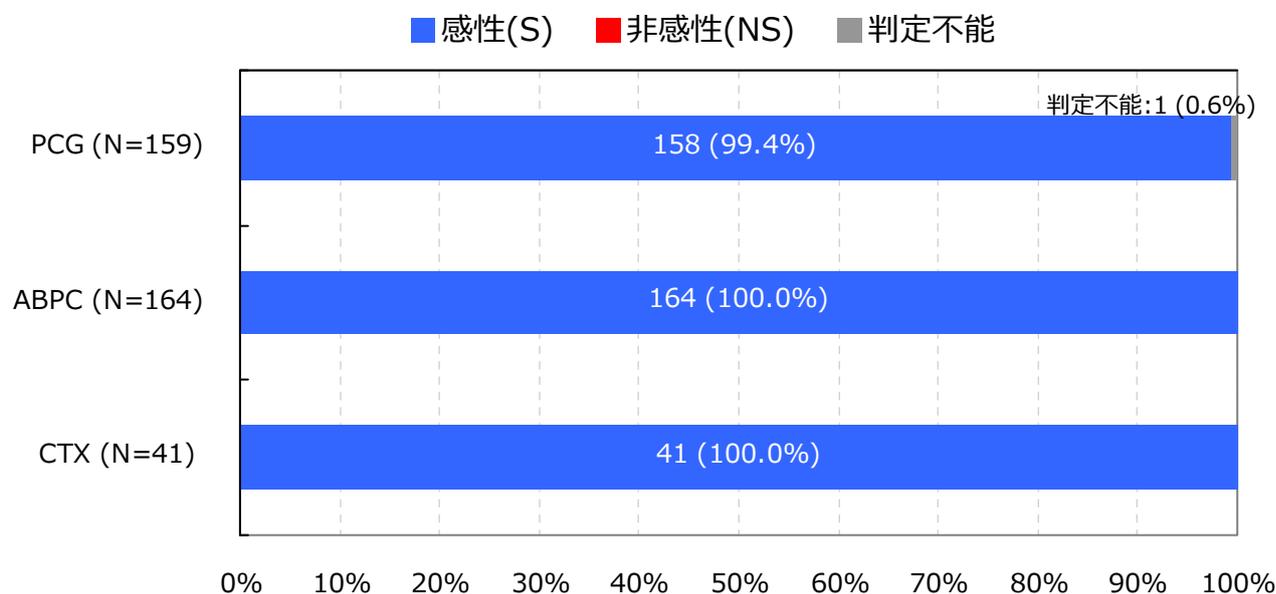
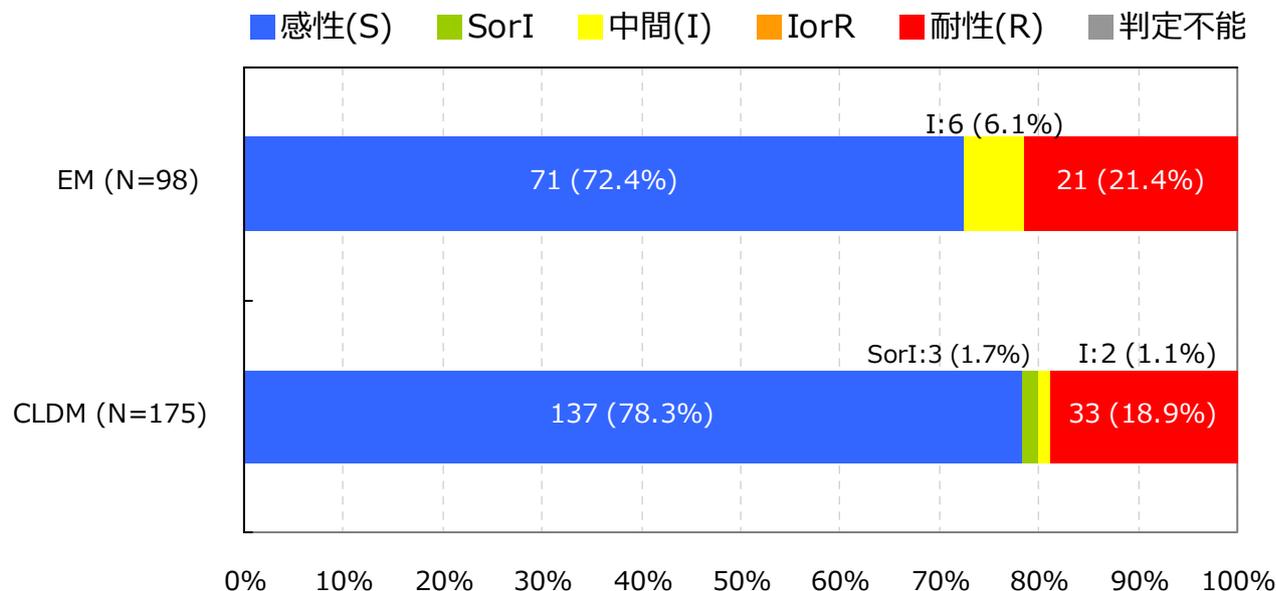
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1111と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus agalactiae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

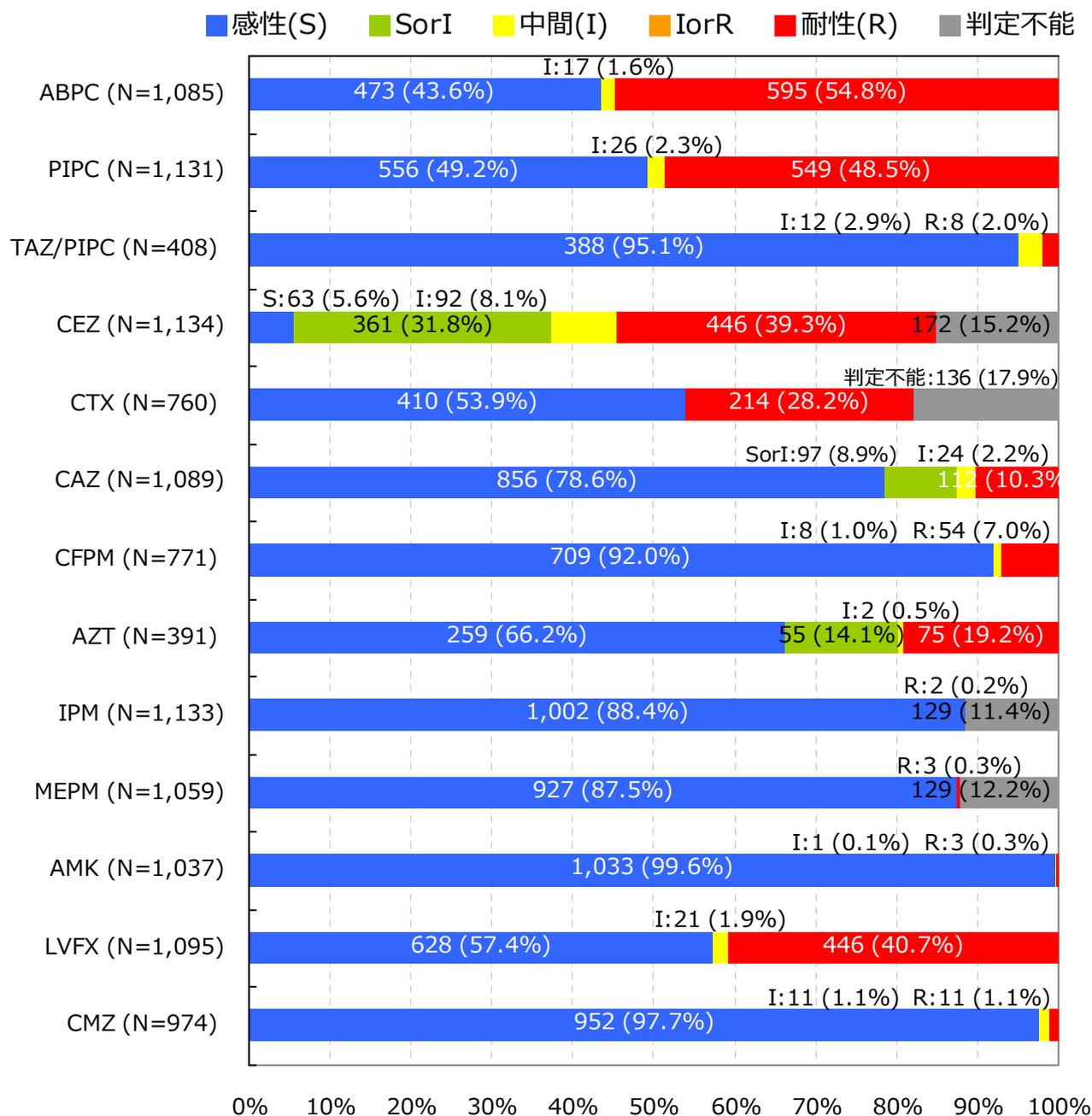
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1114と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Escherichia coli* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

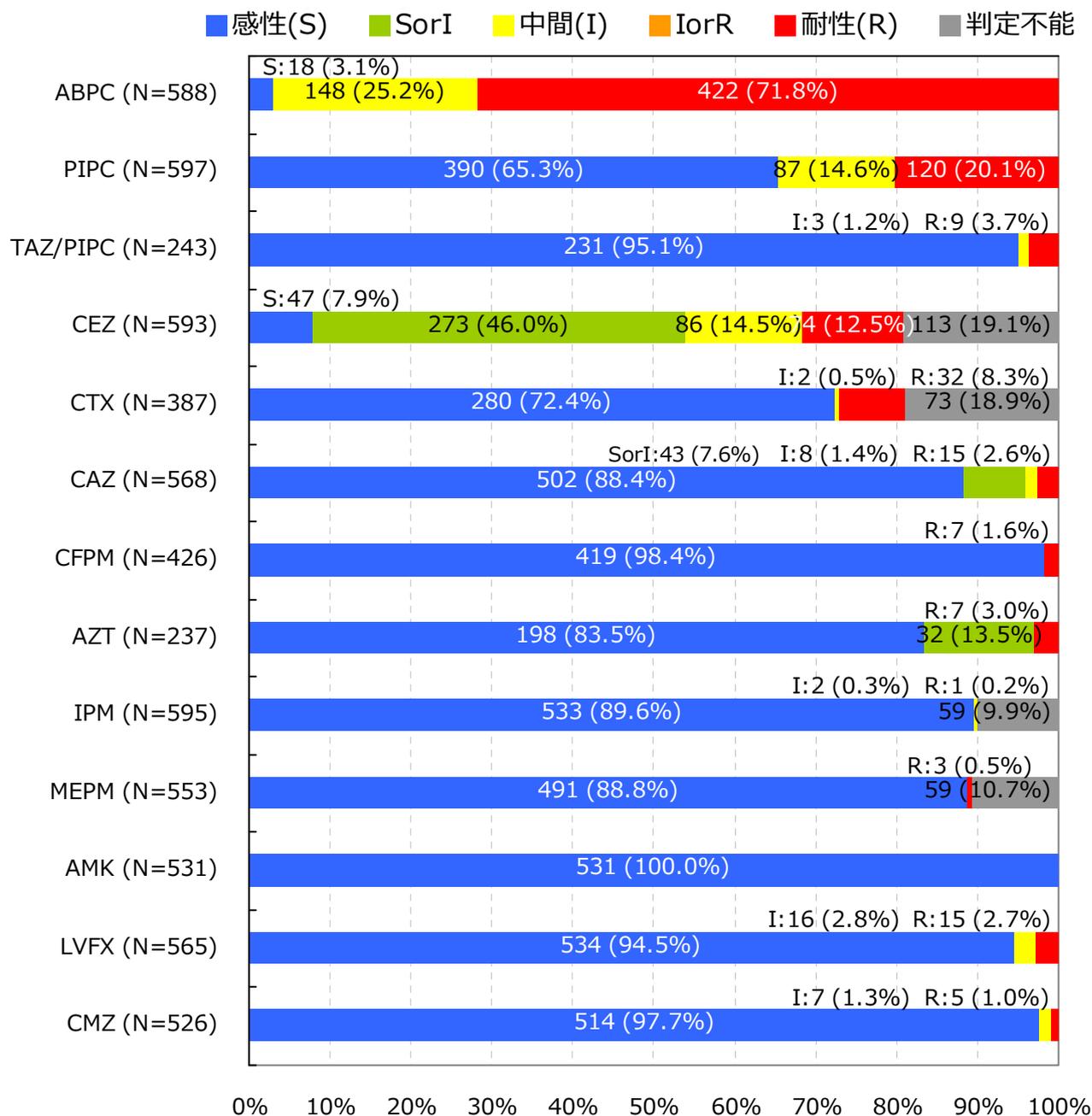
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2001～2007と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Klebsiella pneumoniae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

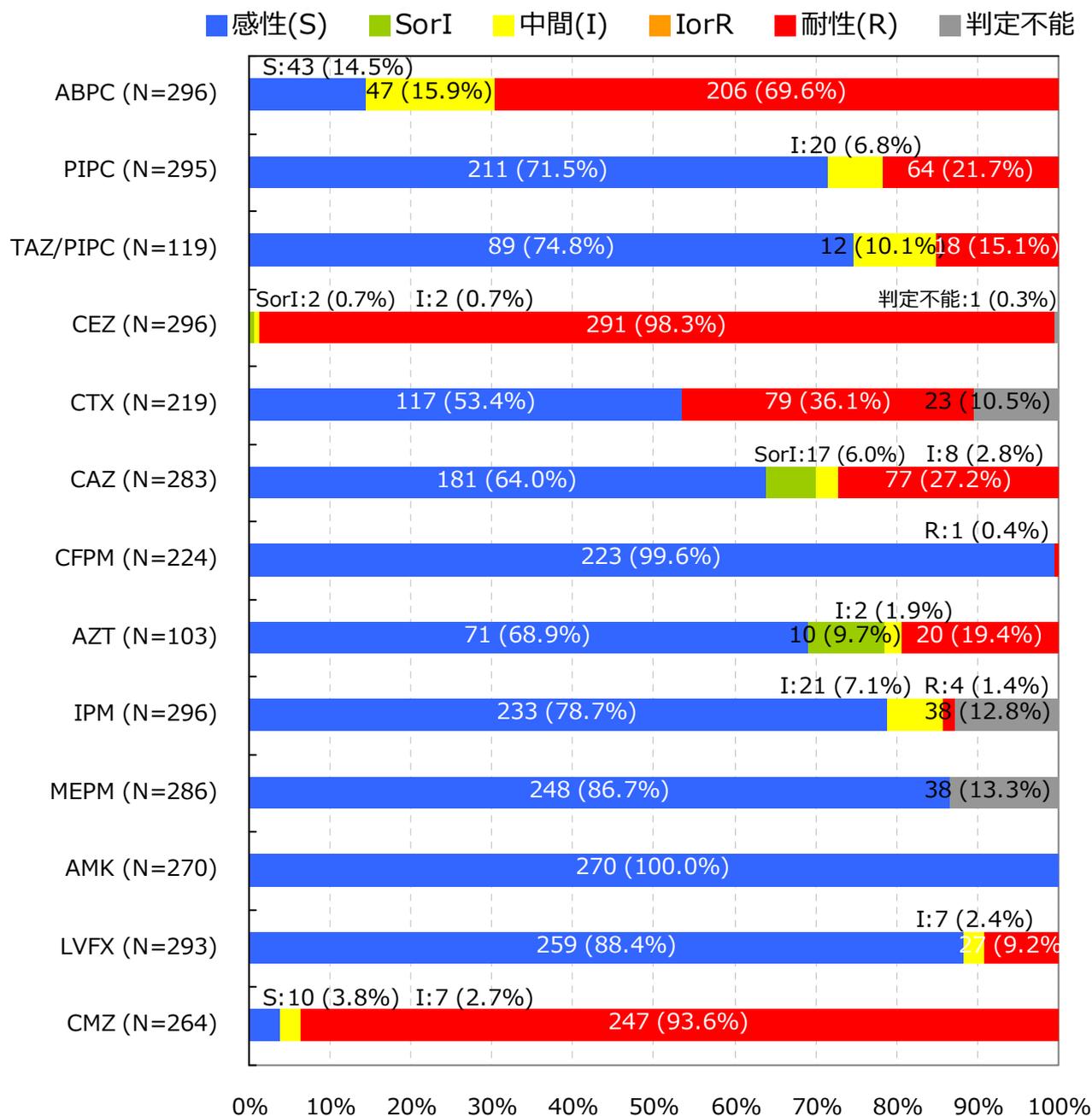
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2351と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterobacter cloacae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

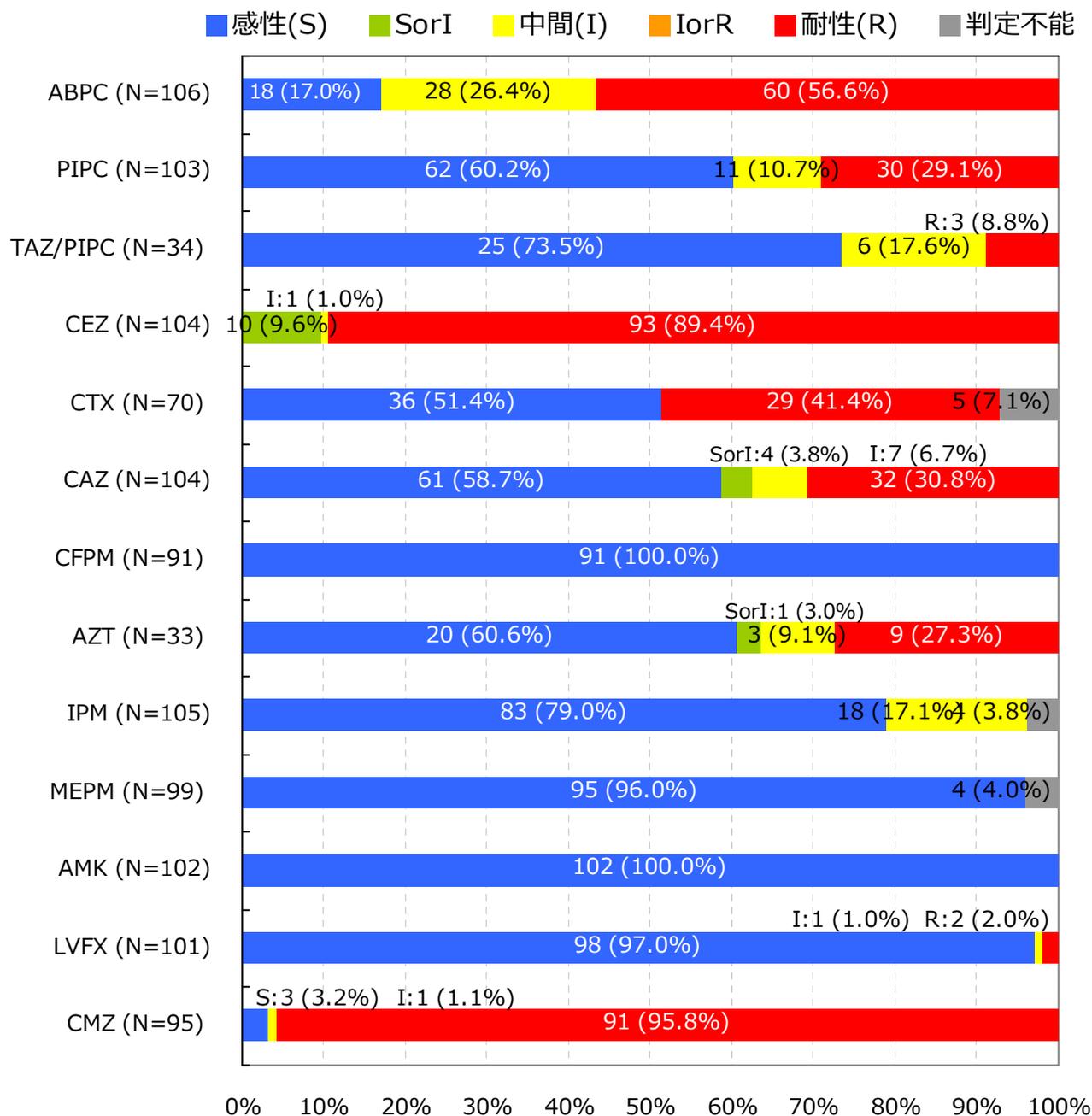
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2151と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterobacter aerogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

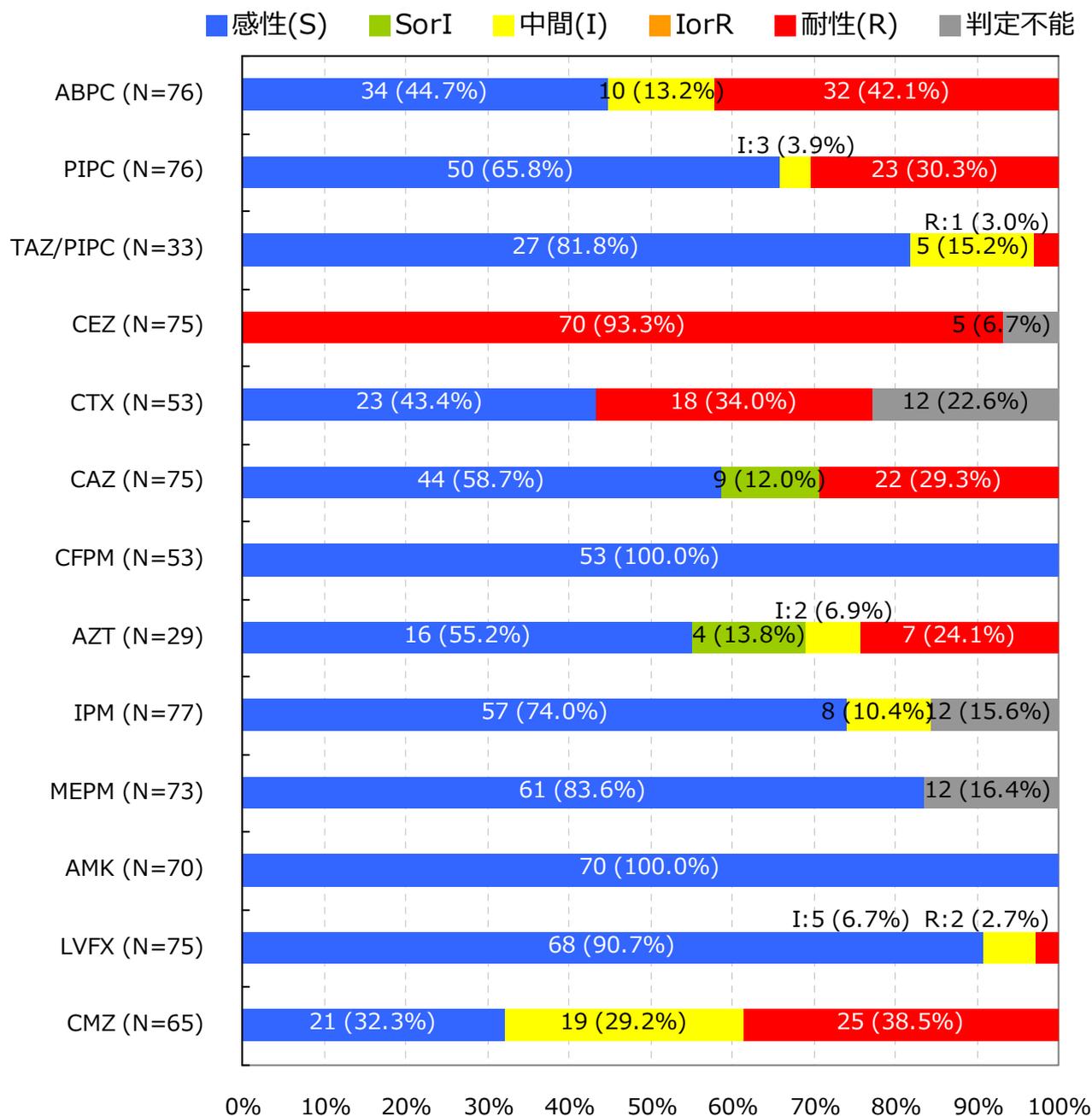
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2152と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter freundii* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

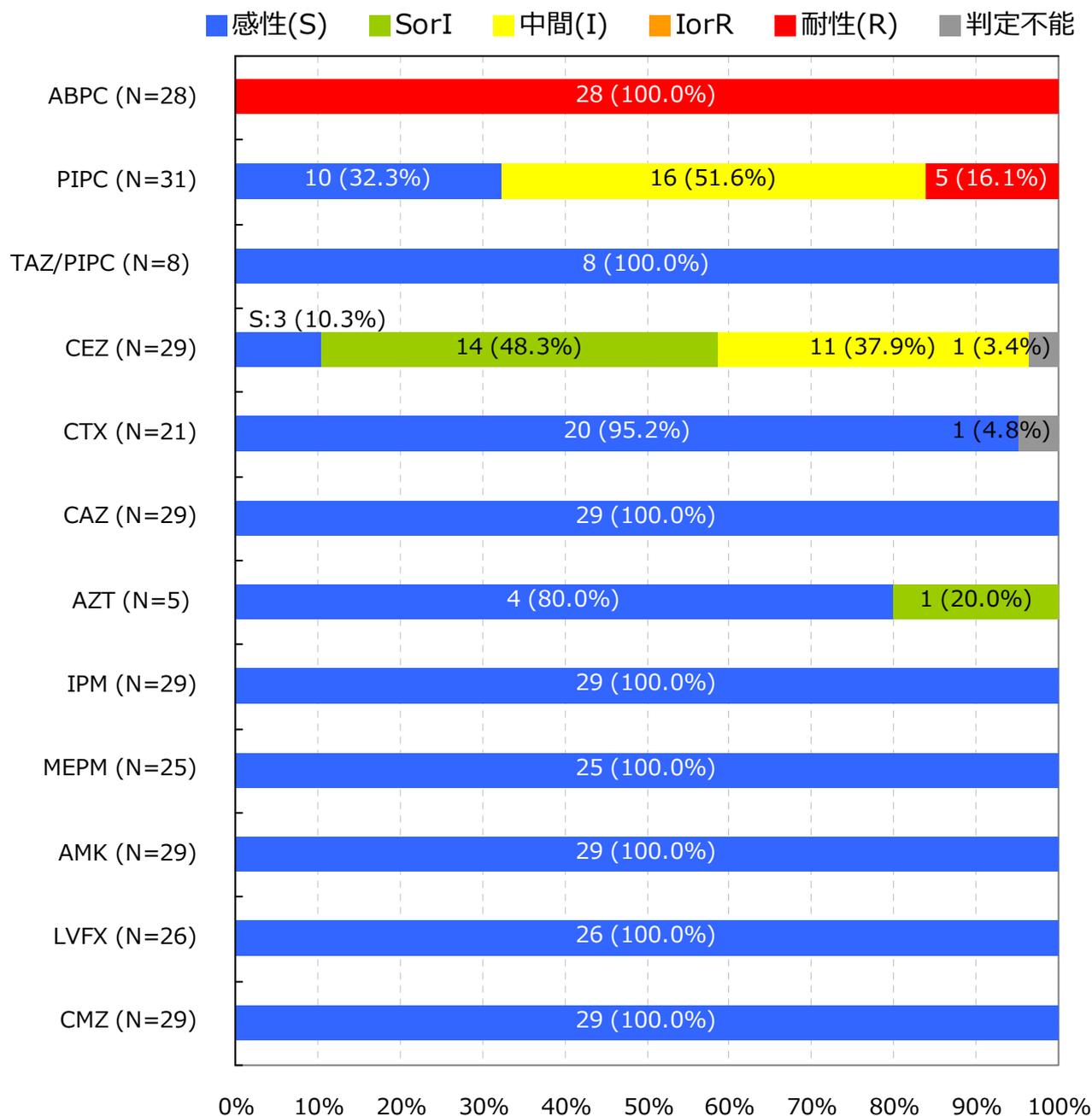
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2051と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter koseri* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

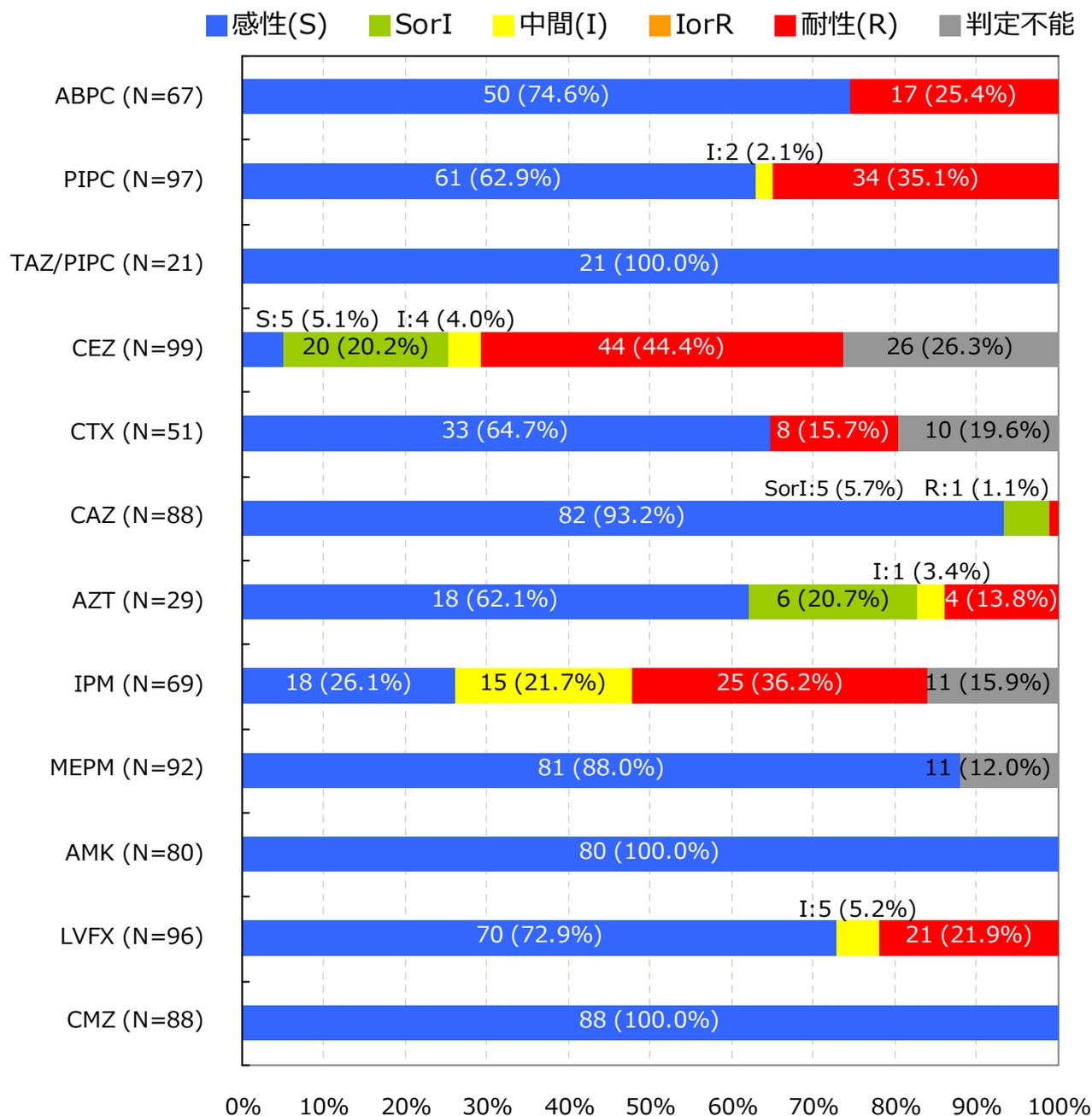
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2052と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus mirabilis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

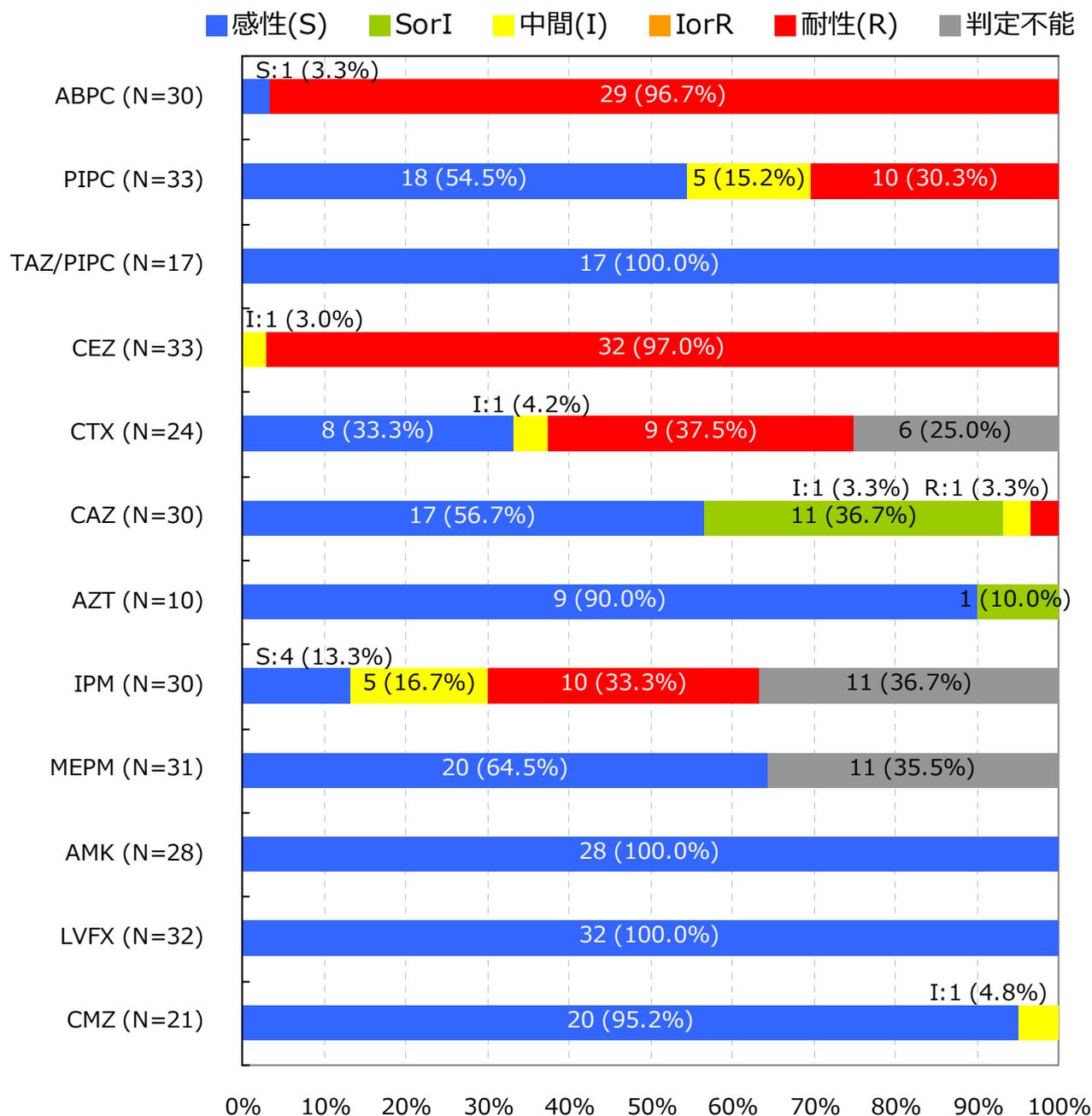
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2201と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus vulgaris* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

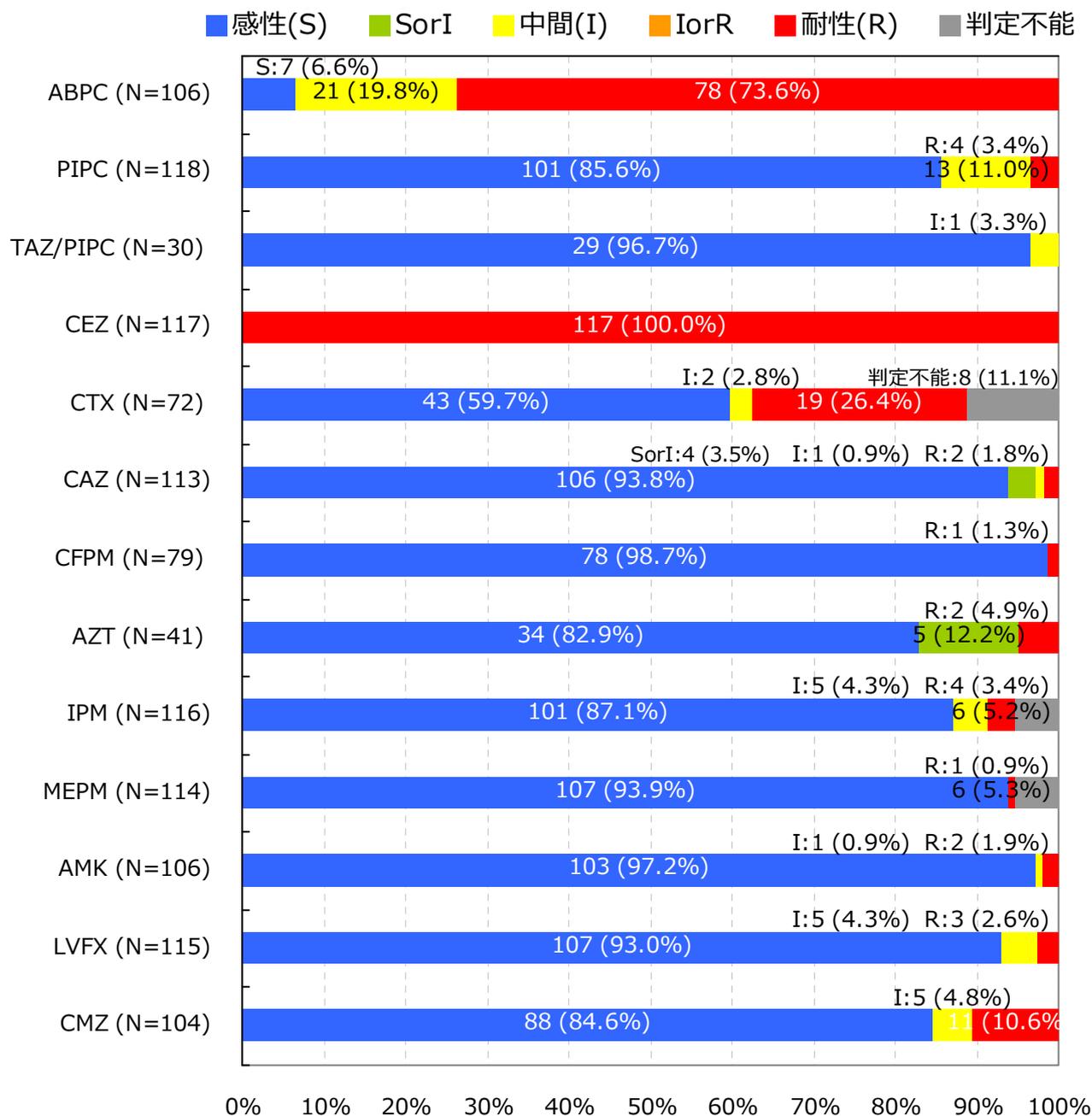
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2202と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Serratia marcescens* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

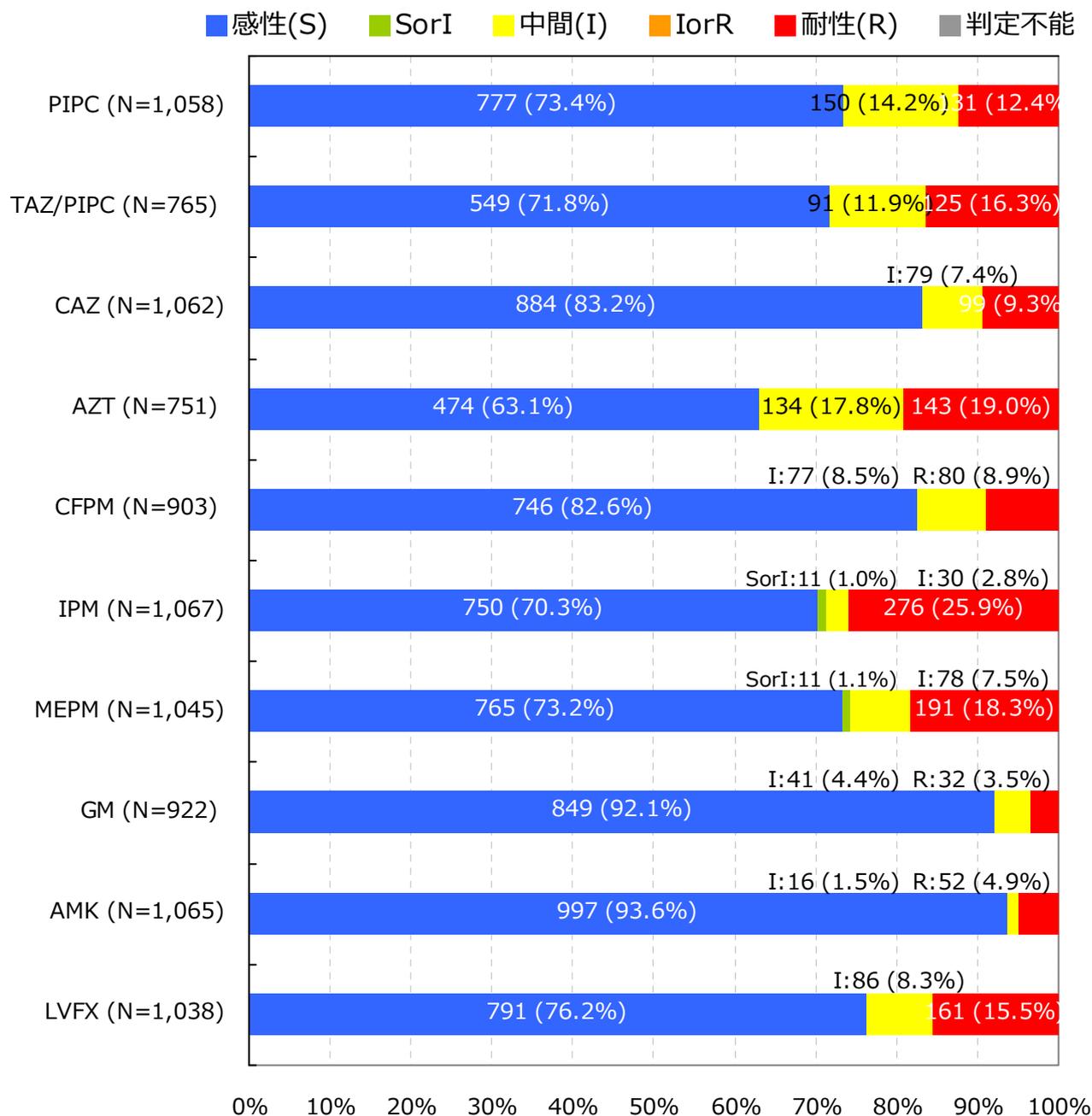
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2101と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Pseudomonas aeruginosa* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

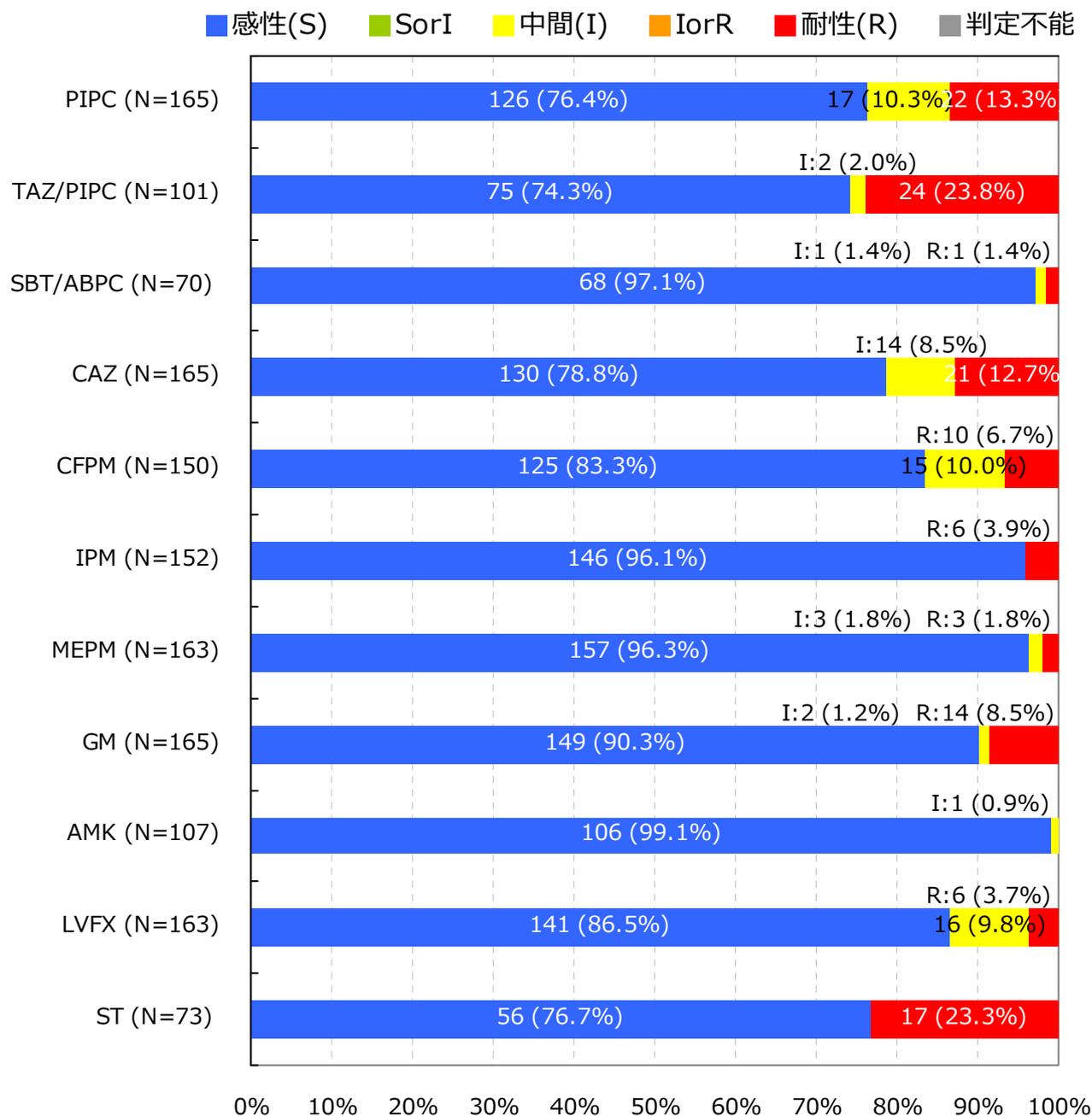
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：4001と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Acinetobacter* spp. †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

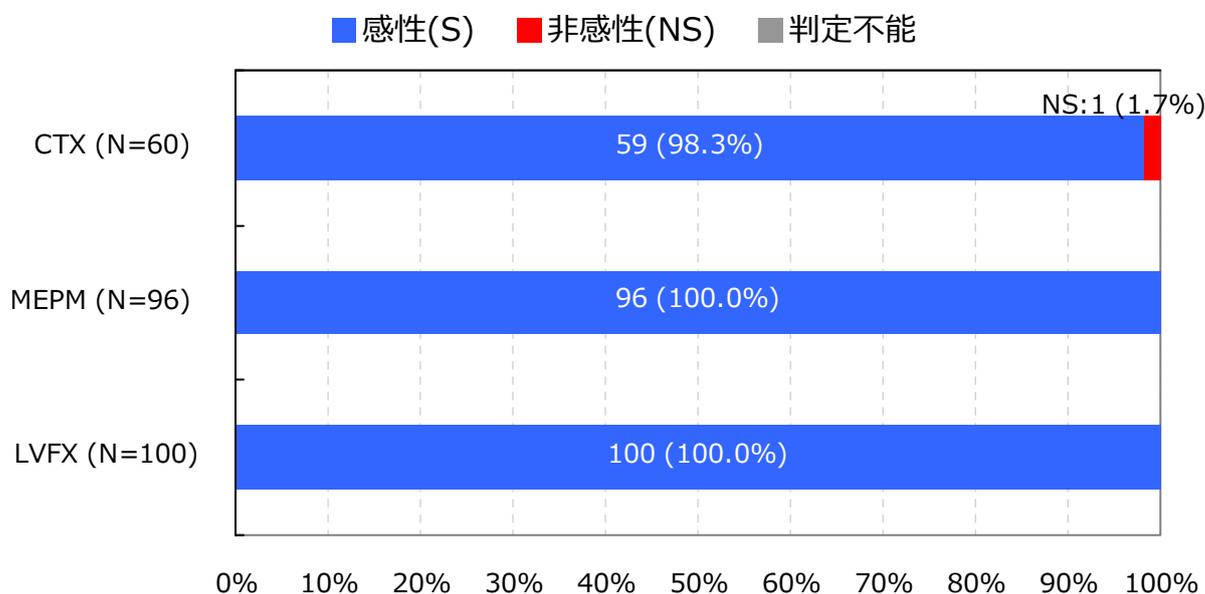
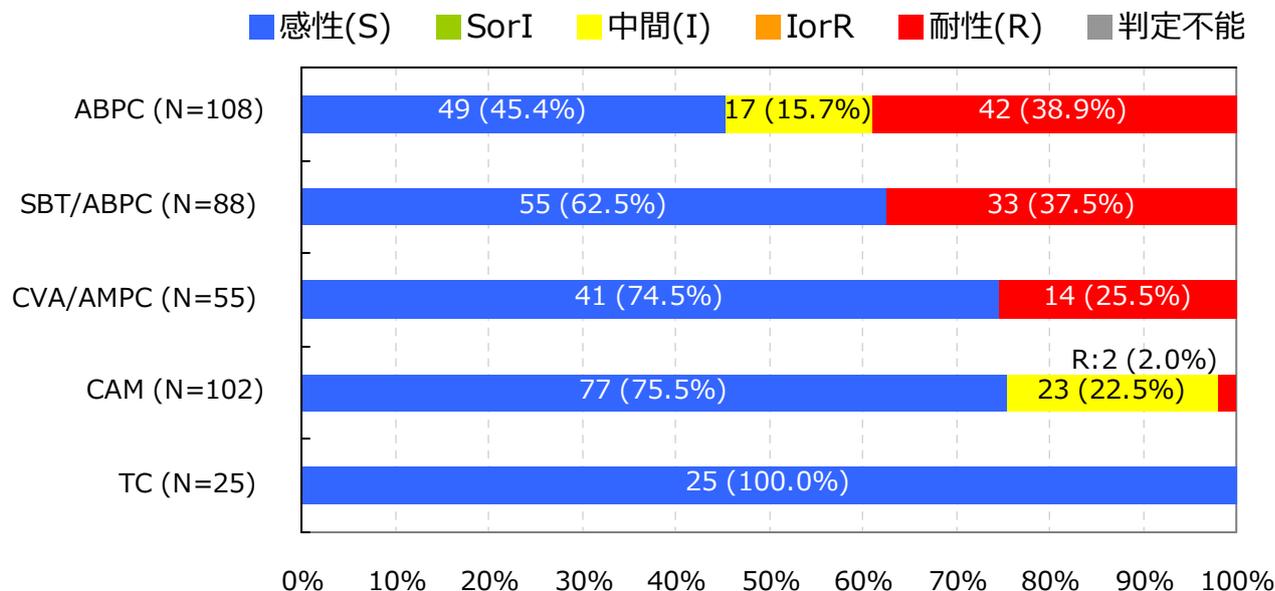
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：4400～4403と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Haemophilus influenzae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

【巻末資料1 微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準】

菌名 †	概要*	微量液体希釈法 MIC 値	菌名コード Ver.4.0
MRSA	MPIPC が “R” の <i>Staphylococcus aureus</i> または選択培地で MRSA と確認された菌	MPIPC $\geq 4\mu\text{g/ml}$	1301,1303
VRSA	VCM が微量液体希釈法で “R” の <i>Staphylococcus aureus</i>	VCM $\geq 16\mu\text{g/ml}$	1301,1303-1306
VRE	下記のいずれかの条件を満たす <i>Enterococcus</i> spp. ・VCM が微量液体希釈法で耐性 † ・選択培地で VRE と確認された菌 注) 種の同定が行われていない <i>Enterococcus</i> sp. は除く	VCM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †	1201,1202,1205, 1206,1209,1210, 1213-1217
PRSP	PCG が微量液体希釈法で耐性 † の <i>Streptococcus pneumoniae</i>	PCG $\geq 0.125\mu\text{g/ml}$ †	1131
MDRP	下記全てに該当する <i>Pseudomonas aeruginosa</i> 1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が微量液体希釈法で耐性 † 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 † 3. フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, CFX, LFLX, GFLX の何れか) が “R”	1. IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †、 MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ † 2. AMK $\geq 32\mu\text{g/ml}$ † 3. NFLX $\geq 16\mu\text{g/ml}$ 、 OFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 LFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 CFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$	4001
MDRA	下記全てに該当する <i>Acinetobacter</i> spp. 1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が “R” 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 † 3. フルオロキノロン系 (LVFX, CFX, GFLX の何れか) が “R”	1. IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †、 MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ † 2. AMK $\geq 32\mu\text{g/ml}$ † 3. LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 CFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$	4400-4403
CRE	下記の何れかの条件を満たす腸内細菌科 1. MEPM が耐性 † 2. IPM が耐性 †、かつ CMZ が “R”	1. MEPM $\geq 2\mu\text{g/ml}$ † 2. IPM $\geq 2\mu\text{g/ml}$ † かつ CMZ $\geq 64\mu\text{g/ml}$	2000-2691, 3150-3151
カルバペネム 耐性緑膿菌	IPM または MEPM が耐性 † の <i>Pseudomonas aeruginosa</i>	IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ † MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †	4001
第三世代セファロ スポリン耐性 肺炎桿菌	CTX または CAZ が “R” の <i>Klebsiella pneumoniae</i>	CTX $\geq 4\mu\text{g/ml}$ CAZ $\geq 16\mu\text{g/ml}$	2351

菌名 †	概要*	微量液体希釈法 MIC 値	菌名コード Ver.4.0
第三世代セファロ スポリン耐性 大腸菌	CTX または CAZ が “R” の <i>Escherichia coli</i>	CTX $\geq 4\mu\text{g/ml}$ CAZ $\geq 16\mu\text{g/ml}$	2001-2007
フルオロキノロン 耐性大腸菌	フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, LFLX, GFLX, CFX の何れか) が “R” の <i>E. coli</i>	NFLX $\geq 16\mu\text{g/ml}$ 、 OFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 LFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 CFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$	2001-2007

\*原則 S,I,R の判定は CLSI2012 (M100-S22) に準拠

† 感染症発生动向調査の基準に準拠

‡ 菌名は以下の通り

- MRSA : Methicillin-resistant *S. aureus* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌
- VRSA : Vancomycin-resistant *S. aureus* バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌
- VRE : Vancomycin-resistant *Enterococcus* spp. バンコマイシン耐性腸球菌
- PRSP : Penicillin-resistant *S. pneumoniae* ペニシリン耐性肺炎球菌
- MDRP : Multidrug-resistant *P. aeruginosa* 多剤耐性緑膿菌
- MDRA : Multidrug-resistant *Acinetobacter* spp. 多剤耐性アシネトバクター属
- CRE : Carbapenem-Resistant Enterobacteriaceae カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 (2015年1月より集計開始)

2014年12月分データまでは CLSI2007 (M100-S17)、2015年1月分データより CLSI2012 (M100-S22) に準拠する。

薬剤耐性菌判定基準 (Ver.3.1) と 検査部門特定の耐性菌判定基準 (Ver.4.1) を基に作成した。

【巻末資料 2 公開情報の集計方法について】

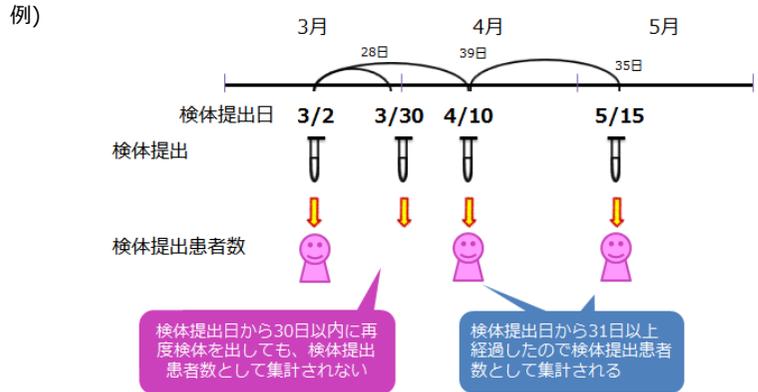
1. 日数の数え方

検体提出日の翌日を 1 日目とする。検体提出日が 3 月 1 日とすると、1 日目が 3 月 2 日、30 日目が 3 月 31 日となる。



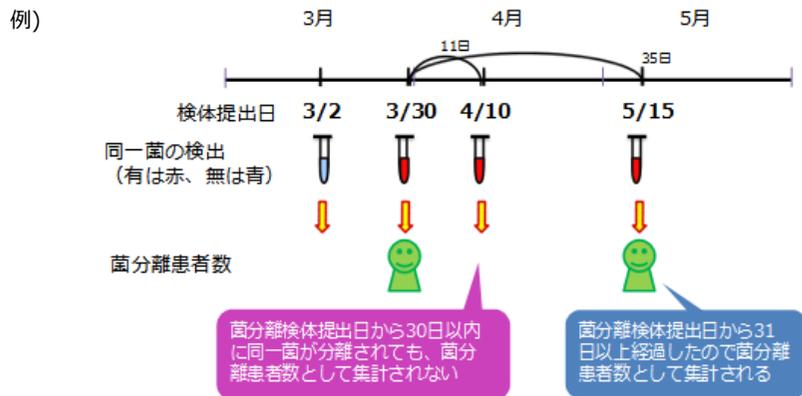
2. 検体提出患者数

検体提出患者数は、検体の種類や菌分離の有無に関わらず検体(入院検体)が提出された患者の数である。検体提出患者数は重複処理を行っており、30 日以内の同一患者からの複数の検体提出は 1 件とする。



3. 菌分離患者数

菌分離患者数も検体提出患者と同様の重複処理を行い、30 日以内に同一患者から同一菌が複数回検出された場合、菌分離患者数は 1 件とする。耐性菌分離患者数は、耐性菌の基準に合致する菌をまず抽出し、その中で上記重複処理を行っている。



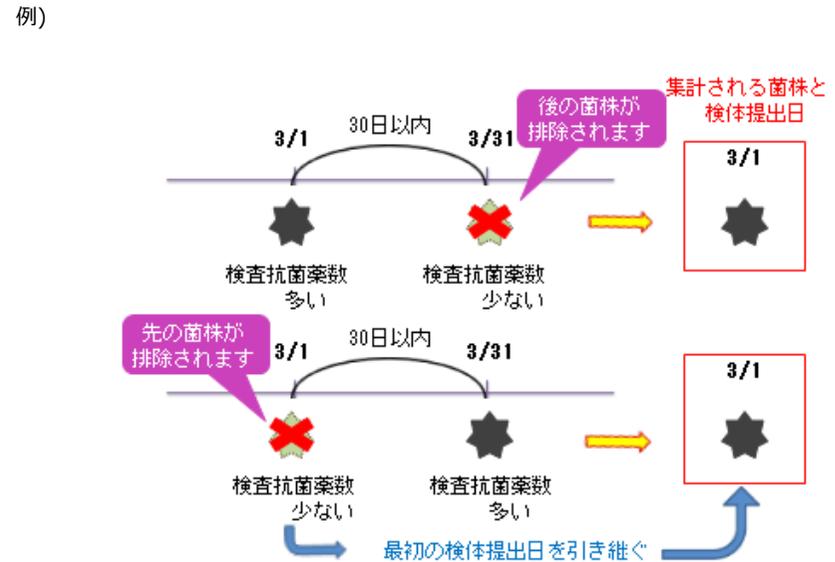
4. 抗菌薬感受性検査結果をもとにした同一菌と異なる菌との区別

30 日以内に同一患者から同一菌が検出された場合であっても、検査抗菌薬感受性結果に 1 つ以上不一致(下記①~④のいずれかに該当)がある場合は異なる菌株として集計される。

- ① MIC 値に 4 倍以上の違いがある  
ただし、MIC > 2 は MIC ≥ 4 と考え、判定時は MIC = 4 として扱う  
また、MIC < 16 は MIC ≤ 16 と考え、判定時は MIC = 16 として扱う
- ② SIR 判定では「S と R」の組み合わせ
- ③ +/- 判定では「-と++」または「+と+++」または「-と+++」の組み合わせ
- ④ 共通する検査抗菌薬数が 5 未満

5. 抗菌薬感受性結果の重複処理

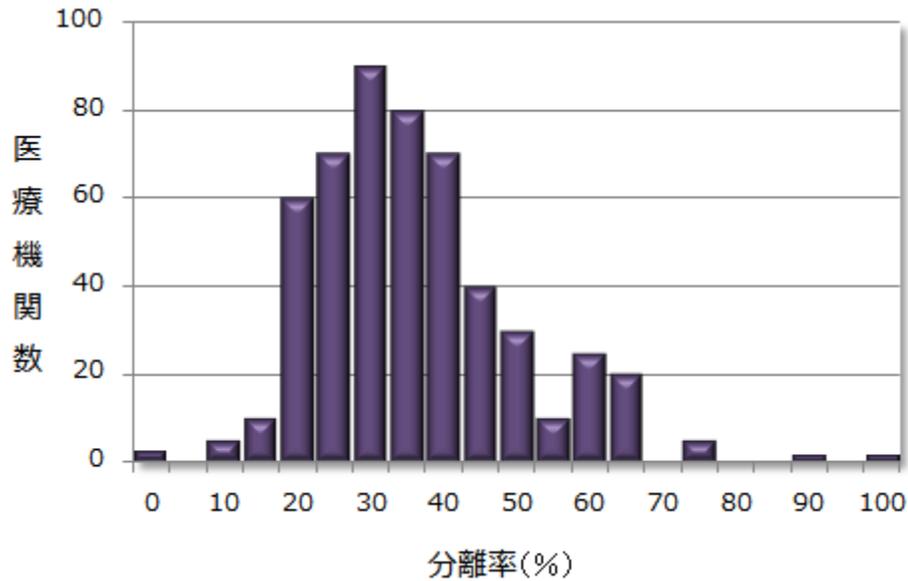
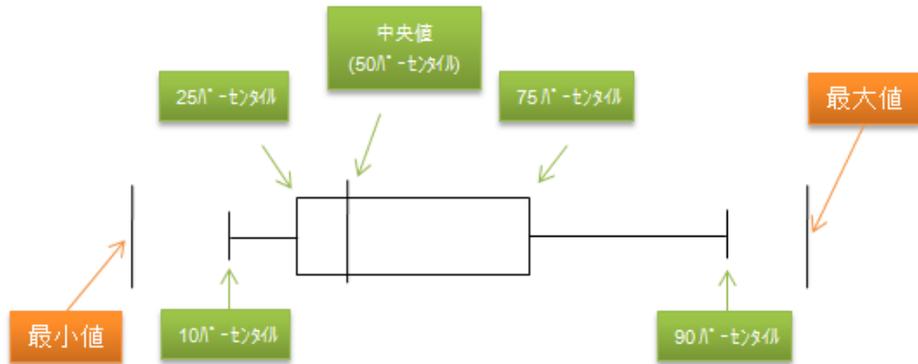
検体提出日が先の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内)の後の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、後の菌株の抗菌薬感受性検査結果は排除する。また、検体提出日が後の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内)の先の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、先の菌株の抗菌薬感受性検査結果を排除するが、先の検査の検体提出日を引き継ぐ。



【巻末資料 3 箱ひげ図について】

1. 箱ひげ図について

集計対象医療機関のデータのばらつきを示し、集計対象医療機関における自施設の位置を確認することができる。



※ パーセンタイル：値を小さいものから大きいものへと順番に並べ、全体を 100 として何番目であるかを表したもの。  
 例えば、10パーセンタイルは、全体を 100 として小さいほうから数えて 10 番目の計測値を示している。

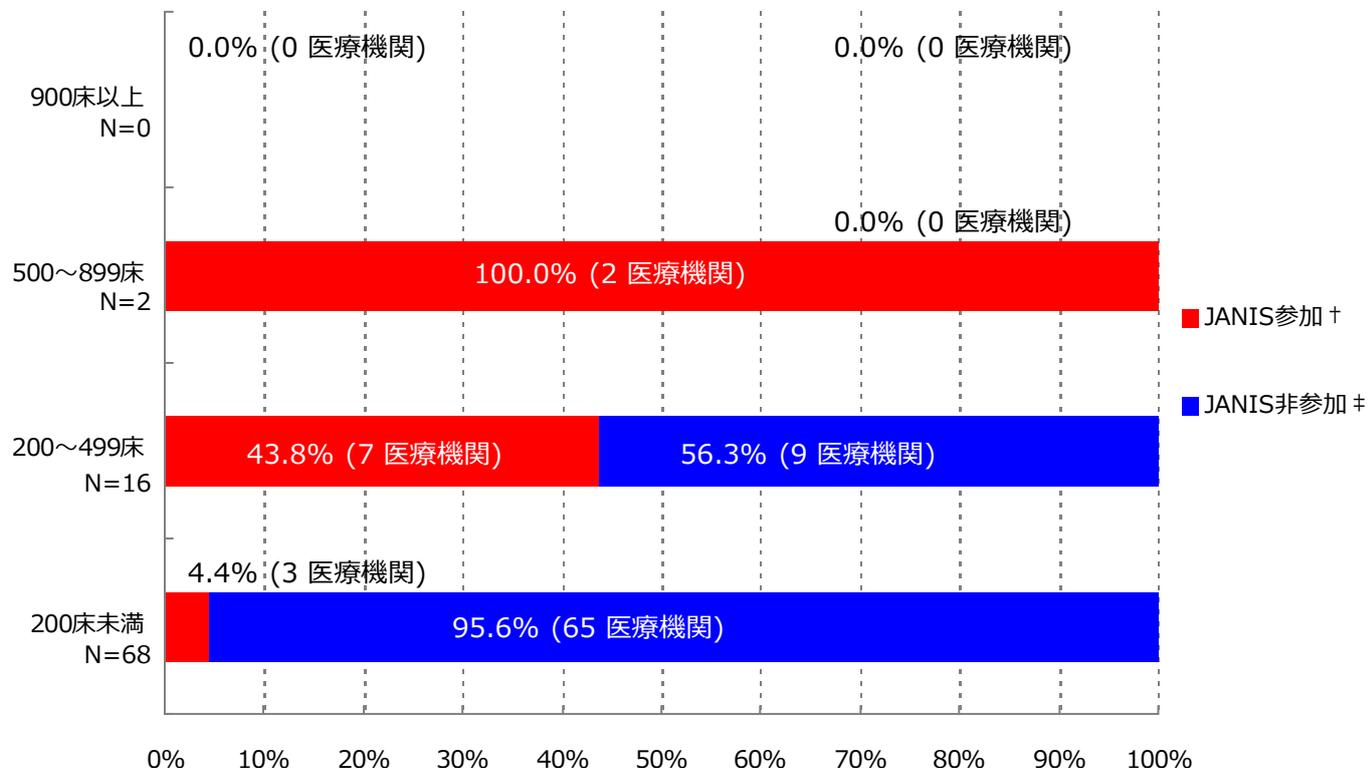
2. 公開情報の箱ひげ図



		集計対象医療機関の分離率 (%)の分布	
2010年 *	2011年		
1,069,216人	1,309,993人		
175,145人 (16.38%)	210,382人 (16.06%)	2.43	15.96 46.06
47,523人 (4.44%)	64,588人 (4.93%)	0.00	3.21 37.54



### 1. データ提出医療機関\*数(12医療機関)



\*ここではデータ提出医療機関は集計対象医療機関を表す

† JANIS参加 = 2015年1～12月 集計対象医療機関数

‡ JANIS非参加 = (2014年 都道府県別医療機関数¶) - (2015年1～12月 集計対象医療機関数)

病床数	2014年 都道府県別医療機関数¶	2015年1月～12月 集計対象医療機関数 (都道府県別医療機関数に占める割合)
900床以上	0	0 ( 0.0% )
500～899床	2	2 (100.0% )
200～499床	16	7 ( 43.8% )
200床未満	68	3 ( 4.4% )
病床数不明	-	0 ( - )
合計	86	12 ( 14.0% )

¶平成26年医療施設（動態）調査を参照した

## 2. データ提出医療機関数、検体数、分離菌数

検査材料分類	集計対象医療機関数	検体数	陽性検体数 (分離菌数)
呼吸器系検体	12	18,464	7,416 (10,674)
尿検体	12	8,117	3,169 (4,325)
便検体	12	4,851	1,295 (1,773)
血液検体	12	11,811	1,818 (2,036)
髄液検体	9	678	45 (47)
その他	12	9,836	4,700 (7,639)
合計	12	53,757	18,443 (26,494)

入院として報告された検体を集計

集計対象菌：コメントのみ(菌名コード9999)の報告以外の全ての菌

検査材料分類は以下に該当する検査材料コードを集計

呼吸器系検体：

101(喀出痰)、102(気管内採痰)、103(気管支洗浄液)、104(咽頭粘液)、105(鼻腔内)、106(口腔内)、  
107(生検材料(肺))、109(その他(呼吸器))、404(胸水)

尿検体：

201(自然排尿)、202(採尿カテーテル)、203(留置カテーテル)、206(カテーテル尿(採尿、留置カテの区別不能))

便検体：

301(糞便)

血液検体：

401(静脈血)、402(動脈血)

髄液検体：

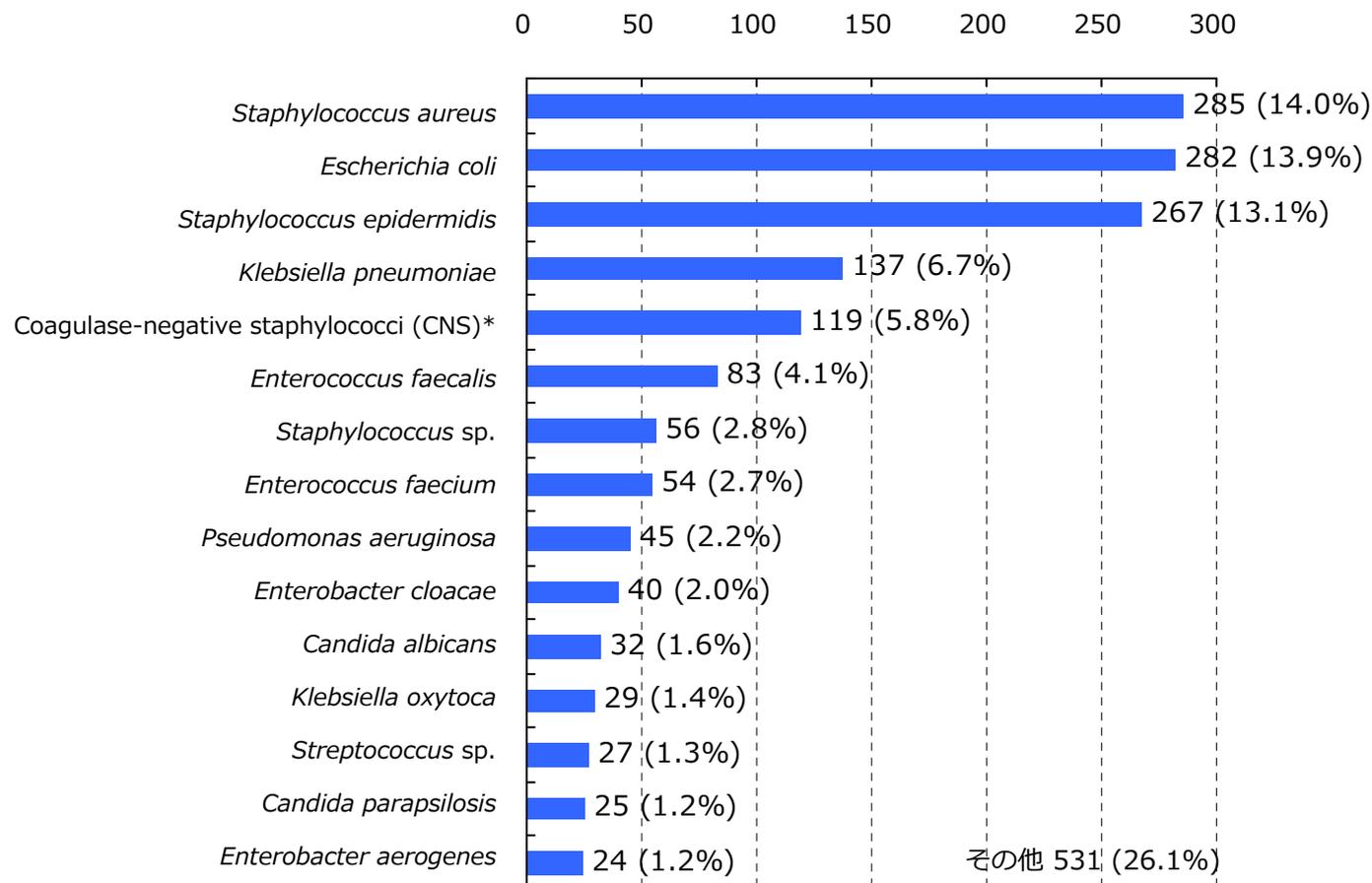
403(髄液)

その他：上記以外の検査材料コード

検査材料コード：JANISホームページ>各部門について>検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 血液検体分離菌 (N=2,036)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌 (1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外)

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：静脈血(検査材料コード401)と動脈血(同402)

血液検体分離菌数割合 = (対象菌の血液検体分離菌数) ÷ (血液検体分離菌数合計) × 100

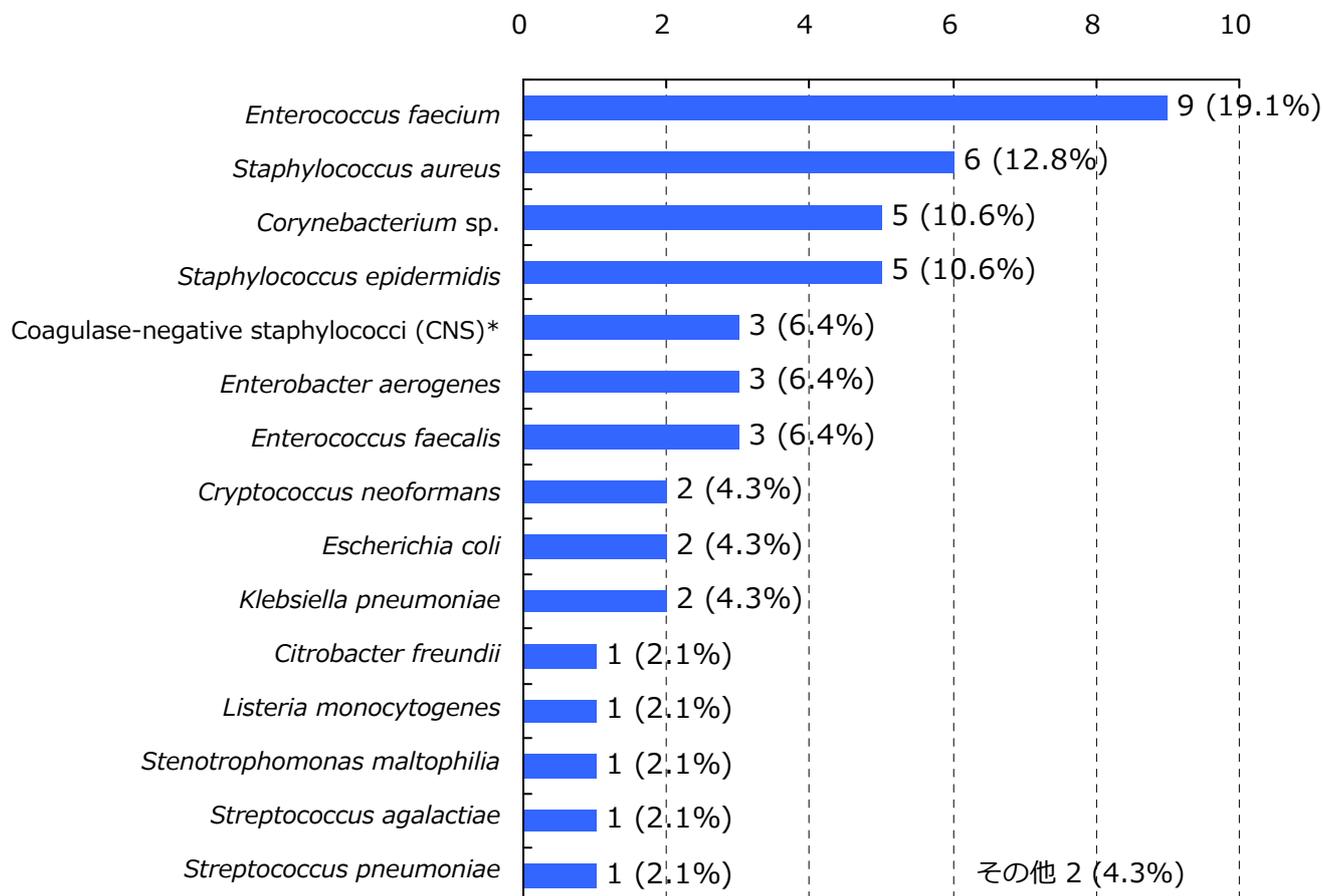
菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>



### 3. 検査材料別分離菌数割合

#### 髄液検体分離菌 (N=47)



\*菌名コード：1311, 1313～1325と報告された菌（1312：*Staphylococcus epidermidis*は対象外）

入院として報告された検体を集計

分離菌数割合が四捨五入して小数第一位までの表示で[0.0%]になる菌、菌名コード9998(その他の菌種)、16位以下の菌は「その他」に集計

集計対象菌：菌名コード9996(ウイルスによる(疑いもふくむ))、9997(菌不明)、9999(コメントのみ)の報告以外の全ての菌

集計対象検査材料：髄液(検査材料コード403)

髄液検体分離菌数割合 = (対象菌の髄液検体分離菌数) ÷ (髄液検体分離菌数合計) × 100

菌名コード、検査材料コード

: JANISホームページ> 各部門について> 検査部門 <http://www.nih-janis.jp/section/kensa.html>

## 4. 主要菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

	2011年 患者数 (分離率‡)	2012年 患者数 (分離率‡)	2013年 患者数 (分離率‡)	2014年 患者数 (分離率‡)	2015年 患者数 (分離率‡)	集計対象医療機関の分離率¶ (%)の分布
検体提出患者数	-	-	-	-	17,035人	
<i>S. aureus</i>	-	-	-	-	2,202人 (12.93%)	5.60 10.87 22.73
<i>S. epidermidis</i>	-	-	-	-	553人 (3.25%)	0.00 1.39 4.79
<i>S. pneumoniae</i>	-	-	-	-	200人 (1.17%)	0.00 1.39 3.82
<i>E. faecalis</i>	-	-	-	-	720人 (4.23%)	0.17 4.07 9.84
<i>E. faecium</i>	-	-	-	-	336人 (1.97%)	0.00 1.26 3.24
<i>E. coli</i>	-	-	-	-	1,983人 (11.64%)	8.70 12.18 24.04
<i>K. pneumoniae</i>	-	-	-	-	974人 (5.72%)	2.59 6.25 17.49
<i>Enterobacter spp.</i>	-	-	-	-	590人 (3.46%)	0.55 2.64 5.52
<i>S. marcescens</i>	-	-	-	-	177人 (1.04%)	0.17 0.84 7.65
<i>P. aeruginosa</i>	-	-	-	-	1,120人 (6.57%)	3.40 7.60 33.33
<i>Acinetobacter spp.</i>	-	-	-	-	216人 (1.27%)	0.40 0.58 4.03

入院として報告された検体を集計

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

全体の分離率

= (集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計) ÷ (集計対象医療機関の検体提出患者数合計) × 100

¶分離率 = (対象菌の分離患者数) ÷ (検体提出患者数) × 100

## 5. 特定の耐性菌分離患者数\*と全医療機関†の分離率分布

	2011年 患者数 (分離率 †)	2012年 患者数 (分離率 †)	2013年 患者数 (分離率 †)	2014年 患者数 (分離率 †)	2015年 患者数 (分離率 †)	集計対象医療機関の分離率‡ (%)の分布
検体提出患者数	-	-	-	-	17,035人	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)	-	-	-	-	913人 (5.36%)	2.21 6.48 14.44
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA)	-	-	-	-	0人 (0.00%)	0.00
バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)	-	-	-	-	0人 (0.00%)	0.00
ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)	-	-	-	-	80人 (0.47%)	0.00 0.55 1.70
多剤耐性緑膿菌(MDRP)	-	-	-	-	4人 (0.02%)	0.00 0.00 0.27
多剤耐性アシネトバクター属(MDRA)	-	-	-	-	0人 (0.00%)	0.00
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)	-	-	-	-	38人 (0.22%)	0.00 0.00 0.70
カルバペネム耐性緑膿菌	-	-	-	-	165人 (0.97%)	0.22 0.85 3.83
第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌	-	-	-	-	94人 (0.55%)	0.00 0.17 7.65
第三世代セファロスポリン耐性大腸菌	-	-	-	-	416人 (2.44%)	0.74 2.44 15.30
フルオロキノロン耐性大腸菌	-	-	-	-	744人 (4.37%)	2.63 4.80 22.95

入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計  
MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む

\*分離患者数と検体提出患者数は30日ごとに重複処理(巻末参照)している

†ここでは全医療機関は集計対象医療機関を表す

‡ここでの分離率は全体の分離率を表す

全体の分離率

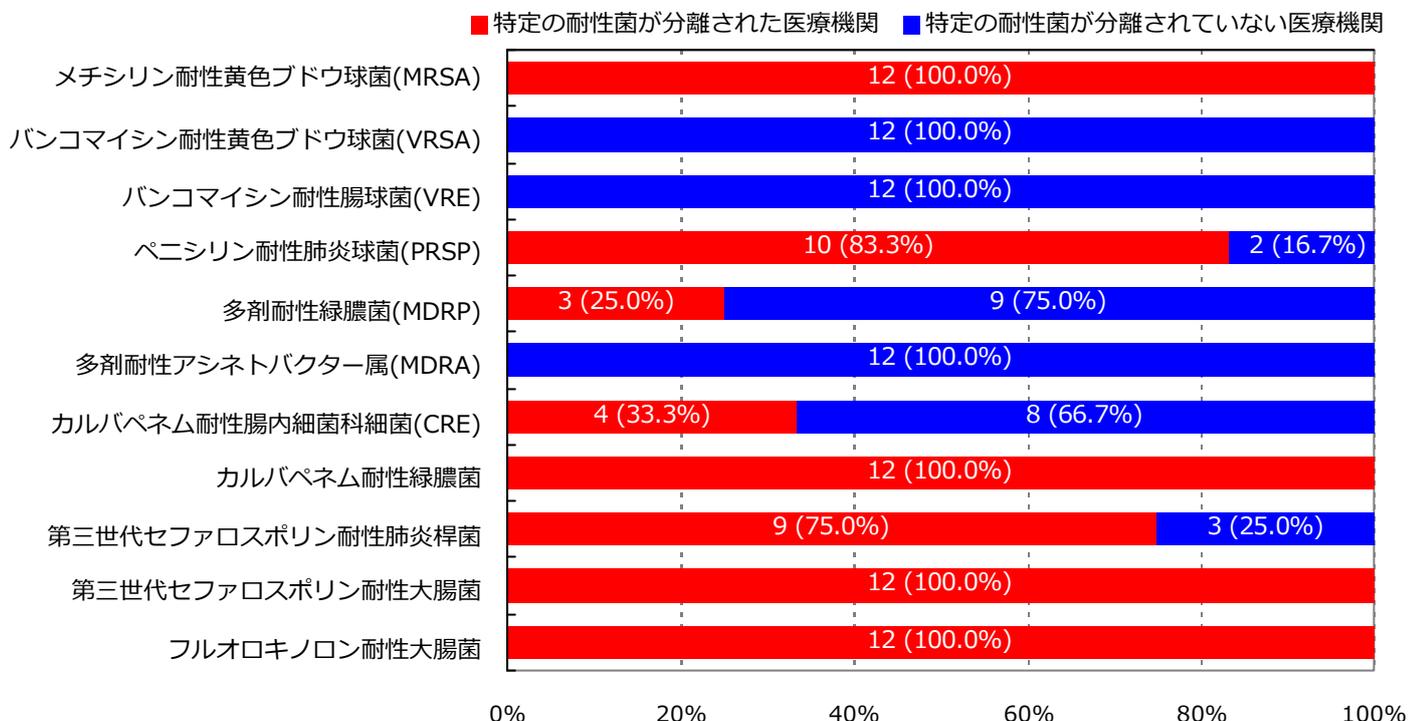
$$= (\text{集計対象医療機関の対象菌の分離患者数合計}) \div (\text{集計対象医療機関の検体提出患者数合計}) \times 100$$

$$\text{¶分離率} = (\text{対象菌の分離患者数}) \div (\text{検体提出患者数}) \times 100$$



### 6. 特定の耐性菌が分離された医療機関の割合

2015年 特定の耐性菌が分離された医療機関の割合 (N=12)



### 特定の耐性菌が分離された医療機関の割合 (過去5年間)

	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
集計対象医療機関数	-	-	-	-	12
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)	-	-	-	-	100.0%
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌(VRSA)	-	-	-	-	0.0%
バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)	-	-	-	-	0.0%
ペニシリン耐性肺炎球菌(PRSP)	-	-	-	-	83.3%
多剤耐性緑膿菌(MDRP)	-	-	-	-	25.0%
多剤耐性アシネトバクター属(MDRA)	-	-	-	-	0.0%
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)	-	-	-	-	33.3%
カルバペネム耐性緑膿菌	-	-	-	-	100.0%
第三世代セファロスポリン耐性肺炎桿菌	-	-	-	-	75.0%
第三世代セファロスポリン耐性大腸菌	-	-	-	-	100.0%
フルオロキノロン耐性大腸菌	-	-	-	-	100.0%

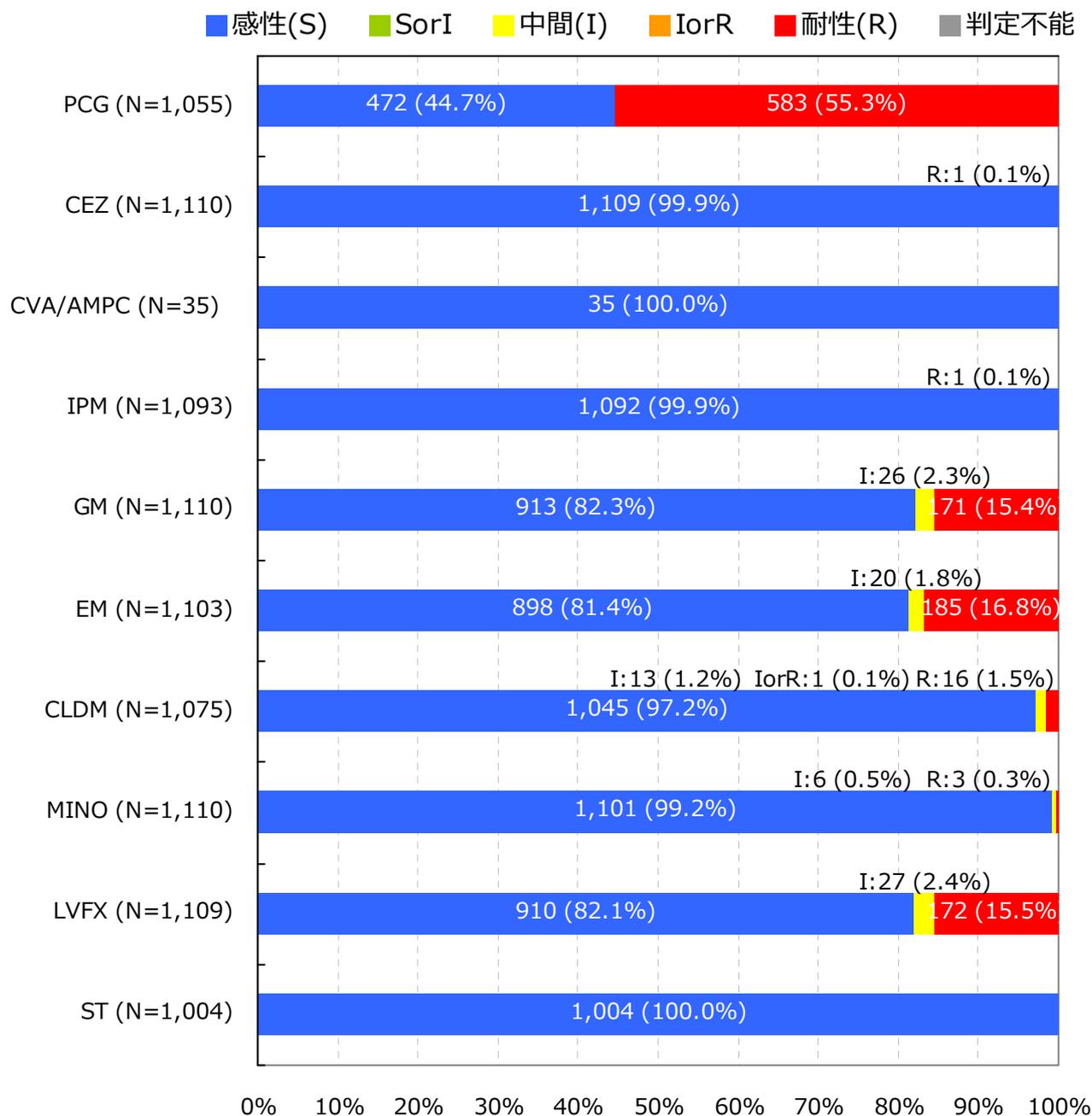
耐性菌判定薬剤(巻末資料参照)が未検査の場合、分離されていない医療機関として集計  
 入院検体でかつ、検査法が原則微量液体希釈法又はEtestと設定されたMIC値が報告されている検体を集計  
 MRSAとVREは検査法によらず菌名コードで指定された場合はそれらを含む  
 特定の耐性菌が検出された集計対象医療機関の割合

$$= \frac{\text{特定の耐性菌が1株でも報告された医療機関数}}{\text{集計対象医療機関数}}$$



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MSSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

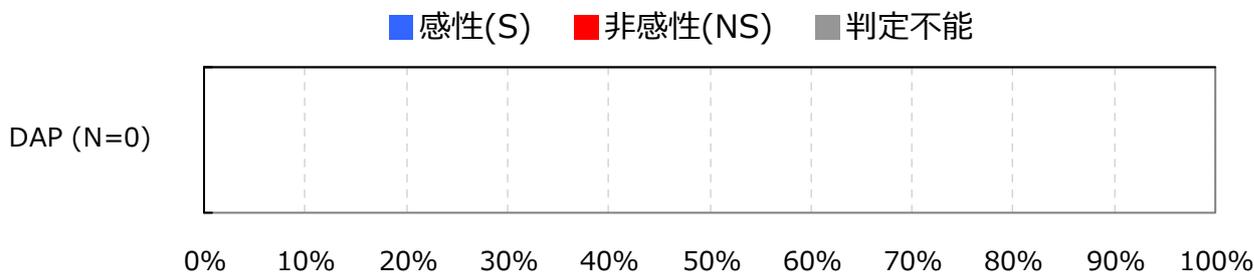
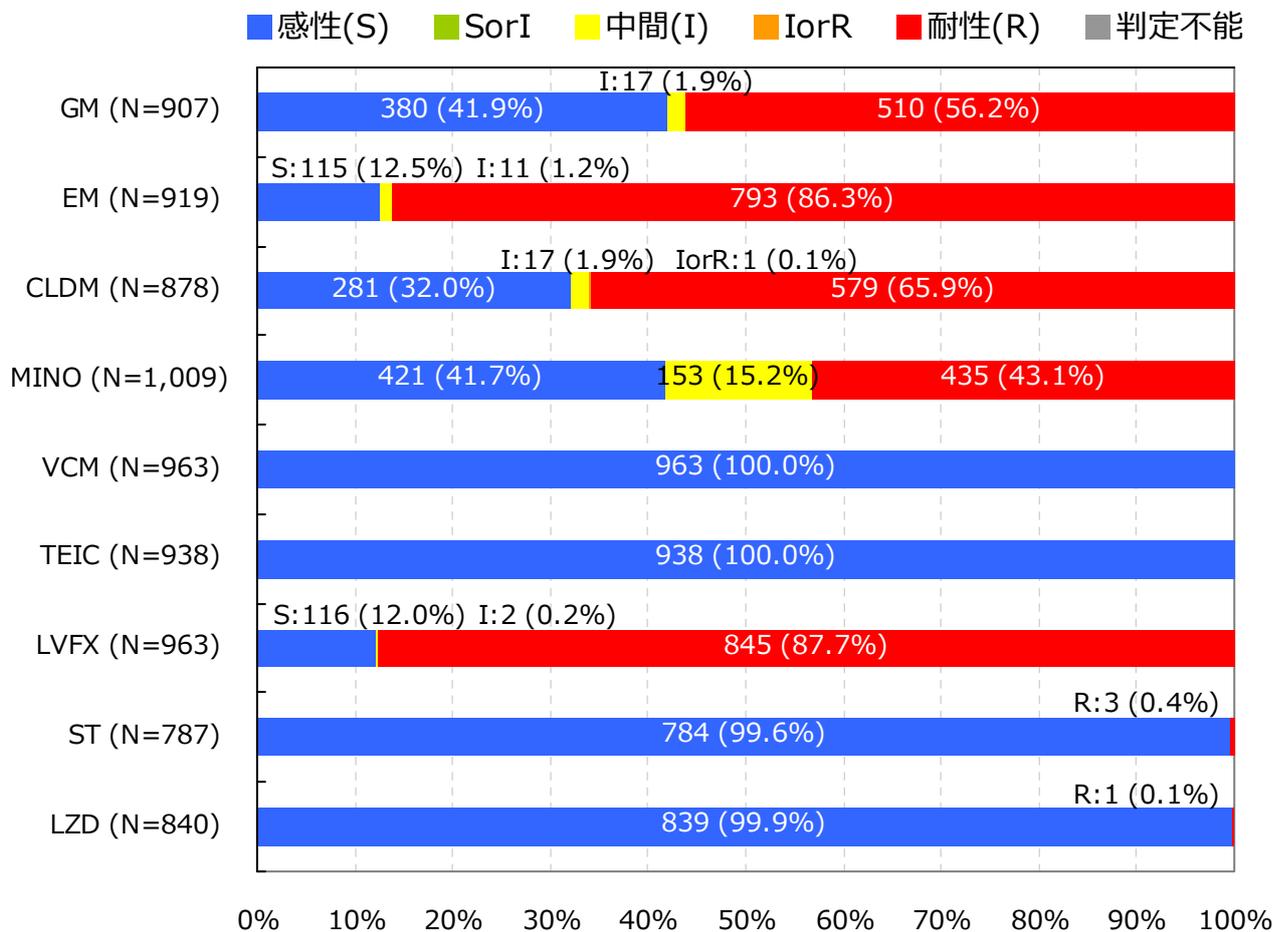
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1304, 1305, 1306と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「S」の菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus aureus* (MRSA) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

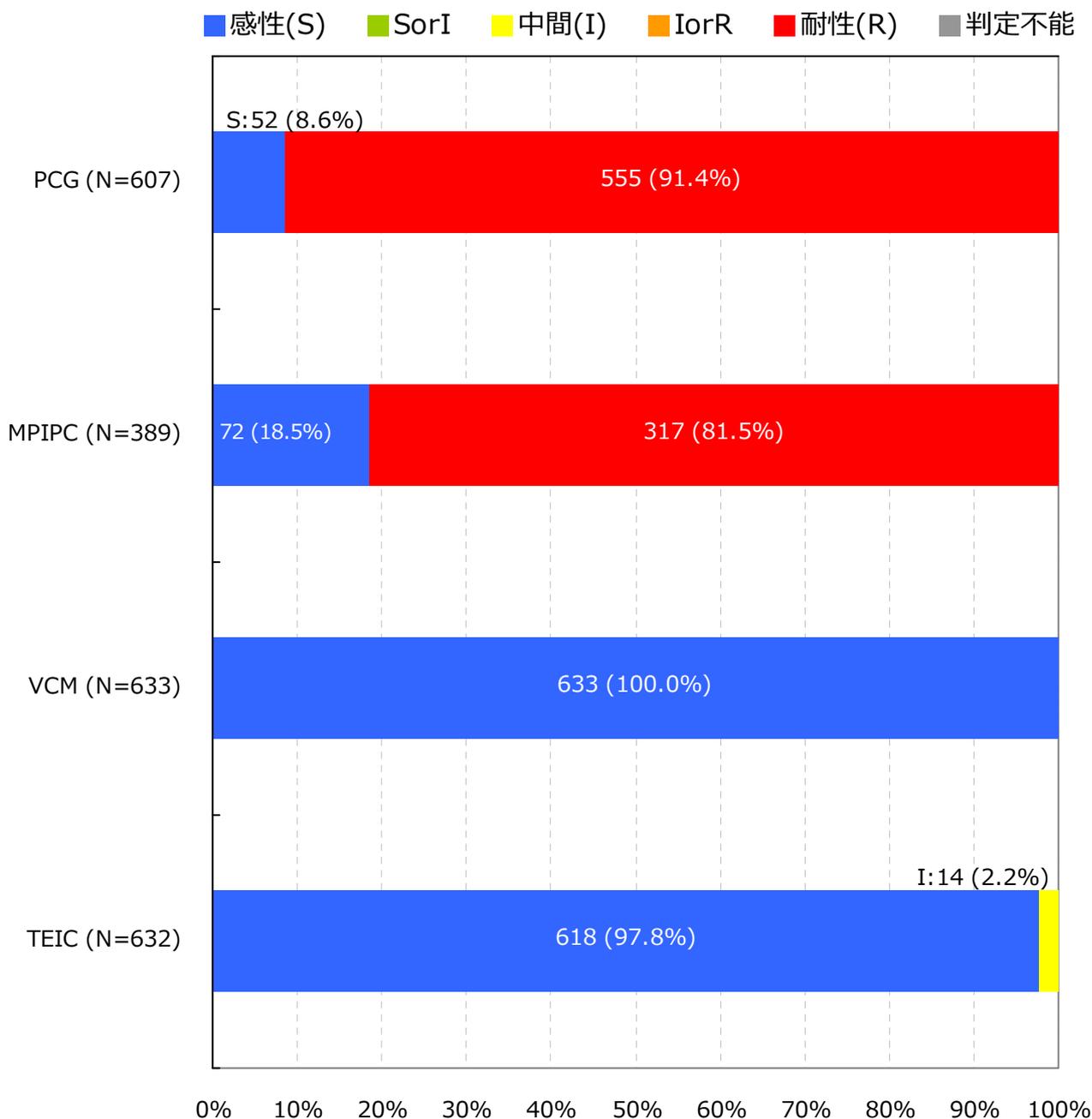
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1303と報告された菌および菌名コード : 1301と報告され抗菌薬コード : 1208 (オキサシリン) の感受性結果「R」の菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Staphylococcus epidermidis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

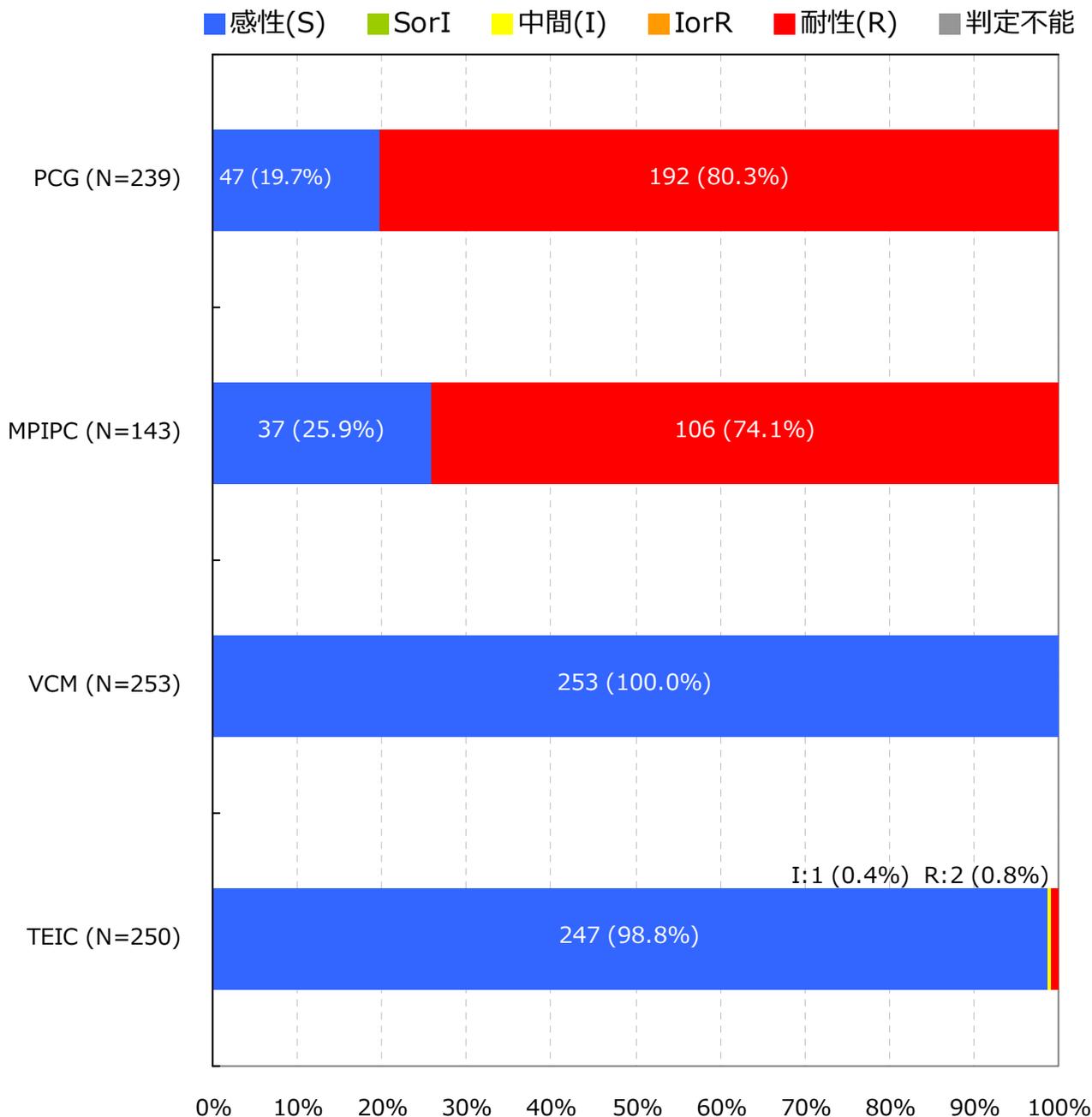
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1312と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### Coagulase-negative staphylococci (CNS) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

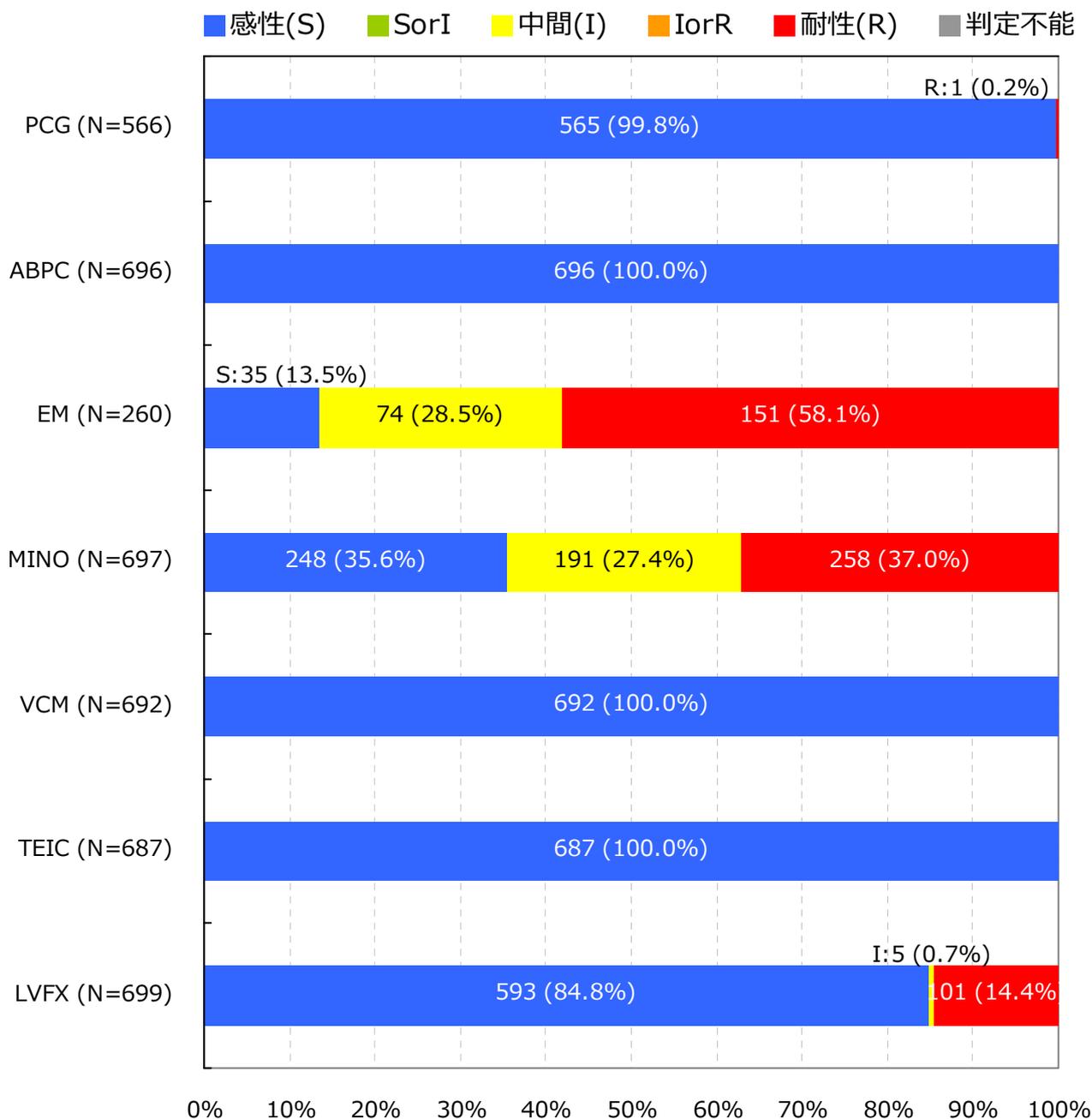
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1311, 1313~1325と報告された菌 (1312 : *Staphylococcus epidermidis*は対象外)



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecalis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

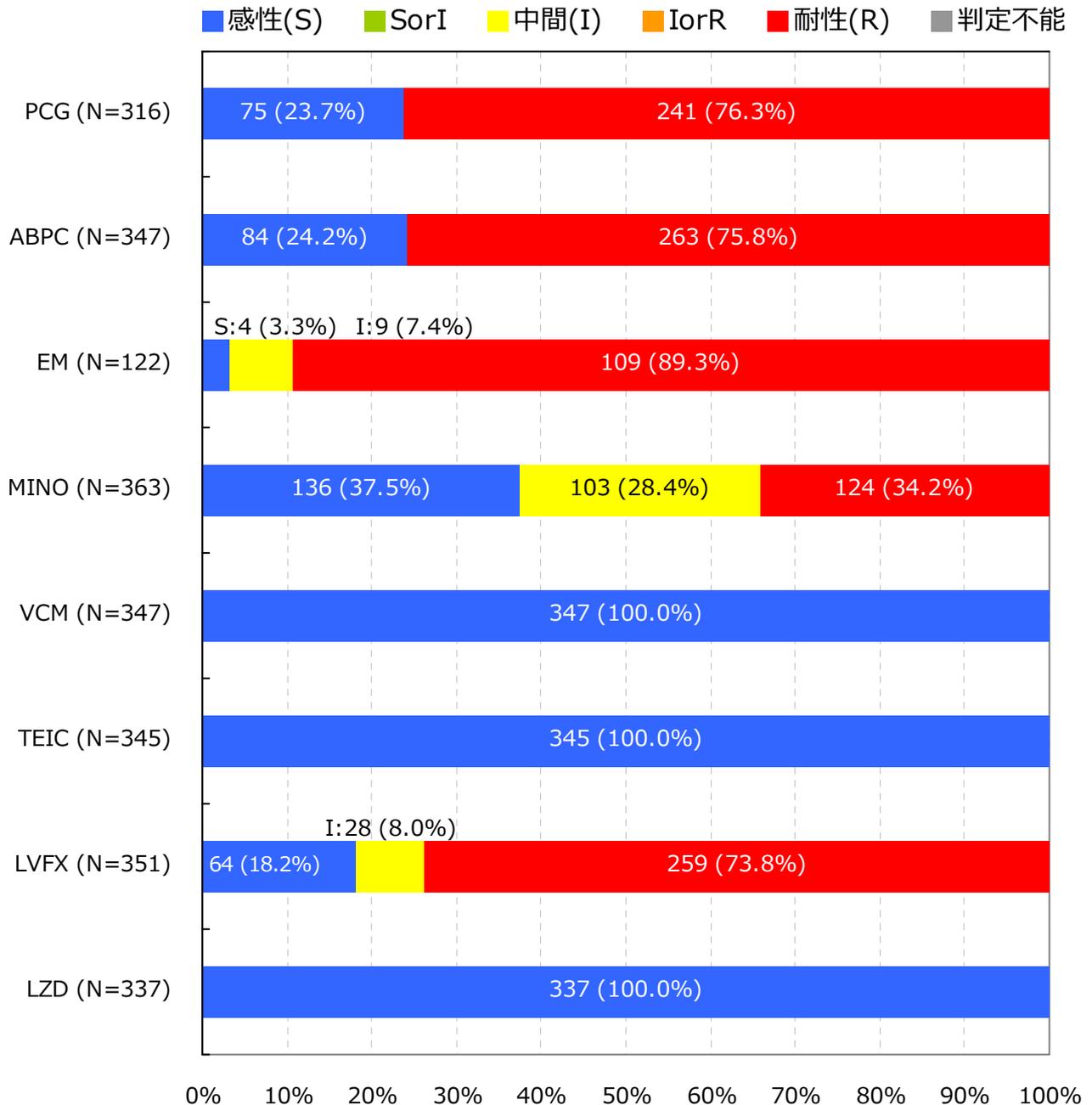
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1201, 1202と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterococcus faecium* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1205, 1206と報告された菌

(和歌山県)

公開情報 2015年1月～12月 年報(全集計対象医療機関)

院内感染対策サーベイランス 検査部門 【CLSI 2012 版】

## 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

*Streptococcus pneumoniae*(髄液検体) †

報告はありませんでした

入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

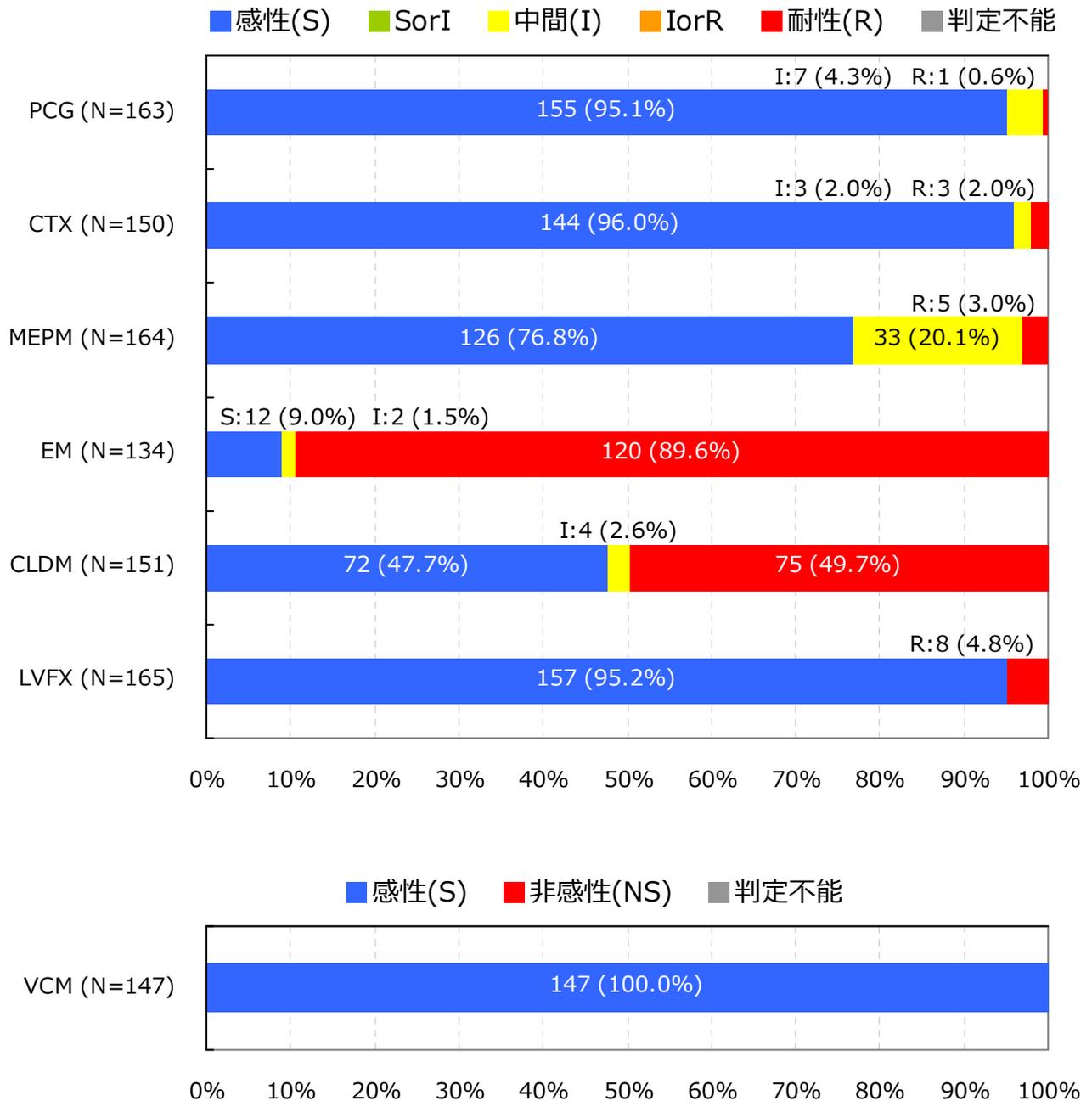
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1131と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pneumoniae*(髄液検体以外) †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

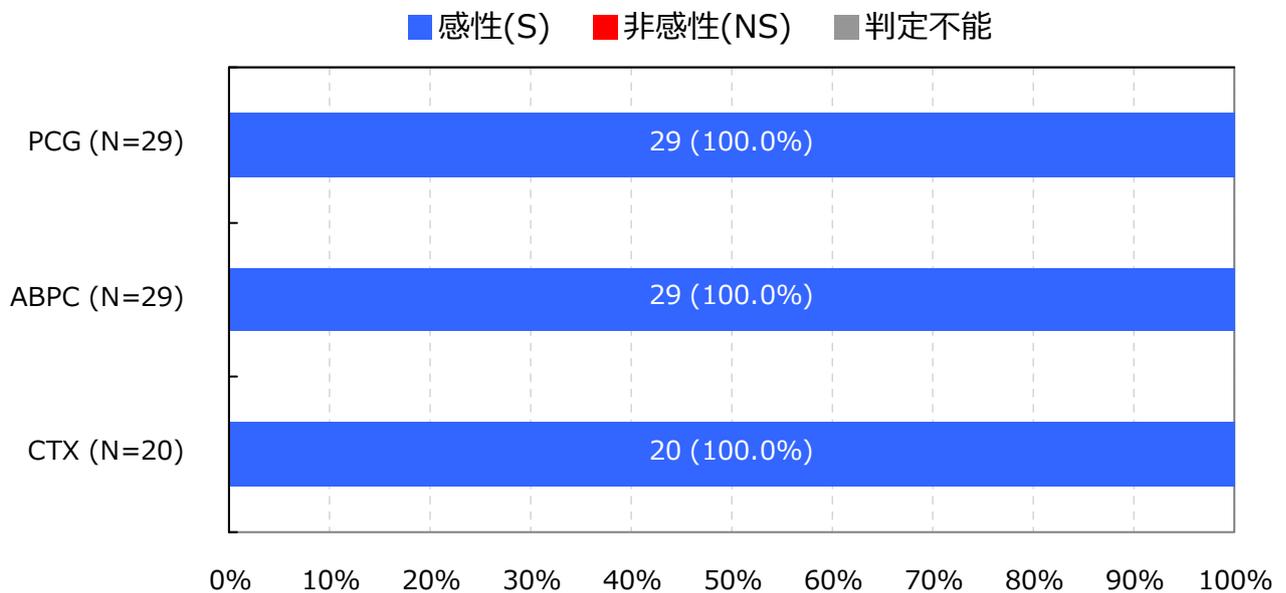
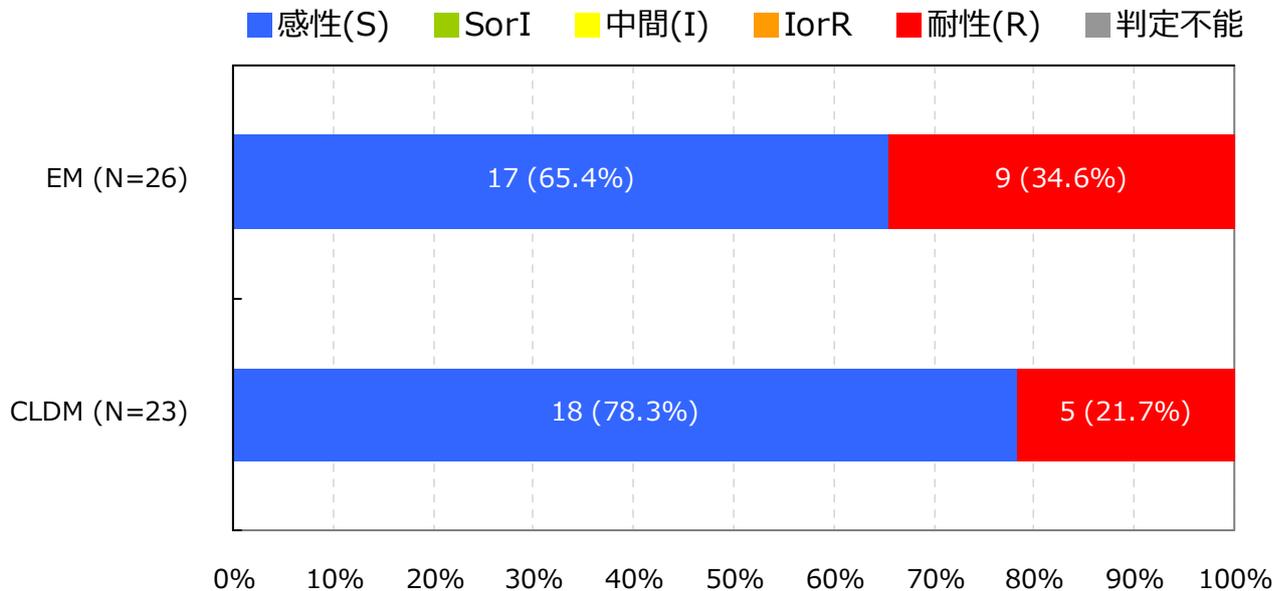
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 1131と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus pyogenes* †



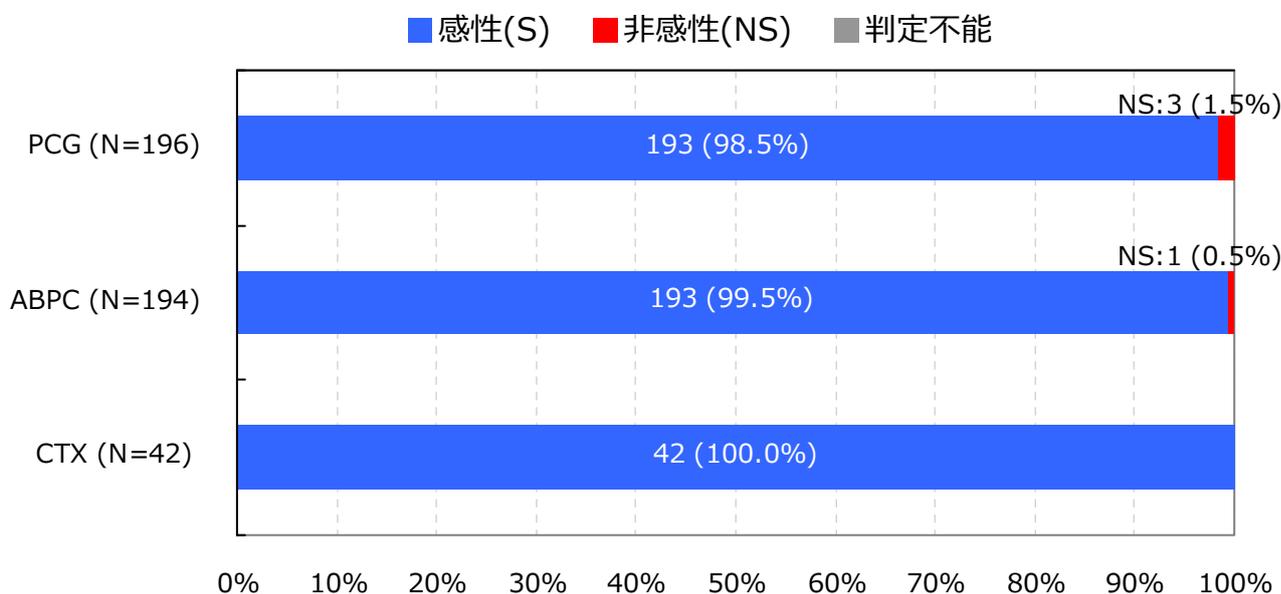
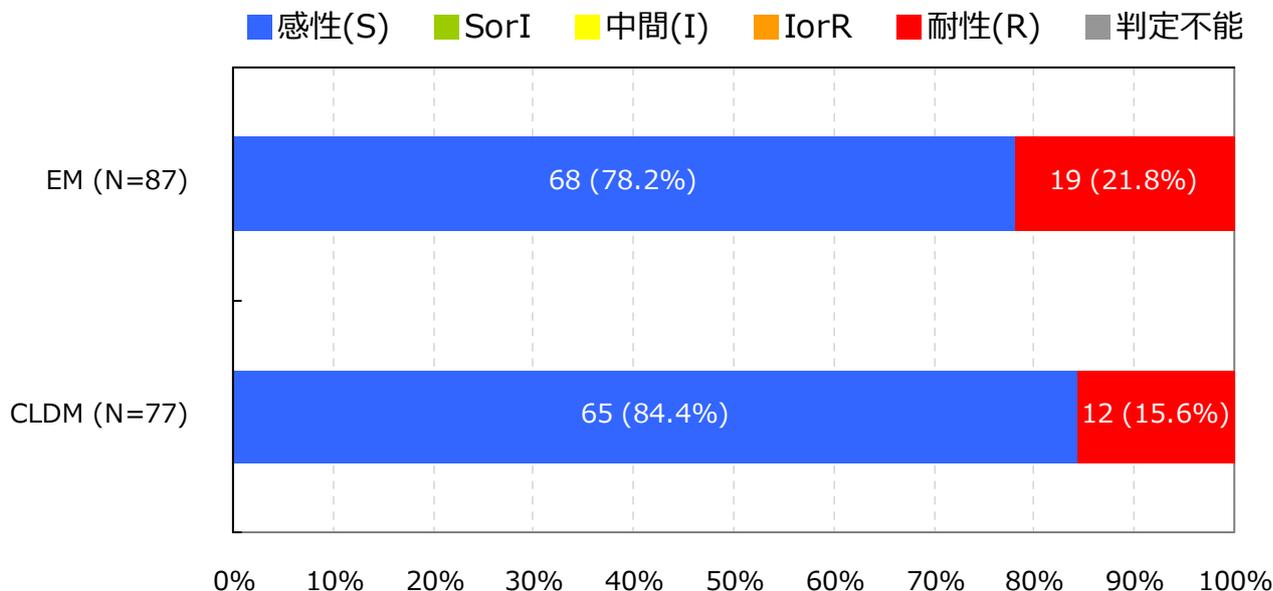
入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1111と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Streptococcus agalactiae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

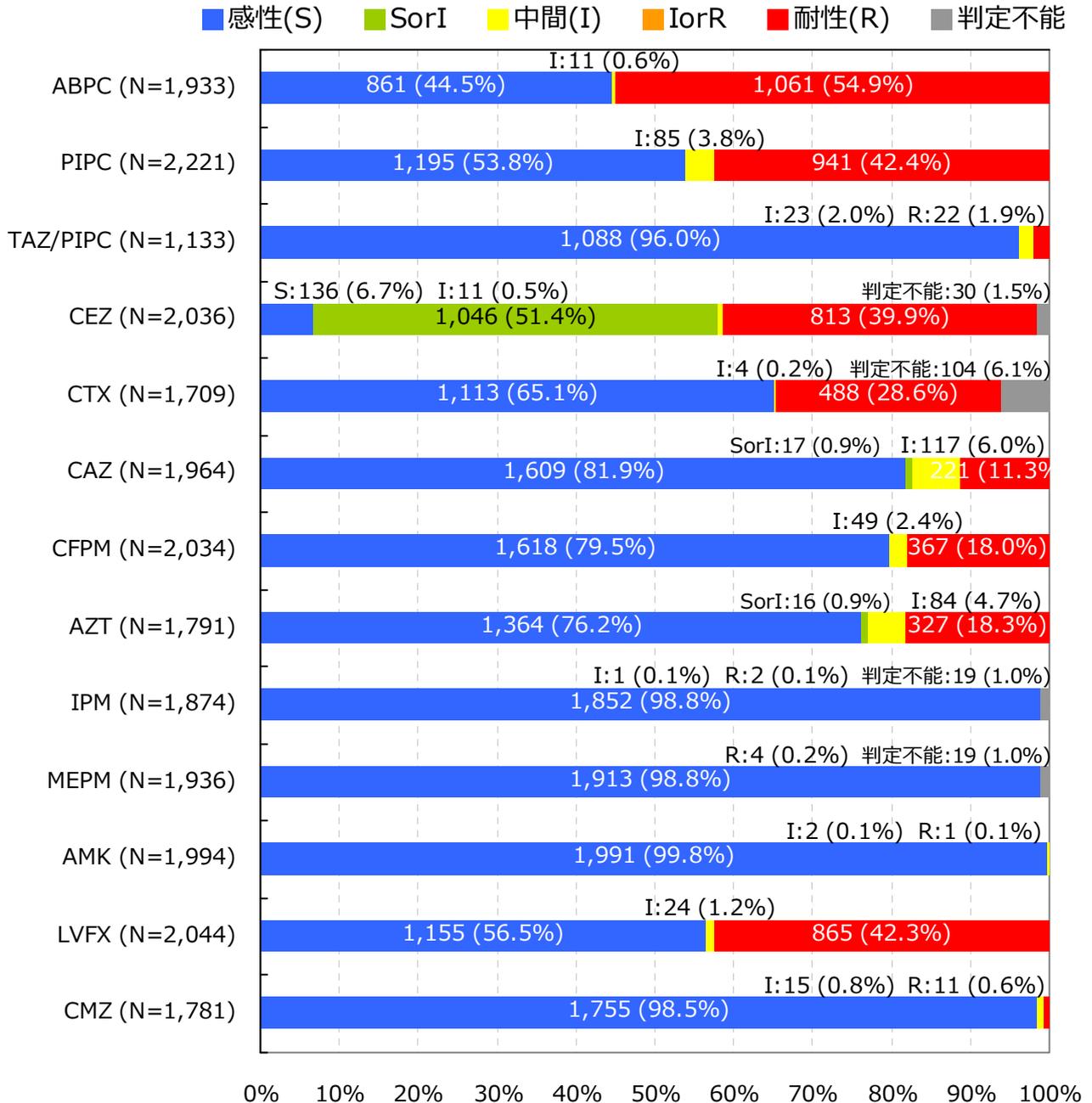
\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：1114と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Escherichia coli* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

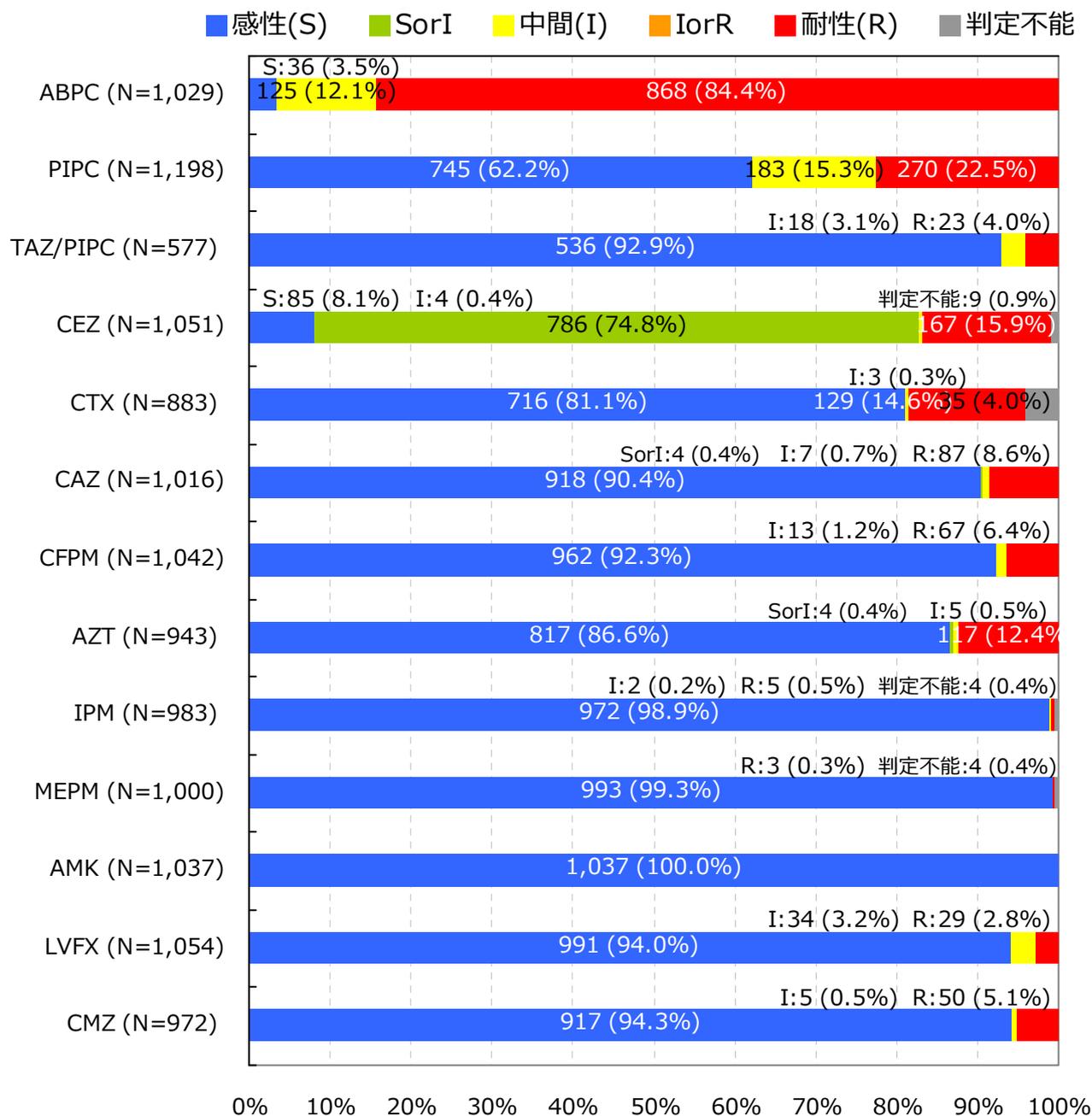
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2001～2007と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Klebsiella pneumoniae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

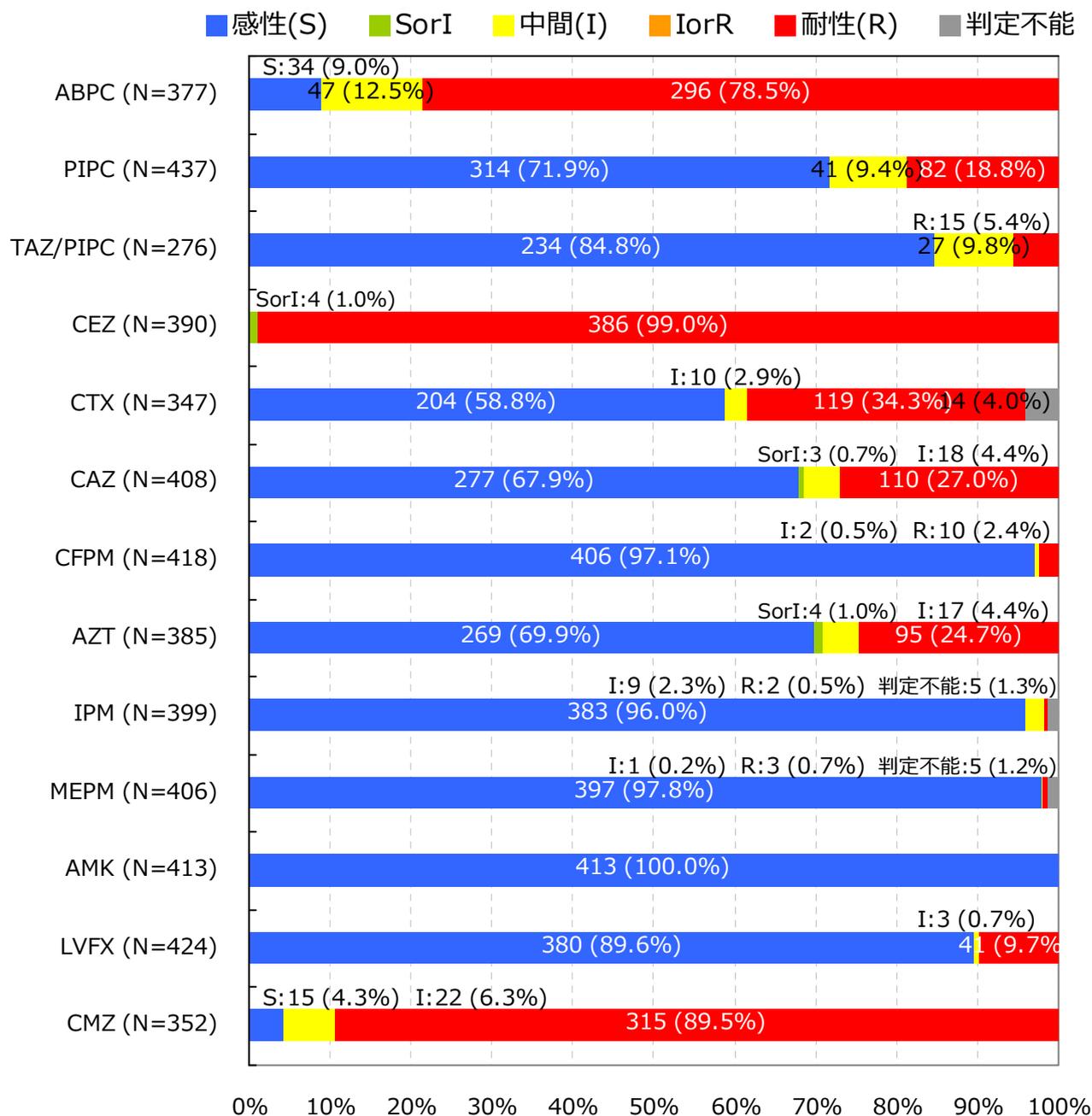
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2351と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterobacter cloacae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

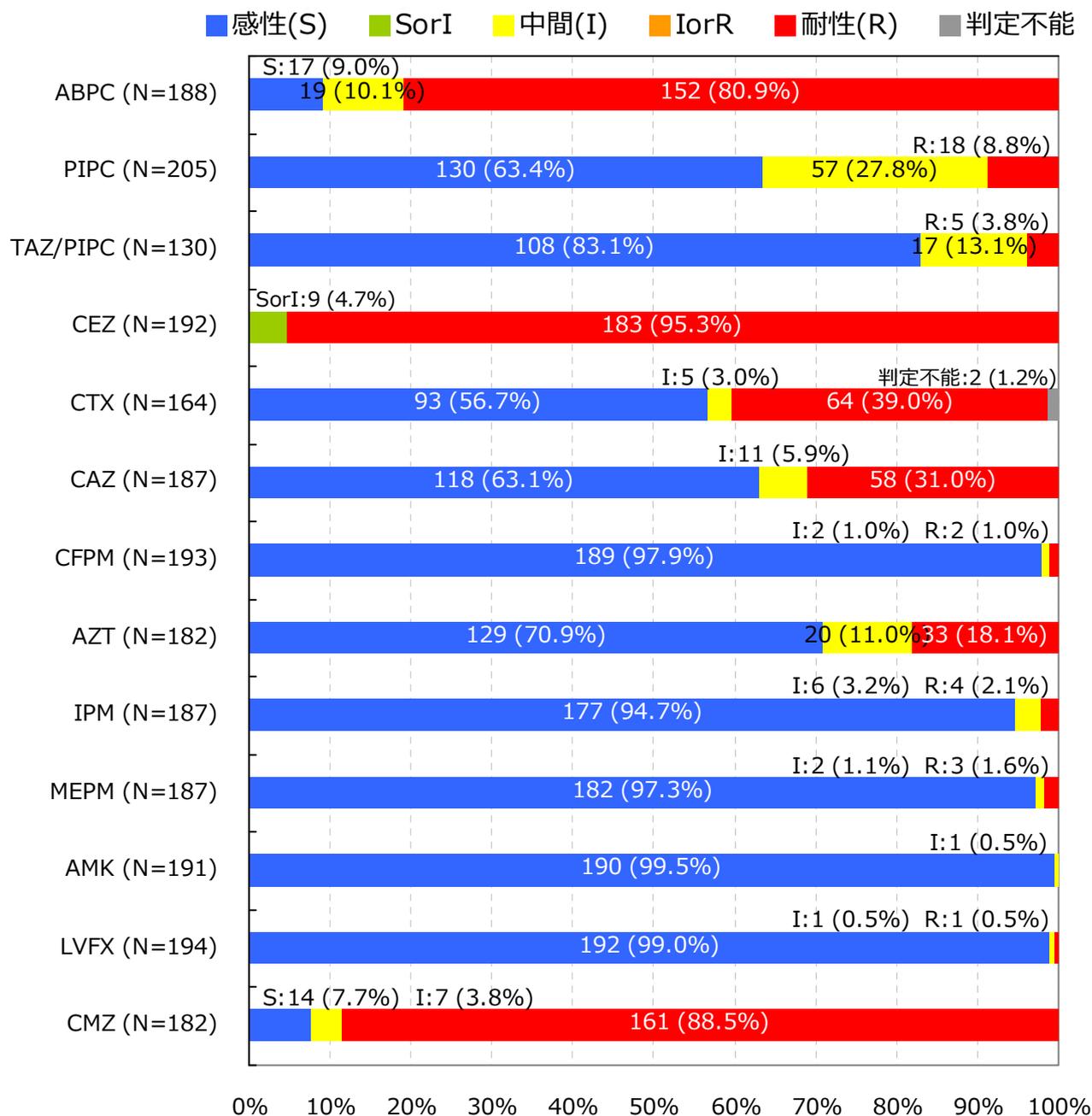
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2151と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Enterobacter aerogenes* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

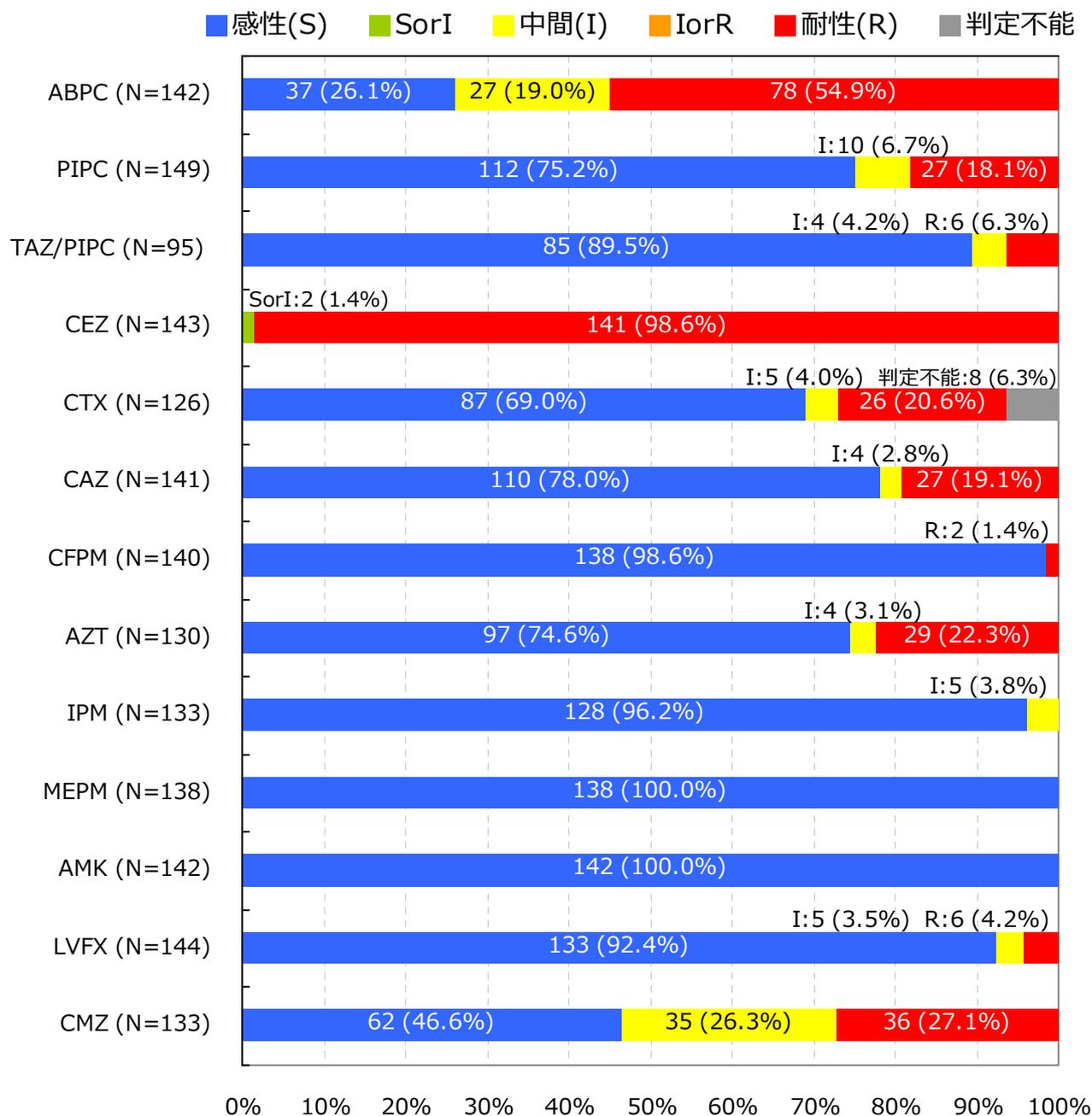
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2152と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter freundii* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

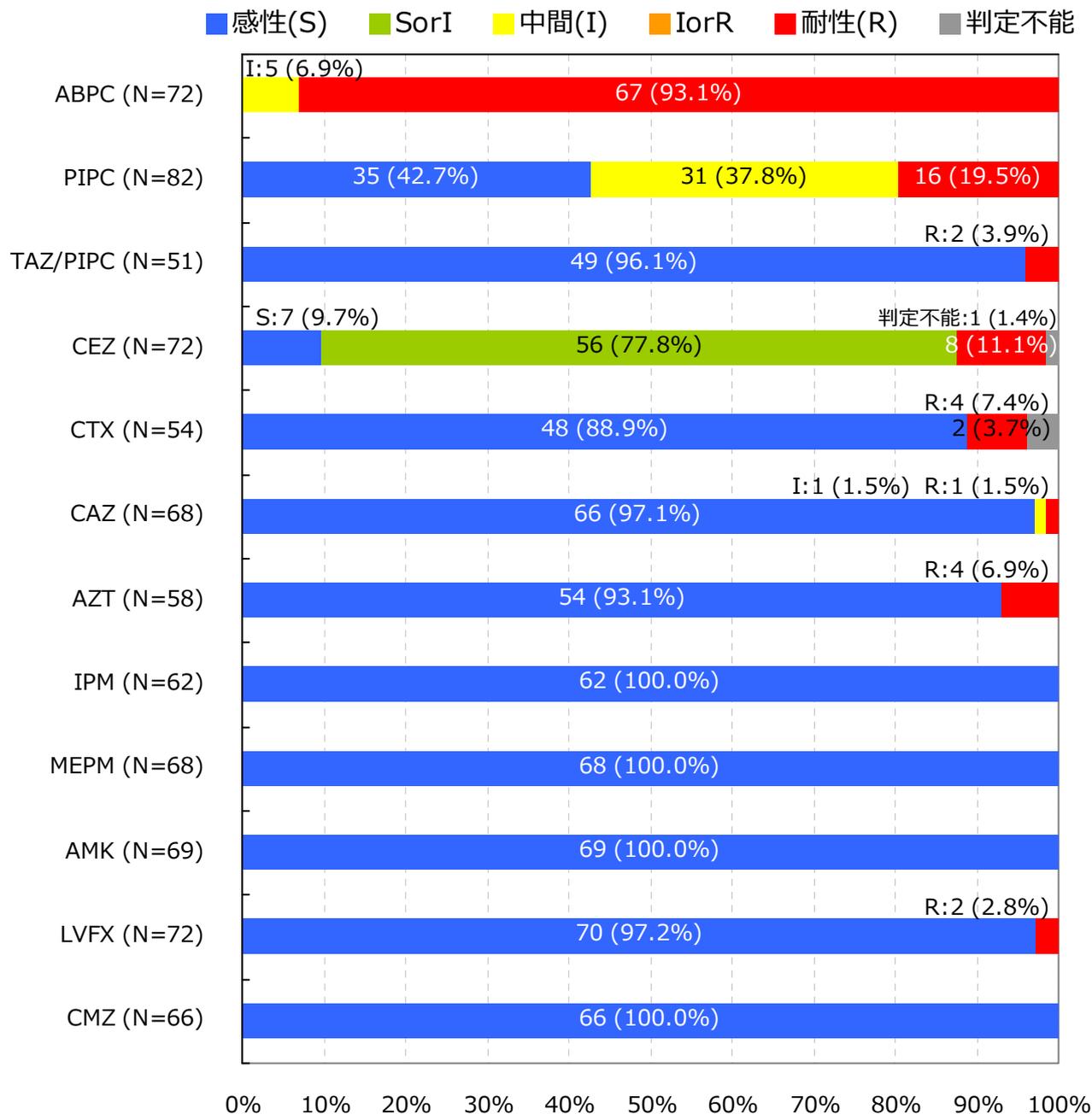
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2051と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Citrobacter koseri* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

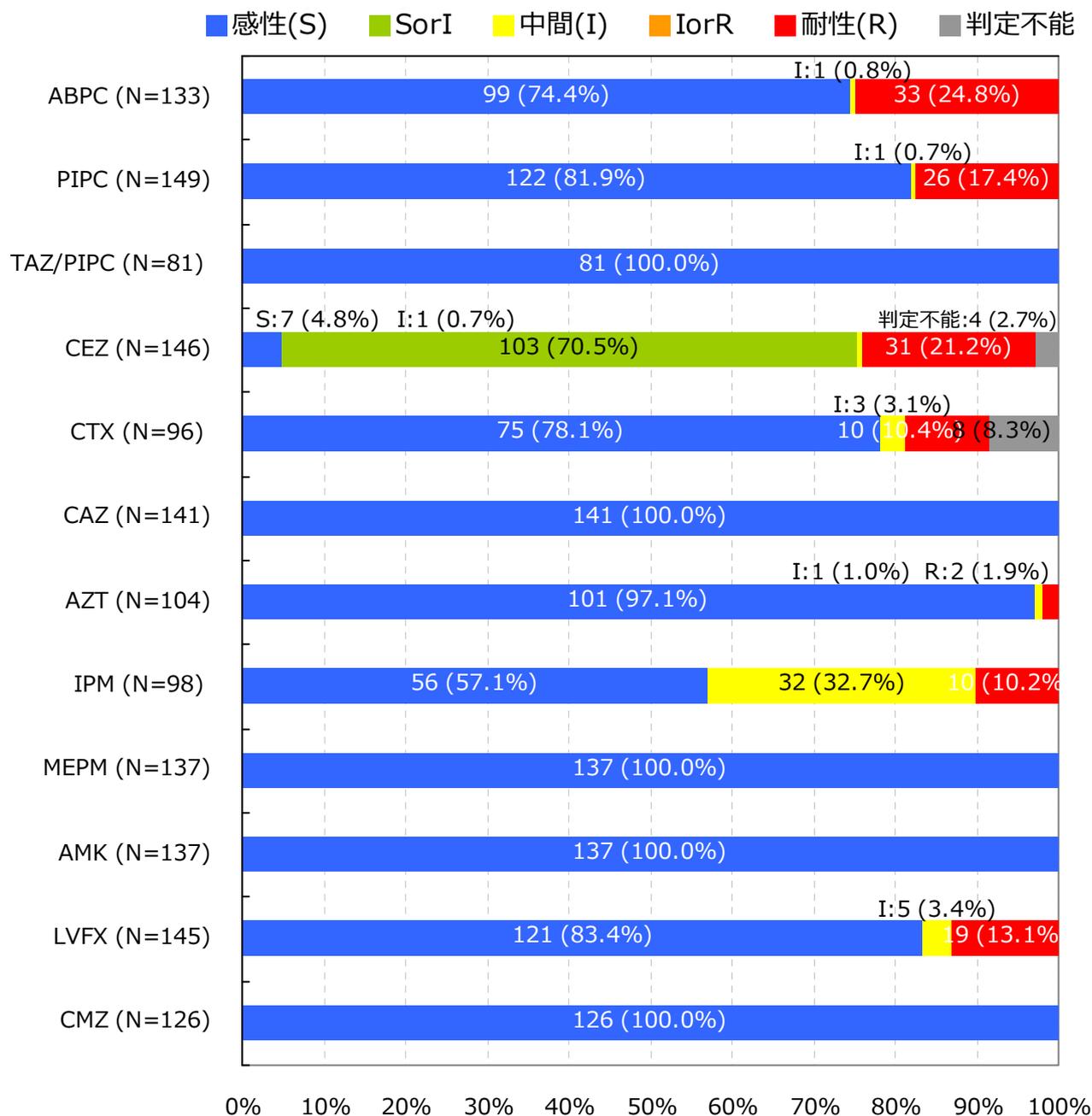
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2052と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus mirabilis* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

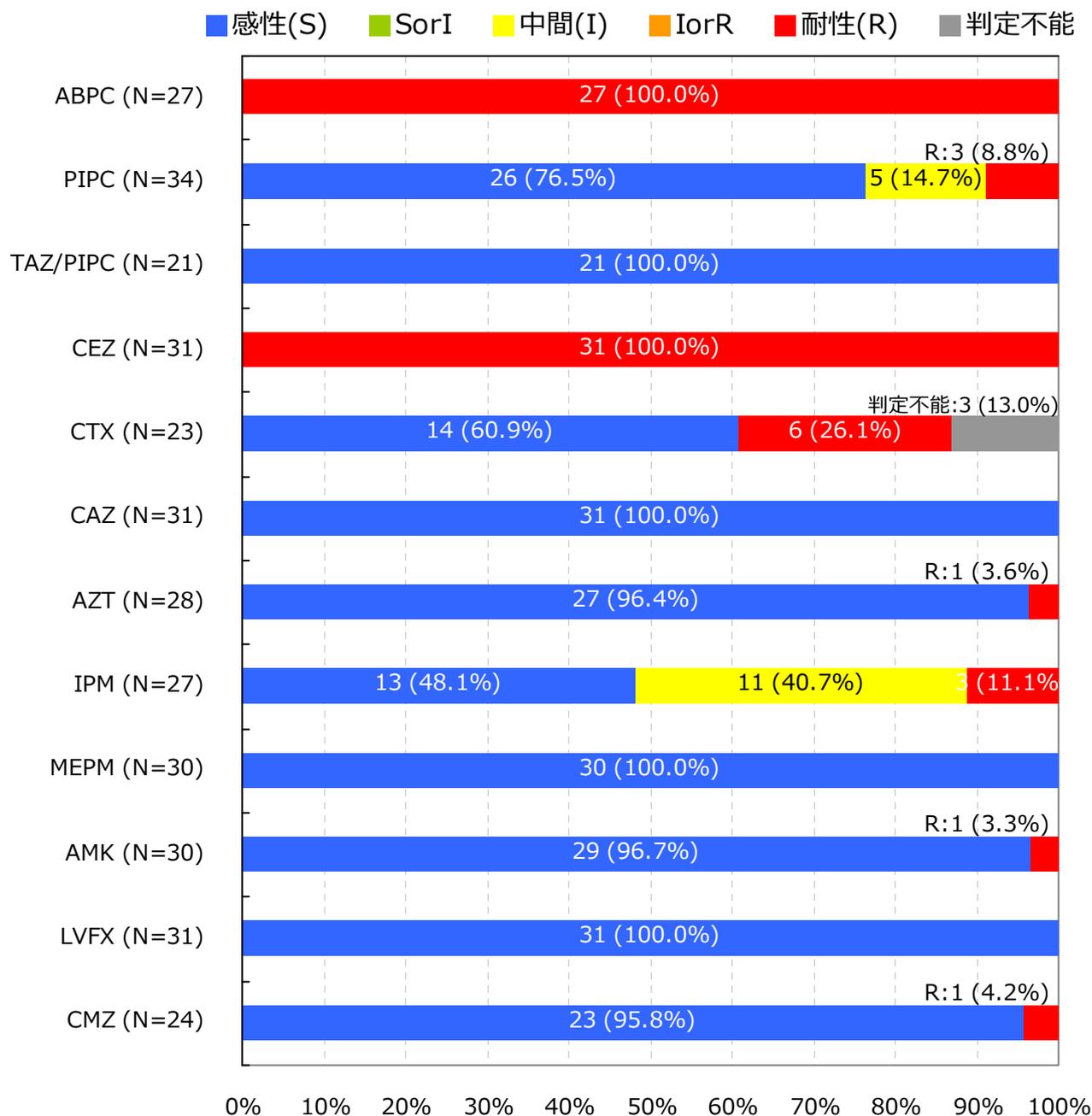
\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2201と報告された菌



### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Proteus vulgaris* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

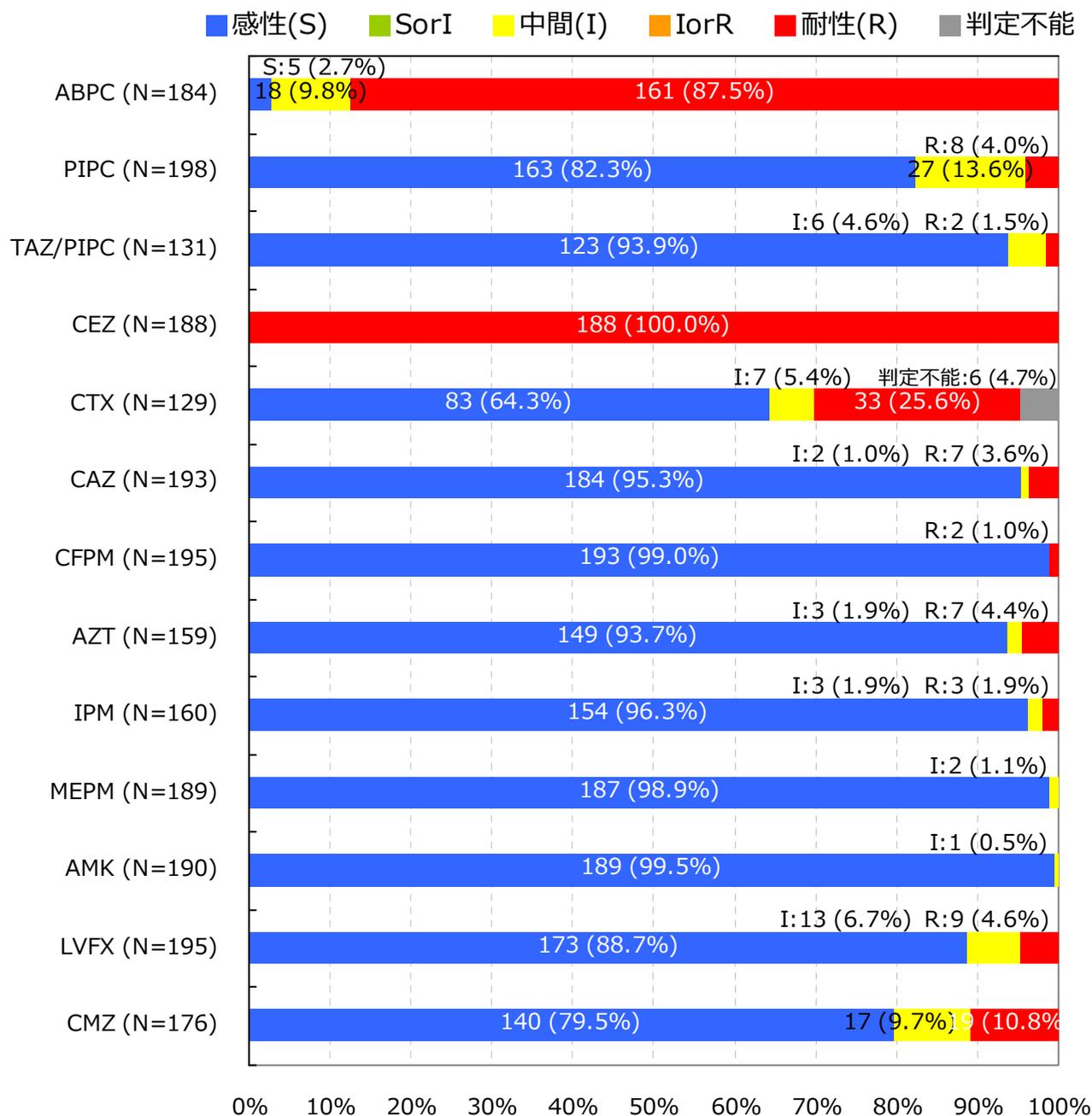
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：2202と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Serratia marcescens* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

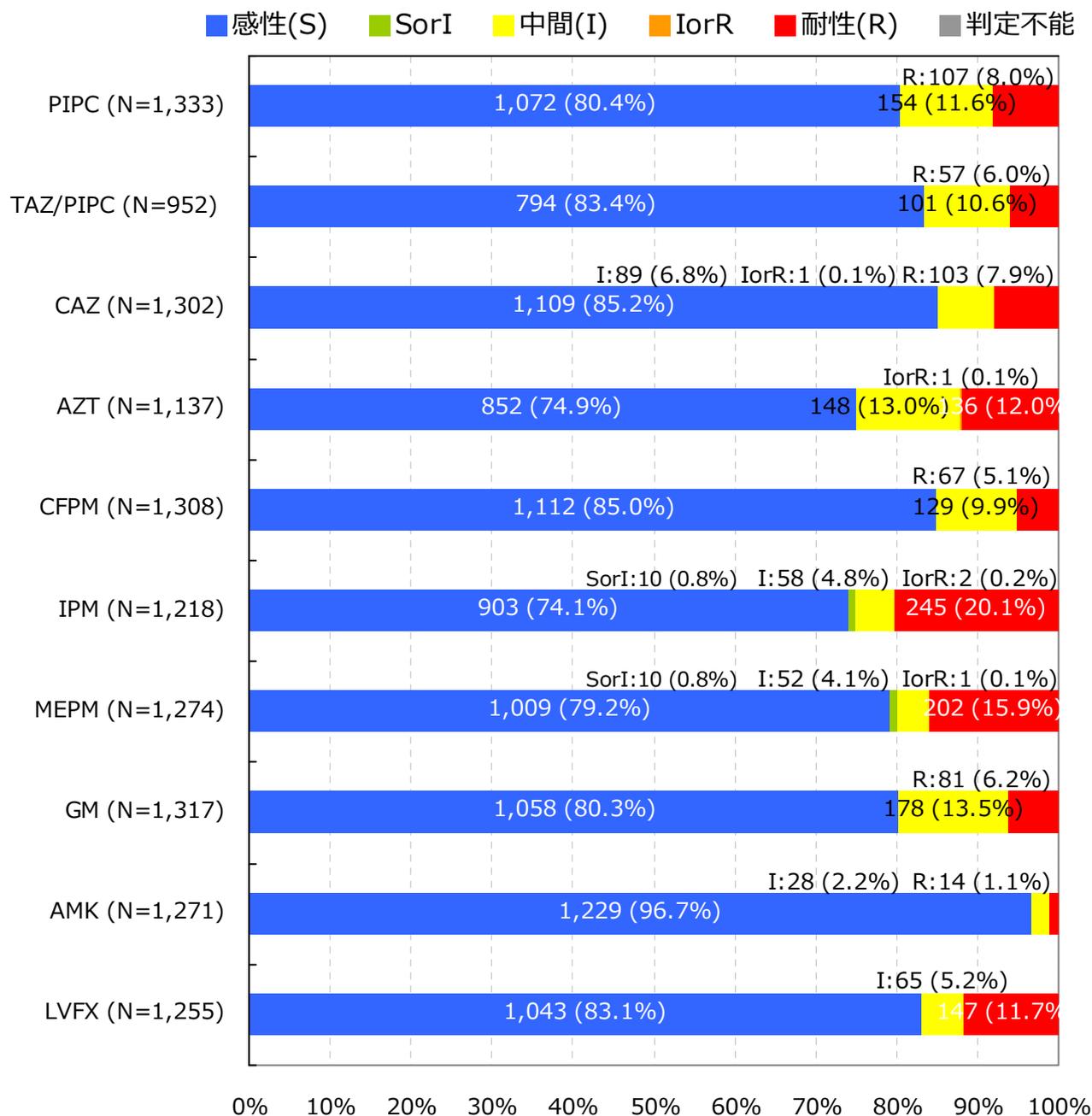
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 2101と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Pseudomonas aeruginosa* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

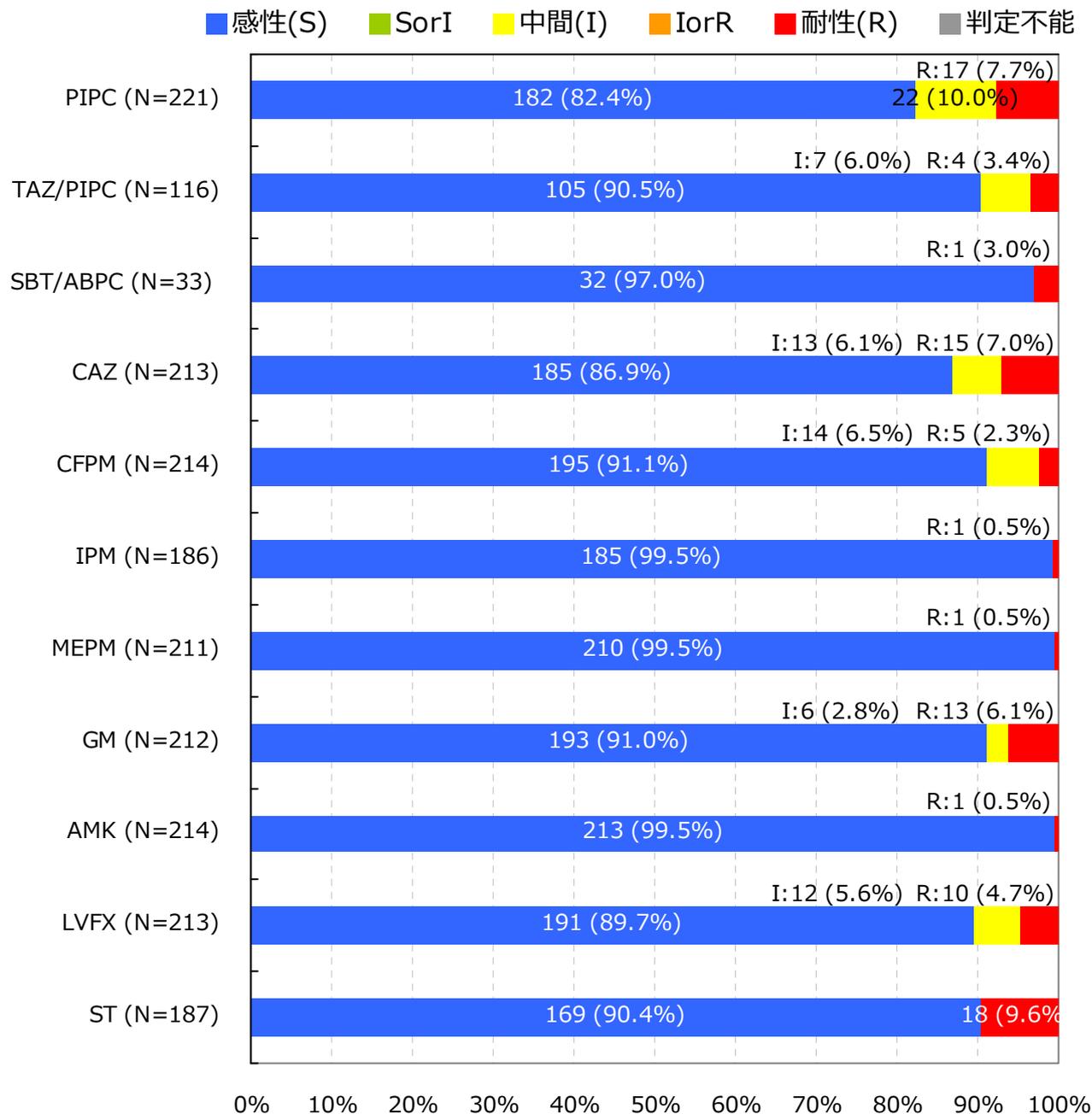
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 4001と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Acinetobacter* spp. †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計

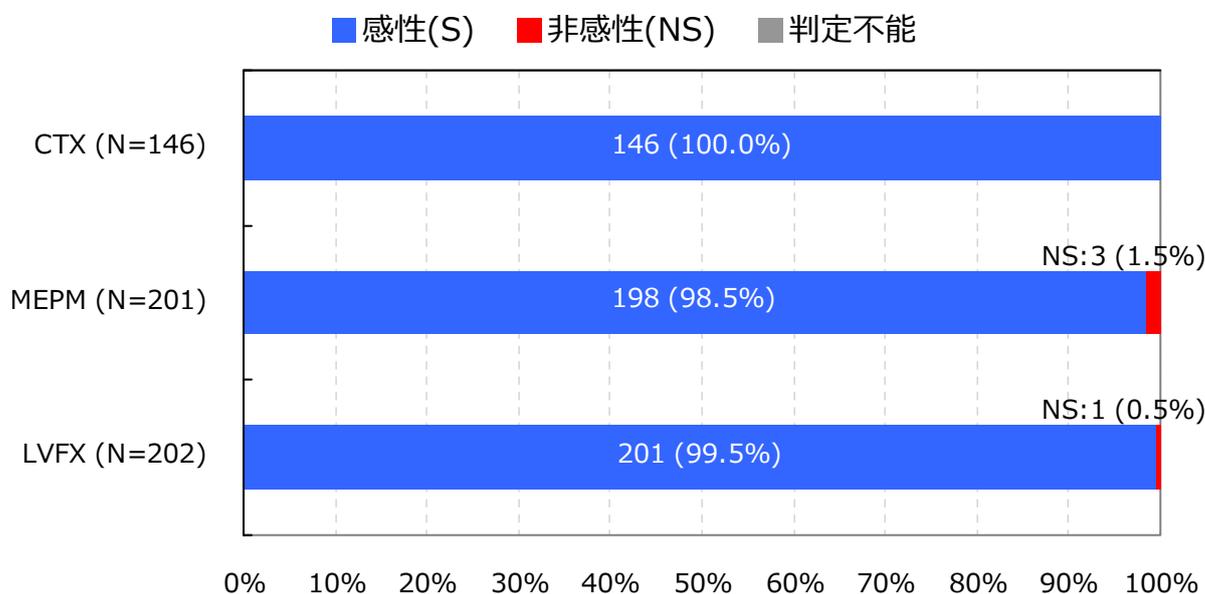
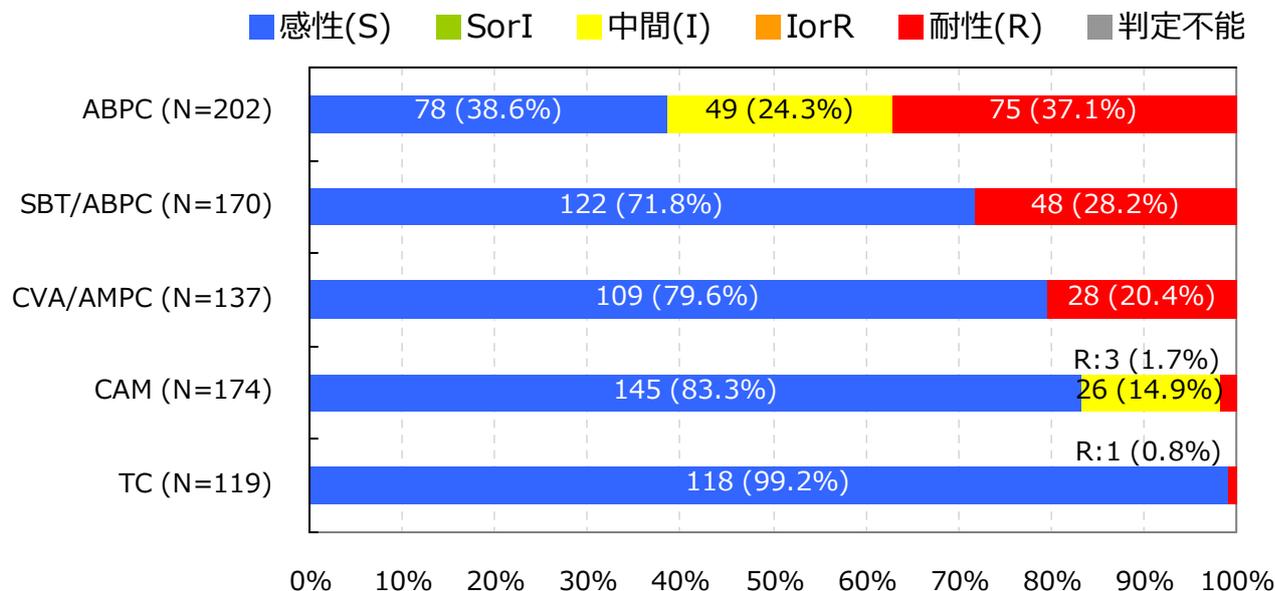
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,Rの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード：4400～4403と報告された菌

### 7. 主要菌の抗菌薬感受性\*

#### *Haemophilus influenzae* †



入院検体で、かつ検査法が微量液体希釈法又はEtestと設定されMIC値が報告されている検体を集計  
抗菌薬感受性結果の重複処理(巻末参照)が行われている

\*S,I,RまたはS,NSの判定はCLSI 2012 (M100-S22) に準拠

† 菌名コード : 3201, 3202, 3203, 3205, 3208, 3211, 3214, 3217, 3220, 3223と報告された菌

【巻末資料1 微量液体希釈法に基づく耐性菌の判定基準】

菌名 †	概要*	微量液体希釈法 MIC 値	菌名コード Ver.4.0
MRSA	MPIPC が “R” の <i>Staphylococcus aureus</i> または選択培地で MRSA と確認された菌	MPIPC $\geq 4\mu\text{g/ml}$	1301,1303
VRSA	VCM が微量液体希釈法で “R” の <i>Staphylococcus aureus</i>	VCM $\geq 16\mu\text{g/ml}$	1301,1303-1306
VRE	下記のいずれかの条件を満たす <i>Enterococcus</i> spp. ・VCM が微量液体希釈法で耐性 † ・選択培地で VRE と確認された菌 (注) 種の同定が行われていない <i>Enterococcus</i> sp. は除く	VCM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †	1201,1202,1205, 1206,1209,1210, 1213-1217
PRSP	PCG が微量液体希釈法で耐性 † の <i>Streptococcus pneumoniae</i>	PCG $\geq 0.125\mu\text{g/ml}$ †	1131
MDRP	下記全てに該当する <i>Pseudomonas aeruginosa</i> 1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が微量液体希釈法で耐性 † 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 † 3. フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, CFX, LFLX, GFLX の何れか) が “R”	1. IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †、 MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ † 2. AMK $\geq 32\mu\text{g/ml}$ † 3. NFLX $\geq 16\mu\text{g/ml}$ 、 OFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 LFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 CFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$	4001
MDRA	下記全てに該当する <i>Acinetobacter</i> spp. 1. カルバペネム系 (IPM, MEPM の何れか) が “R” 2. アミノグリコシド系の AMK が微量液体希釈法で耐性 † 3. フルオロキノロン系 (LVFX, CFX, GFLX の何れか) が “R”	1. IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †、 MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ † 2. AMK $\geq 32\mu\text{g/ml}$ † 3. LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 CFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$	4400-4403
CRE	下記の何れかの条件を満たす腸内細菌科 1. MEPM が耐性 † 2. IPM が耐性 †、かつ CMZ が “R”	1. MEPM $\geq 2\mu\text{g/ml}$ † 2. IPM $\geq 2\mu\text{g/ml}$ † かつ CMZ $\geq 64\mu\text{g/ml}$	2000-2691, 3150-3151
カルバペネム 耐性緑膿菌	IPM または MEPM が耐性 † の <i>Pseudomonas aeruginosa</i>	IPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ † MEPM $\geq 16\mu\text{g/ml}$ †	4001
第三世代セファロ スポリン耐性 肺炎桿菌	CTX または CAZ が “R” の <i>Klebsiella pneumoniae</i>	CTX $\geq 4\mu\text{g/ml}$ CAZ $\geq 16\mu\text{g/ml}$	2351

菌名 †	概要*	微量液体希釈法 MIC 値	菌名コード Ver.4.0
第三世代セファロ スポリン耐性 大腸菌	CTX または CAZ が “R” の <i>Escherichia coli</i>	CTX $\geq 4\mu\text{g/ml}$ CAZ $\geq 16\mu\text{g/ml}$	2001-2007
フルオロキノロン 耐性大腸菌	フルオロキノロン系 (NFLX, OFLX, LVFX, LFLX, GFLX, CFX の何れか) が “R” の <i>E. coli</i>	NFLX $\geq 16\mu\text{g/ml}$ 、 OFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 LVFX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 LFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 GFLX $\geq 8\mu\text{g/ml}$ 、 CFX $\geq 4\mu\text{g/ml}$	2001-2007

\*原則 S,I,R の判定は CLSI2012 (M100-S22) に準拠

† 感染症発生动向調査の基準に準拠

‡ 菌名は以下の通り

- MRSA : Methicillin-resistant *S. aureus* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌
- VRSA : Vancomycin-resistant *S. aureus* バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌
- VRE : Vancomycin-resistant *Enterococcus* spp. バンコマイシン耐性腸球菌
- PRSP : Penicillin-resistant *S. pneumoniae* ペニシリン耐性肺炎球菌
- MDRP : Multidrug-resistant *P. aeruginosa* 多剤耐性緑膿菌
- MDRA : Multidrug-resistant *Acinetobacter* spp. 多剤耐性アシネトバクター属
- CRE : Carbapenem-Resistant Enterobacteriaceae カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 (2015年1月より集計開始)

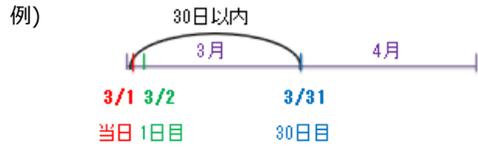
2014年12月分データまでは CLSI2007 (M100-S17)、2015年1月分データより CLSI2012 (M100-S22) に準拠する。

薬剤耐性菌判定基準 (Ver.3.1) と 検査部門特定の耐性菌判定基準 (Ver.4.1) を基に作成した。

【巻末資料 2 公開情報の集計方法について】

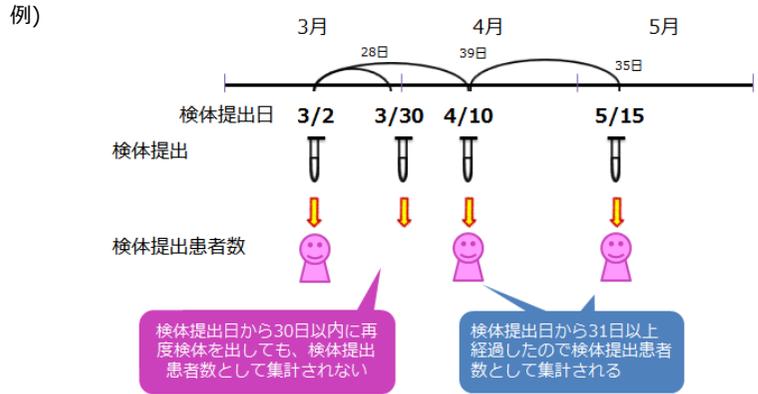
1. 日数の数え方

検体提出日の翌日を 1 日目とする。検体提出日が 3 月 1 日とすると、1 日目が 3 月 2 日、30 日目が 3 月 31 日となる。



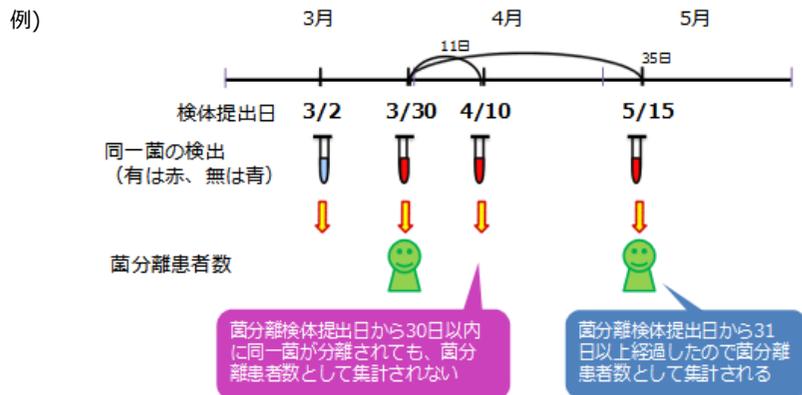
2. 検体提出患者数

検体提出患者数は、検体の種類や菌分離の有無に関わらず検体(入院検体)が提出された患者の数である。検体提出患者数は重複処理を行っており、30 日以内の同一患者からの複数の検体提出は 1 件とする。



3. 菌分離患者数

菌分離患者数も検体提出患者と同様の重複処理を行い、30 日以内に同一患者から同一菌が複数回検出された場合、菌分離患者数は 1 件とする。耐性菌分離患者数は、耐性菌の基準に合致する菌をまず抽出し、その中で上記重複処理を行っている。



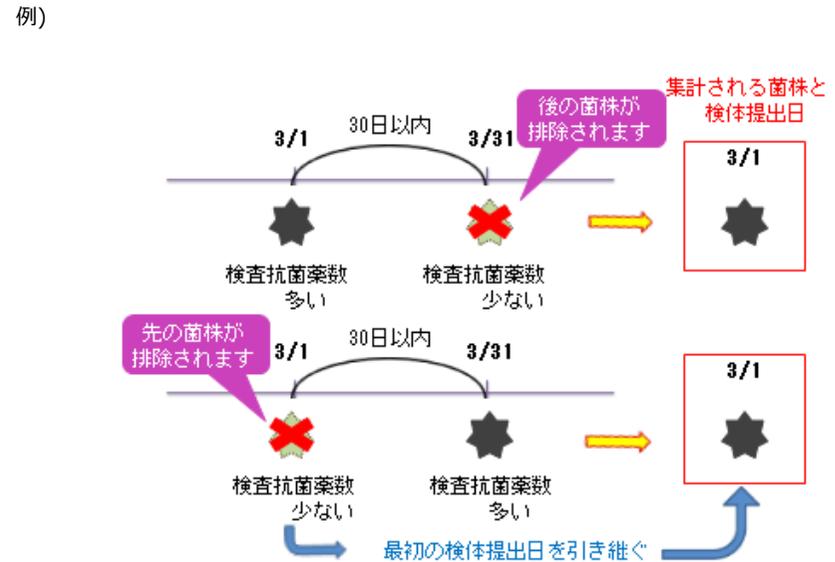
4. 抗菌薬感受性検査結果をもとにした同一菌と異なる菌との区別

30 日以内に同一患者から同一菌が検出された場合であっても、検査抗菌薬感受性結果に 1 つ以上不一致(下記①~④のいずれかに該当)がある場合は異なる菌株として集計される。

- ① MIC 値に 4 倍以上の違いがある  
ただし、MIC > 2 は MIC ≥ 4 と考え、判定時は MIC = 4 として扱う  
また、MIC < 16 は MIC ≤ 16 と考え、判定時は MIC = 16 として扱う
- ② SIR 判定では「S と R」の組み合わせ
- ③ +/- 判定では「-と++」または「+と+++」または「-と+++」の組み合わせ
- ④ 共通する検査抗菌薬数が 5 未満

5. 抗菌薬感受性結果の重複処理

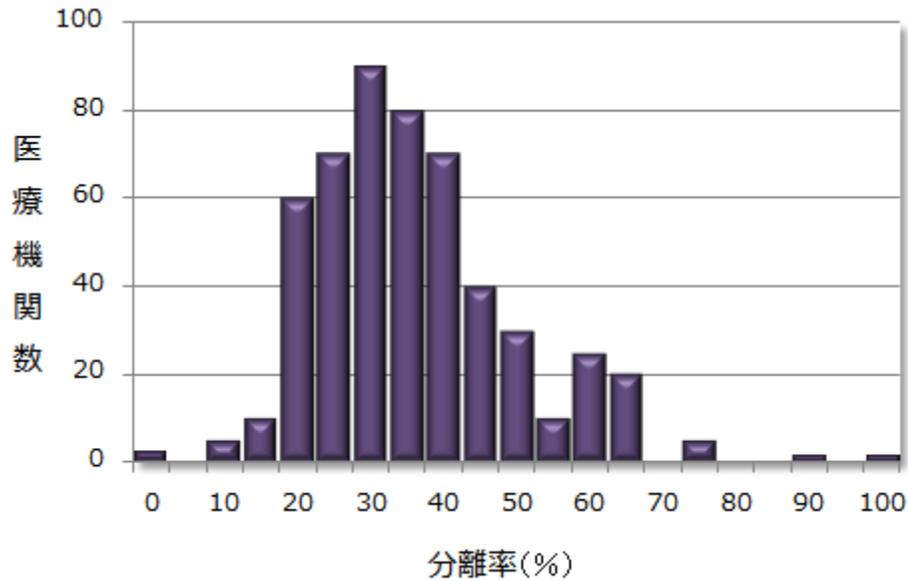
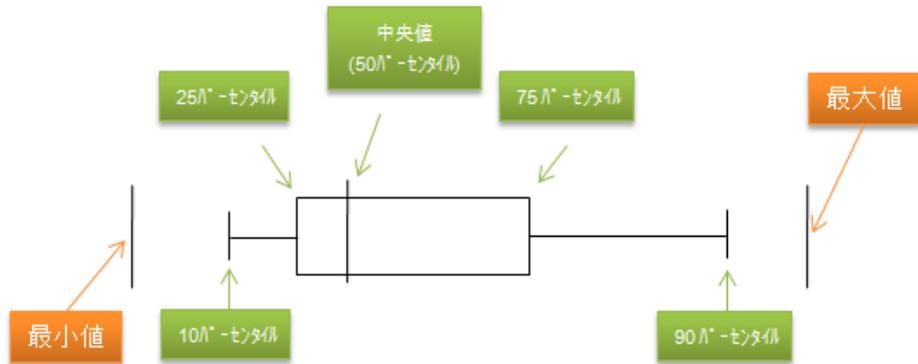
検体提出日が先の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内)の後の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、後の菌株の抗菌薬感受性検査結果は排除する。また、検体提出日が後の菌株の検査抗菌薬数が(30 日以内)の先の菌株の検査抗菌薬数より多い場合、先の菌株の抗菌薬感受性検査結果を排除するが、先の検査の検体提出日を引き継ぐ。



【巻末資料 3 箱ひげ図について】

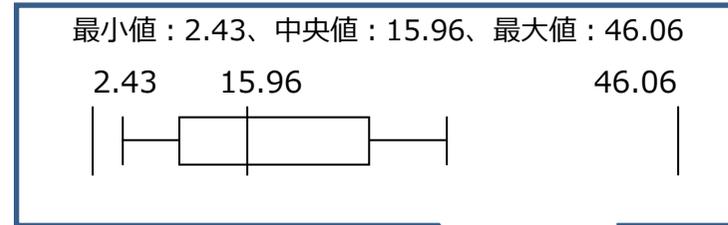
1. 箱ひげ図について

集計対象医療機関のデータのばらつきを示し、集計対象医療機関における自施設の位置を確認することができる。



※ パーセンタイル：値を小さいものから大きいものへと順番に並べ、全体を 100 として何番目であるかを表したものの。  
 例えば、10パーセンタイルは、全体を 100 として小さいほうから数えて 10 番目の計測値を示している。

2. 公開情報の箱ひげ図



		集計対象医療機関の分離率 (%)の分布	
2010年 *	2011年		
1,069,216人	1,309,993人		
175,145人 (16.38%)	210,382人 (16.06%)	2.43	15.96 46.06
47,523人 (4.44%)	64,588人 (4.93%)	0.00	3.21 37.54